

介殼の背面は、黄褐色にして、大小不同の白點を有し、縁邊の上に沿ふて、稍大なる黒褐色の點が列んで居る。殻頂附近及びその少しく外側には、著るしき黒褐色の斑紋がある。縁邊に沿ひたる斑點は、後端に於て密接して一線の如く連つて居る。底面と齒とは白くして、外唇にある齒は、稍粗いのである。本種の介殼の長徑は五分乃至一寸足らずである。

〔五〕 ハナビラダカラ *Cypraea annulus*, Linn.

本種は、本邦にては琉球に産するのである。この種の介殼は、南洋の土人によりて、衣服の裝飾用となり、また漁網の錘おもりとなし、また通貨として用ひられて居る。

〔六〕 蛇ノ目寶 *Cypraea argus*, Linn.

介殼は椭圆形灰褐色にして、背面に淡色の三帯あり、その外に多數の褐色環が不規則に散布する。介殼の長さは、約二寸幅は一寸餘である。

〔七〕 花丸雪 *Cypraea caput-serpentis*, Linné.

介殼は卵形にして厚く、黒褐色にして、大小不同の白色の斑點が密に殼面に散布し、基底は平らたく齒は著るしく白いのである。本種は琉球に産し、殼の長さは一寸許りである。

〔八〕 子安貝又八丈寶 *Cypraea mauritiana*, Linné.

介殼は卵形にして厚く、背面は偃僂せむぎ狀に彎曲する。色は黒褐色にして、白色若くは褐色の斑點ありて、基底は扁らたく、この部は黒褐色である。齒も亦黒褐色にして、齒間は白いのである。介殼の長さは二寸五分乃至三寸に達し、幅は二寸足らずである。本邦にありては八重山、八丈島、小笠原島、臺灣等に産するのである。

〔九〕 寶貝又ホシダカラ *Cypraea tigris*, Linn.

介殼は梨子狀をなし、殼は滑らかにして、白色或は淡褐色の地に、暗褐色の斑點が不規則に散在し、その基底は白く、齒は大きく、基底及び兩側は多少彎つて膨れて居る。本種は臺灣及び琉球に産し、殼の長さは二寸五分許りである。

〔一〇〕 小紋貝 *Cypraea erosa*, Linné.



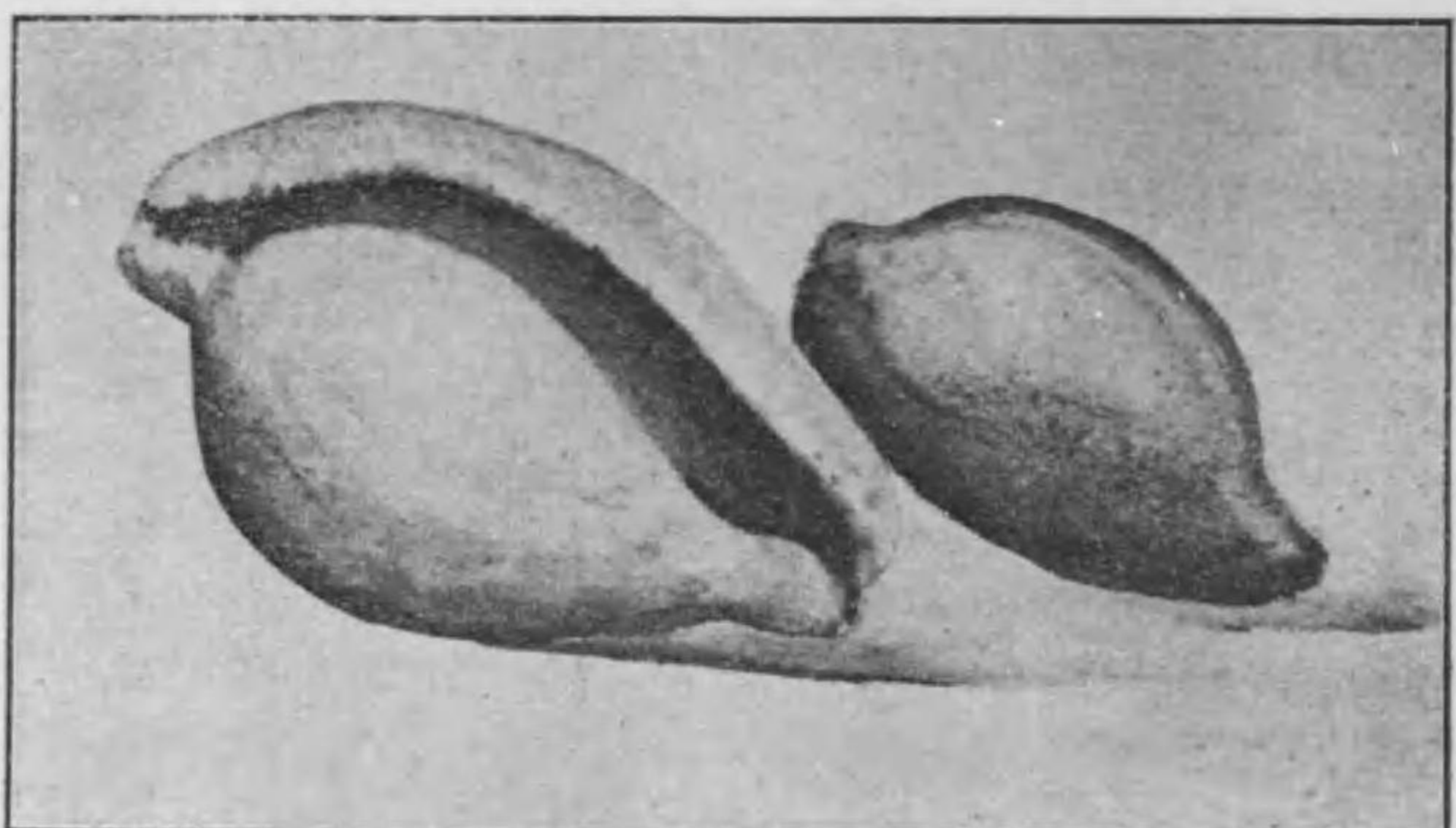
第三百八十八圖 貝寶

介殻は長卵形をなし、外面は橙黄色にして密に白色の斑點を散布する。殻の縁邊は白くして隆起し、其中央には不正方形の褐黑色の點がある。殻の兩極は高まり且つ栗褐色の縁がある。齒は著しく突出し、その外側にあるものは、基底を横りて邊縁に達するのである。基底は白色にして褐色の細點と、微かなる條とがある。殻の長さは一寸五分許にして幅は九分許である。本種は臺灣、沖繩、八丈島等に産するのである。

以上の外本邦には、左の如き種類がある。

- クテムラサキダカラ *Cypraea carneola*, Linne.
- チリメンダカラ *C. childreni*, Gray.
- チドリダカラ *C. cicerula*, Linné.
- スソムラサキダカラ *C. cruenta*, Gmel.
- コモンガヒ *C. erosa*, Linné.
- ナツメモドキ *C. errones*, Linné.
- ツマグロメダカラ *C. fimbriata*, Gmel.
- ヤナギシボリ *C. isabella*, Linne.
- ヒメホシダカラ *C. lynx*, Linne.

イボダカラ



第三百九圖
ウミウサギ

C. nucleus, Linné.
 サメダカラ *C. staphylea consobrina*, Garret
 シボリダカラ *C. staphylea limacina*, Lam
 タルダカラ *C. talpa*, Linné.
 ムラクモダカラ *C. testudinaria*, Linné.
 ホシキヌタ *C. vitellus*, Linné.
 ① ウミウサギ *Ovula ovum*, Linné.
 屬名オブラム (*Ovulum*) はオバム (*Ovum*) より出て、これは「卵」といふ義である。介殻は前屬に似て居る。而して内唇は滑らかである。殻口はその兩端に於て、長き溝を有するのである。本屬のものは、温暖海に産し、西印度、英國、地中海、支那、西亞米利加及び本邦に産し、ウミウサギは琉球に産するのである。尙ほ本邦産のものには、ツグチガヒ (*Ovula rhodia* A. Ad.) がある。

(11) 田螺科 (Viviparidae)

介殻は圓錐形若くは球状をなし、表皮は厚く、橙黄綠色若くは淡褐黑色にして、螺層は右巻で、其の階段は五乃至七個である。而して唇縁は薄弱である。唇は角質若くは陶器質にして、同心紋を有するのである。臍孔は僅に開くものと、或は全く閉塞するものがある。

口吻は幅廣くして長く、且つ突出するのである。觸角は細長にして、眼は觸角の基部外方に位し、且つ短柄を有するのである。足は潤大にして、よく他物に吸着して、移動すること至つて巧みである。本科のものは、地球上の到る處に産し、淡水に棲息するのである。

① 田螺 ^{タニシ} 又タツボ 又タツブ 又タノシ 又タンタン
又タツコ *Viviparus*.

本属のものは、英にリバー、スネール (River-Snail) といふ「川の蝸牛」の義である。介殻は獨樂状をなし、螺層は厚く、殻口は稍後方に於て角張つて居る。殻口は概ね橢圓状にして、殻は角質扁平で赤褐色を呈し、且つ同心環を有するのである。

動物は長吻を有し、眼柄は甚だ短いのである。頸は左側に於て、一個の小なる垂下物

を有し右側には大なる垂下物を有するが、これは皺みて呼吸管を形成するのである。鰓は櫛状にして、單一である。舌は短く、齒は卵形をなし、稍鉤曲して齒牙状をなして居る。

本属のものは六十種ありて、北半球を通じて湖沼、溝渠、水田等に棲息し、皆胎生である。

タニシ (通廣く用ひらるる) の肉は、蛋白質は百分中一九・一〇 脂肪〇・五五 灰分四・五九 水分七七・七七 を含有し、之を食用に供するのみならず、養魚及び養鶏の餌となし、また漁魚の餌となし、また園藝肥料として使用するのである。タニシを食するには、午葱と共に煮たり、酢味噌よごしにしてもよい。また山椒の若芽を味噌にすり交せて、所謂山椒味噌として食するもよく、また殻共に火中に投して、壺焼にして食ふのもよい。通例晩秋より早春までの間に採集するが、一般に早春に食するのが例である。

本属のものにして、本邦に産するものには、次の如き種類がある。

〔1〕 マルタニシ *Viviparus malleatus*, Reeve.
我邦に普通なるタニシにして、北海道より琉球に至るまで、水田に廣く棲息する。而して其棲息の場所に從ひて、殻は多少厚薄を異にし、色も橙黄褐色なるもの、及び暗緑

色のものがあるが、殻は元來薄く半透明で、卵圓形をなし、螺層は五六層ありて、何れも圓く膨れ、各螺層には、小點の連續よりなれる三細條がある。是等の小點は、孔明き居りて、幼少の時は、この孔より往々細毛を生ずるのが、この種の特徴である、また殻は薄くして、其の裏面は褐色で滑らかである。

〔II〕 ナガタニシ *Viviparus sclateri*, Firuengeld.

介殼は尖塔狀にして、殻色は黄褐色をなし、殻長は一吋内外である。各螺層の下縁は、高く突隆して、その上方には、數條の低き稜線を具へ且つ長大である。

〔III〕 オホタニシ *Viviparus japonicus*, Martens.

介殼は大なる尖塔狀をなし、暗緑褐色にして光澤を帯び、上方の螺層には、各々三本の凸線ありて巻旋し、下方に至るに従ひ、漸く不明となり、最下方に位する一二の螺層に至れば、全く消滅するを常とする。最後の螺層には不明なる稜ありて旋り、此の部分は少しく黒色を帯ぶ。尙これに若干の細き螺線を具ふれども、タニシに見るが如き點線がない。(動物雜誌第二百號岩川友太郎氏
本邦産田螺類の學名改稱参照)

〔III〕 ヤマタニシ科 (*Cyclophoridae*)

この科のもの、介殼は、蝸牛殼に似て壓下せられたる觀を呈し、臍を有し、殼口は圓

形をなし、唇は伸直なるか若くは擴張し、表皮は厚く、且つ蝸牛と異りて、殼口には唇を有するのである。唇は角質にして、多くの渦線を有する。

動物體には細長にして尖れる觸角を有し、足は廣く擴張すれども、溝となりて現出することはない。常に陸上の低濕地に棲息し、外套腔には有肺類の如く血管が網狀に分布して、これにて呼吸するのである。本科のものは、本邦、印度、フィリッピン諸島、ニュージーランド、太平洋諸島、及び熱帶亞米利加に産するのである。

〔I〕 ヤマタニシ *Cyclophorus herklotsi*, Mart.

本種は本邦の山地に普通にして、殊に暖地に多いのである。介殼は蝸牛の殼に似たれども、唇を有するを以つて、よく彼れと區別することが出来る。本屬のものにて、本邦に産するものには、左の如き種類がある。

オホヤマタニシ *Cyclophorus hirasei*, Pils.

オキナハマタニシ *Cyclophorus turgidus*, Pir.

〔II〕 アツブタガヒ *Cyclotus campanulatus*, Mart.

前種と共に本邦の山地に普通である。唇は陶器質にして厚く、螺線は夥多にして縁邊は隆起して居る。

以上の外、本科のものにて本邦に産するものには、左の如き種類がある。

- ヤマクルマ
- ヒメヤマクルマ
- アハムシオヒ
- クチキレムシオヒ
- ハリマムシオヒ
- ミヤコムシオヒ
- ベニムシオヒ
- ムシオヒガヒ
- オホシマムシオヒ
- ビルスムシオヒ
- エンドムシオヒ
- フナトアヅキガヒ
- オホシマアヅキガヒ
- Spiropoma japonicum*, A. Adl.
- S. nakadai*, Pils.
- Alycaeus awaensis*, Pils. & Hir.
- A. biexcisus*, Pils.
- A. harinensis*, Pils.
- A. hirasei*, Pils.
- A. laevis*, Pils. & Hir.
- A. melanopoma*, Pils.
- A. oshimanns*, Pils. & Hir.
- A. pilsbryi*, Kob.
- A. swinhoei*, H. Ad.
- Pupinella funatoi*, Pils.
- P. oshimae*, Pils.

- アヅキガヒ
- ニヒタカアヅキガヒ
- ゴマガヒ
- イブキゴマガヒ
- コベルトゴマガヒ
- オホコベルトゴマガヒ
- キウシウゴマガヒ
- タネガシマゴマガヒ
- P. rufa*, Sowb.
- P. swinhoei morrisonia*, H. Ad
- Diplommatina cassia*, Pils.
- D. collarifera*, S. & B.
- D. kobelti*, Ebrnn.
- D. kobeltiampfa*, Pils.
- D. kyushuensis*, Pils.
- D. tanegashimae*, Pils.

オホカミゴマガヒ *D. tenuiplica*, Pils.

(四) 玉貝科 (Naticidae)

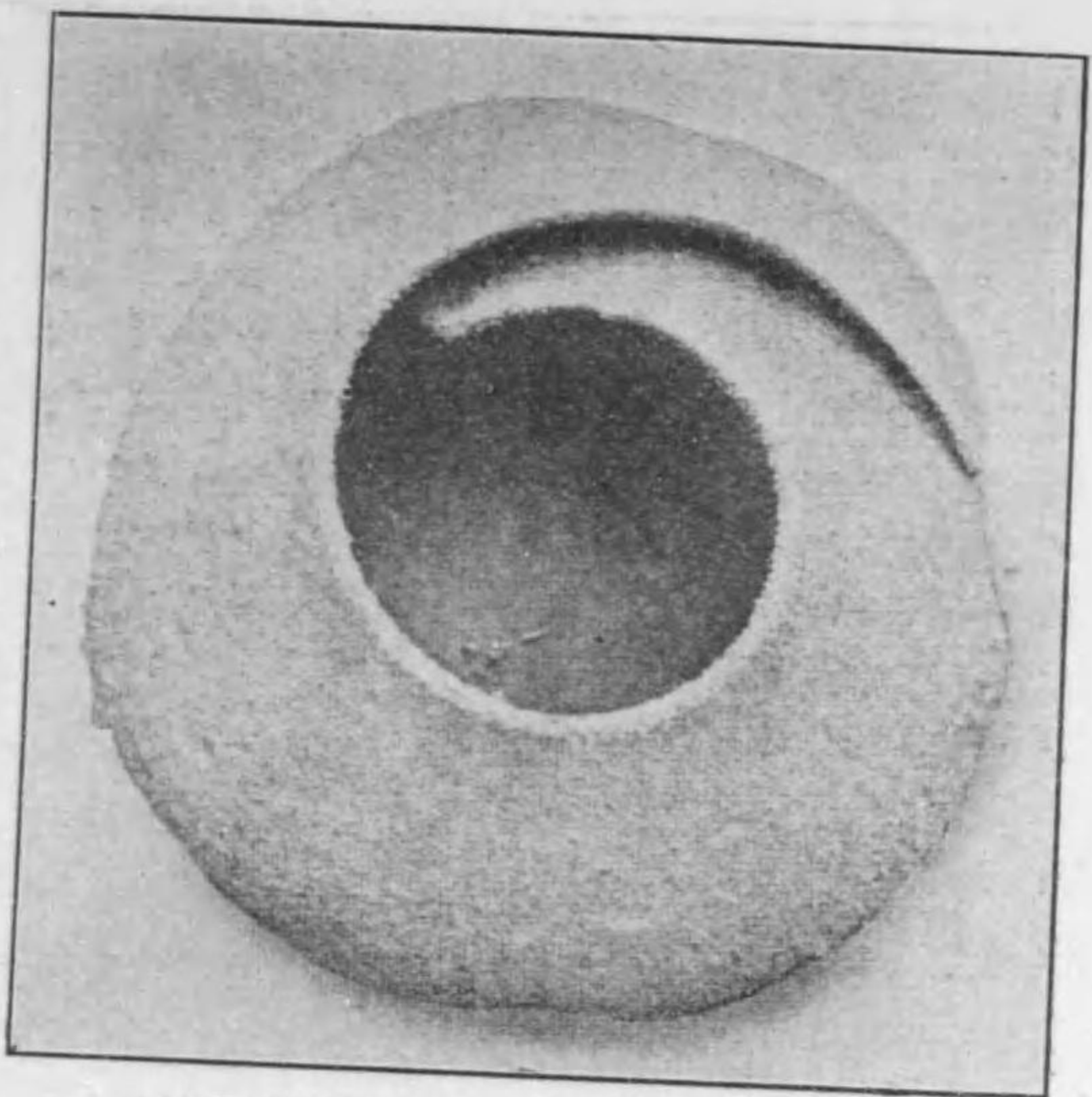


圖 十 百 三
(*Natica monilifera*) 種一屬リクソヘ
(after Wilton) 帶舌の

介殻は球状にして螺層は少い。螺層は短く、殻口は全邊にして、溝或は刻目を有することはない。厝は角質若くは石灰質にして、螺状紋は僅少であるが、中には厝を有せざるものがある。
足は甚だ肥厚し、種類によりては、之をば全部殻内に引入れること能はざるものがある。眼は觸角の基部に位し、外套膜は大に發達

し、殻の全部若くは幾部分を被ふのである。總て海産にして、舌帯は細く、中央の齒は一個で、側齒は二個、縁齒は一個である。

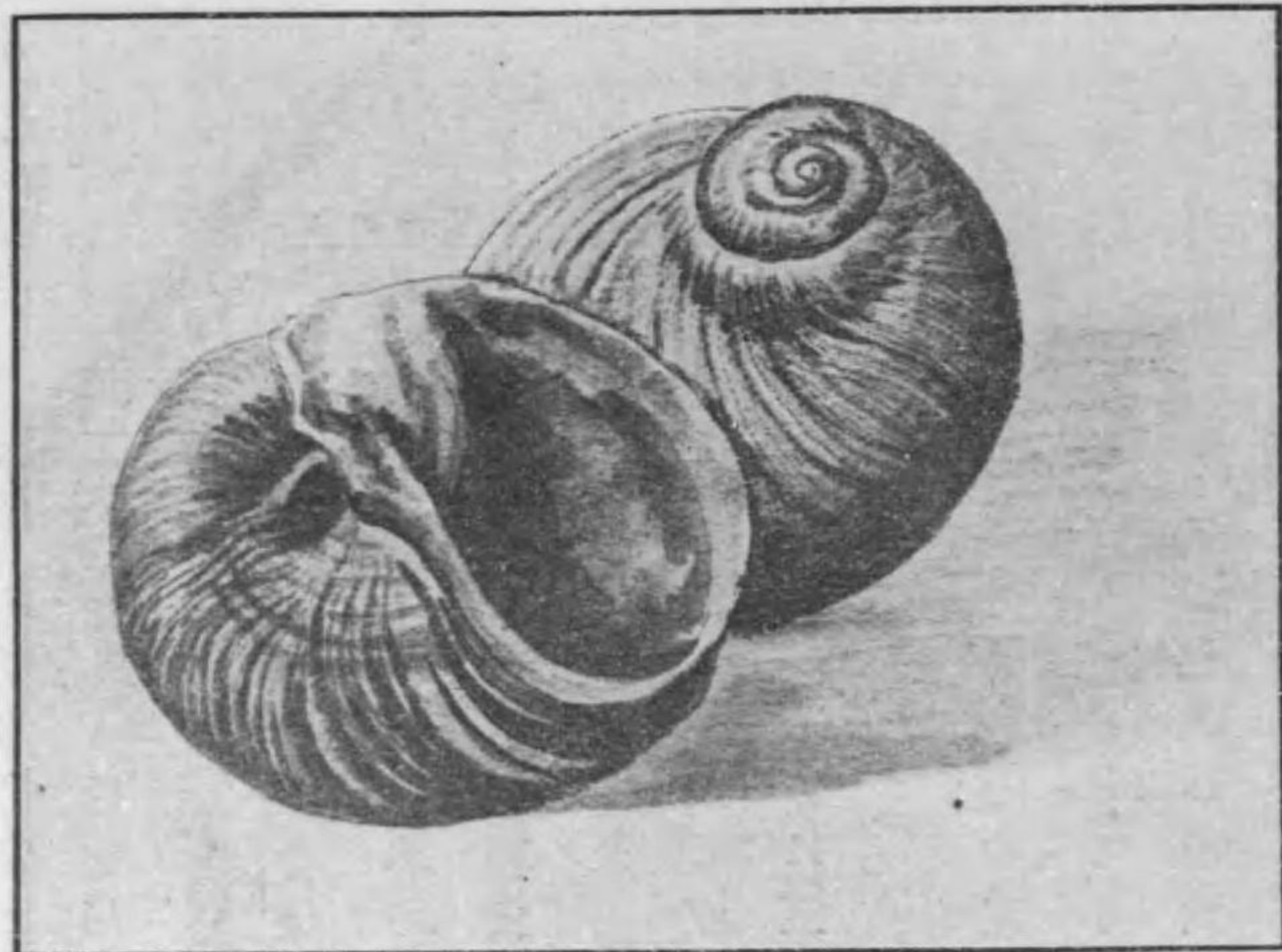
本科のもの、動物は、前足部に褶を有し、ヘンククリ屬及びツメタガヒ屬にありては、全く之を殻内に引き縮め居れども、ミ、ガヒ屬 (*Sigaretus*) の如きにありては、全く殻内に引き入れることが出来ないものである。本科のものは、活潑なる動物にして、常に干満兩潮線間



塊卵のヒガタメツ 圖一十百三第
(from *Marvels of the Universe*)

より、九十尋位の深さある砂質若くは砂利多き底に徘徊し、口吻の直下に特種の腺を有し、これより一種の酸性液を分泌して、二枚貝の蝶番に近き處に穿孔し、これより舌を挿入して肉食するのである。卵は海底の砂を以つて、大部分造りたる帶狀物中の壁に於て、籠目の如く排列して、その狀窠の如くである。

〔一〕 ツメタガヒ *Polinices ampla*, Phil.



ヒガタメツ 圖二十百三第

介殼の長さは一寸六七分乃至二寸一分に達する。殻の形狀は壓搾せられたる球形にして、細かき螺狀の刻線を有し、臍は甚だ廣くして螺條を具へ、常に二三の畝がある。また臍の滑層は、中央に於て横に深き溝をなし、また滑層は臍の上部を超へて展開するのである。殼色は淡肉色及び帶黃褐色にして、各層の上部は、屢々淡黃褐色である。又殼口内と滑層とは、淡栗毛である。本種は北海道より日本海、東海及び西南海に産するのである。

〔二〕 シラタマツバキ

Polinices powisiana, Recluz.

介殼の長さは、一寸六七分乃至一寸九分許にして、臍は歪みて開いて居る。殼色は帶白色

或は帶黃白色にして、縫合線に近き部若くは基底に於ける部の外は、體螺層上に橙褐色を呈するのである。本種は三崎、淡路、臺灣等に産する。



圖三十百三第
種一屬リクソヘ
(*Natica canrena* L.)
(after Woodward)
(大二分三)

〔三〕 トミガヒ *Polinices mamilla*, Linn.
介殼の長さは、一寸三分乃至二寸二分にして、圓錐狀の卵形であつて、體螺層の上方は傾斜して、平らたみを帯ぶ。本種は、伊豆、紀伊、鹿兒島及び琉球に産するのである。

〔四〕 ヘソクリ *Natica maculosa*, Lam.

介殼の直径は、六分許りである。臍は狭く、斑點は通常體螺層の下方に至るに従ひ磨滅して居る。

〔五〕 ヨハクダマ *Natica vitellus*, Linn.

介殼の直径は、一寸一分乃至一寸七八分もある。殼色は橙褐色にして、不分明なる淡き帯がある。また介殼面には、大なる白色或は帶黄色の斑點列がある。而して臍は深い。本種は琉球に産するのである。



種一屬リクソヘ 圖四十百三第
(*Natica Alderi* Forbes) (after Woodward)

〔六〕 蝦夷タマガヒ *Natica clausa*, Brod. & Sowb.

介殼は長さ一寸二分乃至一寸六七分である。球形にして帶白色或は帶黃褐色であつて、不規則に不分明なる白色帯を有し、臍は全く滑層によりて閉ぢられ、殼口内は淡紫色を帯びて居る。本種は北海道より銚子及び房州に亘りて産するのである。

〔七〕 ミ、ガヒ (内山柳太郎氏命名) *Sigaretus neritoides*, Linné.

本属のもの、介殼は、耳形に壓搾せられ、螺層は小さく、殼口は甚だ廣くして且つ斜である。層は小さく角質にして、僅に螺旋狀の紋がある。又殼面には回轉せる條線を有するのである。

動物は大なる外套膜を有し、扁平なる種類にありては、生活せるときは、全く外套膜に因りて被はれて居るが、凸隆せる介殼を有する種類にありては、唯殼の一部分が外套膜にて被はれるのみである。殼色は大概白色にして、表皮は黄色味を帯びて居る。本属のものは、温暖地方の平坦なる泥砂ある處に棲息し、前足葉は非常に發達し、これにて絶えず砂中を穿ち行くのである。

如上ミ、ガヒ属の通性を述べたるを以つて、これよりミ、ガヒに就き説明せん。この種の介殼は耳形にして、體螺層は甚だ大きく、螺層は極く少しく突起し、殼面には回

轉する刻線を密生し居れども、其基底には之を缺いて居る。殻は白色にして、螺層は暗褐色を呈し、殻頂に近くに從ひ、色は漸々濃くなつて居る。殻口は廣く、殻軸は滑層を以て被はれて居る。本種は本邦にては、新島に産し、殻長は一吋一二分に達するのである。

〔八〕 チュガヒ又シロチズミ (内山柳太 (耶氏命名)) *Sigaretus papilla*, Gmel.



圖五十百三第
ヒガコネ

介殼の長さは七分三厘乃至一寸許である。表皮は帶黄色を呈し、介殼は白色にして、螺狀の刻線が密生して、臍内に達し、臍は開き、突起を有することはない。本種は東京灣、新島、及び肥前等に産するのである。

〔九〕 ツ、ミガコ *Sigaretus planulatus*, Recluz.

介殼の長さは、一寸乃至一寸四分にして、背部は甚だ扁平にして、表皮は暗黄色で、その下は白色である。殻面は滑らかなるか、或は不分明なる螺條を有するのである。本種は琉球に産する。

以上の外、本邦には左の如き種類がある。

- アダムスタマガヒ *Natica adamsiana*, Dkr.
- フロガヒダマシ *N. concinna*, Dkr.
- ハギノツユ *N. marochiensis rufilabris*, Reeve.
- ヘソアキトミガヒ *Polinices henningiana*, Recl.
- リスガヒ *P. melanosoma*, Gmel.

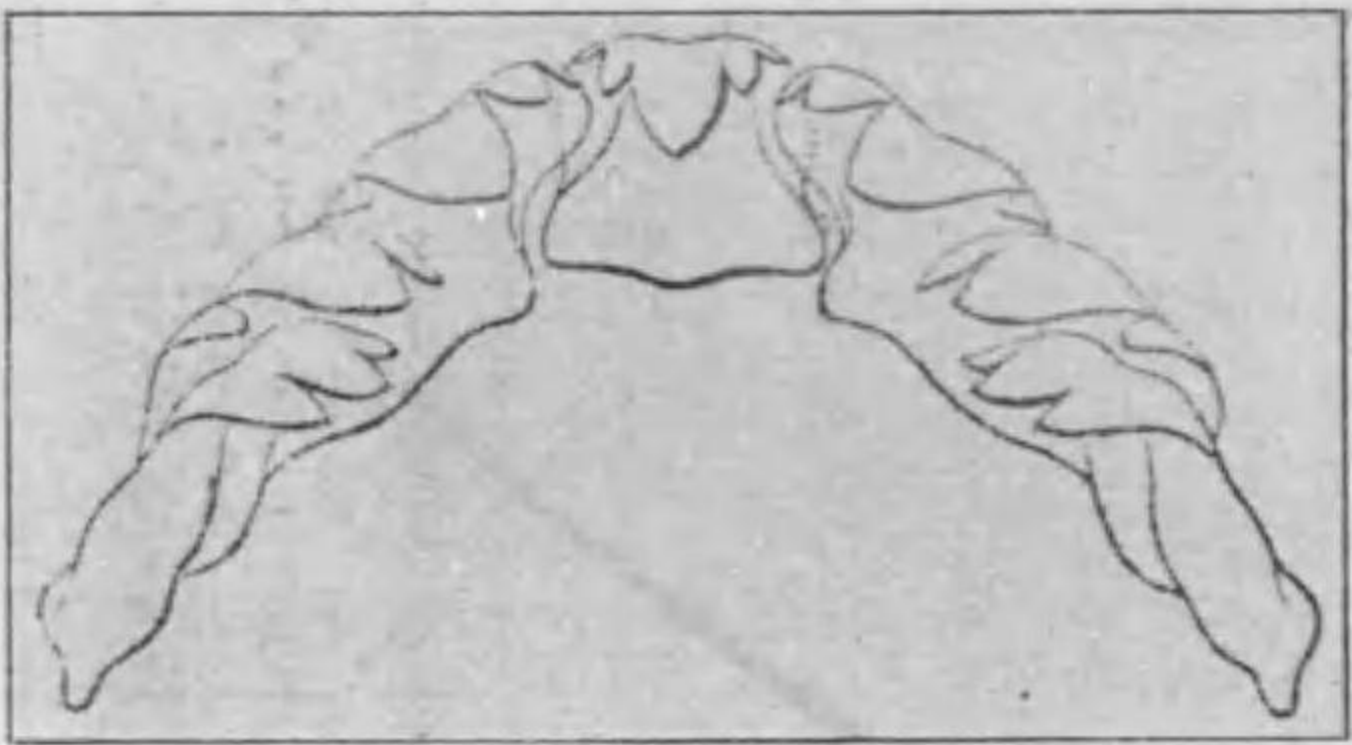
〔五〕 タマキビ科 (*Littorinidae*)

本科の動物は、海岸の岩礁間に棲息し、常に干満兩潮線の間において、藻類を食する。介殼は螺狀をなし、殻口は圓く、その縁邊は鋸齒狀物を缺いて居る。厖は角質にして、螺層は僅少である。頭は吻狀をなし、眼は觸角の外方の基部に位し、眼一少、その中央にある齒は幅廣く且つ鉤狀をなし、その側方に位する齒は、三個ありて長橢圓形且つ鉤狀である。

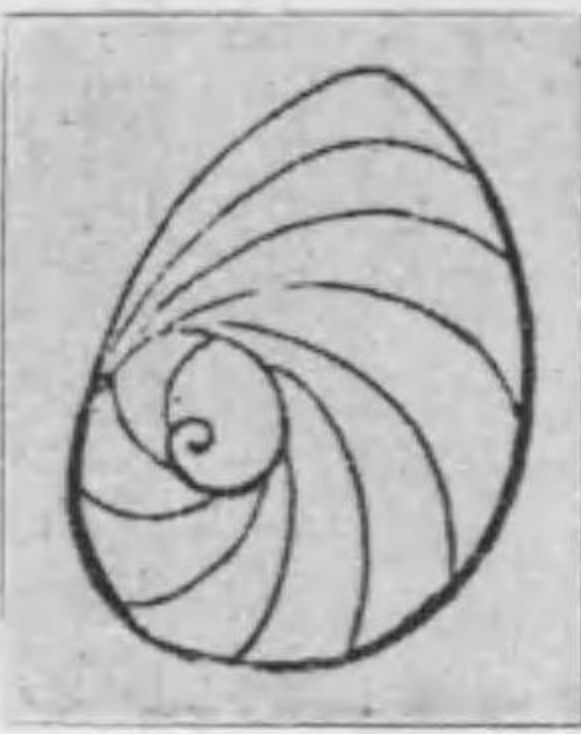
〔一〕 タマキビ又メクラガヒ

Littorina sitchana, Phil.

屬名リットリナ (*Littorina*) はリットラリス (*Littoralis*) より



圖六十百三第
帶舌の屬ビキマタ (after Woodward)



圖七十百三第
は線螺、厖のビキマタ
少

り出で、海岸に属するといふ義である。英名をベリウインクル (Periwinkle) といふ。本属のもの、介殻は厚く尖り、獨樂状をなし、螺層は少いのである。殻口は圓るく、外唇は鋭るごく、殻軸は寧ろ扁らたくして孔を缺き、唇は螺紋が少いのである。舌帯の齒は鉤状をなして三裂し、側齒も亦鉤状をなし、且つ齒牙状を呈して居る。

本属のものは、地球上に廣く分布し、普通海岸の干満兩潮線間に群生するのである。而して潮の差引に伴つてその位置を變へる性がある。その水面下にある時には、満潮には、その棲める水面が高くなるを以つて、漸々逃げて上の方に登る。また干潮に向ふと、水面の膜に追はれて、降りて行つたものが、食物や岩面の状態や引き行く潮の速度



圖八十百三第
(Littorina littoralis)種一ピキマタ
と腔腔し出りよ殻介を體物動雌の
(After Souleyet) く開をこ背
(Rostrum or muzzle) 吻 r.
(Buccal mass) 塊口 k.
(りあ孔殖生に側右) 球經神 g. s.
腺唾 s. s.
(Lingual coil) 曲捲の舌 e.
臟心 c. 腮 b. 筋殼介 m. n.
臟肝 f. 胃 e. 脈動大 m. n.
門肛 a. 腸 i. 管汁膽 h.
宮子 u. 管卵輸 d. 巢卵 o. o'.
(Ovarian orifice) 孔巢卵 o'.
腺肉筋 y. 臟腎 x.

なぞの關係からして、水よりも遅れ、爲めに低潮線に近い所に残されるやうになる

のである。

相州三崎にては、タマキビの變種 (*Littorina sitchana* var. *brevicula*) 及びアラレタマキビ (*Littorina exigua*, Dkr.) を産する。二種共に高潮線から下、二三尺の間に棲み、之れより以下低潮線に到る四五尺の所には居ないのである。(動物學雜誌第二百七十七號所載大島廣參に就て)

歐洲に普通なるタマキビ一種リットリナ、リットレア (*Littorina littorea*, L.) は、海岸の干満兩潮線間の岩上に生へた小さな緑藻を食するが、卵生である。然るに一種リットリナ、ルヂス (*Littorina rudis*) といふものは、前種よりも、高所で潮の殆んど達せぬ所に居て、食物は前種と同様であるが、卵生にあらずして胎生である。而して仔が産れる以前からして、その體には既に硬き介殻を有するを以つて、食用に位することは出来ない

といふことである。

以上の外タマキビ科にて、本邦に産するものは、次の如き種類がある。

- 蝦夷タマキビ *Littorina grandis*, Midd.
- カフダカタマキビ *L. pintado*, Wood.



圖九十百三第
キマタるな通普に州歐
種一ピ
(*Littorina littorea*, L.)
(大倍三) 産國英
(After Woodward)

ウヅラタマキビ
クロタマキビ
コンベイトウ
イボタマキビ

U. scabra, Linne.
U. subenebrosa, Midd.
Echinella cunningi Iuchuana, Pils.
E. nodulosa, Grmel.

(六) クビキレガヒ科 (Truncatellidae)

本科のものは、干満兩潮線間の石上及び海藻間にありて、永い間水を離れても生存することが出来る。また地上に棲むものがある。介殻は微小形にして、圓筒状をなし、截形を呈する。螺層は横に條を有し、殻口は卵圓形にして、刻目なく、口縁は内外の區別なくして連続し、層は稍螺層を呈するのである。本科のものにして、本邦に産するものは、左の如き種類がある。

九州クビキレガヒ
クビキレガヒ
ヲカマメタニシ
サドヲカマメタニシ

Truncatella kiusiuensis, Pils.
T. valida, Pfr.
Blanfordia bensoni, A. Ad.
B. japonica, A. Ad.

(七) フネガヒ科 (Calyptraeidae)

本科のものは、英にボンネット、リンベット (Bonnet-limpet) といふ、ボンネットを被れるヨメガサラガヒの義である。介殻はヨメガサラ状をなし、殻頂は多少螺旋状に巻いて居る。介殻の内方は單純なるか、或は陶器質の一突起によりて分離し、且つ種々の形状をなし、これには内轉筋が附着せるものがある。

動物は顯著なる頭を有し、口部は伸長し、觸角の外方の基部に於て眼を有するのである。本科のものは、石上若くは介殻上に固着し、少しも移動せざるが如く見ゆるのである。而して動物の形状と色彩とは、其の棲める位置に因りて變化するのである。而して死せる介殻の空洞中にあるものは、殆んど扁平なるか、或は上部に至るまでも凹み、且つ無色である。本科のものは、海藻及び小軟體動物を食ふのである。

(一) アハブチ屬 *Crepidula*

屬名クレピデユラ (*Crepidula*) はスモーン、サンダン (Small sandal) といふ意味にして、小形の履履といふ義である。介殻は卵圓形にして、ヨメガサラ状をなし、殻頂は殻の後方に於て、斜めに位し、且つ其の縁邊に存するのである。殻の内面は光澤ありて、その後半部を被ふに、陶器質の一仕切仕切がある。この動物は浅き水中に於て、石上及び介殻上に固着し、時として多數連續して固着する場合がある。螺類の空殻中に棲むものは、甚だ薄

く、殆んど扁平にして無色である。本属のものは、五十餘種を含み、西印度、ホンデウラス、地中海、西亞弗利加、印度、濠太利亞、亞米利加の西部等に産し、本邦には次の如き種類が



圖廿百三第
種一屬ネブハア
(Crepidula
fornicata L.)
(After Woodward)
(産度印西)

ある。

アハブネ

エゾフネガヒ

Crepidula aculeata, Gmel.

C. grandis Midd.

(二) 馬蹄貝 (假稱) Hipponyx

屬名ヒツボニツクス (Hipponyx)

はヒツボス (Hippos) (馬の) オニクス (Onyx) (蹄の) より成

る。介殻は厚く斜に圓錐状をなし、殻頂は後方に位する。殻の

基底は陶器質にして、馬蹄状の肉痕を有する。本属のものは

西印度諸島、ベルシア灣、フィリッピン諸島、濠太利亞、太平洋、

亞米利加の西部に産するのである。



圖一廿百三第
種一貝蹄馬
(Hipponyx
cornucopiae, Defr.)
底の殻介の
(大一分三)

(三) スシヤガロ屬 Amalthea

馬蹄貝に似たれども、介殻の基底には、陶器質の部分がない。また殻内の筋肉痕は三日月状をなして居る。本属中本邦

に産するものには、左の如き種類がある。



圖二廿百三第
種一屬貝蹄馬
(Hipponyx
cornucopiae, Defr.)
(大一分三)

Amalthea conica, Schm.

A. pilosa, Desh.

キクスツメ

スツメガヒ

(八) 川蝨科 (Melanidae)

介殻は螺状をなし塔状である。表皮は厚く、暗色にして、殻口には屢々溝を有するか、或は前面に刻目がある。外唇は鋭るごとく、唇は角質にして螺旋状となつて居る。螺層は屢々、動物が棲息せる水の酸性の爲めに、大に蝕壞せらるゝことがある。

吻は幅廣く、殻内に収縮することが出来ない。觸角は左右相離れ突錐状をなし、これには短柄ある眼を有し、これは觸角の外側に於て結合する。足は短濶にして、その前方は角立ちて居る。外套膜の縁邊は總状となり、舌帯は細長にして、その中央には一齒を、側方には三齒を有し、齒は皆鈎状にして、尖頭は數多に分岐して居る。本科のものは地球に到る處の温暖なる地方に産して、湖沼川流に棲息するのである。

(一) 川蝨 Melania libertina, Gould.

屬名メラニア (Melania) はメラス (Melas) より出で、[黑色]の義である。介殻は塔状をなし、殻頂は侵蝕を受くるにあらざれば鋭つて居る。殻口は卵形にして上方に於て尖り、外唇は鋭るごとく彎曲して居る。唇は稍螺旋状である。本種は小川、河口、湿地などに見る普



圖三廿百三第
種一屬蜷川
(*Melania amirula* L.)
(After Woodward)
(大二分三)

通のものにして、小川の石間に棲息するものは、稍褐色を帯び表皮は諸所に於て剝脱し、殻頂も多少缺損すれども、河口の砂泥中に棲息せるものは、表皮は暗緑色にして、磨滅せる所少く、殻頂も略完全にして尖つて居る。

本属のものには、三百六十餘種を産し、歐洲の南部、印度、フィリッピン諸島、太平洋等に産する。而して本邦産のものには左の如き種類がある。

小笠原カハニナ

Melania boninensis, Lea.

ホソスデカハニナ

M. liertina plicosa, Martz.

レベツカハニナ

M. loebekei, Brot.

ヤマトカハニナ

M. nipponica, Smith.

イボアヤカハニナ

M. obliquegranosa, Smith.

タウガタカハニナ

M. scabra, Müll.

ヌノメカハニナ

M. tuberculata, Müll.

(九) カニモリガヒ科 (Cerithiidae)

本科のものは、英名をセライトス (Cerites) といふ。介殻は螺旋状にして伸長し、多くの

螺層を有し、屢々隆起するのである。殻口は前方に於て溝を有し、あまり分明ならざる後溝を有する。唇は成長せる貝にありては、擴張するを常とする。唇は角状にして渦状の紋を有するのである。

吻は短く、殻内に收縮することは出来ないものである。觸角は兩者相離れ且つ細い。眼は短柄上にありて、觸角と合着するのである。外套膜の縁邊には、一個の退化せる水管状の皺を有し、舌帶の中央齒は一行にして、側齒は三個である。本科のものは、沿海、河口若くは淡水に産するのである。

(一) カニモリガヒ属 *Cerithium*

属名ケリチアム (*Cerithium*) はセラーション (*Ceration*) より出で「小き角」の義である。介殻は塔状をなし、多くの螺層を有し、隆起部は不分明である。殻口は小さく、その前方には一個の振れたる溝を有する。外唇は擴張し、肉唇は厚く、唇は角質にして、渦線は少

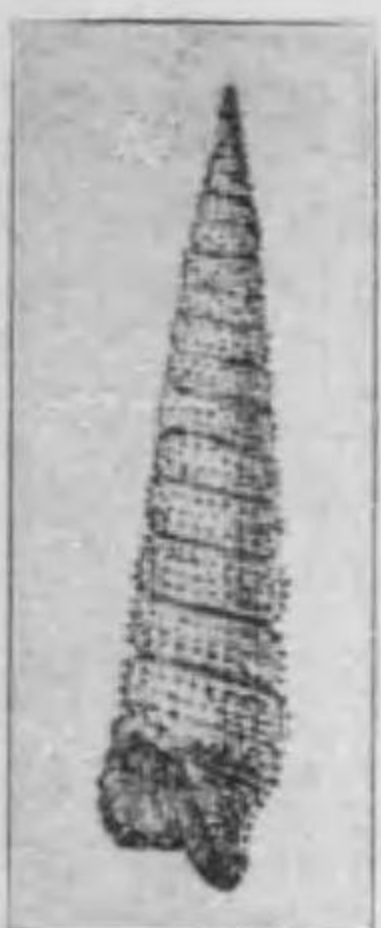


圖四十二百三第
種一屬ヒガリモニカ
(*Cerithium nodulosum*, Brug.)
(After Woodward.)
(大一分二)

いのである。本属のものは百三十六種を産し、地球上に廣く分布し、熱帯地方に特有のものがある。而して本邦産のものには、左の如き種類がある。

- クハノミカニモリ
 - コオニノツノガヒ
 - カヤノミカニモリ
 - コベルトカニモリ
 - アラレカニモリ
 - クリムシカニモリ
 - オニノツノガヒ
 - ヒメカニモリ
 - ヒメクハノミカニモリ
 - エビガヒ
 - クリンニナ
- Cerithium chemnitzianum, Pils.
C. columna, Sowb.
C. humile, Dkr.
C. kobelti, Dkr.
C. morus, Lam.
C. nesioticum, Pils. & Van.
C. nodulosum, Brug.
C. pfeifferi, Dkr.
C. trailli kikajensis, Pils.
C. macrostoma, Hinds.
C. sinu, Bayll.

〔二〕 キリヲレ屬 Triforis



圖五十二百三第
種一屬レナリキ
(Triforis
perversum)
(after
Woodward)
(大倍二)

本属のものは、何れも小形の貝にして、殻の長さ
は三分三厘乃至四分三厘位にして、一寸許に
達するものは、寧ろ大形の方である。我邦を始め

濠太利亞より那威に至るまで産し、三十種許もある。介殻は左巻にして、前溝と後溝と
は管状である。

〔三〕 ウミニナ屬 Potamides

本属のものは、英名をフレッシユウラター、セライツ (Fresh-water Cerites) といふ。淡水産
のカニモリガヒといふ義である。介殻はカニモリガヒ属に似たれども、表皮は厚く、楕
圓褐色にして、層は球状をなし、多くの渦線がある。本科には四十餘種を産し、淡水河口
等に産する。而して本邦産のものには左の種類がある。

- ホソウミニナ Potamides cunninggh, Crosse.
- カハアヒ P. fluviatilis, Pot. & Mich.
- クロヘナタリ P. fortunei, A. Ad.
- ヘナタリ P. micropterus, Kiener.



圖六廿百三第
種一屬ナニミウ
(Potamides palustris
Brug) (大一分二)
(after Woodward)

- イトカケヘナタリ
- ウミニナ

- P. morchi, A. Ad.
- P. multiformis, Lisch-ke (貝殻は細くして滑らかである)

イボウミニナ
フトヘナタリ
マドモチウミニナ

P. prenatalis, Sowb. (節に疣を有する)
P. rhizoporum, A. Ad.
P. sulcatus, Born.

(10) ヘビガヒ科 (Vermetidae)

[1] ヘビガヒ又シヤガヒ Vermetus

英名をウヲーム、シェル (Worm-Shell) といふ。異名にはシフヲニアム (Siphonium) セルプ
ロイデス (Serpuloides) がある。介殻は管状をなして、沿岸の岩石に固着して居る。殻口は
圓く唇は圓状にして、外方は凹んで居る。本科には三十餘種を含んで居る。而して歐洲
地中海、亞弗利加及び印度等に産する。その本邦産のものにはオホヘビガヒ (*Thyraodes*
imbricatus, Dkr.) を稱するものがある。志摩沿岸にては、ヘビガヒを湯煮て食用に供する
所がある。

ヘビガヒは、その幼蟲に於ては、他の腹足類と同じく螺旋状の介殻を有する。而して



第三百二十七種
ヘビガヒ (Vermetus lumbricalis Gm.) 幼蟲の (after Woodward)

固着生活に移りたる後にも、幼動物は、やはり螺旋状の介殻を有する。而して漸次成長するに従ひ、螺旋状の介殻は次第に離れ來りて、

遂に管状となるのである。内臓囊は介殻の如く非常に伸長して、殆んど蠕蟲状をなし
て居るが、腸、循環器、腎臓、外套膜、鰓、神経系統は他の單心耳類の標式的のものど、少しも
異なる所はない。雌雄異體なれども、固着生活を營めるを以て、交接器は之を缺いて居る。
頭はよく發達し、咽頭にもよく發達せる舌帯がある。而して動物が少しにても妨害せ
られたるときは、他の腹足類の如く、頭をば殻内へ引き入るゝことをなさずして、噛む
といふことである。足は截形をなせる圓筒状をなし、頭の腹方に於て、前方に向て居る。
之は固着生活を營み居るを以て、運動器として作用しないが、介殻を閉づる爲め唇を
有するのである。而して足腺より粘液を分泌するのであるが、この分泌量は非常に多
量にして、或る時の間、帆の如く之を水中に浮かべた後、これに漂着せるものと共に、
全部を呑み込み、斯くして、その中に含まれたる微生物を取りて、生活するといふこと
である。

(11) シリクア Siliquaria cunningii, Mörch.



第三百二十八種
シリクア (Siliquaria anguina L.) (after Woodward)

屬名シリクアリア (Siliquaria) はシリクア (Siliqua) より出づ。是は「莢」の義である。介殻は筒状をなし、その始端は螺旋状にして、後方は不規則になつ

て居つて、筒には連続せる縦の裂目がある。而してミ、ズガヒは、本邦産の一種である。

(一一) 衣笠貝科 (Xenophoridae)

介殻は圓錐状にして壓搾されたる觀を呈し、腰高貝状をなし、殻の縁邊には隆起部を有するのである。殻の表面には常に他の介殻、石片等を膠着して居る。厩は大きく角質にして、その核心は右邊に位し、不完全なる環状をなして居る。觸角は延長し、その外方の基部には、眼を有するのである。足は小さく、其の前部は擴張すれども、後方は尖つて居る。本科の動物は、この足を以つて、前方に跳躍して進むのである。



第三百二十九圖
クマサカ、ヒ

Xenophora pallidula, Reeve.

介殻は圓錐形にして、腰高貝に似たり。厩を缺き、帶黃白色にして、斜條の痕

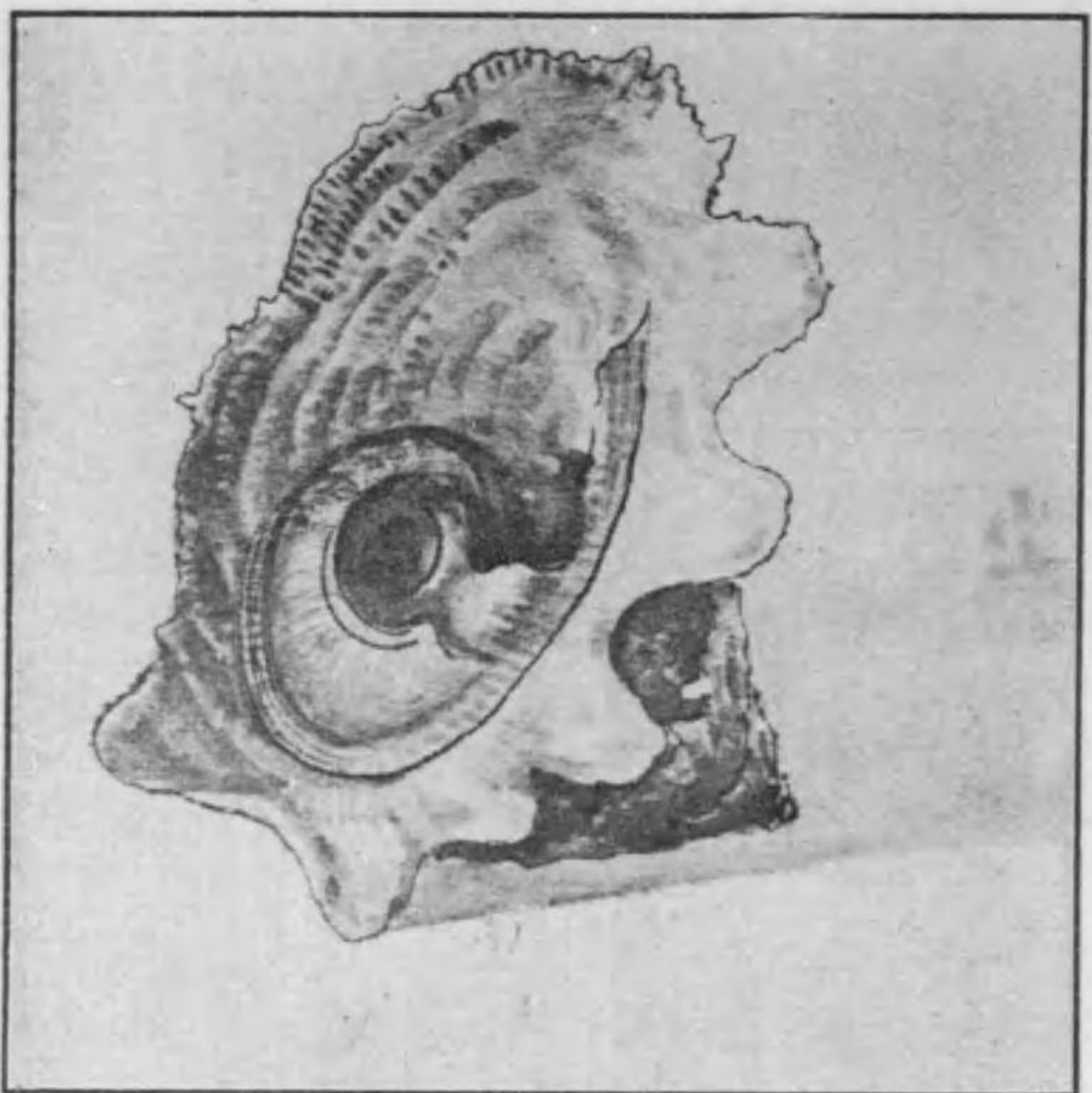
を有し、基底は稍や平坦にして、細かき彎曲せる放射脈を有するのである。常に殻面には介殻、石片等を附着して居る。この附着せる貝は、多くは二枚貝類であるが、また腹足類のものも附着して居る。その介殻片は、皆内面を上に向けて、他の動物をして、死貝の殻なることを知らしむると同時に、己れの所在を蔽晦する利益がある。殻の直径は二寸有餘であつて、東京附近より房州、相模、伊勢、四國、九州に産するのである。

(一二) 衣笠貝 *Xenophora*

exuta, Reeve.

前種に似たれども、殻には厩を有し、殻色は帶黃色若くは橙褐色にして、下方は薄く、殻面には唯殻頂に近き縫合線に於て、介殻其他の碎片を附着するに過ぎない。殻の直径は一吋六七分である。

(一三) 袖貝科 (Strombidae)



第三百三十三圖
ヒガサガヌキ

本科のものは、英にウイング、シエルス (Wing-shells) といふ「翼貝」の義である。介殻には擴張せる唇を有し、溝に近き部には深き裂目がある。唇は爪状をなし、その外縁に於て鋸齒状を呈して居る。

動物體は太き柄上にある大なる眼を有し、觸角は細くして、眼柄の中央より出づ。脚は狭きを以つて、匍匐するに不適當である。この動物は屍肉を食し、軟體動物としては、その動作甚だ活潑にして、その重き介殻をば左右に向けながら、跳ぶやうにして進行する。爲めにその視力も他の腹足類よりは、遙かに發達して居る。

〔I〕 袖貝屬 *Strombus*

屬名はストロンプス (*Strombus*) はトップ (Top) (獨樂の義である。英にストロンプ (*Stromb*) といふ。介殻は寧ろ膨脹し、且つ卵形にして兩端尖り、多くは疣状突起、若くは刺状突起を有するのである。螺層は短く、殻口は長く、上方には短き溝を有し、下方は截状を呈して居る。外唇は擴張し、上方には裂片があつて、前溝の刻目に近き部は、強き波状を呈するのである。



圖一十三百三第
帶舌の屬貝袖
(from Woodward)

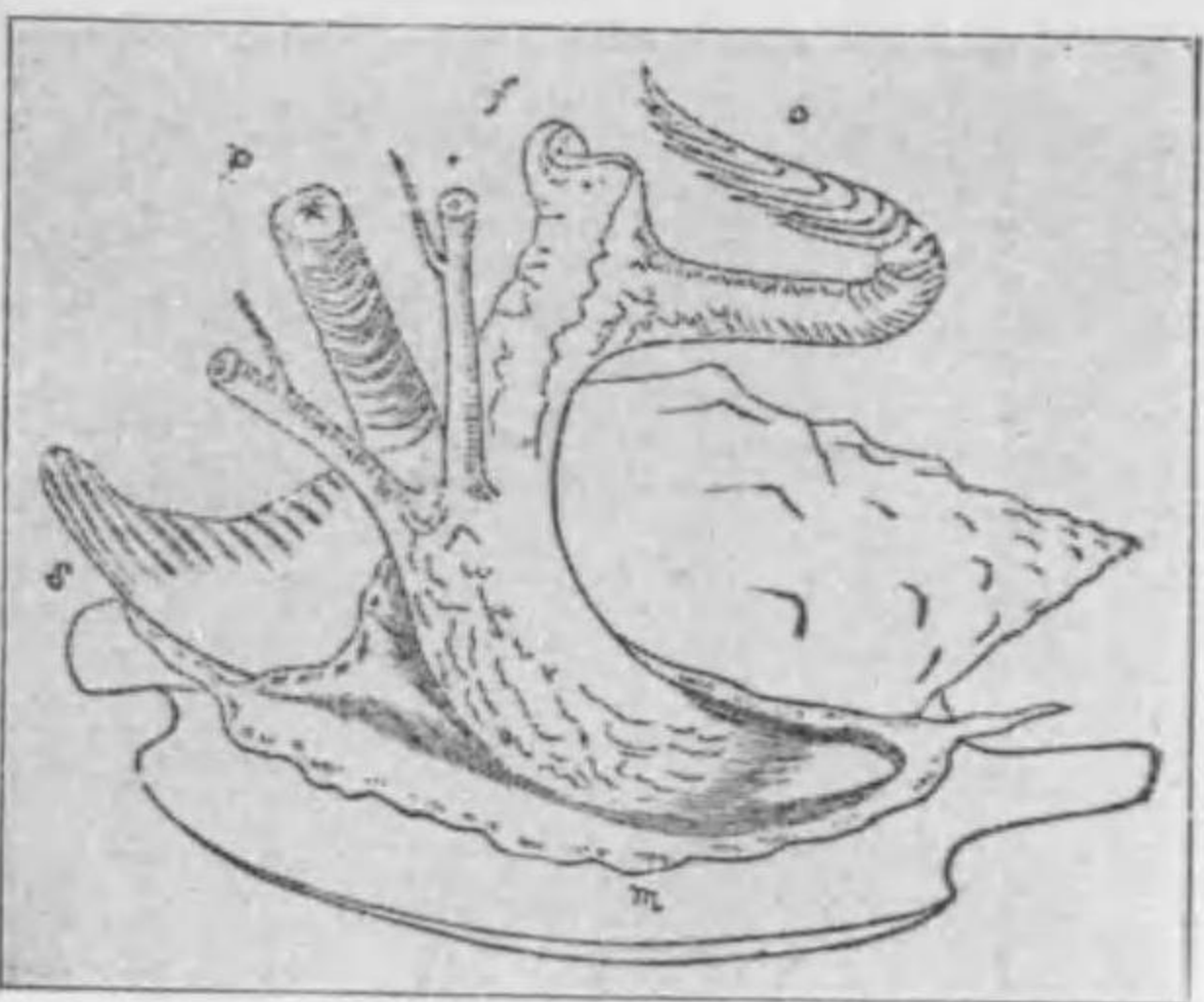


圖二十三百三第
(大一分二)種一屬貝袖
(*Strombus pugilis*, L.)
(after Woodward)

ムカシタモトにありては、中央の齒は七尖頭を有する。縁齒の中で、其の一個は尖頭三齒に分れ、第二と第三とは爪状にして單純である。

本屬のものは、六十五種を含み、西印度群島、地中海、紅海、印度、支那、ニュージーランド、太平洋、西部亞米利加等に産する。常に淺海の岩礁上にあるか、又は十尋位の處に棲んで居る。西印度諸島産の水盤貝 (Fountain-shell) (*Strombus gigas*, Linné) は、大形なる貝にして、四封度乃至五封度即ち我が四百八十餘々乃至六百々位もあり、その殻頂と刺とは、動物が老齡となるに従ひ、硬き介殼質を以つて充たされるのである。年々多量が採取せられて、バハマより歐洲へ輸出せられ、其處にて、浮彫細工及び磁器として使用せられて居る。而して本邦産の本屬のものには、左の如き種類がある。

- マヒノソデ *Strombus auris-dianae*, Linn.
- ムカシタモト *S. floridus*, Lam.
- ネヂマガキ *S. gibberulus*, Linn.
- スイシヤウガヒ *S. isabella*, Lam.



圖三十三百三第
(After Quoy & Gaimard) テソノヒマ
眼 p. (ぐ上み褶に上) 足 f. 吻の間柄眼 p.
管水吸呼 s. 邊緣の套外 m.

シドロ	<i>S. japonicus</i> , Rye.
ゴホウラ	<i>S. latissimus</i> , Linn.
イボンデガヒ	<i>S. leutiginosus</i> , Linn.
マガキガヒ	<i>S. luhannus</i> , Linn.
ウラスデマヒノソデ	<i>S. pacificus</i> , Swains.
マルソデガヒ	<i>S. succinctus</i> , Linn.
オハグロガヒ	<i>S. urceus</i> , Linn.

(一) 水字貝屬 *Pteroceras*

屬名ブテロケラス (*Pteroceras*) はブテロン (*Pteron*) (義翼の) ケラス (*Ceras*) (義角の) より成る。英名をスコルピオン、シエル (*Scorpion shell*) といふ。蠍貝の義である。幼貝は袖貝屬のものに似て居る。成長せるものには介殼の外唇は甚だしく擴張して、數個の長さ指狀突起を生じ、その下面には溝を有する。而して指狀突起の一つは、螺層に接近して存するのであつて、爲めに後溝を形成するのである。本屬には十二種を産し、印度及び支那に産する。而して本邦産のものには次の如き種類がある。

(一) 蜘蛛貝又駱駝貝

Pterocera lambris, Linné.



圖四十三百三第
(大一分二) 貝蜘蛛産那支
(After Woodward)

指狀突起は、前後に一本と、右側に五本を備ふるを常とし、介殼の長さは三四寸である。本種は小笠原島、琉球及び臺灣に産するのである。

(二) 水字貝 *Pterocera chiragra*, Linné.

六本の長さ指狀突起を有し、幾分か「水」の字に似て居る。介殼の長さは四五寸に達するのである。薩南諸島、琉球、小笠原島及び臺灣に産するのである。

(三) 絲掛貝科 (*Scalaridae*)

(一) 絲掛貝屬 *Scalaria*

屬名スカラリア (*Scalaria*) はスカラリス (*Scalaris*) より出で「梯子」に似て居るの義である。英名をウエントルトラップ (*Wentle-trap*) といふ。本邦にては絲貝、絲掛螺、ネデガヒ、クダマキの名がある。介殼は塔狀にして、多くの螺層を有し、螺層は圓く、縫合線は深く、螺層には白絲を掛けたるが如き、無数の凸狀の縦線がある。殻口は圓く、口縁は連續し



圖五十三百三第
種一屬貝掛絲
(*Scalaria pretiosa* Lam)
(after Woodward)
(大二分三)

て内外の區別を有することなく、層は角質にして螺紋は少いのである。介殼の大部分は純白色にして、光澤に富んで居る。

動物は收縮し得る吻状の口を有し、觸角は左右共に接近し、長く尖り、その外方の基部に近く眼を有するのである。外套膜の縁邊は單純にして、退化せる水管状の皺襞がある。足は鈍三角形にして、其前方には一皺襞がある。本属のものは、淺海より八十尋位の處に棲み、妨害せらるゝときは、紫色液を分泌するのである。而して百余種を産し、大部分は熱帯産なれども、又グリーンランド、那威、英國、地中海より西印度諸島、支那、濠太利亞、太平洋、西部亞米利加に産するのである。而して本邦産のものには次の如き種類がある。

ヒメネチガヒ

Scala japonica, Dkr.

ネチガヒ

S. lamellosa, Lam.

チャマダライトカケ

S. maculosa, Ads. & Reeve.

(一四) 車貝科 (Solaridae)

殼は圓錐状をなして壓搾せられ、その状恰も車輪状である。殼口は全く角状をなす

か、若くは稍圓形をなし、臍は廣く且つ深く、常に鋸齒状をなせる縁邊を有し、また螺状の刻線を旋らして居る。層は角質にして、螺旋を有するのである。足は甚だ大きく橢圓形をなし、その前方には凹みを有する。觸角は圓筒状にして太く、眼は觸角の外方の基底部に位するのである。

[1] 車貝 *Solarium perspectivum*, Linn.

屬名ソラリアム (*Solarium*) はダイヤル (Dial) 即ち「時計」の義である。英名をステリア、ケース、シエル (*Stair-Case shell*) といひ「梯子段貝」の義である。介殼は球状をなして縦扁である。臍は廣く且つ深く、殼口は菱形である。層は薄く層は角質にして、僅かの螺旋を有し、その核は稍外方に位する。臍の鋸齒は褐色にして、臍に近き肋線には、褐色點を有し、



圖六十三百三第
貝車
(After Woodward)
(大二分三)

螺層は縫合線の下に螺状の溝を旋らし、その上方には肋線がある。殼の周縁も亦肋をなし、その上下及び臍に近き部には、肋及び溝を有するのである。殼色は帶紫灰色若くは淡黃褐色にして、縫合線の上下及び溝の下には、褐色の帶若くは斑紋を旋らすのである。介殼の直徑は二寸有餘である。本属のものは、熱帯の海に産し、本邦、支那、印度、東部亞弗利加、濠太利亞、太平洋、亞米利加の西部、

及び地中海は其の産地として知られて居る。

(II) "サキヅル" *Solarium maximum*, Pils.



第三百三十七圖
マレグキサミ

臍内の鋸齒は前種と異りて褐色であつて、各螺層には、螺状をなせる條痕と、尙縦に明白なる條痕とがある。縫合線は溝と合して深く、周縁は肋をなし、その上下共に、溝と肋とを有するのである。殼の色は前種に似たれども、各層の上部にある溝の下

に、褐色帯を有せざるを常とする。又介殼の直径は二寸以下で、産地は相州三崎である。

(III) コヅル *Solarium cingulum*, Keiner.

本種は小笠原島に産し、介殼の直径は八分以下である。臍は狭縮し、鋸齒は甚だ強くして、白色で、殼面も亦白色である。各層の上部は帶黄褐色にして、同色の放射紋をば、殼の周縁に向つて出して居る。

(一五) セトモノガヒ科 (Eulimidae)

(一) セトモノガヒ屬 *Eulima*



第三百三十八圖
ヒガノモトセ種一
(*Eulima polita* L.) (after Woodward)

屬名エウリマ (*Eulima*) はエウリミア (*Eulimna*) より出で、食に渴する「饑餓者」の義で

ある。介殼は小形にして小さく、且つ陶器質の光澤がある。螺層は無數にありて、水平に位し、殼は細く伸長し、一側には殼の成長する際通過した所の殼口の唇のものとこの位置を示す所の傷痕は、點線状に連続せる小孔となりて現はれ、これが不分明に見へて居る。又これは殼内にては肋状に隆起する。殼口は卵圓形にして先方は尖り、外唇は内方は厚くなつて居る。内唇は塔を超へて折れ返へり、唇は角質にして稍螺層をなして居る。

觸角は突錐状をなし、左右共に接近し、その後方の基部に於て、眼は陥没して存するのである。吻は長く且つ收縮し得るのである。足は前方に於て截形をなし、中央部は二裂片をなす。本屬のものは約五十種を含み、英國、地中海、印度、太平洋、濠太利亞等に産し、五尋乃至九十尋の處に棲む。本邦産のものには左の如き種類がある。

ヒメセトモノガヒ

Eulima bovicornu, Pils.

オホクリムシ

E. cunningi, A. Ad.

リウキウクリムシ

E. luehuana, Pils.

内外普通動物誌

(一六) フトコロガヒ科 (Columbellidae)

〔一〕 フトコロガヒ屬 (Columbella)

屬名コロンベラ (Columbella) はロルンバ (Columba) より出で「鳩」の義である。介殻は小形にして、狭長なる殻口を有し、外唇は厚く、特に中央部に於て然りである。また外唇は鋸齒状となつて居る。内唇は刻目を有し、唇は甚だ小さく薄板状である。本屬のものは、二百餘種を含み、皆温暖地方に産する。而して西印度諸島、地中海、印度及びカリフォルニア等は、その産地として知られて居る。皆小形の美麗に斑點ある介殻にして、干満兩潮線間に棲み、砂底上に居るか、若くは石の周圍に聚合する性質がある。本屬のものにして、本邦に産するものには、左の如き種類がある。

- カフダカマツムシ *Columbella burehardi*, Dkr.
- ハナマツムシ *C. cunningi*, Reeve.
- タモトガヒ *C. discors*, Gmel.
- ムギガヒ又ニナバイ *C. dunkeri*, Tryon.
- ムシエビ *C. flava*, Brug.
- マルランマツムシ *C. martensi*, Lischk.



圖九十三百三第
種一屬ヒガロコトフ
(*Columbella mercatoria*
Gmel) (大倍二)
(Woodward)

チバミフトコロ

- オホホサツガヒ *C. misera californica*, Reeve.
- ヒメマツムシ *C. pardalina suberibararia*, Pils.
- マツムシ *C. pardalina tyleri*, Gray.
- ノミニナ *C. punila*, Dkr.
- ケシマツムシ *C. sinensis*, Sowb.

フトコロガヒ

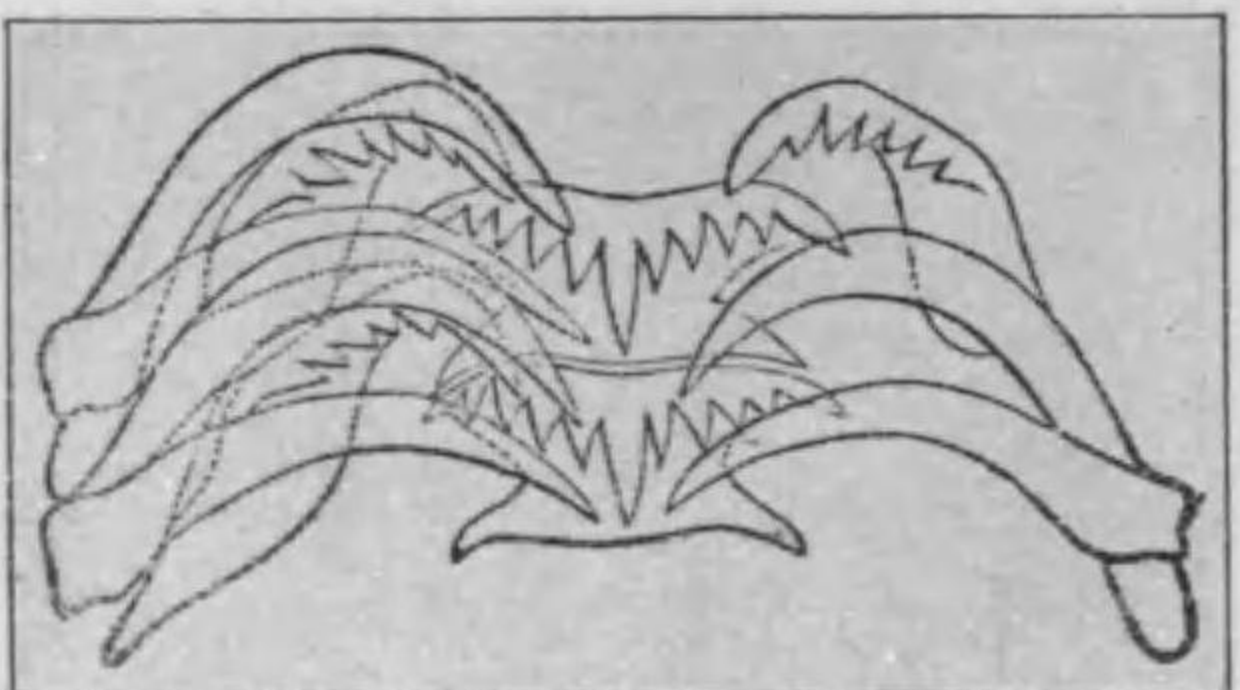
C. varicolor, Sowb.

(一七) 法螺科 (Tritonidae = Aquillidae)

法螺又吹螺又梭尾螺

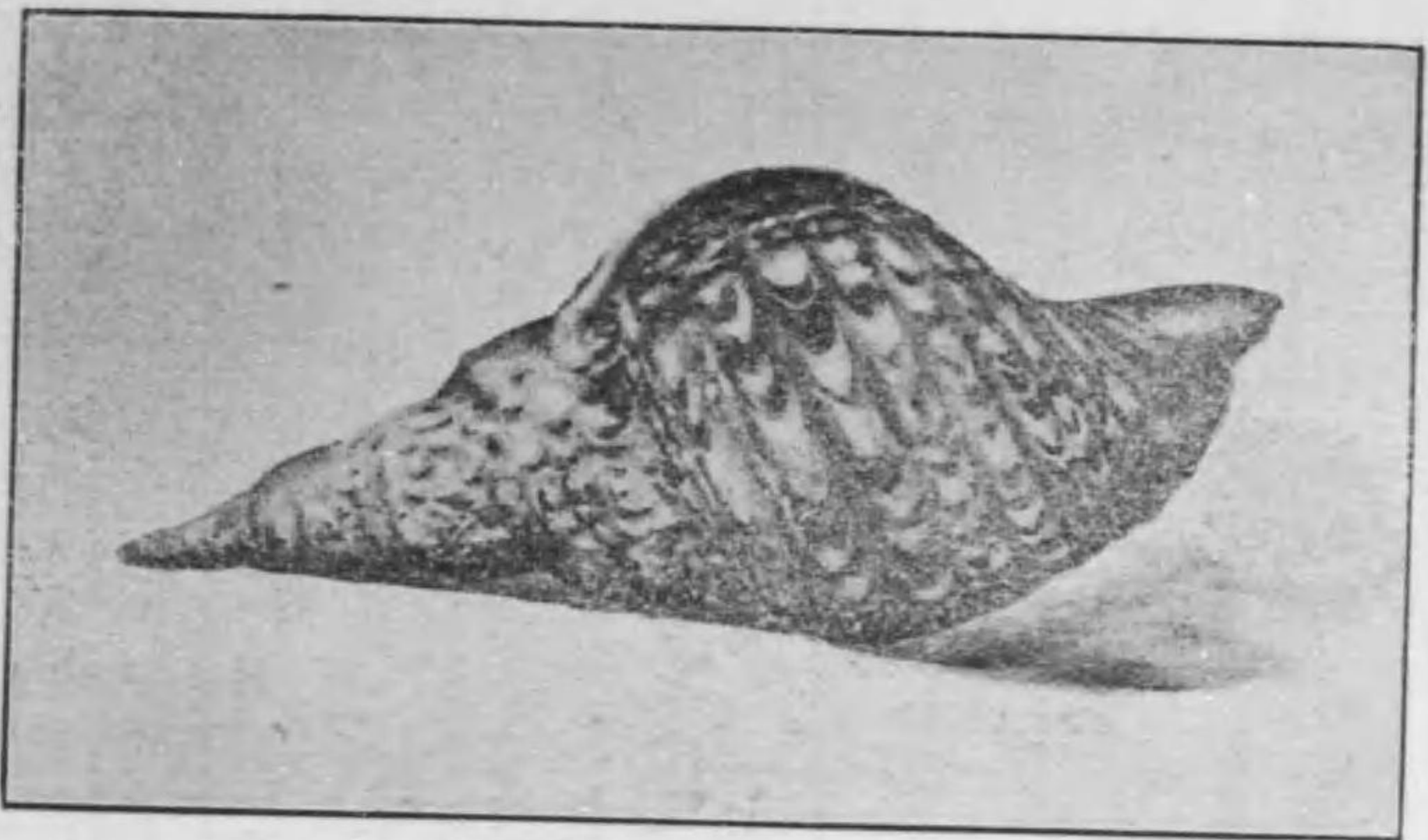
Triton = Aquillus.

屬名トリトン (Triton) は「海神」の義である。介殻は厚く、多少圓錐状をなし、殻口は卵形にして、その前端は延びて溝をなし、殻の外表面には、不規則なる瘤起が散在し、唇は卵圓形角質にして、稍周圍に向つて、一樣に成長するのである。本屬に屬するものは、種類多くして、西印度諸島、地中海亞



圖十四百三第
(倍十四百二) 舌のヒガラホ
(after Wilton)

内外普通動物誌



第三百四十一圖
法螺

弗利加、印度支那、太平洋、西部亞米利加及び本邦に産し、干満兩潮間より十尋若くは二十尋位の處に産するのである。

〔一〕 ホラガヒ又琉球法螺 *Triton tri-*

-tonis, Linné = *Aquillus tritonis*, Linné.

英名をグレートトリトン (Great Triton) といふ。

介殼の長さは六七寸もありて、全外面には紅、褐、白、等種々の波狀の彩色がある。主として琉球に産する。南洋の土人は之を喇叭の如く用ひるといふ。

〔二〕 房州ボラ *Triton nodiferum*, Lam.

-arek = *Aquillus nodiferus*, Lamarek.

本種は本邦東南海、四國、九州等に普通に産し、外面には多くの瘤狀突起を有する。殼長は四五寸を通常とするのである。



第三百四十二圖
ホガラヒ (Woodward)

以上の外、本科のものにして、本邦に産するものには左の如き種類がある。

ミツカドボラ *Aquillus chlorostomus*, Lam.

トウマキ *A. clandestinus*, Lam.

カコボラ *A. costatum*, Born.

シノマキ *A. pilearis*, Linn.

ジュセイラ *A. mbeculus*, Linn.

シホボラ *A. tuberosus*, Lam.

オキニシ *Gyrimnum balfonium*, Gmelin.

ウネボラ *G. graniferum*, Lam.

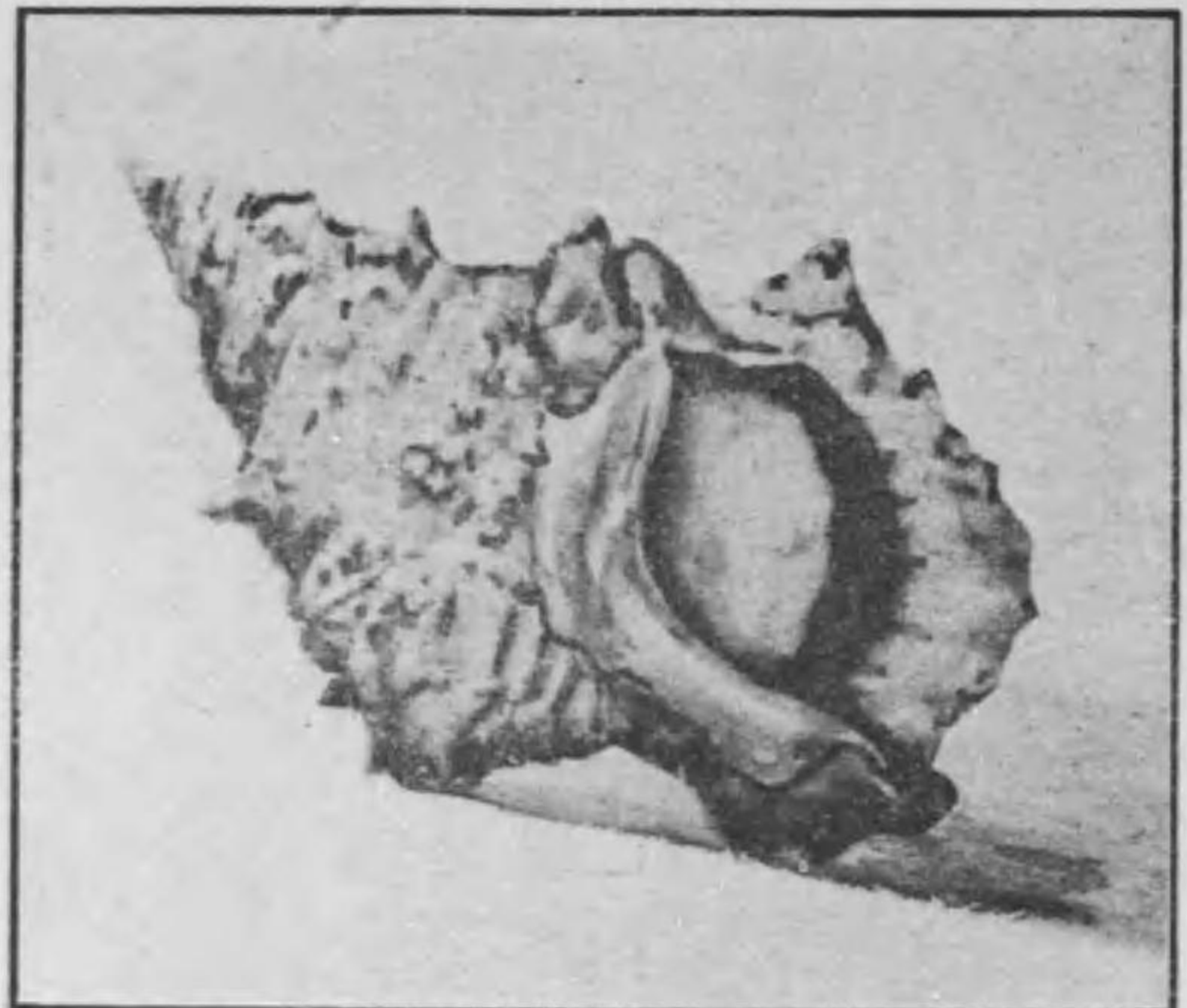
ナルトボラ *G. lanypas*, Linné.

ミヤコボラ *G. rana*, Linné.

モロハボラ *Apollon anceps*, Lam.

マツカハガヒ *A. perca*, Perry.

アラレボラ *A. tuberculata*, Brod.



第三百四十三圖
ナウトルボ

- ヒレガヒ
- ヒメヤウラク
- インバセウ
- エゾヤウラク
- ヤウラクガヒ
- 奥羽ヤウラク
- ハネナシヤウラク
- ヒシヤウラク

(一八) 唐冠科又千歳貝科 (Cassidiidae)

唐冠屬 *Cassis*

- Ocenebra burneti*, Ad. & Reeve.
- O. contracta*, Reeve.
- O. emarginata*, Sowb.
- O. endermonis*, Smith.
- O. falcata*, Sowb.
- O. japonica*, Dkr.
- O. roriflua*, Ad. & Reeve.
- O. tetragona*, Brod.



圖四十四百三第
唐冠屬の唐冠

英名をヘルメット、シエル (Helmet-shell) といふ「兜具」の義である。介殻は頗る堅牢にして一方に膨脹し、橢圓形若くは三角状卵形をなすのである。螺層は短く體螺層は甚だ大きく、殻口は長く、外層は反轉し、齒牙状を呈し、内層は體螺層の上を超へて擴り、溝は鋭るごとく且つ反曲する。唇は小さく且つ伸長し、中心は伸直なる内方の縁邊に位するのである。

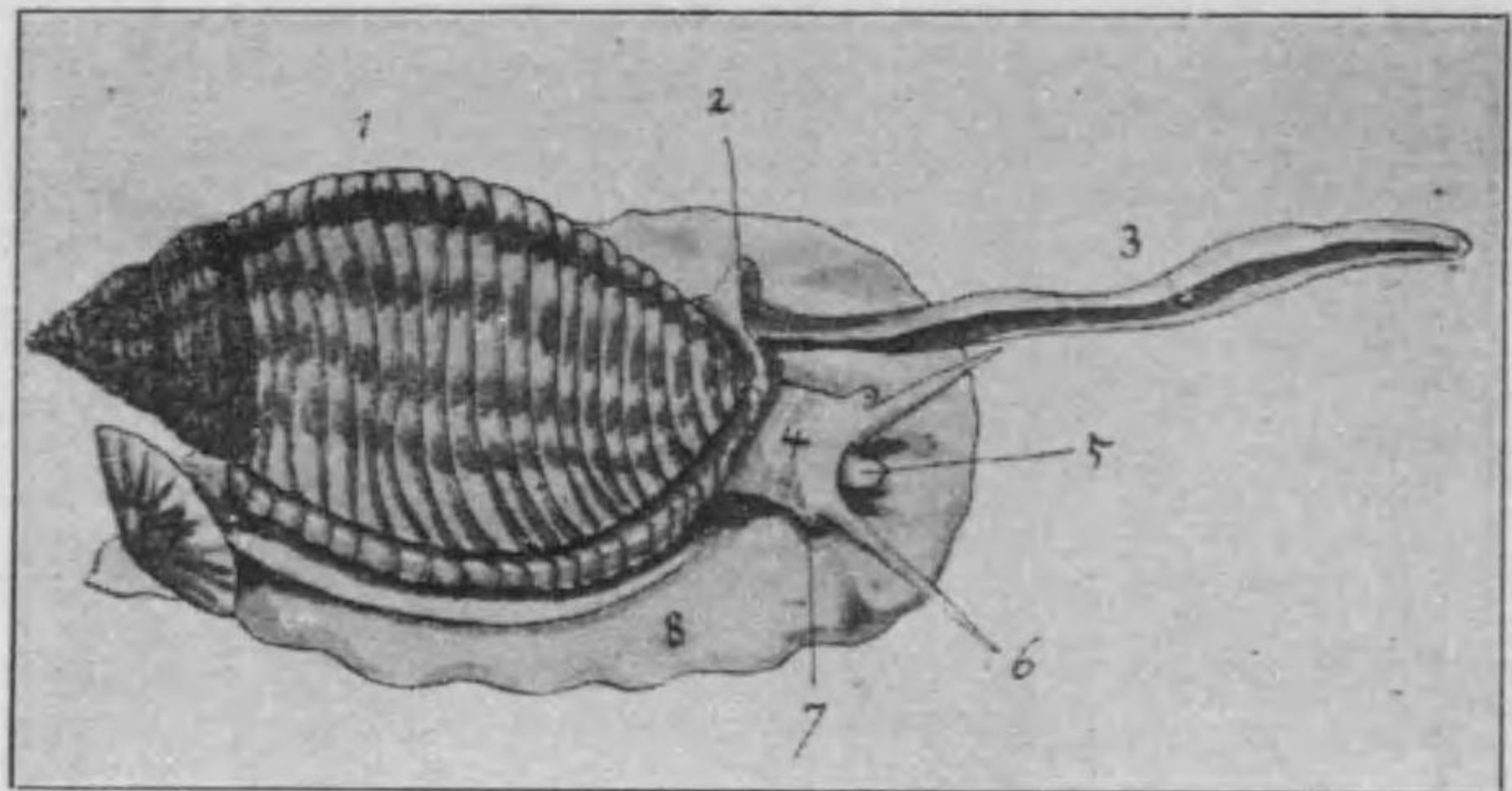
る。舌帶の中央の齒は一個にして、その兩側には三齒宛を有するのである。

頭は大きく二本の觸角を具へ、その外方の基部に眼を有し、外套膜は、その一部分前方に伸出して、長大なる水管を形成し、足は濶大である。本屬のものは、熱帶地方の海に多く産し、淺海の砂石多き場所に棲息し、二枚貝類を求めて之を食するのである。

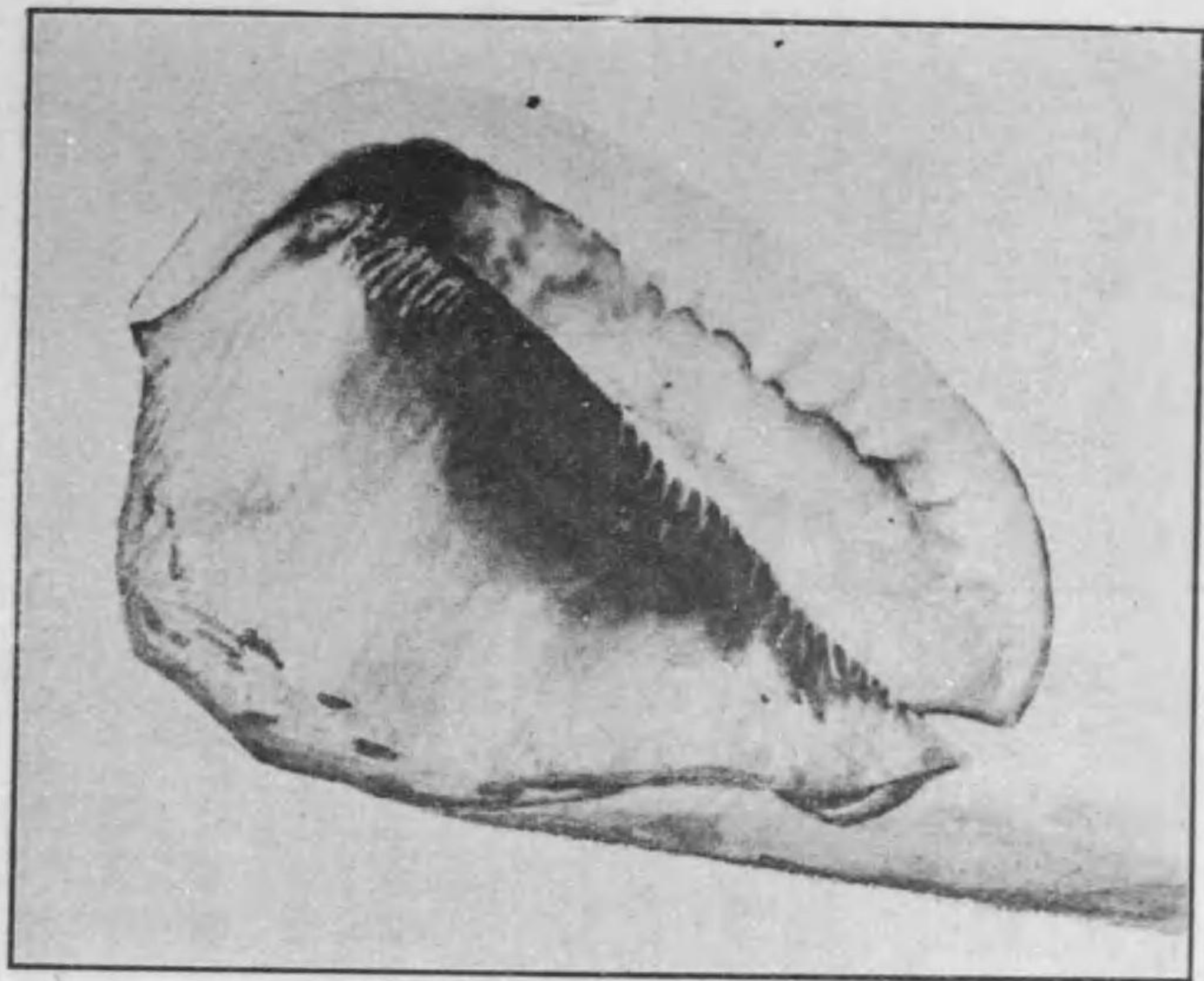
本屬の者の大なるものは、其介殻をば浮彫細工として使用するのである。而して本屬の者に於て、本邦に産する者には、次の如き種類がある。

(一) 唐冠又千歳貝又龍神貝
Cassis cornuta, Jinné.

介殻は堅牢にして稍々橢圓形をなし螺層は短く、體螺層は甚だ大きく、殻孔は、縦に長いのである。介殻の大なるものは、八寸乃至一尺もあり、外表面には、大なる疣の三横列を有し、帯黄色



圖五十四百三第
種一屬リムカウタ
(*Cassis suclosa*) (after Poli)
1 介殻 2 嘴 (beak) 3 水管 4 頭 5 吻 6 觸角 7 眼 8 足 9 扉



ヒガウボンマ 圖七十四百三第



圖六十四百三第
種一屬リムカウタ
(*Cassis flamma* L.)
(ハマキ)

六五〇

内面と殻縁とにある大なる齒との間は、
橙赤色にして、光澤がある。本種は印度洋
に多く産し、臺灣、琉球近海及び長崎等に
も産するのである。

- (一) マンボウガロ *Cassis rufa*,
Linn
- (二) カツラガロ *C. strigata*, Gmel
- (三) ウネウラシマ *C. saburon*
japonica, Reeve.
- (四) ウラシマ *C. saburon pila*
- (五)

にして、
多少褐
色を帯
びて居
る。殻の



帶舌のヒガラヅウ 圖八十四百三第
(After Woodward)



圖九十四百三第
種一屬ヒガラヅウ
(*Dolium galea*) (大二分三)
(After Woodward)

内外普通動物誌

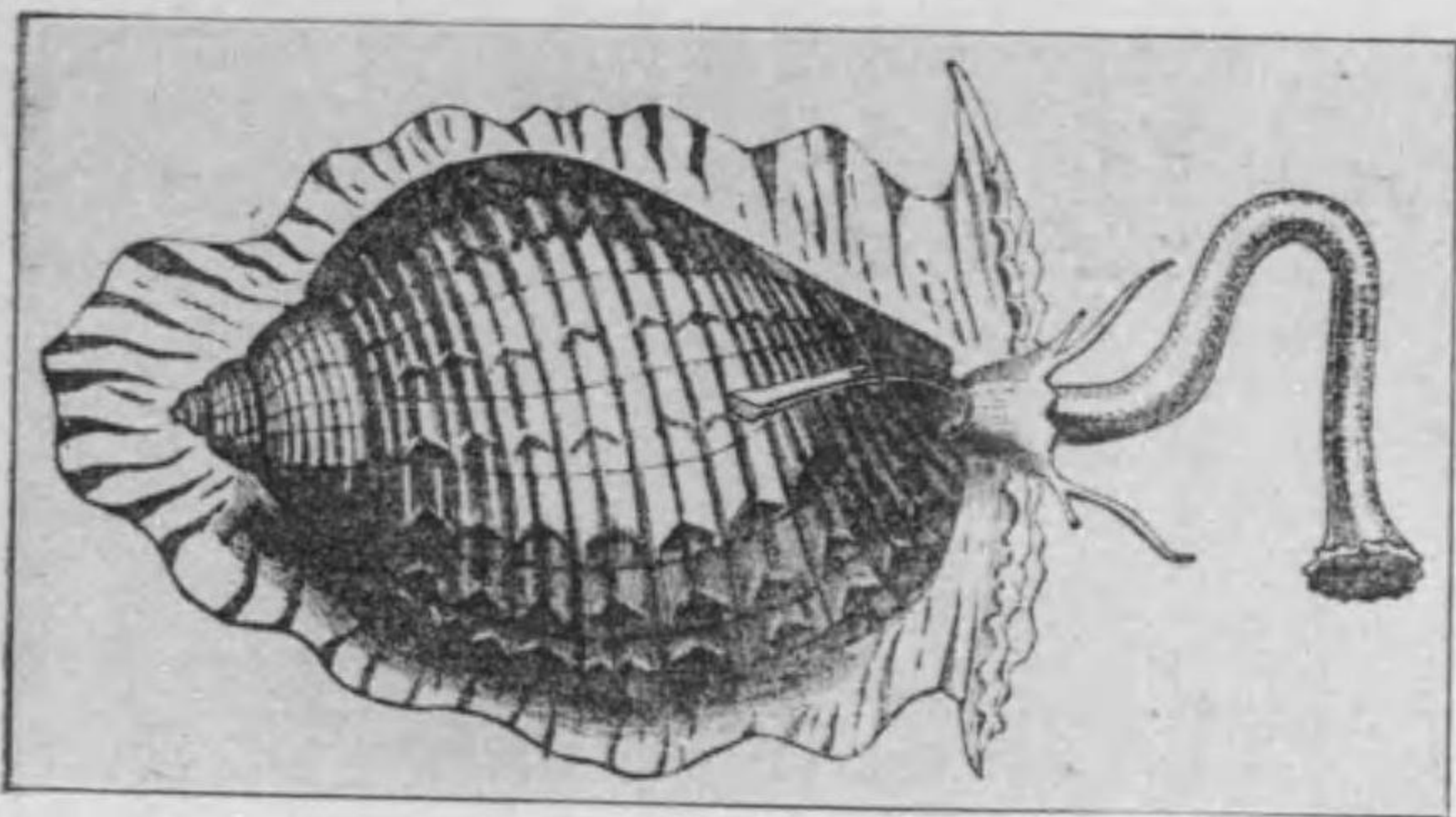
英名をタン (Tun) といふ。介殻は薄く兩端尖りたる卵圓形、若くは球
狀に近き卵形にして、螺層は小さく體螺層は甚だ大きく、殻口も亦甚
だ潤大にして、外唇は鋸齒狀をなし、唇を有することはない。螺層は螺
旋狀の隆起と溝とを有するのである。舌帶の中で中央齒は一個にし

- Reeve.
- (六) ヨフガロ *C. vibex*, Linné.
- (七) ヒナヅル *C. vibex erinacea*, Linn.
- (一九) 鶉貝科 (*Dolidae*)
鶉貝屬 *Dolium*

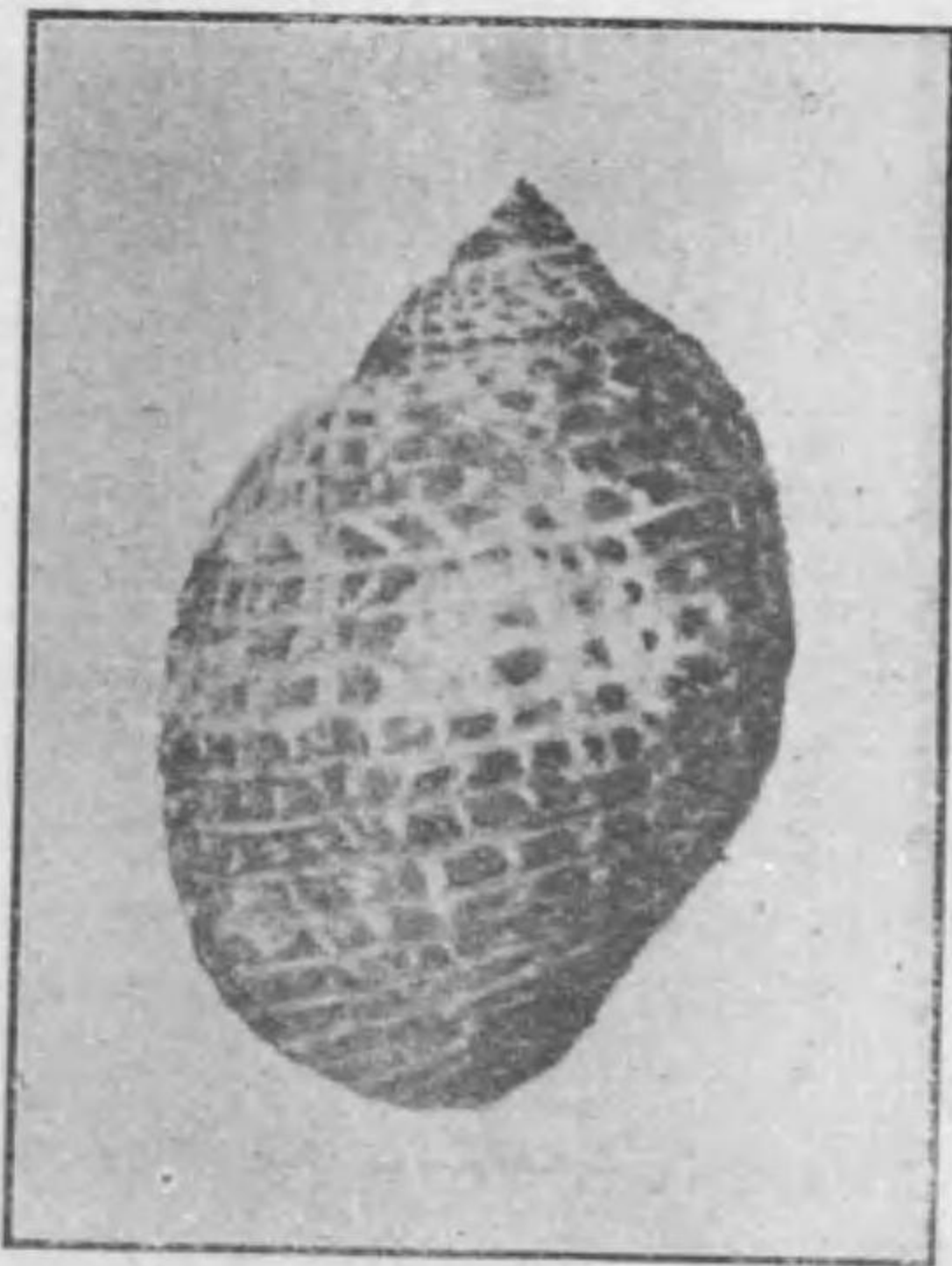
て、側齒は三個宛である。吻と水管とはよ
く發達して居るのである。本邦には左の
如き種類がある。

- (一) ウツラガロ *Dolium perdix*,
Linné.

介殻は先端尖り、暗黄褐色或は鮮かな



圖一十五百三第
(*Dolium perlix* L.) 種一屬セガラヅウ
る曲に方の面前の殻は管水す出突を吻
(After Quoy) (大一分三)



圖十五百三第
セガラヅウ

る赤栗
色にし
て多く
の帯白
色の斑
紋を散
布し、殻
の長さ

六五二

は三四寸である。

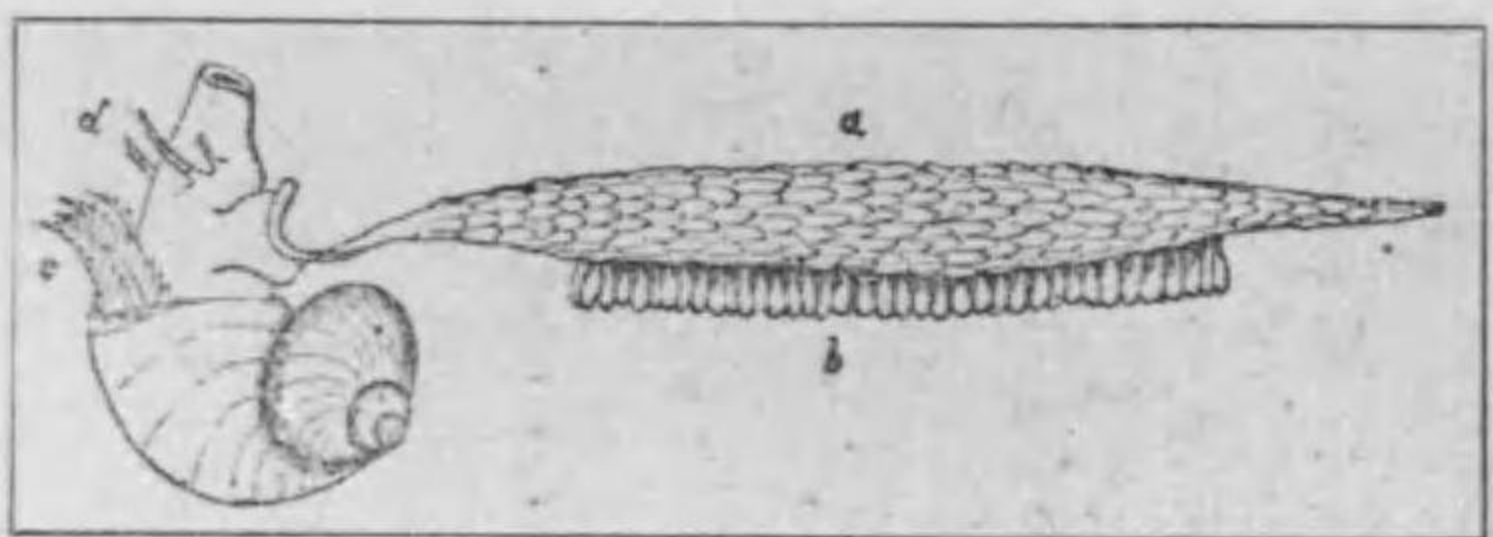
(一) ヤツシロガヒ *D. luteostoma*, Kister.
介殻は帯黄褐色にして、長さ五六寸に達する。

(二) ミヤシロガヒ *D. fasciatum*, Brug.

(三) トキハガヒ *D. pomum*, Linn.

(四) 朝顔貝科 (*Janthinidae*)

介殻は薄く半透明にして、拳螺状をなすのであ



圖二十五百三第
ヒガガサ
(From Quoy & Gaimard)
柄眼び及角觸 d 腮 e 囊卵 b (raft) 子浮 a

内外普通動物誌

る。殻の色は帯白色若くは帯紫色である。殻口は卵形なるか、若くは略四角形にして、唇を有することはない。動物は浮子と稱する囊状體に因りて洋面に支へられ、之には多くの卵を附着するのである。吻は嘴状をなすも、顎を有することなく、肉食にして舌帯には中央に位する齒を缺いて居る。而して動物が何物かに妨害せらるゝときは、腮腔より紫色の液を吐出する性がある。

(一) 朝顔貝 *Janthina janthina*, Linné.

屬名イアンチナ (*Janthina*) は「堇菜色」の義である。そこで英名をヴァイオレット、スネール (*Violet snail*) といふ。堇菜色の蝸牛の義である。介殻は脆弱なる拳螺状をなし、殻頂は小さく尖り、且つ斜にして、螺層は少く斜に凸状をなし、周縁に於て鈍き角状を呈して居る。殻口の外層には僅少の刻込みを有するのである。殻の基部は濃き堇菜色なれども、螺層は殆んど白色である。介殻の直径は一寸三分以内であつて、相州三崎、三宅島及び小笠原島に産するのである。

動物體は大なる頭を有し、之は吻状に突出し、一本の觸角

六五三

を有すれども、それは分岐して柄状となり、眼を缺いて居る。足は小形にして、浮子を分泌する作用がある。この類のものは、大洋の表面に群居して浮游する。今若し手にてこの動物を握るときは、外套膜の下なる鳃腔より紫色の液を分泌するのである。浮子は怒濤の爲めに分離し破損するのであるが、斯かる場合には、動物は水底に沈落して、表面に上昇すること能はざるを以つて、恐らくは死を免れざるのであらう。この浮子はイガヒ等の足絲と同性質のものだといはれて居る。

(二) ルリガヒ *Janthina globosa*, Swainson.

介殻は薄く且つ形状は膨脹して球状に近いのである。螺層は短く稍陥没し、各螺層は圓るく、外層はその中央に於て、僅かの刻込みを有するのである。殻は淡き莖菜色にして、基底に至りて次第にその色の濃度を増して居る。介殻の直径は一寸三分以内に

(二) エツチウバイ科 (*Buccinidae*)

介殻は前方に於て刻目を有するか、或は急に折れ返りたる溝を有し、以つて介殻の前面に於て隆起線を生ずるやうになつて居る。動物體はアキガヒ屬によく類似して居る。舌帯は長線状にして、その中央



圖三十五百三第
種一ヒガリル
(*Janthina fragilis*
Lam) (大二分三)
(Woodward)



圖四十五百三第
種一屬イバウチツエ
(*Buccinum undatum* L)
(大一分二)
(After Woodward)

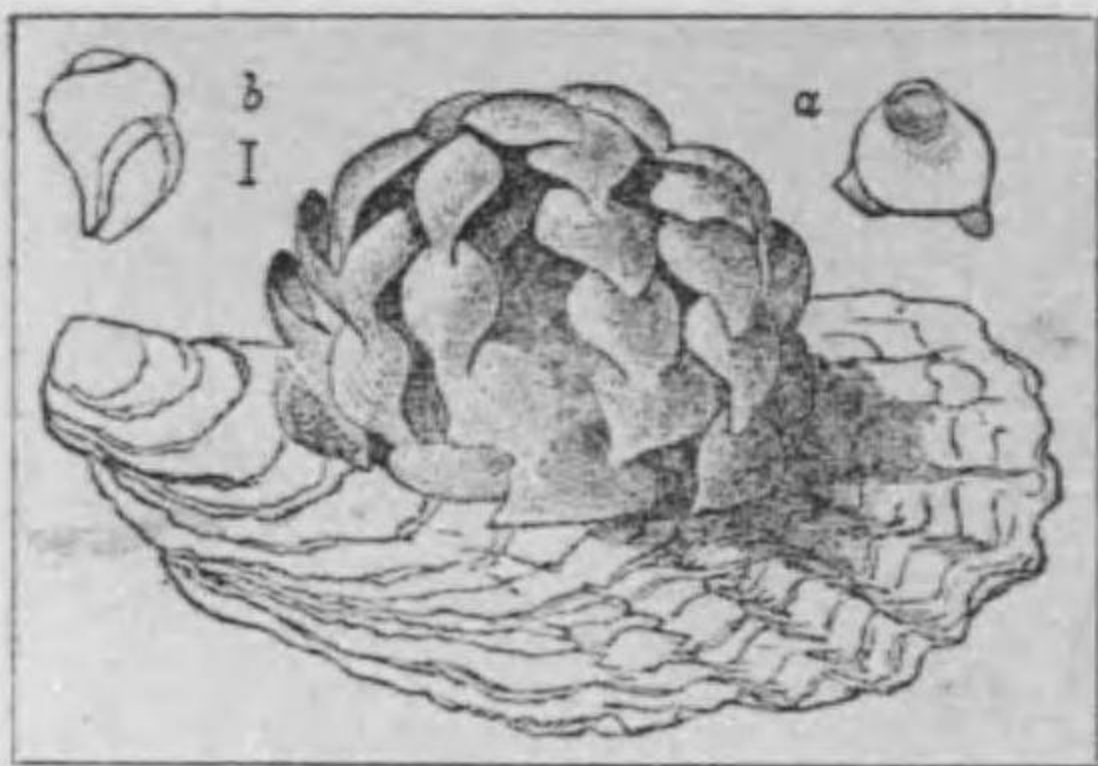
の齒は單一にして横亘し、その前方は齒牙状を呈する。側齒も亦單一である。本科のものは概して肉食性の動物である。

(一) エツチウバイ *Buccinum striatissimum*, Sowb.

屬名バツキナム (*Buccinum*) は、バツキナ (*Buccina*) より出で、これは「喇叭」の義である。英名をホエルク (*Whelk*) といふ。本屬のもの、介殻は、螺層はその數少く、且つ一方に膨大し、

殻口は大きいのである。溝は甚だ短く、折返つて居る。層は一方に向つて成長し、爲めにその核は外方に存するのである。本屬のものは、北地の海洋及び南水洋に産し、干満兩潮線間より百尋位の處に棲むのである。而してエツチウバイは、丹後其他日本海の沿海に産するのである。

本屬のものは、市場に食用として販賣せられ、また漁夫に因りて餌用に供せらるゝといふ。其卵塊



圖五十五百三第
塊卵の屬イバウチツエの上に上螺牡
Buccinum
孔の囊卵は a 長さの然自 I 殻幼 b
つ出蟲幼りよれこてしに
(Woodward)

は圓味ある塊となりて海岸に打上げられて居る。各卵囊よりは、五六疋の幼蟲が孵化し、囊の頂上にある卵孔より外界へ出づるといふことである。本邦産の本屬中には次の如き種類がある、

- チシマバイ *Buccinum chisimanum*, Pils
- シライトマキ *B. leucostoma*, Lischk.
- エゾバイ *B. middendorffi*, Verkrusen.

〔II〕 エゾボラ屬 *Chrysodonus*

介殻面の溝は短く、殻頂は乳頭状であつて、舌帯は前屬のものに似て居る。本屬には十二種を有し、スピツベルゲン、デービス海峡、英國、地中海、カムチアツカ、オレゴン等に分布し、干満兩潮線間より、百尋位の處に棲むのである。而して本屬のものゝ中で、本邦に産するものには、次の如き種類がある。

- ヒメエゾボラ *Chrysodonus arthriticus*, Val. Bernardi.
- エゾボラモドキ *C. intersculptus*, Sowb.



第三百五十六圖
エゾボラモドキ

コエゾボラモドキ

C. intersculptus frater, Pils.

〔III〕 バイ *Eburna japonica*, Sowb.

屬名エバーナ (*Eburna*) はエバー (*Ebur*) より出で、象牙の義である。そこで本屬のものは、英にアイヴオリー、シエル (*Ivory-Shell*) といふ「象牙貝」といふ義である。螺形にして殻頂は尖り、口の下方は突出することなくして、こゝに一つの切込みを具へ、臍は狭く且つ甚だ深いのである。殻質は厚く、縦に亘れる縮條を有し、表面は蒼褐色にして、暗褐色をなせる大小の斑紋を有する。殻の内面は白色にして、外面にある斑紋をば透して見ることが出来る。而して内外殻共に光澤がある。介殻の大きさは二三寸に達し、房相以西の沿岸の浅き泥底に棲息し、五六月頃、海中の木石介殻等に産卵する。その卵囊をばヒヨットコホ、ツギといふ。

この貝は肉食性なるを以つて、夕刻より籠に干鰯などを入れて海中に沈め置きて之を誘致し、翌朝籠を引き上げて採るのである。肉は湯煮で食用となす外、殻は獨樂として、以前は盛んに兒童が玩弄したものである。

以上の外、本科のものにして本邦に産するものには、左の如き種類がある。

- ミクリガヒ *Siphonalia cassidariaeformis* Reeve.

内外普通動物誌

- タウイト *S. fusoides longirostris*, Dkr.
- ミヲツクシ *S. trochulus*, Reeve.
- ヒメミクリガヒ *S. yanakatai*, Pils.
- ノシガヒ *Engina mendicaria*, Lam.
- ゴママダラノシガヒ *E. zeppa*, Duclos.
- イソニナ *Euthria ferrea*, Reeve.
- トバイソニナ *E. fuscobalata*, Smith.

(二二二) オニコブシ科 (Turbinellidae)

〔一〕 テングニシ *Hemifusus ternatanus*, Gmel.

介殻は紡錘形に近く、螺層には側扁せる棘を有し、殻孔は長卵圓形を呈する。此貝は六七月頃産卵し、その卵囊を海酸漿といふのである。

以上の外、本科のものゝ中で、本邦に産するのには、次の如き種類がある。

- オニコブシ *Yasum ceranicum*, Linn.
- コオニコブシ *V. turbinellum*, Linn.
- (二二三) ヨフバイ科又ムシロガヒ科 (Nassidae)

〔一〕 ムシロガヒ *Nassa*



圖七十五百三第
種一ヒガロシム
(*Nassa arcularia* L.)
(After Woodward)
(大四分三)

の突起を生ずるのである。唇は卵圓形にしてその中心は頂端に位するのである。介殻の長さは五六分乃至七八分にして、色は淡黄色なるを常とし、外面には各縫合線に平行せる深き溝あり。これと殆んど直角に交る所の溝ありて、表面は全躰籠目状を呈して居る。



圖八十五百三第
種一屬ヒガロシム
(*Nassa oweni* Gray)
(After Woodward)
(大倍二)

この類は二百餘種を含有し、地球上到る所の海岸に産し、北は極地より熱帯を経て南極地方に産し、干潮兩潮線の間より、深き處では五十尋の深底に棲んで居る。足は幅広くして、その後端には二本の觸手狀の突起を有し、恰も尾の如くである。その性貪食にして、他の小軟體動物を襲ひ、その肉を食するのである。本屬のものゝ中で、本邦に産するものには左の如

き種類がある。

- ヒメムシロ
- アハムシロ
- ハナムシロ
- イボヨフバイ
- アツムシロ
- アラムシロ
- ヒメヨフバイ
- アラレガヒ
- キンシバイ
- コブムシロ
- ヒメオリイレムシロ
- アラモリムシロ
- カニノテムシロ
- ムシロガヒ

- Nassa acutidentata*, Smith.
- N. albescens*, Dkr.
- N. caelata*, A. Ad.
- N. coronata*, Brug.
- N. crassa*, Koch.
- N. festiva*, Powis.
- N. gaudiosa*, Hinds.
- N. gemmulata*, Lam.
- N. gians*, Linn.
- N. globosa*, Quoy.
- N. hirta*, Kiener.
- N. hypolia*, Pils.
- N. leptospira*, A. Ad.
- N. livescens*, Phil.

六六〇

- リウキウムシロ
- ホンムシロ
- ヨフバイモドキ
- ウネムシロ
- ヒメウネムシロ
- シヒノミヨフバイ
- ミスデヨフバイ

- N. margaritifera*, Dkr.
- N. paupera*, Gould.
- N. picta*, Dkr.
- N. semiplicata hiradoensis*, Pils.
- N. semiplicata hizenensis*, Pils.
- N. velata*, Gould.
- N. zonalis*, A. Ad.

(二四) イトマキボラ科 (Fasciolaridae)

(一) イトマキボラ属 *Fasciolaria*

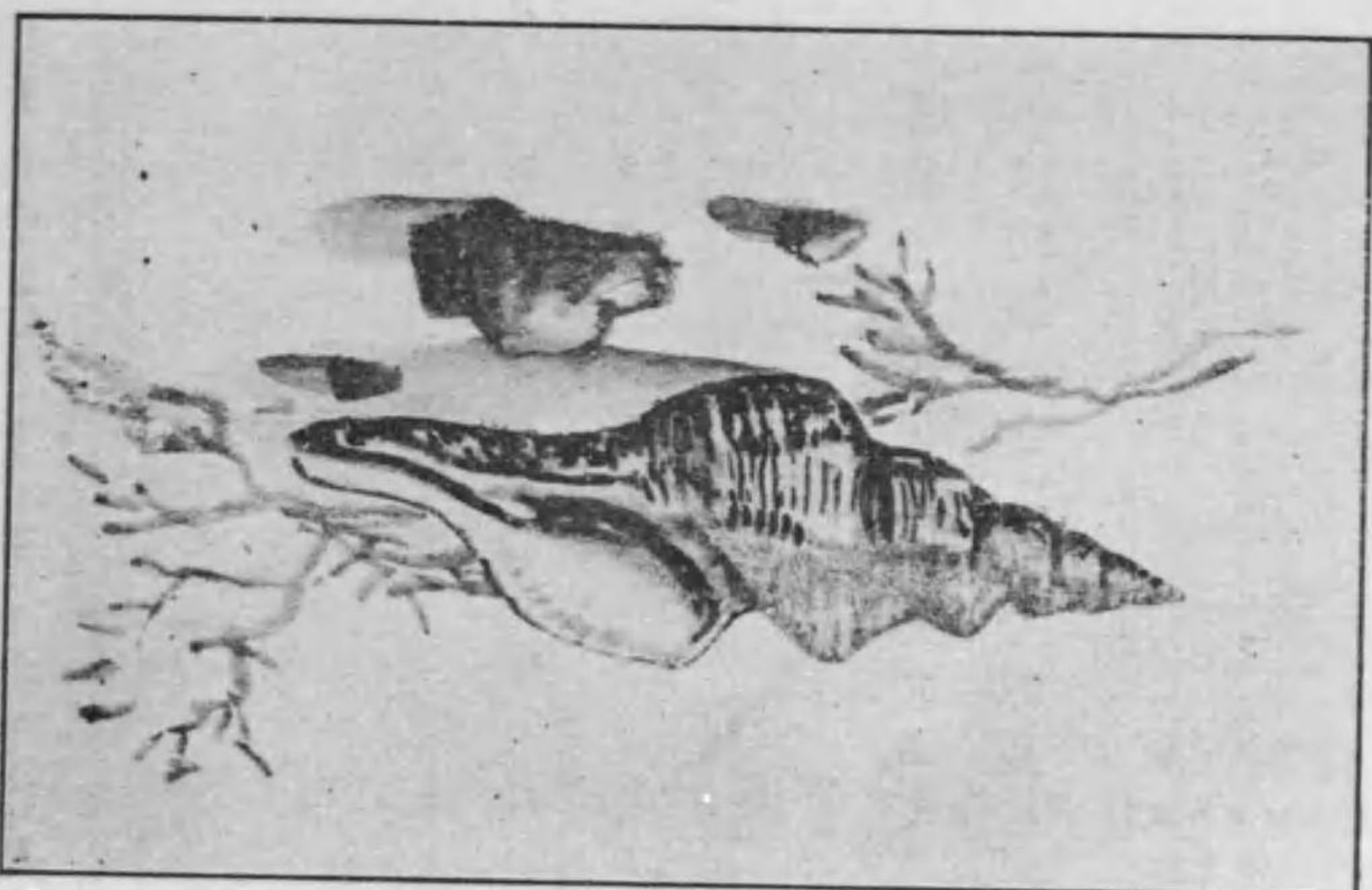
属名ファスシラリア (*Fasciolaria*) はファスシラ (*Fasciola*) より出で「帯」の義である。介殻は紡錘状をなして伸長し、螺層は圓るきか、或は角張つて居つて、溝は開き、内唇は



圖九十五百三第
種一屬ラボキマトイ
(*Fasciolaria tulipa*
L.) (大一分二)
(After Woodward)

振れ、數個の斜めなる皺襞を有するのである。而して唇は爪状である。本属のものは百餘種を含み、西印度諸島、地中海、西亞弗利加、印度、濠太利亞、南太平洋、西亞米利加に産する。而して本邦産に

は左の如き種類がある。



ラボキマトイガナ 圖十六百三第

介殻は長き尖れる螺旋を有し、螺層は多くして低平である。溝は長く後溝は螺層の上に走つて居る。外層は多少擴張し、唯一個の穴を有する。殻口は卵圓形をなし、内面には條線がある。本属のものは、紅海、印度、ホルネオ支那等に分布し、三十尋位の處に棲むものがある。而して本邦には左の如き種類がある。

- ナガイトマキボラ *Fasciolaria filamentosus*, Lam.
- ヒメイトマキボラ *F. trapezium audouini*, Jonas.
- イトマキボラ *F. trapezium*, Linné.
- (二) ナニガシ *Fusus*
- チトセボラ *Fusus nicobaricus*, Lam.



圖一十六百三第
種一屬ヲボセトナ
(*Fusus antiquus* Müll)
(After Woodward)

尙本科には左の如き種類を産するのである。

- リウキウツノマタ *L. polygonus*, Gmel.
- ベニマキ *L. rhodostoma*, Dkr.
- スヂクロニシキニナ *L. turritus*, Gmel.
- ツノマタモドキ *Peristernia belcheri*, Reevé.
- ムラサキツノマタモドキ *P. nassatula*, Lam.
- キイロツノマタモドキ *P. ussulata lachnana*, Pils.

(二五) 筆貝科 (Mitridae)

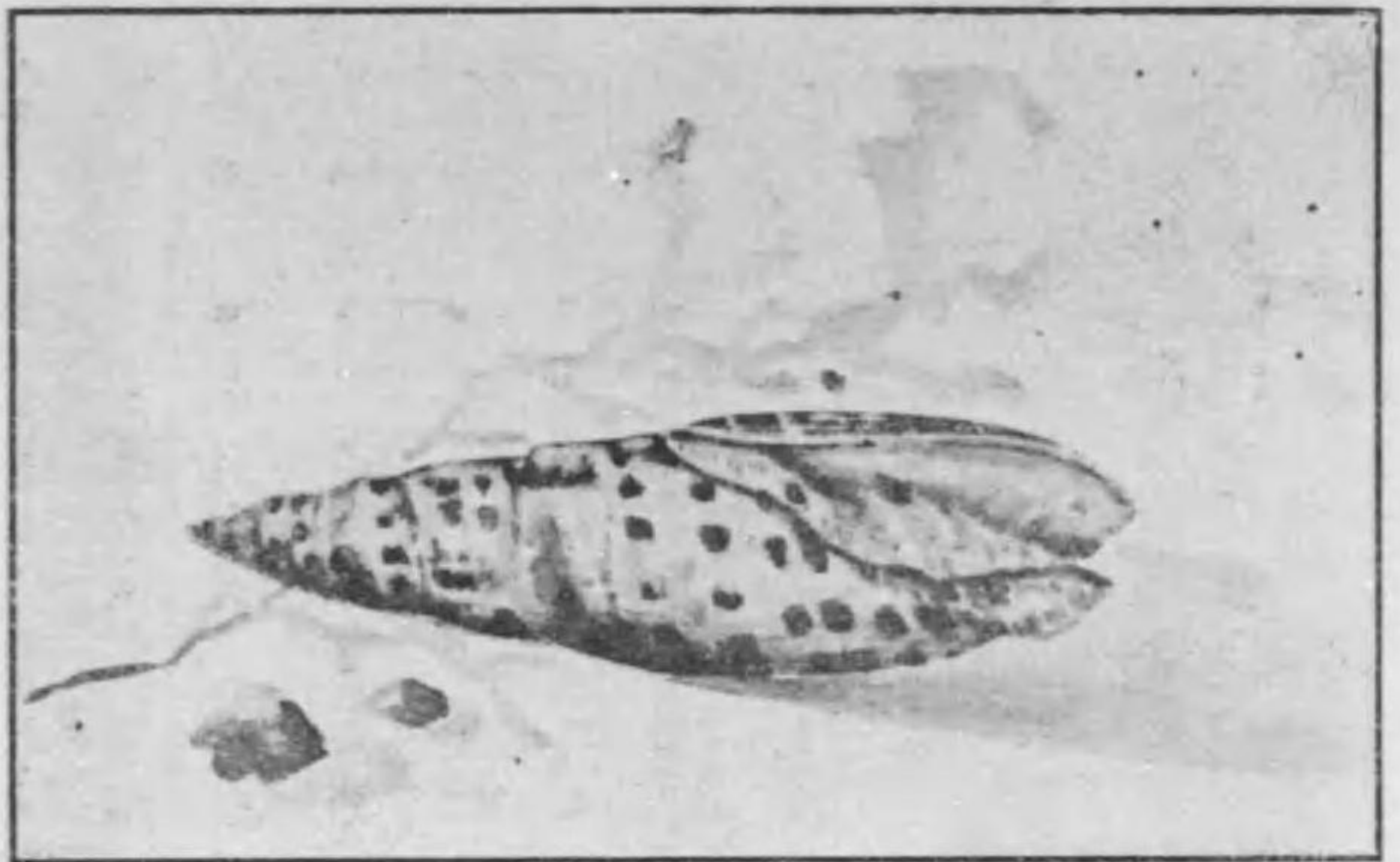
(二) 筆貝屬 *Mitra*

英にマイター、シエル (*Mitre-Shell*) といふ。僧帽貝の義である。貝殻は厚く紡錘状をなし、螺層は高く鋭るごとく、殻口は小さく、その前面に於て刻目を有する。殻軸は斜に皺襞内外普通動物誌

を有し、厖は甚だ小形である。
 動物は甚だ長き吻を有し、他より妨害を受くるときは、厭ふべき臭氣ある紫色液を分泌する。眼は觸角上若くはその基部に位するのである。本属には四百二十種を有し、フィリッピン諸島、印度、紅海、地中海、西亞弗利加、太平洋、西部亞米利加等に産し、熱帶以外の地に産するものは皆小形である。常に干満兩潮線より十五尋位の處に棲み、稀に十五尋以上八十尋の處に棲むものがある。而して本邦には次の如き種類を産するのである。

- マメオトメ
- ヒメヤタテ
- マユフデ
- フトコロヤタテ
- テウセンフデ
- ハマヅト
- クリイロフデ
- ヒゼンツクシ

- Mitra amabilis*, Reeve.
- M. auriculoides*, Reeve.
- M. chrysalis*, Reeve.
- M. columbellaeformis*, Kiener.
- M. episcopalis*, Linn.
- M. exasperata*, Gmel.
- M. fulva*, Swains.
- M. hizenensis*, Pils.



第三百六十二圖 デフンセウテ

- シマヤタテ *M. litterata*, Lam.
- アラレオトメ *M. nodosa*, Swainson.
- クチベニオトメ *M. patriarchalis*, Lam.
- ベニウミフデ *M. pertusa*, Linn.
- オホミノムシ *M. plicata*, Kiener.
- ニシキノキバ *M. pontificalis*, Lam.
- キバフデ *M. punctichata*, Lam.
- オホシマヤタテ *M. retusa*, Lam.
- ヤタテガヒ *M. scutulata*, Gmel.
- コシマヤタテ *M. virgata*, Reeve.
- ヒメテツヤタテ *M. woldenarii*, Kiener.
- テツヤタテ *M. ziervogeliana*, Gmel.

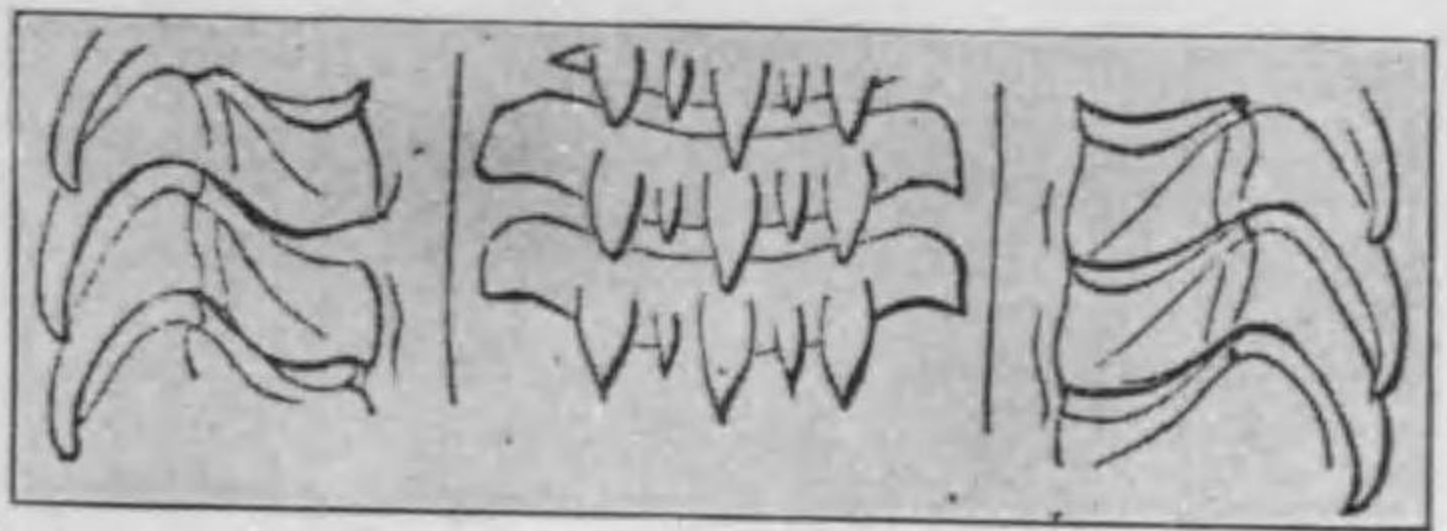
(二六) ^{ホネ}骨貝科 (Muricidae)

介殼は短かき紡錘形にして前溝を有し、之は伸直である。各螺層は、その終點に於て、縦の脹れる脈か、若くは結節を具へて居る。介殼には厖を有し、舌帯は細長である。その内外普通動物誌

性肉食にして、他の軟體動物を食するのである。

〔一〕 ホネガヒ *Murex tennispinna*, Lam.

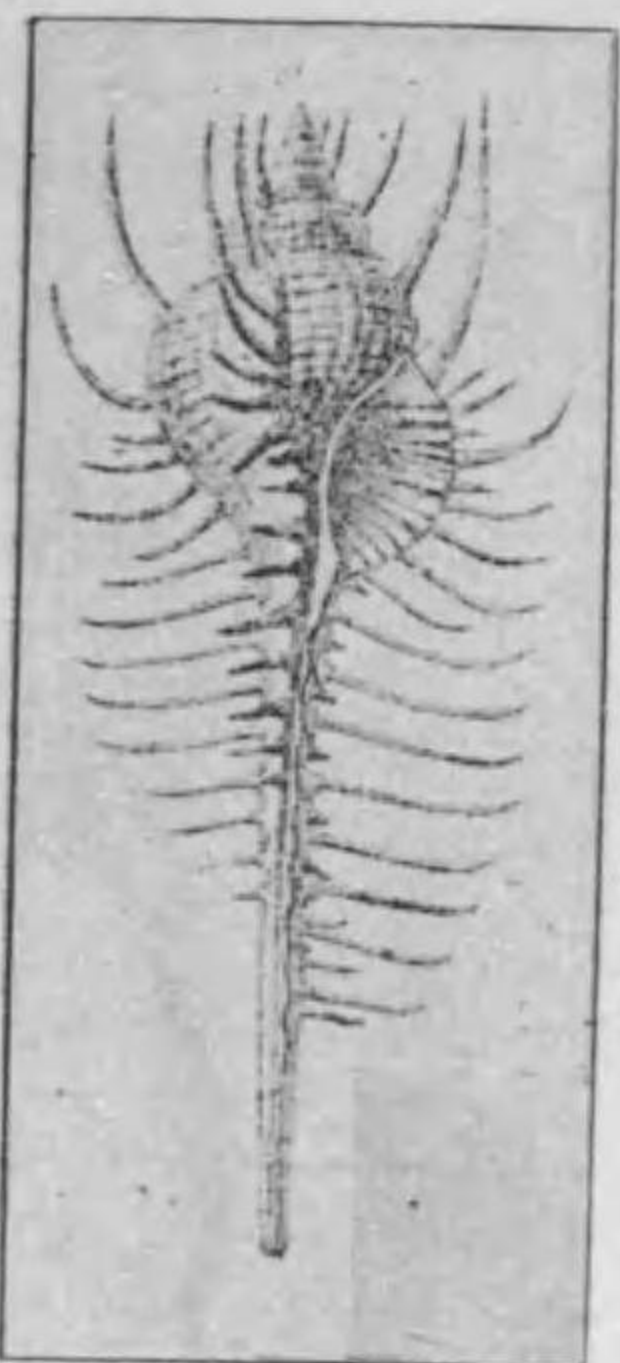
本属のものは、介殻は橢圓形若くは長橢圓形にして、殻頂は突起し、殻には棘状突起を有し、螺層は隆起し、三列以上の縦ての脈脈を有し、唇には同心状の渦線ありて、核は稍上方に位するのである。舌帯の齒は中央にあるものは一個にして、その先端は若干に裂け、側齒も亦一個にして鉤状に屈曲するのである。本属のものは、地球上に廣く分布し、殊に熱帶亞米利加の西海岸、支那海、亞弗利加の西海岸、西印度諸島に夥しく産する。而して淺き海底より二十五尋位の處に棲息し、稀に六十尋の處



圖三十六百三第
舌のヒガネホ
(After Woodward)

に棲むものがある。

ホネガヒの介殻は、その長さ五寸乃至六寸六分に達し、介殻面の刺は長く、且つ相互に平行しつゝ、彎曲して、これと交互に反曲せる小形の刺を以つて、殻の下部



圖四十六百三第
ホネガヒ
(after Woodward)
(産カッラマ)

と溝とを被ふて居る。

〔二〕 サツマツブリ *Murex hanstellum*, Linné.

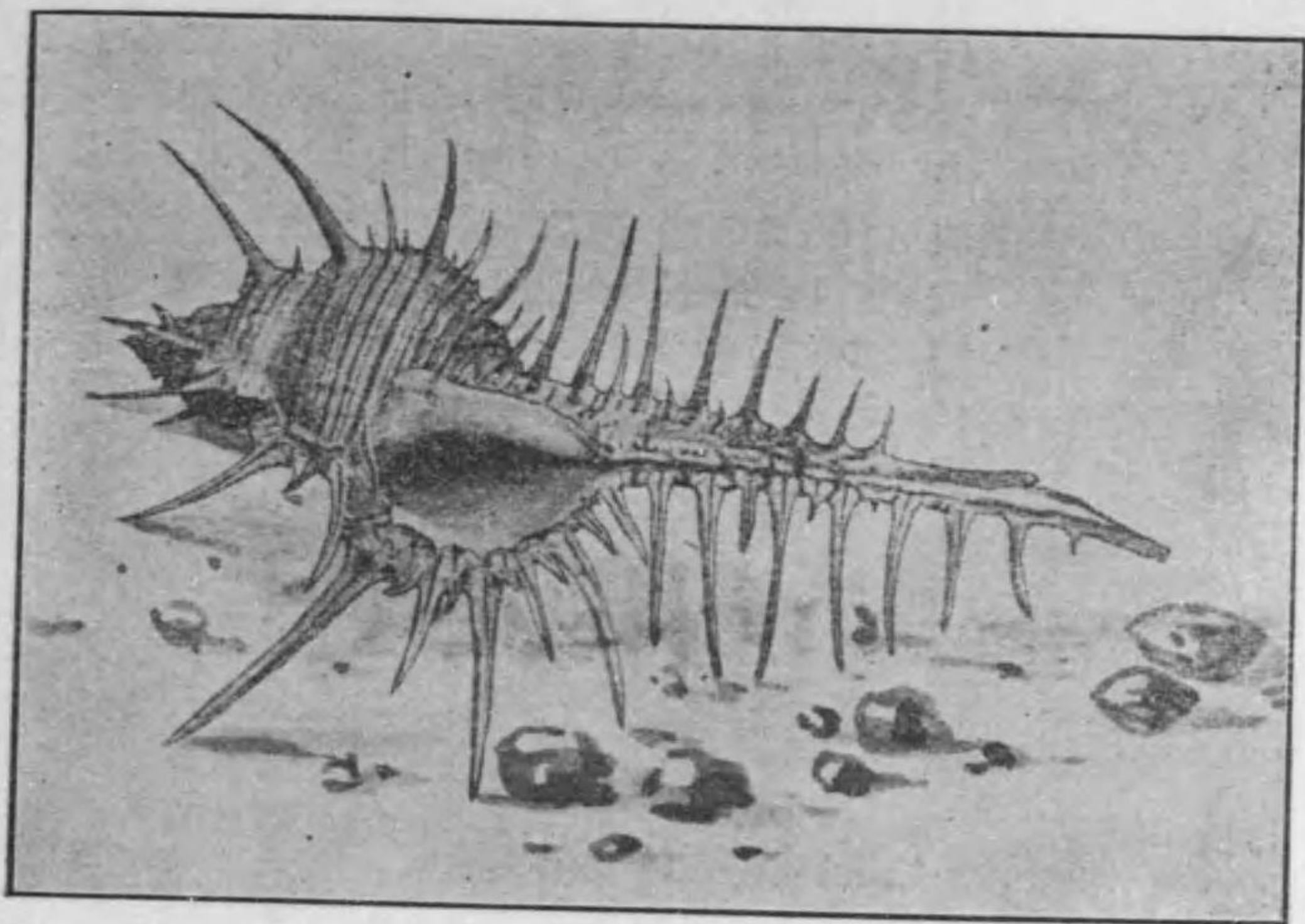
介殻は球状にして、且つ伸直し、水管溝は密閉し、且つ突出する。而してこの部には僅少の短き刺状突起を有するのである。三列の強き縦脈脈には、栗色の斑紋ありて、各層共に尖りたる疣を有し、且つ褐色の肋を密に旋らして居る。介殻の長さは一寸六分五厘乃至五寸位である。本種は薩摩及び宮古島に産するのである。

〔三〕 ガンゼキボラ *Murex adustus*, Lam.

介殻の長さは三寸位にして、殻は橢圓状をなし、黒色にして、縦の脈脈よりは、分岐せる葉状の突出せる刺を出すのである。水管溝は短く且つ幅廣くして彎曲し、殻口は殆んど閉ぢ、且つ石竹色を呈するが、時としては黄色を帯びて居る。本種は八丈島、土佐、日向、薩摩、琉球等に産するのである。

〔四〕 キエボラ *Murex brevifrons*, Lam.

介殻の長さは大概三寸三分位である。殻は帶黄色より暗褐色を帯び、殻口内は淡栗色であつて、水管溝は狭くして長いのである。本種は三崎、安房、紀州、土佐、臺灣等に産するのである。

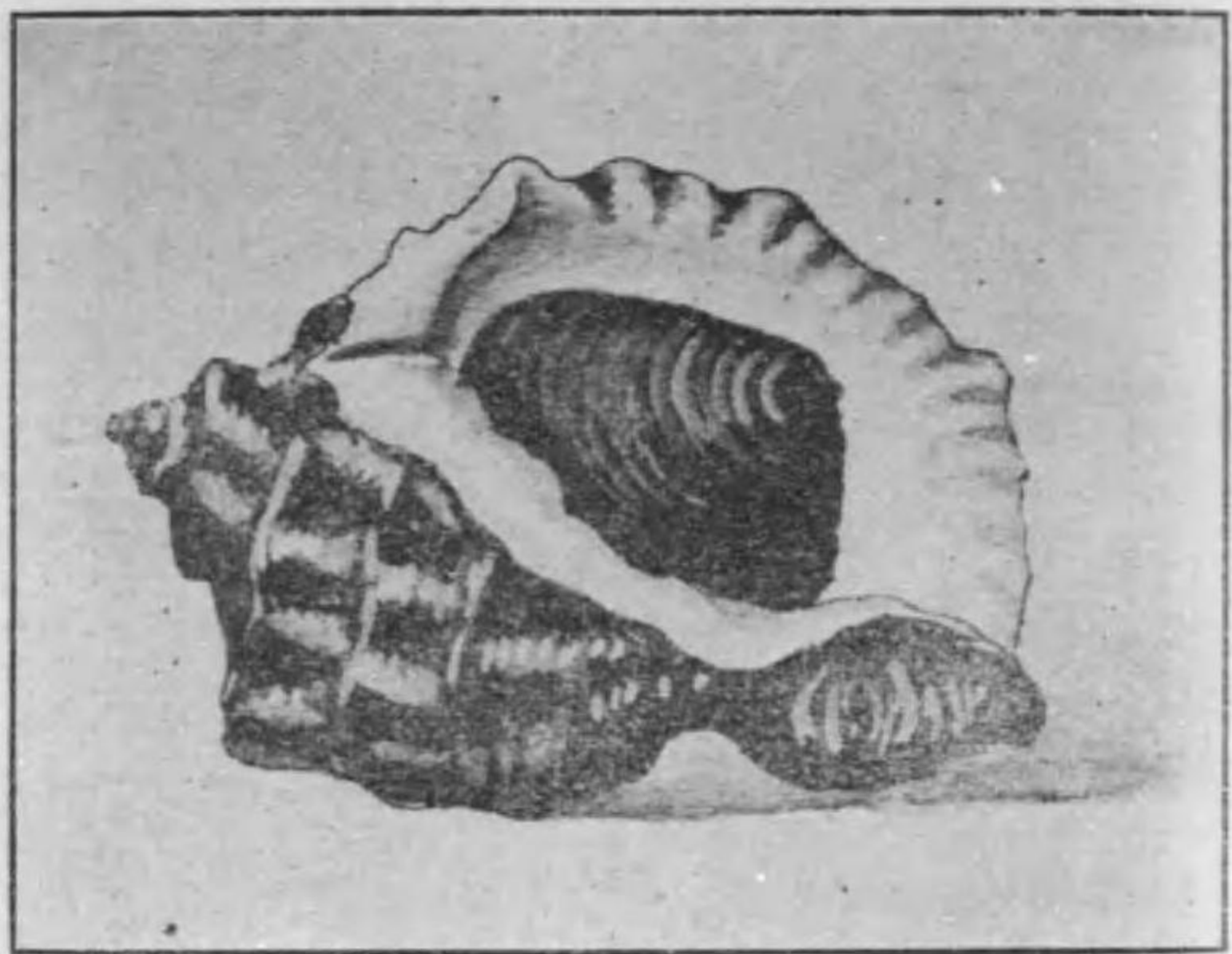


ヒガキリア 圖五十六百三第

ホネガヒによく似たれども、刺は太くして短く、且つ彎曲の度も甚しくはない。また回轉する肋は褐色を以つし彩つて居る。殻の長さは二寸五分乃至五寸である。本種は三崎、紀伊、土佐及び鹿兒島に産するのである。

〔六〕 ^{アカニシ}紅螺 *Rapana bezoar thomasia*-na, Crosse.

介殼は獨樂狀をなし、螺層は著しく脹出し、これには大なる瘤起を有し、殻口の内縁は外轉し、外縁は稍や開張して、殻口は大きく、臍は廣くして皺をば縁に有するのである。殻の長さは四寸三分乃至六寸六分もありて、殻の外縁は暗褐色にして、少しく紅色を帯び、殻口内



シニカア 圖六十六百三第

は紅色である。本種は函館、東京灣、阿波、肥後、薩摩等に産すれども、殊に東海地方に多い。常に淡水の混ぜざる淺海の底に棲息し、その性貪食にして、死魚、他の魚類及び貝殻を食ふのである。

アカニシの蛤を害する方法に就き、愛知縣人三善春雄氏が實驗に幾分の推測を加へたる報告が動物學雜誌(百五十)に掲載されて居る。

〔蛤は満潮の際、食物を得んが爲め砂中より出で、砂の上層に來るを以て、アカニシは、其時に之を捕へ、先づ其の體內にある一種の毒液(黄色にして辛味を帯び、之を舌上に上す時は嫩衝を起し、又手に附くれば紫色を呈す)を水管より注入し、貝の疲勞して口を開くに至れば、口吻を介殼間に挿入して食するが如し。之は或時アカニシの蛤を捕食しつゝ、あ

りの吻を挟み居りしを以て、前述の如くして肉を食するものならんを推考仕候云々。アカニシの卵囊を長刀酸漿といふ。上總國大堀にては海中に竹簀にて正方形の鳥籠狀のものを造り、四方を天井を圍ひ、その中に八十八夜前後にアカニシの親貝を

六七〇
入れて産卵せしめ、新月満月の高潮毎に、長刀酸漿を採集するのである。而して此處にては八月上旬を採卵の終期となすといふ。

〔七〕 チリメンボラ *Rapana bezoar*, Linné.

介殻の長さは二寸一二分乃至三寸三分にして、殻面は粗雑なる鱗状をなし、肩は突起するのである。各層の肩なる肋には、葉状刺を突出し、體螺層の下部にも、尙二三列を廻らし、螺層は壓搾されて居る。殻の外表面は帶黄褐色の彩色ありて、殻口は紅色である。

岩辛螺 又 荔枝貝 屬 *Purpura*

本屬のもの、介殻は延長したる卵形にして、螺層は一般に短く、介殻は概ね厚く堅牢にして、その外面には瘤状突起を有するものと、條線を有するものがある。殻口は大きく、前方に於て甚だ短き斜めなる水管溝を有し、上唇は非常に磨滅し、且つ扁平である。唇は螺層を有し、その中心は縁邊に位するのである。舌帯はホネガヒ屬と同一にして、齒は横に亘り、各齒は峰状に峭立し、側齒は小さく、單一である。この屬のものは、本邦各地に産し、波濤に洗はるゝ岩角等



圖七十六百三第
種一屬シニハイ
(*Purpura lapillus* L.)
に狀板薄(大倍三)解の
りあに方外は心てし
(After Woodward)

に群居するのである。

〔八〕 ホソスゲテツボラ *Purpura persica*, Linné.

木種は釧路、小笠原島、薩摩に産し、介殻の長さは二寸五分乃至三寸三分である。褐色にして白色の狭き廻轉帶を有し、暗栗色の部分にて遮ぎられて居る。殻口は赭褐色或は紅色を帯び、外唇の内方には、狭き褐色線がある。

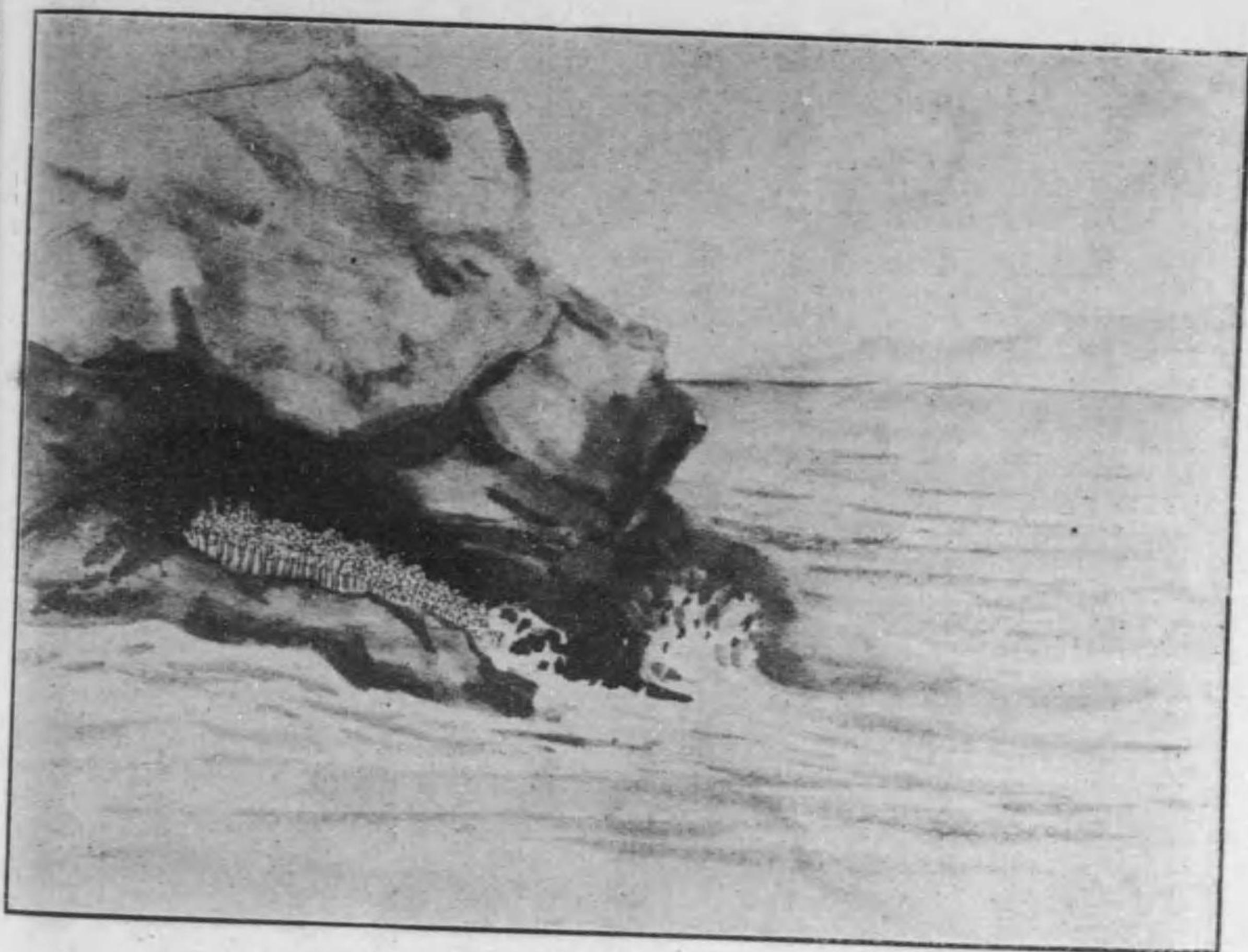
〔九〕 テツボラ *Purpura rudolphi*, Lam.

本種は北海道、八丈島、薩摩、沖繩に産し、殻長は一寸六七分乃至二寸五分である。殻は前種よりも重くして、螺層は高く、廻轉帶の二三には結節があつて、外唇は前種よりも僅かに脹れ且つ厚いのである。

〔一〇〕 テツレイシ *Purpura hippocastaneus*, Lam.

本種は小笠原島、薩摩、沖繩、八重山に産し、介殻の長さは一寸三分乃至二寸五分である。色は帶黄色或は帶白色にして、暗栗色を帯び、或は斑點をなして居る。殻口は帶白色にして暗色の横行せる帯を有するのである。

〔一一〕 レイシガヒ *Purpura tumulosi*, Reeve.



第三百六十九圖
イシガキの卵塊
(岩礁の大さに比して卵塊を非常に大にして描きたる)

本種は北は青森より南は九州に到るまで普く各地の沿岸に産し、介殻の長さは八分三厘乃至一寸六七分である。殻色は甚だ淡き褐色なるあり、或は暗栗色にして多少白色を以て彩らるものがある。殻面には球状の瘤状突起を有するのである。

この種の卵塊は、その群居せる下に於て、非常に多數相集りて岩上に附着する。嘗て編者が某年八月中旬、志摩鳥羽灣にて見たる所の一例を云へば、産卵の場所は海岸

絶壁の深く水蝕されたる處にして、干潮の際、水面より稍少し高き處にあれば、満潮の時は無論海水の浸す所となる處である。個々の卵は圓筒状をなし、長さ一分五厘乃至二分五厘で、幅の大なる處は、直径五厘、一塊の卵塊中には、概ね三百の卵囊を算したり。卵囊中には黄色の顆粒を呈するものと、淡紫色を呈するものとあつて、全體は實に美觀である。

〔一一一〕 ツノレイシ *Purpura pica*, Blainv.

本種は伊豆、薩摩、沖縄、大隅等に産し、介殻の長さは一寸乃至二寸二分である。殻は重々しく厚く、帯白色にして暗栗色の帯を有し、外唇の内方には、密に狭き褐色線を廻らして居る。

〔一一三〕 ナガチ、ミボラ *Purpura freycinetii* alabaster, Pils.

本種は函館、千島等に産し、介殻の長さは八分三厘乃至二寸二分に達し、介殻は厚く尖りたる卵形をなし、帯白色或は橙黄褐色、或は栗色にして、ある時は白色の帯數列を有るものがある。

以上の外、本邦産の骨貝科のものには、左の如き種類がある。

コガンゼキ
 テングガヒ
 ヒメホネガヒ
 シラクモガヒ
 エヅチバミボラ
 コイボテツレイシ
 クリフレイシ
 キナレイシ
 チバミボラ
 イボニシ

Murex penchinati, Crosse.
 M. ramosus, Linn.
 M. sobrinus, A. Ad.
 Purpura armigera, Chem.
 P. freycineti, Desh.
 P. hippocastaneum intermedia, Kiener.
 P. luteostoma, Chem.
 P. mancinella, Linn.
 P. saxicola, Val.
 P. tumulosa problematica, Baker.

(二六) 衣貝科 (Cancellaridae)

(一) 衣貝屬 Cancellaria

屬名カンセラリア (Cancellaria) はカンセラタス (Cancellatus) より出で「横木状をなす」の義である。介殻は方眼格子状をなし、殻口は其前面に溝を有し、殻軸には數個の強き斜めの皺襞ありて、唇はない。この動物は植物質を食ふといふことである。



圖十七百三第
 種一屬貝衣
 (Cancellaria reticulata D.lliw)
 (After Woodward)

本屬のものには七十餘種を含み、西印度諸島、地中海、西部亞弗利加、印度、支那、カリフォルニア等に産し、本邦には左の如き種類がある。

リンゴウボラ
 モ、エボラ
 コロモガヒ

オリイレボラ Cancellaria bocagearni, Crosse & Debeaux.

Cancellaria laticosta, Kistker.
 C. melanosoma, Sowb.
 C. spengleriana, Desh. (本種の卵囊を南京酸漿といふ。

(二七) 常陸帶科 (Volutidae)

(一) 常陸帶屬 Voluta



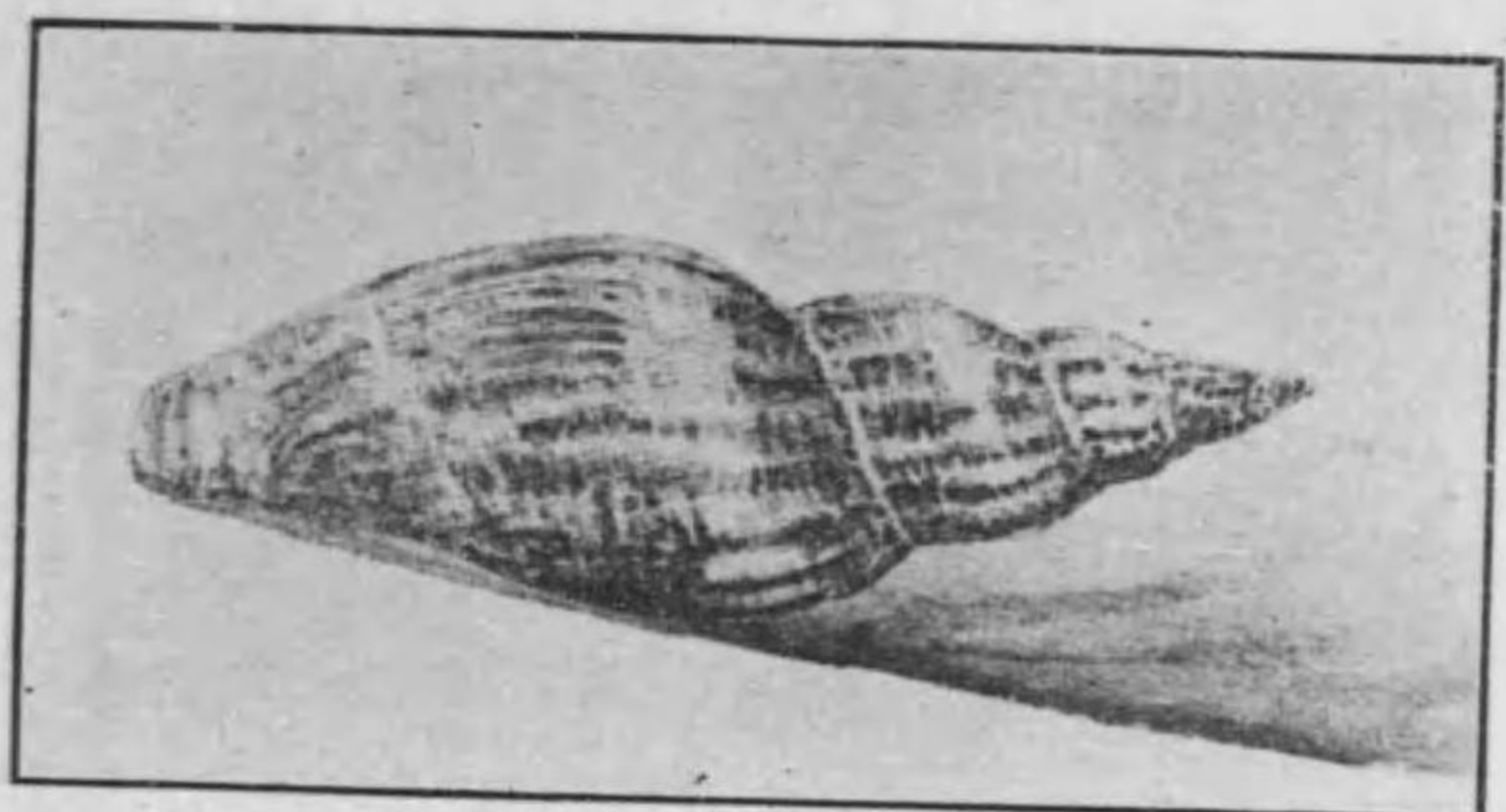
圖一十七百三第
 式齒屬帶陸常
 (After Wilton)

英名をヴォルト (Volute) といふ。介殻は厚く一方に膨脹し、稍紡錘状をなすのである。螺層は短く、殻頂は乳頭状をなし、殻口は大きく、前面には深き溝がある。また殻軸には數個の皺襞を有する。多くは唇を有せざれども、時には



圖二十七百三第
種一屬帶陸常
(*Voluta musica*, L.)
(After Woodward)
(大一分二)

小形の層を有するものがある。
眼は觸角の基部にある裂片上に位し、水管はその基部に於て、各側に一裂片を有するのである。外套膜は介殼上に反曲する。舌帯は細長にして、中央齒は三



圖四十七百三第
ピオチタヒホホ



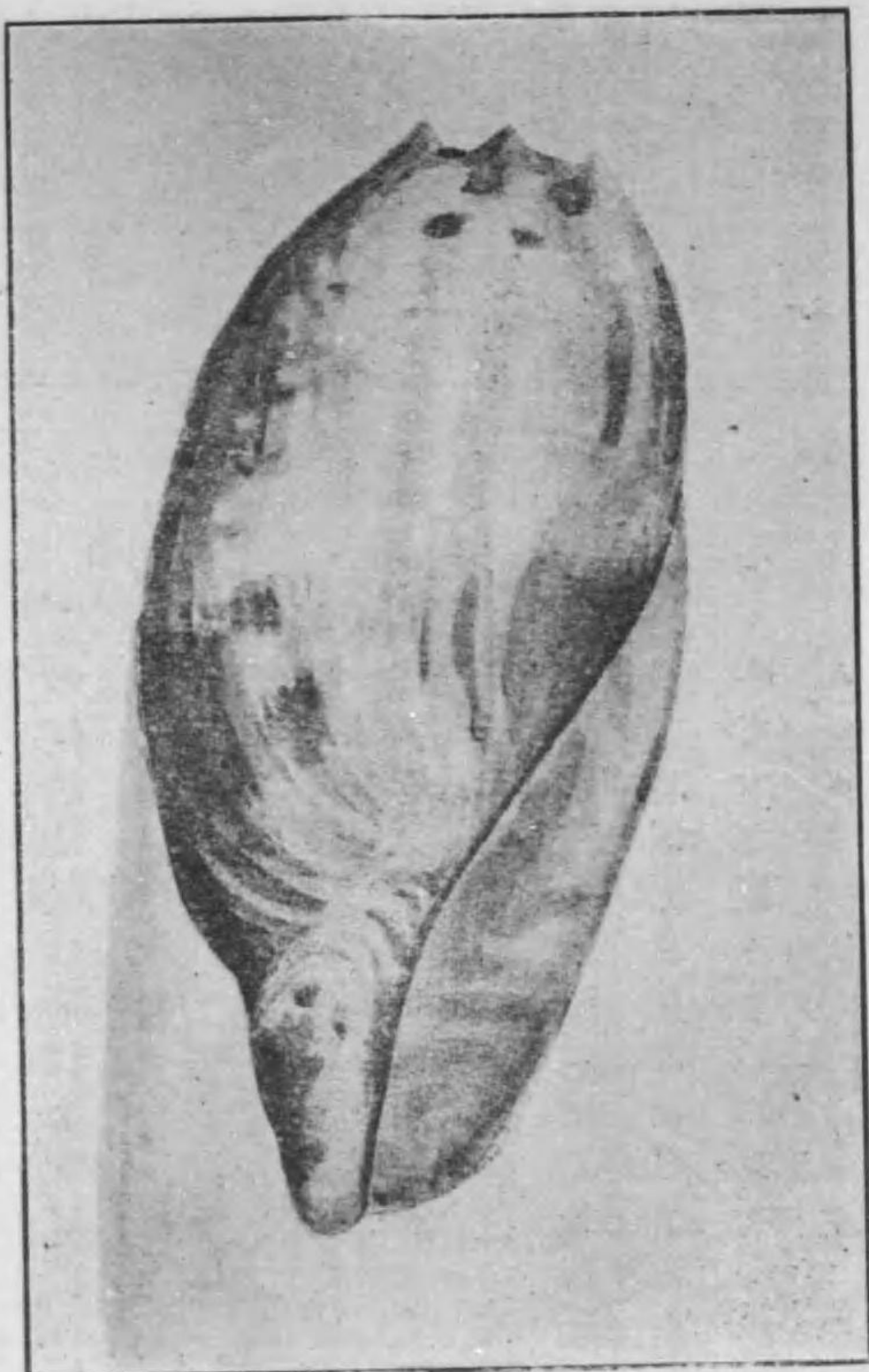
圖三十七百三第
種一屬帶陸常
(*Voluta undulata*, Lam)
(Quoy & Gaimard)

尖頭を有する。本属のものは、七十種を有し、西印度諸島、西部亞弗利加、濠太利亞、ジャ

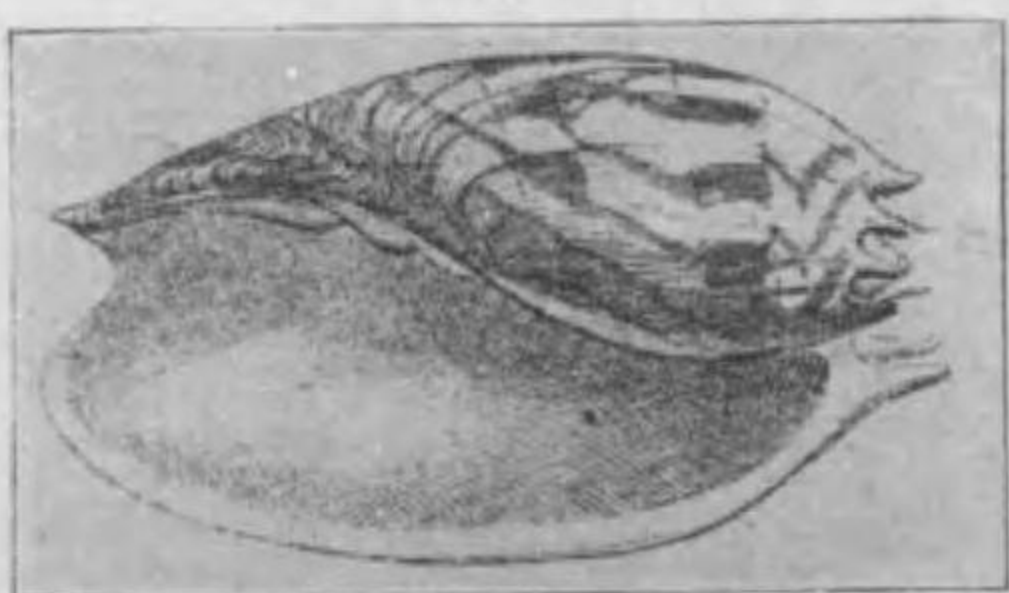
バ、チレ等に産する。而して本邦にはオホヒタチオビ (*Voluta neophaedusa*, Grosse) を産する。本種の殼は長さ三寸許で、赤肉色にして、縦に栗色の折線を彩り、殼口には層を缺いて居る。本種は陸前、函館、三崎、紀伊、九州等に産するのである。

〔二〕 ツノヤシホ属 *Melo*

本属のものは、介殼は大きく卵圓形をなし、螺層は短いので



圖五十七百三第
ホシヤノツ



圖六十七百三第
(大一分三) 種一屬ホシヤノツ
(*Melo diadema* Lam) (after Woodward)

ある。本属には八種を含み、ニューギニア等に産する。而して本邦にはツノヤシホ (*Melo aethiopicum*, Linne) を産するのである。

〔二八〕 枕貝科 (*Olividae*)

介殼は圓筒状をなし、陶器質にして光澤を有する。螺層は甚だ短く、縫合線は溝をな

し、殻口は狭長にして、その前面には刻目を有するのである。而して殻軸には多少滑層の堆積がある。體螺層は基部に近き處に溝を有するのである。ホタルガヒ屬 (*Olivella*) にありては、厝を有すれども、マクラガヒ屬 (*Oliva*) 及び蜀江螺屬 (*Harpa*) にありては、之を有することはない。

本科の動物の水管は彎曲することを得べく、足は甚だ大きく、その側邊は殻の兩側より反曲して、殻を被ふことが出来るのである。

〔一〕 ホタルガヒ *Olivella fortunei*, Ads. & Rve.

本屬のものは、殻は卵形にして狭く尖り、螺層は突出し、觸角眼、兩者共に之を缺いて居る。厝は角質にして薄く、且つ大きく、半橢圓形にして、心は上方に位するのである。倍ホタルガヒの介殼は、長さ三分乃至六分である。殻面には栗色をなせる縦の曲線狀の斑紋を有するのである。而して本種の外に、本屬のもの、中で本邦産のものには、次の如き種類がある。

ムシホタル *Olivella fabula*, Marrat.



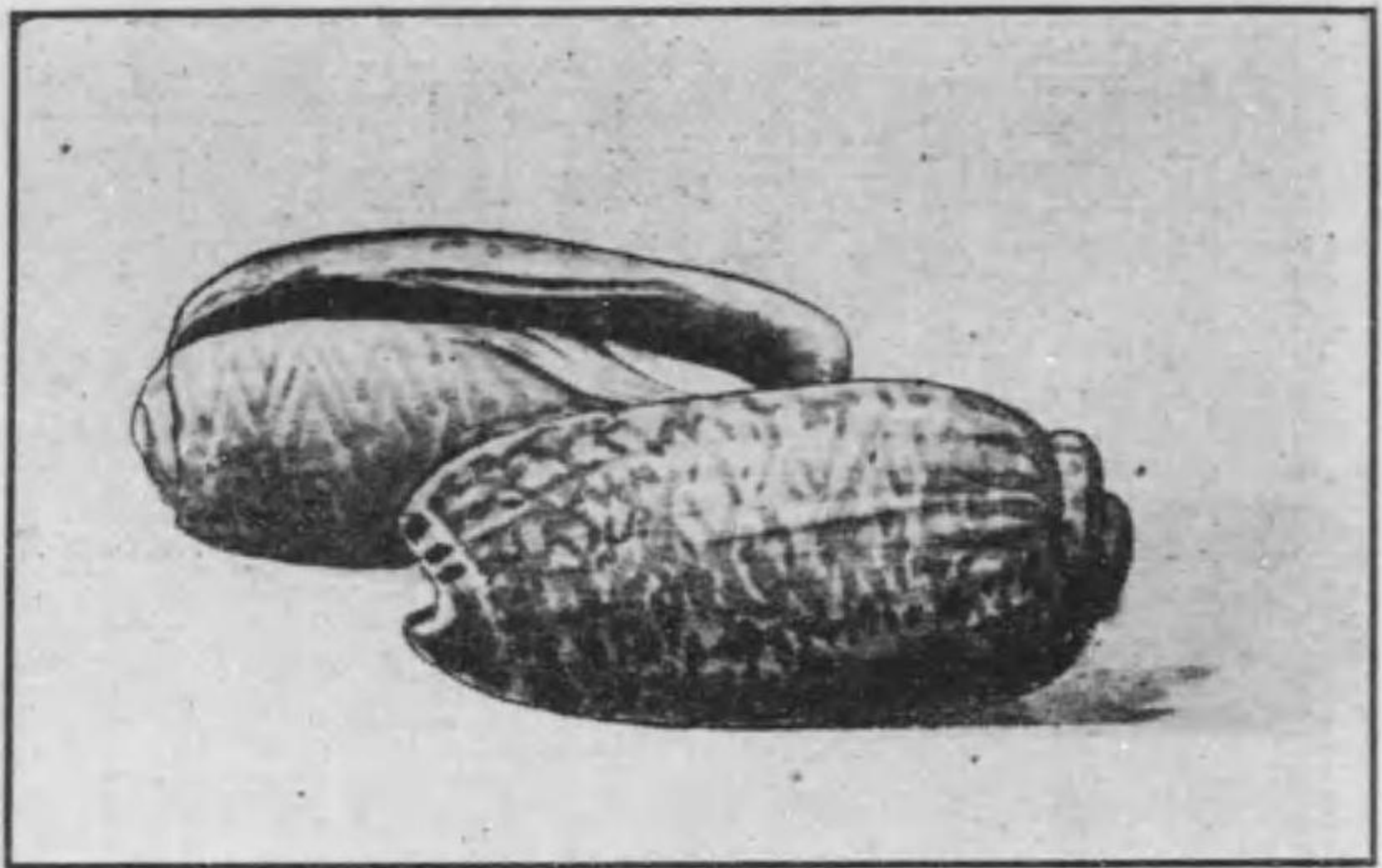
ヒガルトホ 圖七十七百三第

オホムシボタル *O. fulgurata*, Ads. & Rve.

〔二〕 枕貝 *Oliva mustellina*, Lam.

本屬のものは、英名をオリバ (*Oliva*) 又ライス、シエル (*Rice-shell*) (の義) といふ。殻は伸長して、殆んど圓錐狀をなし、美しき光澤がある。螺層は甚だ短く、圓錐狀をなし、縫合線には溝を有する。殻口は狭長にして、その前方には、廣き凹所を有し、殻軸には斜に條線を有し、體螺層は、その基底に近く溝を有する。頭には觸角を有し、外套膜は大きくして、介殼の背上を被ひ、膜の後方には纖維物を有し、これは縫合線の溝に存在するのである。眼は觸角の先端に近く存するのである。足は甚だ大きく、その中に半ば介殼を埋没するのである。性質甚だ活潑なる動物にして、背面にて横はるごきに、寝返る事が出来る。本屬のものは、熱帯地方に多く産し、干満兩潮線間の砂上に住み、退潮のときは、砂

ヒガラクマ 圖八十七百三第

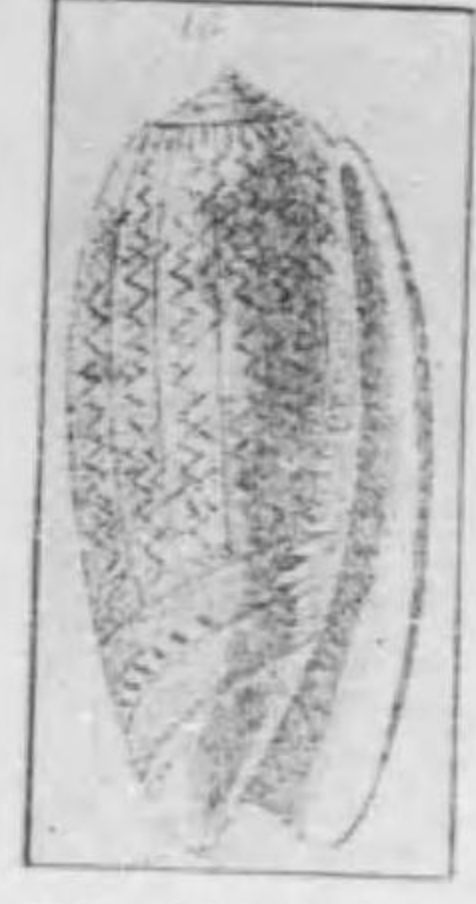


圖九十七百三第
族一屬ヒガラクマ
(*Oliva hiatula*
Gm)
(大二分三)
(Wood ward)



圖十八百三第
種一屬ヒガラクマ
(*Oliva jaspidea* Gm)
(大倍二)

中に埋没する。時には二十五尋の處に棲むものがある。倍枕貝は、その殻面灰黄色にして、鮮かなる栗色の條線を有し、殻口の内方は濃黄色である。介殼の長さは七分乃至一寸許に達し、東海、四國、九州、沖繩等に産するのである。



圖一十八百三第
種一屬ヒガラクマ
(*Oliva porphyria* L)
(大一分二)

本屬のものにて、本邦に産するものには、次の如き種類がある。

- サツマビナ
- ジユドウマクラ
- サラサマクラ
- O. guttata*, Lam.
- O. irisaus*, Lam.
- Oliva duclouxi*, Rve.

(III) 蜀江螺 *Harpa conoidalis*, Lam.

本屬のものは英に「ハーブ、シェル」(*Harp-Shell*) といふ「堅琴貝」の義である。殻は卵形にして兩端に於て尖り、一方に膨脹し、螺層は小さく、各層共に規則正しき間隔に於て、縦に無數の肋狀隆起を並列し、肩に於て鋭つて居る。殻口は長く且つ大きく、下方に刻目を有し、唇を有することはない。



圖二十八百三第
種一屬螺江蜀
(*Harpa ventricora* Lam)
(After Woodward)
(大一分二)

本屬のものは、甚だ大なる足を有し、その前方は三日月状をなし、後方より側方に亘れる深き裂罅によりて分たれる。これは貝が妨害を受くるときは、自由に離開するを得るといふ。主に熱帯に産し、セイロン島、印度洋、フィリッピン諸島及び太平洋に産し、深き海の柔軟な

る海底より採集せられて居る。

本邦にては八重山群島、臺灣に産し、殻長は二寸乃至三寸許に達し、卵形にして兩端尖り、螺層は短小で體螺層は長大である。螺層毎に縦に廣き扁平なる隆起帯を有し、各肩部に於て鋭くなつて居る。その間隙は栗色と白色とによりて彩ざられ、縦肋上の帯には褐色若くは黒栗色なる横線の線を有し、殻軸は栗色を以つて彩り、その中央は不分明になつて居る。殻口は長く且つ大きく、下方は少しく凹んで居つて、唇を有することはない。足は甚だ大きく、前方は新月形をなし、體全體をば殻内に收むることが出来ない。そこで妨害を受くるときは、足の一部をば自ら切りて逃るといふことである。

(二九) クダマキガヒ科 (*Pleurotomidae*)



圖三十八百三第
屬ヒガキマダク種一
(Pleurotoma
Babylonica L)
(After Wood-
ward)
(大二分三)

〔一〕クダマキガヒ屬
Pleurotoma

屬名プレウロトマ (Pleurotoma) はプレウ

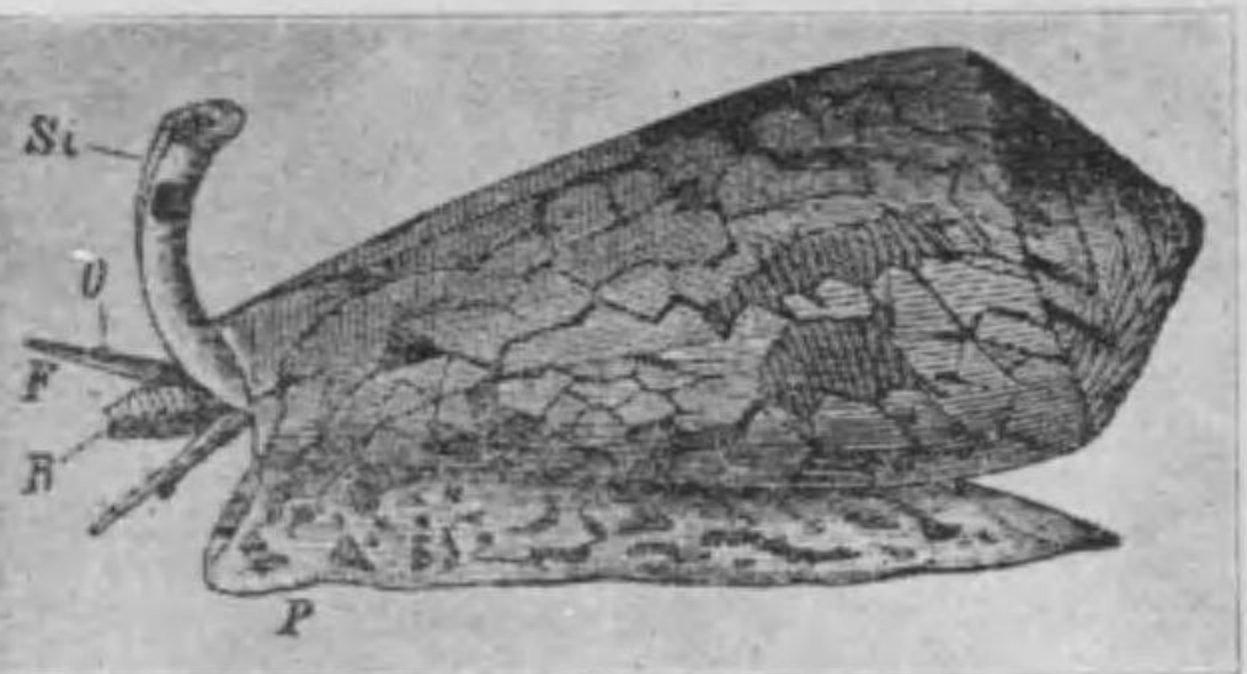
ラ (Pleura) (の側方) 及びトマ (Toma) (の刻目) の二語より成る。介殻は紡錘状をなし、螺層は高まる。溝は長く伸直にして、外唇には縫合線に近く一個の深き裂目がある。唇は尖りその中心は頂端に位するのである。本属のものは種類頗る多くして地球上に広く分布し、グリーンランド、英國、地中海、亞弗利加、紅海、印度、濠太利亞、西部亞米利加、西印度諸島、ブラジル等に産し、干満兩潮線間より百尋迄の間に棲んで居る。本邦には次の如き種類がある。

- カリガネ Pleurotoma deshayesii, Donnet.
- クダマキガヒ P. leucotropis, Ads. & Reeve.
- トラフクダマキ P. tigrina, Lam.
- オハグロシヤヂク Drillia japonica, Lischk.
- モミヂボラ D. jeffreysi, Smith.
- ウチクダマキ D. varicosa, Reeve.

〔三〇〕芋貝科又ミナシガヒ科 (Conidae)

〔一〕芋貝屬又ミナシガヒ屬 (Conus)

英名をコーン、シェル (Cone-Shell) といふ圓錐形の貝殻の義である。介殻は厚く圓錐形をなし、規則正しく尖る。螺層は短けれども、その數は多い。殼軸は平滑にして前方に於て截斷せられて居る。外唇は縫合線に於て刻目を有し、唇は尖り、その中心は頂端に位するのである。



圖四十八百三第
シナミンサヤガタ
(Conus textile) (Règne animal)
眼o. 角觸 f. 管水 Si. 吻 R.

本属のものは、北は地中海より、南は亞弗利加の南端に至るまで、廣く分布すれども、殊に熱帯の海に夥しく産し、且つ種類に富んで居る。常に岩礁間の裂罅、珊瑚礁の内側にある浅水等に棲み、干満兩潮線間より、三十乃至四十尋の處に棲む。足は細長にして、前方は切斷せられたるが如くなり、これにて緩く匍匐する。總べて食肉性であつて、水管は長く、その歩くときは、之れを頭上に突出するのである。

本属のものにして、本邦に産するものには、次の如き種

類がある。

- コモンイモ
- サラサミナシ
- アラレイモ
- クロザメモドキ
- キヌカツギ
- アンポイナ
- マダライモ
- アンボンクロザメ
- クロフモドキ
- イボシマイモ



圖五十八百三第
シナミロク
(After Woodward)
(大二分三)

- Conus arenatus, Hwass.
- C. capitanus, Linn.
- C. catus, Hwass.
- C. eburneus, Hwass.
- C. flavus, Lam.
- C. geographus, Linn.
- C. hebraeus, Linn.
- C. iteratus, Linn.
- C. iteratus millepunctus, Lam.
- C. lividus, Hwass.
- クロミナシ
- クロナミナシ
- ヤナギシボリイモ
- サヤガタイモ
- アジロイモ
- C. marmoratus, Linn.
- C. miles, Linn.
- C. miliaris, Hwass.
- C. onnaria, Hwass.
- C. pulicarius, Hwass.
- C. reifer, Menke.
- C. striatus, Linn.
- C. textile, Linné.



圖六十八百三第
種一屬ヒガモイ
(Conus dormitor
Solander)
(After Woodward)
(大一分二)

(三二) 筭貝科 (Terebridae)

(一) 筭貝屬 Terebra

英名をオウガー、シエル (Auger-Shell) といふ。螺鑽貝ネシキリといふ義である。介殻は長く尖り多くの螺層があつて、表面には横條を有するを常とする。殻口は小さく且つ溝は短い。唇は尖り、その中心は頂上に位する。動物は盲目なれども、また微小なる觸角の頂上に眼を有するものがある。

本屬は、百有餘種を含有し、熱帶地方に多く産する。而して本邦には、次の如き種類がある。

- ムシロタケ
- アハヂタケ
- ミガキタケ
- Terebra affinis, Gray.
- T. awjensis, Pils.
- T. casta, Hinds.



第三百八十七圖
種一屬ヒガコノケタ
(*Terebra maculata*
L.) (大一分二)
(After Woodward)

クチビロタケ
キバタケ
ベニタケ
トクサガヒ

T. confusa, Smith.
T. crenulata, Linn.
T. dimidiata, Linn.
T. dussumieri, Kiener.

オホリウキウタケ
フシマダラタケ
イボヒメトクサ
ヒメキリガヒ
リウキウタケ又タケノコガヒ
T. subulata, Lam.

T. maculata, Linn.
T. melanacme, Smith.
T. polygyrata, Desh.
T. serotina, Ads & Reeve.

第二亞目 雙心耳類 *Difocardia*

本亞目に屬する動物は、三群に區別することが出来る(第一)は二個の鰓を有し、二心耳はよく發達し、且つ心臟は直腸に因て横斷せらるゝものである。介殼はその縁邊に裂罅を有するか、又は頂上に孔を有するか、又は殻面に孔の一行を有する。而して概して唇を缺いて居る。皆海産である。これに屬するものには石決明科、アイスレラ科、翁戎科がある。(第二)は前類の左鰓に相當する一鰓のみを有し、心臟は直腸によりて貫かれ

て居る。この類に屬するものには拳螺科、馬蹄螺科、アマガヒ科、ヤマキサゴ科がある。(第三)は心臟は一心耳を有し、直腸に因りて貫かるゝことはない。而して左腎は心囊の右側に垂下する。介殼は常に杯狀をなし、唇を缺く。皆海産である。これに屬するものには、ウノアシ科及びヨメガカサ科がある。

(一) 石決明科 (*Haliotidae*)

介殼は扁平にして、螺旋狀に巻き、耳狀なるか、又はサラサバタイ屬 (*Trochus*) に似たる形狀をなすのである。殻口は淵大にして、眞珠質である。外唇は穴を有し、唇を有することはない。吻は短く、觸角は長くして突錐狀をなし、その外方の基部に於て、短柄ある眼を有する。外套腔は左側にありて二個の鰓を有し、鰓の右方のものは小形である。舌帯の齒式は、中央齒は一個で、側齒は五個であるが、縁齒は一定せずして、無數に有するものもある。

(二) 石決明又鮑又アマガヒ (の畿内邊の俗稱) *Haliotis gigantea*, Chem.

英名をイーア、シエル (*Ear-shell*) といふ(耳貝の義である。蓋し屬名ハリヲチス (*Haliotis*) はハリヲス (*Halius*) (海の義及びオトス (*Otos*) (耳の義) の結合せるものにして、海の耳の義である。即ち介殼が耳狀をなせるより、斯く名づけられたものである。介殼は扁平なる

耳形で、螺層は小さく、最末の螺層は、遂に扁大せる爲めに、普通の螺類とは、大に變りたる觀を呈すれども、幼時の介殼はホラガヒと同様であつて、成長するに従ひ、獨り最末の螺層のみが、急に發達せる爲めに、斯かる異形を呈するのである。殼の外面に、殼頂より外層に向つて、放射狀に走れる皺と、螺旋狀に走れる皺とを有するが、この皺は或は太く、或は細くなつて居る。また殼頂より口縁の外角即ち殼の左方に向つて、斜に走れる一條の隆起があつて、その上に十乃至二十個の管狀突起がある。故に本種をマダカともいふ。是等の突起の中で、口縁に接せる四五個は、貫通せる穴を有する。これは呼吸孔にして、呼吸の爲めに使用した水を、體外へ排出する作用がある。介殼の表面は、粗糙にして、褐色或は綠色、或は兩色の交互に帶狀をなすことがある。老成するに従ひ、その表面に、紅色藻類、珊瑚類、フデツボ類、イソギンチャク、苔蟲類などが群生して、生活せる有様は、恰も岩石面に地衣植物が着生したやうである。殼の内面は眞珠質にして、燦然たる光澤を有し、青綠、赤紫色等を交へて、頗る美麗である。介殼の大なるものは、長さ七八寸に達する。足は甚だ大きく扁平にして圓るく、蹠面は淡褐色或は灰褐色にして、脚中の筋肉は、中央に集りて圓柱に隆起し、以つて殼に附着する用をなすのである。體肉は柔軟なるを以つて、明鮑を製するに適するのである。

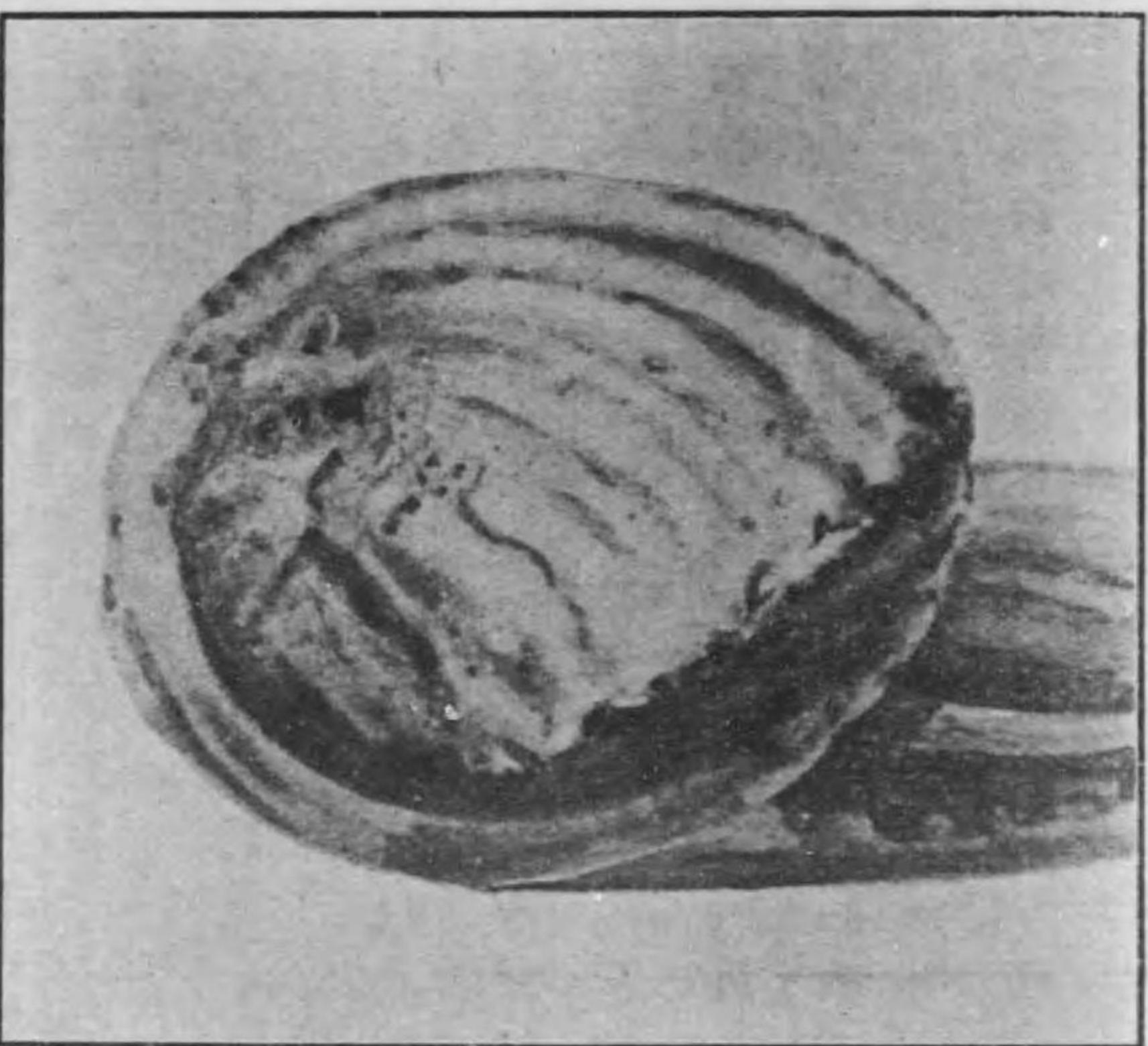
頭部には嘴、二本の觸角と、眼柄とを有する。口は嘴の下に開き、前後に長き裂孔にして、厚き唇を以つて圍まれ、咽頭の前面には角質の顎あり。その後方には舌帶があり。舌帶の下には、舌軟骨が二つありて、之に附着せる筋肉の作用に因りて、舌軟骨は前後左右に動き、以つて其上にある舌帶を動かして、藻類を食ふのである。頭部より左後方に當りて、薄皮にて蔽はれたる腔處は呼吸腔にして、この内に二枚の羽狀の鰓があり。又肛門が開いて居る。呼吸腔の天井に當れる膜は、前方にて切れ込んで居るが、これは介殼左側にある呼吸孔の下に當つて居る。左右の鰓の末端下部に當りて、少しく褐色を帶ぶる所は、鰓器なりといふ。石決明は常に植物を食するを以つて、消化器は長くして、體の長軸の長さの三倍餘ありといふ。(水産調査報告第三卷理學博士岸上謙吉氏著アリビ研究第一報に據る)

岸上博士に據れば、石決明の殼を侵蝕して之を破壊するものには、スバメガヒ、イシワリ (Lithophagus) ヒバリガヒ屬 (Modiola) 及び一種の海綿 (Vicia sp.) がある。

メガヒヌメンガヒ (*Haliois gigantea*, var. *mekai* Kishinouye) と稱する變種は、介殼は卵圓形をなして低く、且つ殼面隆起は少なく、また螺旋條は細く、殆んど一樣であつて、殼頂は稍短く、呼吸孔はマダカのものに比すれば小さく、且つ其の壁は低い。而して蹠面は淡褐色を帯びて居る。

クロナガビ又ランガヒ (*Halotis gigantea var-discus* Reeve.) と稱する變種にありては、介殻は長橢圓形にして深く、左方の縁邊は右方のものよりも長く、殻頂は殻の縁邊にありて隆起する。また殻面の條線は不同不定にして、多くは著明でない。又殻面には凸凹がない。呼水壁はマダカのものに比すれば低くして小形である。臙面は蒼黒色にして、肉は硬いから生食するにはよく、また灰鮑を造るに適すといふのである。

石決明は千島、沖繩、大阪、香川、岡山、廣島の諸府縣には産せざれども本邦の沿岸には多く産し、殊に東海及南海に多く産し、海底の深さ十尋乃至十五六尋の深さで、潮流のよく流通し、カヂメ、アラメ、ワカメ等の如き海藻の繁茂せる岩礁間に棲息する。殊に外洋若くは外洋に面したる所に多い。然して泥砂質の海底、及海藻の生せざる處には産することはない。晝間は岩礁に固着し居れども、夜間よく移動し海藻を食するのである。岸上博士の調査に據れば(水産調査報告第四卷ア)「豆州房州邊のもの、産卵の盛期は、十一月中旬より十二月初旬まで」と知らる。石決明の好食餌はカジメ、ホンダハラの如き厚くして柔皮の如き褐藻類である。カジメは石決明の好食料なりとは各地に於て唱ふる所である。石決明は緑藻類を食せない云々。舌帶の齒は中央にあるものは小さく側方にあるものは單列にして梁狀をなし、これに生ずる齒はその數約七十に達



第三百八十八圖 石決明

し、皆齒牙狀をなして鈎曲し、その中最初の十四個は甚だ大形である。

石決明は本邦及び支那にては、食用として之を珍重するのである。肉は水貝、酢貝、甘煮等として鮮食せらる。その生鮮なるものは、思ひの外柔軟にして、口に入れば、直ちに溶けるが如く感ずるのである。その本邦産のもの、成分は、水分百分中七三、蛋白質二四・五、六脂肪〇・四、四灰分一・九八を含有する。腸は之を鹽に漬けて鹽辛となし酒の肴として賞味せらる。肉の乾したるものは乾鮑として、年々支那に輸出する量多いのである。乾鮑は支那人は之を乾鮑と呼び、二種に分けて居る。その半透明にして淡黄色を呈し、稍鼈甲に似たるものを、明鮑といひ、不透明にして灰色を呈し、白粉を帯べるものは、灰鮑と名づけて居る。また古は石決明の肉を打ち延ばし、乾

かして鬘斗を製し、之を祝事の贈物に添へたものであり、また神前に備へて御饌としたものである。介殻は青貝、細工具、貝卸の製造等に供して、用途極めて廣いのである。

「アッピ」古昔より賞美す。故に延喜内膳式に志摩の御厨の鮮鮓、味漬、腸漬、甘腐鮓、蒸鮓、王貫御取、夏鮓、大膳式に鳥鮓、繩貫鮓、佐渡鮓、阿波串貫、羽割鮓、筑紫鮓、醬鮓、神祇式に東鮓、薄鮓、鱒鮓、主計式に短鮓、鳥子鮓、横串鮓、甘醋鮓、都々伎鮓、放耳鮓、著耳鮓、長饅、丸饅、葛貫鮓、藤鮓、糠鮓、腐耳鮓、火焼鮓、耽羅鮓等の目あり。皆諸國より貢することなり。薄鮓一名打鮓、今の尉斗なり。てかけ或はかざりのしなごいひて聞ゆ、諸國出すこと少からずといへども、就中豊後の豊島、志摩の國崎例として毎年大神宮に奉る。又東都にも上る事なり云々(武井周作著天保二年原版發行魚鑑)

(一) 鮓トコヤシ又ナガラミ又セン子ンガヒ又ウエズ又フクダ

メ又フクダミ又ナカレコ又ニガアハヒ

Haliotis diversicolor Reeve.

介殻は概して長橢圓形にして、石決明イハヒの介殻に比すれば幅狭いのである。殻頂は高く、呼水孔の壁は低くして、その穴の貫通せるものは、六乃至九個である。介殻は石決明の介殻よりも小形で、長さ二寸許であるが、大なるものは三寸五分に達するものがある。殻の色は外面は茶褐色なるあり、或は赤色を帯べるあり、或は緑色を帯べるがある。本邦にては中部以南に多く、南方の暖海に産するものは特に大きく、棲所は石決明と

同一である。肉は甘煮又は糟漬として賞用せられ、その肉を乾製したるものは、多く支那へ輸出するのである。

(三) ミミガロ又アナゴ(琉球) *Haliotis asinina*, Linn.

介殻の大きさは三寸許に達する。本邦南方の暖海に多く産し、砂中の石上に固着するのである。

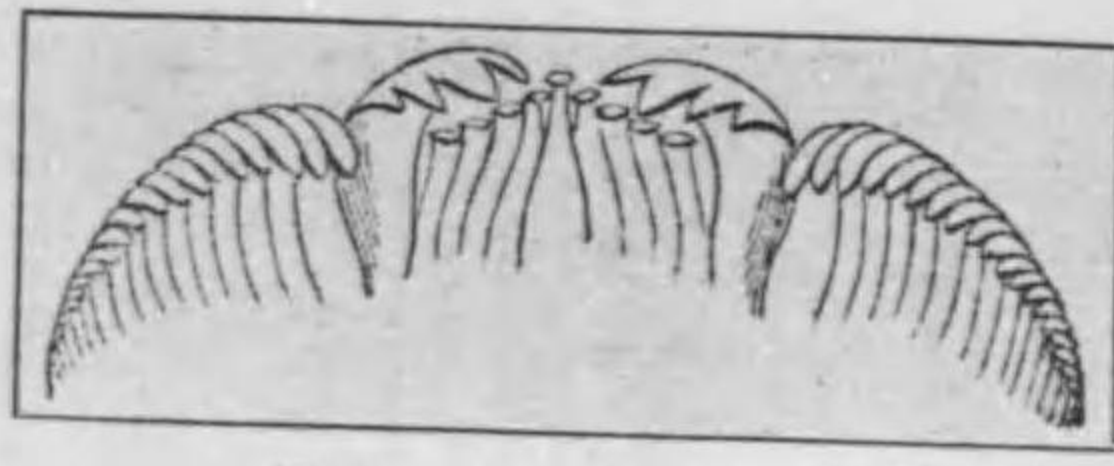
(四) 疣イホアナゴウ *Haliotis varia*, Linn.

本種は鮓トコヤシに似て居る。殻は長橢圓形をなして厚く、且つ深いのである。殻の外面は茶色にして、緑色又は赤色を帯び、特異なる白色の紋がある。放射状の隆起は、三乃至五條ありて、その上には疣状の小突起が並列して居る。呼水孔の管は低く、その孔が貫けるものは、五乃至七個にして、殻の内面は銀色を帯びて、美麗なる光澤がある。本種は薩南諸島、琉球、支那、フィリッピン諸島、濠太利亞、馬來群島、紅海等に産するのである。

マアナゴウ (*Haliotis ovina*, Gmel.) 薩南諸島、琉球等に産し、本種に似たる種類である。

(二) フイスレラ科 (*Fissurellidae*)

介殻は圓錐状をなし、ヨメガサラ状をなし、殻頂は反曲し、且つ孔を有するを以つて容易に區別することが出来る。介殻内面に在る筋肉の痕は、馬蹄状をなし、前面に於て

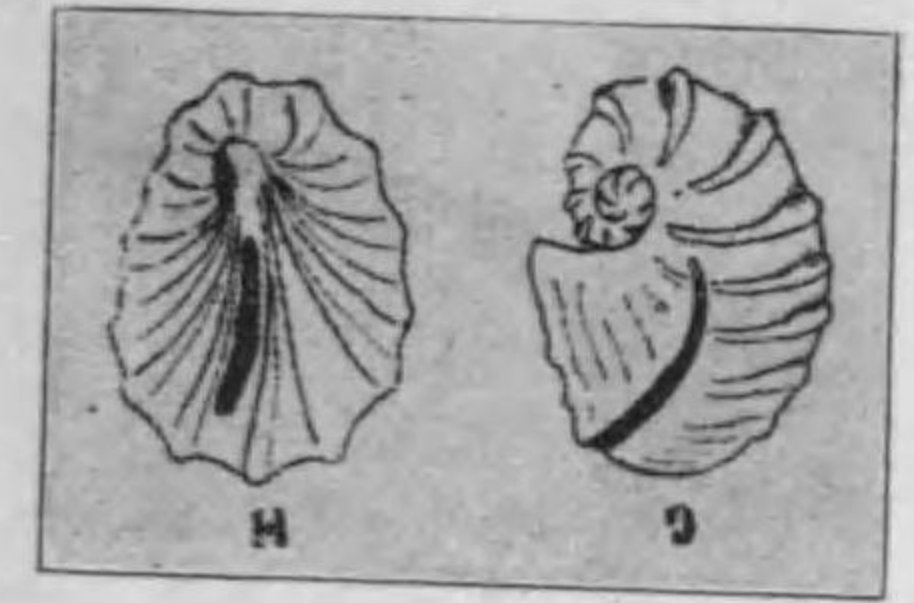


圖九十八百三第
帶舌のラレスイフ
(Woodward)

開いて居る頭はよく發達し、嘴は短く、觸角は突錐狀をなし、その外方の基部に於て、退化せる柄を有する眼がある。常に海岸の岩石上に附着して生活し、舌帶はサラサバタイ屬のものに似て居る。

〔一〕 フイスレラ *Fissurella*

屬名フイスレラ (*Fissurella*) はフイススラ (*Fissura*) 即ち裂罅といふ語に基づけるものであつて、英にキイ、ホール、リンベット (*Key-hole limpet*) といふ鍵眼を有するヨメガカサの義である。この類の介殼は幼貝にては螺狀をなし、殼縁の前端に裂溝を有し、また殼頂に



圖一十九百三第
時るあの達發の殼のラレスイフ
す示を (H.G) 期
(After Lang)



圖十九百三第
種一ラレスイフ
(*Fissurella Listeri-*
rb.)
(After Woodward)

殼全形もヨメガサラ狀を呈するに至るのである。殼面には放散狀又は方眼格子狀の條線がある。この貝は主に淺海に棲息するが、稀に五十尋の處に棲むものがあつて、よく運動

は穴を有せざれども、殼が漸次成長するに従ひ、殼縁は合して細長き孔となり、遂に殼頂に位して一孔を残すやうになり、介



圖二十九百三第
種一ラレスイフ
(*Puncturella Noach-*
ina, L.)
(大倍二) (産國英)
(After Woodward)

するのである。而して本屬には百三十餘種を産し、亞米利加、英國、南亞弗利加、印度、支那、濠太利亞及び上部カリフォルニア等に産するのである。

〔二〕 プンクチュレラ *Puncturella*

介殼は圓錐狀をなして隆起し、殼頂は反曲し、殼頂の前方に穴ありて、殼の内方の縁は隆起して居る。而して殼の表面には、方眼格子狀の線がある。本屬には數種を産し、グリーンランド、那威、英國の北部等に産し、二十尋乃至百尋の海に棲息するのである。

〔三〕 リムラ又リムラリア *Rimula* = *Rimularia*

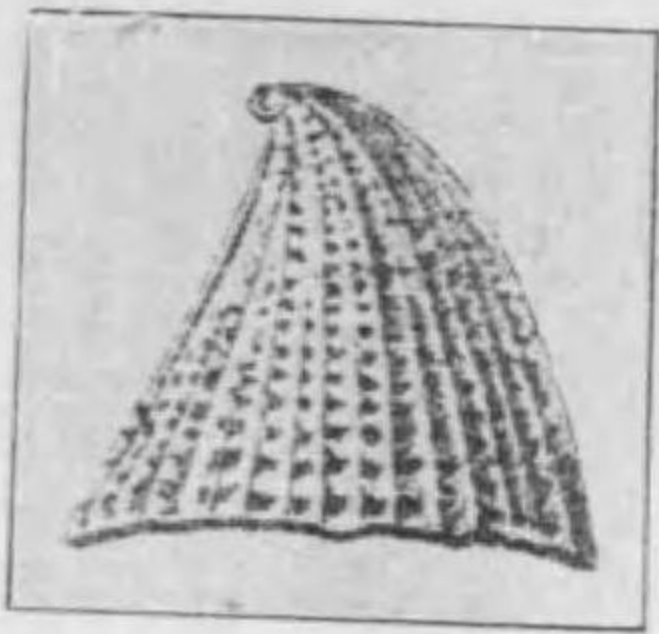
屬名リムラ (*Rimula*) はリマ (*Rima*) より出で、裂罅の義である。介殼は薄く且つ方眼格子狀をなし、前方の縁邊に近く一穴を有するのである。本屬のものはフィリッピン諸島に産し、淺海の砂泥底に棲むが、また十尋乃至二十五尋の處より採集せられて居る。

〔四〕 エマーシヌラ *Emarginula*

屬名エマーシヌラ (*Emarginula*) はエマーシナタ (*Emarginata*) より出で、刻目を有する義である。介殼は卵圓形にして隆起し、殼頂は反曲す



圖三十九百三第
種一ラムリ
(*Rimula Blainvillii*
Defr.)
(After Woodward)



圖四十九百三第
種一ラマツマエ
(*Emarginula relictata*
Sby) (大倍二)
(After Woodward)



圖五十九百三第
種一ラマツマエ
(*Emarginula relictata*
Sby) (面上)
(大倍二) (産國英)
(After Woodward)



圖六十九百三第
種一屬サガメトホ
(*Parmophorus aust-*
ralis Bl.)
(大一分二)
(After Woodward)

る。介殻の表面は方眼格子状をなし、前縁には狭き裂罅がある。本属のものは四十種許を産し、西印度、英國、ノルウェー、フィリピン諸島及び濠太利亞に産し、干満兩潮線間より九十尋位の處に棲んで居る。

六九六

〔五〕 ナトメガサ屬 *Scutus = Parmophorus*

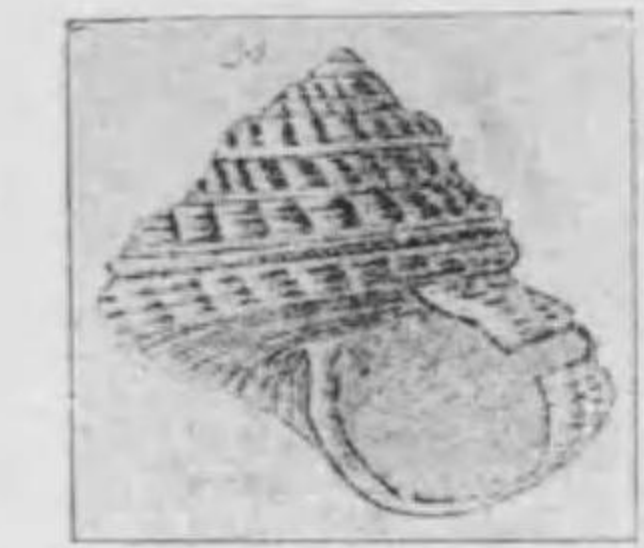
本属のものは、英にダックス、ビル、リンベット (*Ducks-hill limped*) といふ鴨の嘴のヨメガカサの義である。介殻は長橢圓形をなし、且つ壓搾せられて居る。殻頂は後方に位し、前縁は彎曲する。筋肉痕は馬蹄状をなし、且つ伸長する。介殻は平滑且つ白色にして、常に被はれて居る。動物體は介殻の大きさに比すれば、甚だ大きく、黒色にして、その兩側は短き觸毛を以つて總狀となり、眼は厚き觸手の外部基底にあれども、柄はないのである。本属のものは干満兩潮線間に棲みて、自由に匍匐して居る。而して約十五種を産

し、ニウージーランド、濠太利亞、フィリピン諸島、シンガポール、紅海等に産し、本邦にはオトメガサ (*Scutus unguis*, Linn.) を産するのである。

〔三〕 翁戎科又長者貝科 (*Pleuromaridae*)

本科の介殻は、腰高貝状をなし、層を有し、質は堅實にして、體螺層の外層には、深き罅裂を有し、介殻の成長するに従ひ、罅裂も次第に閉塞するにより、その痕跡は各螺層に遺りて、二條の平行線を印する。而してこの間を罅裂帯といふのである。本科のものは、古生代の志留亞紀より、中生代に跨りて、盛んに繁盛を極め、従つてその化石は、千幾百種に達して居るが、今はその種類を減し、僅に六種を産するのみである。

〔一〕 翁戎又長者貝 *Pleuromaria beyrichi*, Hilgendorf.



圖七十九百三第
種一屬戎翁
(*Pleuromaria Anglica*,
Sby) (*Lias Gloucester*)
(After Woodward)
(石化) (大一分二)

本種は相州江の島、三崎、房州沖の瀬に産し、殻は獨樂状をなし、基底は扁く、螺層は十一段ありて、下方に至るに従ひ漸次増大し、螺層には縫合線に平行して走れる數條の細き隆起を有し、またこれらと直角に走れる隆起がある。殻の表面は淡黄色にして、美麗なる赤斑を有し、中央の臍は深く凹み、白色にして、殼の内面は眞珠色を呈し、介殻の高さは二寸七分許りであ

る。屬名プレウロトマリア(Pleurotomaria)はプレウラ(Pleura)の義(訓方)トーム(Tome)の義(訓目)の義より成る。これ體螺層の外層にある深き罅裂より名づけたものである。

(四) 拳螺科 (Turbinidae)

介殼は獨樂狀又は塔狀をなし、質は厚く、殼孔は大きく且つ圓いのである。而して殼の内面は輝ける眞珠質である。層は石灰質にして硬く、その内面には螺旋狀の紋を有し、外面には顆粒狀の突起がある。皆海産にして藻類を食するのである。

(一) 拳螺又榮螺 Turbo cornutus, Gmelin.

屬名トルボ(Turbo)はホイップイング、トッピン(Whipping-top)といふ。廻はす獨樂の義である。されば英名をトップ、シェル(Top-shell)といふ。獨樂貝の義である。

本種の介殼は、略ぼ圓錐形にして、螺層は右巻で割合に低く、螺層上には數個の管狀をなせる硬き突起を具へ、殼は厚く、質は硬固である。殼口は圓形に近くして、内面は眞珠色をなせども、殼の外面は暗青色である。層は石灰質にして頗る厚く、略ぼ圓形をなし、裡面は扁平にして、殆んど平滑なるが、外面は帶黃白色若くは少しく青味を帯びたる白色にして、細かき顆粒狀突起を具へ、且つ渦狀の紋がある。殼は長さ三寸許に達するのである。

本種は東海より西南海にかけて多く産し、近海の淺所に於て、岩礁間若くはその附近に棲み、夜間出で、海藻を食ふのである。肉は壺燒として食用に供し、その乾したるものは、支那に向つて輸出せらるゝのである。介殼は鈿の原料となり、また之に加工して杯、杓子其他の器具を製するに用ゆるのである。

ツノナシサバエ はサバエと同種であつて、西

南地方の諸海、特に内海より九州沿海に産するものは、

一般に介殼に角狀の突起を缺いて居る。殼質は厚く堅

きが故に、鈿を製するに使用せらるゝのである。

(二) 夜光貝又青螺又ヤクガヒ

Turbo marmoratus, Linn.



第 三 百 九 十 八 圖
夜 光 貝
(After Woodward)
(大一分四)

介殼の大きさは六七寸に達する。薩南の近海に産し、その質は美麗なるを以つて、種々の用途に供せらるゝのである。

(三) 五色榮螺又イロサバエ Turbo impelialis.

本種は支那に産するのである。介殼の外面は綠色にして、内面は頗る鮮美なる眞珠色を呈し、五彩を現はすに因りて、この名がある。

〔四〕 酢貝又郎君子又相思螺 *Turbo coronatus*, Gmelin.

七〇〇

介殻はサマエに似たれども、大さは小形にして三四分乃至八九分である。殻は厚く螺層毎に高く膨れて、粗糙なる撚絲の如き横條を密生し、これと筋違ひに、皺狀の條がある。殻は蒼黒色にして、殻頂は褐色を帯びて低く、唇は薄く、殻口は大きく、その内面は眞珠色を呈する。また殻面には疣を有するものと、然らざるものとがある。唇は圓く、表面は粗くして、中央部は隆起し、これに巴狀の卷線を具へ、内面は滑らかにして、略々扁平である。この唇をば皿に盛れる酢に投ずれば旋轉するを以つて、相州江の島、伊勢二見浦などの貝殻販賣店にては、袋に若干粒を入れて販賣して居る。然し獨りこの貝の唇のみならず、總べての螺類の唇は、酢の如き酸類に遇へば、その石灰分は溶け去り、唇の薄き部分は、先づ始めに溶け、渦線を逐ひて、漸々中央部の緻密硬固なる部分に及ぶを以つて、旋轉運動を起すのである。

以上の外、本科のものにて本邦産のものには、左の如き種類がある。

- テウセンサマエ *Turbo argyrostomus*, Linné.
- コシダカサマエ *T. parvulus*, Phil.

- リウテン *T. petholatus*, Linné.
- ウラウツガヒ *Astralinum haenatriagus*, Menke.
- ハリサマエ *A. modestum*, Reeve.
- リンボウガヒ *A. triumphans*, Phil.
- オホウラウツ *A. petrosum*, Martyn.
- ヒラサマエ *A. japonicum*, Dunker.

〔五〕 馬蹄螺科又コシダカガヒ科 (Trochilidae)

介殻は厚く圓錐形をなし、その内面は眞珠質にして美麗なるものがある。常に海藻類の繁茂せる岩礁間に棲息し、頭は大きく、二本の觸角と、その基部外側には一對の眼を有する。また唇は角質にして螺旋狀である。

〔一〕 更紗馬蹄又コシダカガヒ又高瀬貝 (製鉦家の通稱) *Trochus niloticus*, Linn.

屬名トロクス (Trochus) はフウブ (Hoop) 即ち箍の義である。介殻は圓錐形をなし、その基部は殆んど扁平である。螺層はその數多くして、扁平に重さなり、種々の條線を



三百九十九更紗馬蹄圖
(大一分四)
(After Woodward)

内外普通動物誌



圖 百 四 第
(Trochus pica)種一屬蹄馬紗更
(大倍二)層の狀旋螺多の
(After Woodward)

有する。殻口は斜に位し、菱形にして、内側は眞珠質である。殻軸は振れ、稍截り取られたる状をなし、外層は薄く、層は角質にして其の螺旋紋は多いのである。本種は介殻の大なるものは、長さ二三寸、直径三寸五六分もありて、表面には赤紫色若くは緋色の斜めなる紋が、大小入り交りて、恰も更紗模様を呈して居る。琉球近海より臺灣近海、印度洋に産する。この貝にて製せる鈕は、優等なるを以つて、外國に輸出する額少からずといふ。

本属のものは、地球上に廣く産し、干満兩潮線間より十五尋位の處に棲めども、小形のものにありては、百尋の深所に産するものがあり。約二百種を含むといふことである。

(二) ギンタカハマ又廣瀬貝(製鈕家の通稱)

Trochus obeliscus, Gmel.

介殻の形状は純粹なる圓錐狀にして、長さは三寸以内である。八丈島、小笠原島、駿州江の浦、土佐、薩灣及び琉球よ



圖 一 百 四 第
種一屬イテバサラサ
(Trochus zizyphius L.)
(After Woodward)

り印度洋に産する。更紗馬蹄に次いで、よき鈕の原料となる。

以上の外、本邦産のものには左の如き種類がある。

ベニシリダカ *Trochus conus*, Gmel.

ムラサキウツ *T. incassatus*, Lam.

ニシキウツ *T. maculatus*, Linn.

ウツイチモンジ *T. sacellum*, Phil.

(三) イシダタミ *Monodonta labio*, Linn.

属名モノドンタ(*Monodonta*)は「一齒」の義である。介殻は獨樂狀にして、螺層は少く、螺層には螺旋狀に溝を有し、且粒狀に隆起して、その状恰も石を積みたるが如くである。唇は内方に厚く、且つ溝がある。殻軸には一齒を有し、多少突出する。唇は角質にして多くの渦線がある。本属のものは、西亞弗利加、紅海、印度及び濠太利亞に産するのである。而



圖 二 百 四 第
ミタダシイ

して本邦には左の如き種類がある。

クサイロイシダタミ *Monodonta australis*, Lam.

(小笠原島に産する)

M. neritoides, Phil.

M. snavis, Phil.

クロヅケガヒ
メクラガヒ

〔四〕 扁螺^{キサゴ}又細螺又キシヤゴ又シタダミ

Umbonium costatum, Val.

介殻は厚く圓形にして扁平である。藍色を帯びたる鼠色の地に、暗黒色の斑紋を散布し、臍は白く光澤甚だ美しくして、徑七分許もある。これよりも稍々小形にして、赤色若くは黄色を呈するものを**イロキサゴ** (*Umbonium costatum*, var. *superbum*, Gould) といふ。此貝はキサゴ^{ハシ}弾きとして兒女の好んで玩弄するものである。

〔五〕 ダンベイキサゴ *Umbonium giganteum*, Lesscn.

介殻は徑九分以上に達する大形種である。

その他本属のものには、**イボキサゴ** (*Umbonium moniliferum*, Lam) などがある。熊木治平氏の漁場調査報告第三報(水産調査報告第九卷第一册)に據れば、キサゴは、東京灣にては、水深満潮にて、一尋半以下、干潮にては二尺許より干潟迄の底質泥砂の所に蕃殖し、八月より翌年



圖 三 百 四 第
ネブチマアキシニ
(From Quoy & Gaimard)

パテイラ

蝦夷クボガヒ

コシタカガンガラ

四月まで採收する。介殻を玩弄物とする外、肥料に供すといふ。

本科に属するものには、以上の外次の如き種類がある。

クボガヒ *Chlorostoma argyrostomum*

オホコシタカガンガラ *fastiatum*, Pils.

クマノコガヒ *C. carpenteri*, Dunker.

オホコシタカガンガラ *C. nigricolor*, Dunker.

C. pfeifferi, Phil.

C. rugatum sublaevis, Pils.

C. rusticum, Gmel.

コシタカエビス *Calliostoma hungerfordi*, Sowb.

エビスガヒ *C. unicum*, Dunker.

〔五〕 アマガヒ科 (*Neritidae*)

介殻は厚く半球状をなし、螺層は甚だ小形である。殻口は半月形をなし、殻軸の側は擴張し、且つ扁平である。外唇は鋭

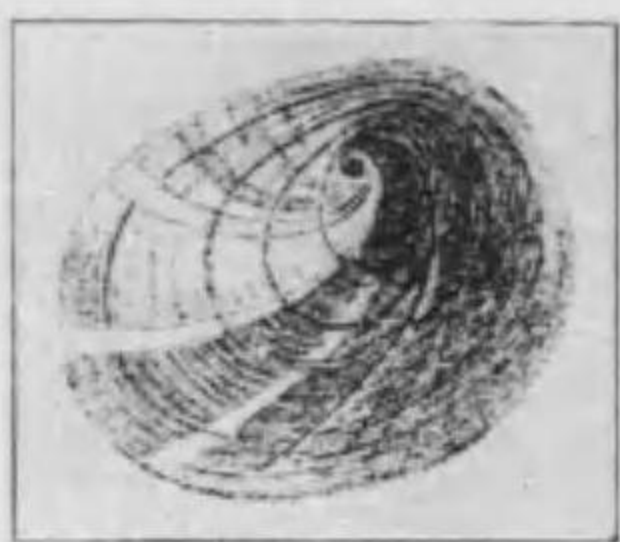


圖 四 百 四 第
種一屬ヒガマア
(*Nerita perversus* Gm.)
(After Woodward)
(石 化)

内外普通動物誌



圖五百四第
種一屬ヒガマア
(*Nerita ustulata* L.)
(After Woodward)

るごい。層は陶器質にして、略ぼ螺旋層状をなし、且つ關節がある。殻軸の各端に於て、一個の長橢圓形の筋肉痕があり。これは一隆起に因りて外側と連絡しての隆起上には、層が付いて居る。

動物は幅廣き短き口部を有し、また細長なる觸角がある。而して此外部の基底に於て、突出せる柄上に眼を有する。足は長橢圓形又は三角状である。齒舌はサザエ科のものと同しく、各列の齒は七個にして、縁齒は甚だ無數である。

〔一〕 アマガヒ屬 *Nerita*

屬名ネリタ(*Nerita*)はネライツ(*Nerites*)の變化で、これはネレイス(*Neris*)より出で、シー、スネール(*Sea-Snail*)即ち海の蝸牛の義である。英名をネライツ(*Nerite*)といふ。介殼は厚くして平滑なるか、又は螺旋状の溝がある。表皮は角質にして、外唇は厚く、且つ時には内部が齒牙状となつて居る。殻軸は幅廣き扁平にして、その内縁は伸直にして一齒がある。層は陶器質である。

本屬のものは、百七十餘種を含み、殆んど總べての温暖地方の沿海、及び淡水に産し、西印度諸島、紅海、ザンジバル、フィリピン諸島、濠太利亞、太平洋、亞米利加の西部等に産

する。亞米利加産のものは、多くは河流に棲息し、フィリピン島にある某種は、時とては、樹木上に登るといふ。而して本邦産のものには左の如き種類がある。

- アマヲブネ *Nerita albicilla*, Linn.
- フトスヂアマガヒ *N. costata*, Chemn.
- イシダ、ミアマガヒ *N. helicinoides laevilabris*, Pils.
- アマガヒ *N. pica*, Gould.
- キバアマガヒ *N. plicata*, Lam.
- ニシキアマヲブネ *N. polita*, Lam.
- コシダカアマガヒ *N. undata*, Linn.

〔二〕 カノコガヒ屬 (*Neritina*)

英にフレッシュ、ウヲター、ネライト(*Fresh Water Nerite*)淡水アマガヒの義といふ。介殼は寧ろ殻口に於て厚くなるが、内側に於ては廣く吸ひ込まれて居る。外唇は鋭るごく、内唇は伸直にして、齒牙状となり、層は陶器質にして撓み易き縁邊を有する。而してその伸直なる縁邊に於て一齒がある。

動物體はアマガヒ屬に似て居る。この類は小なる球状の介殼を有し、殻面は黑色若



第四百六十六圖
ヒガコノカチクロヒ
(After Woodward)

くは紫色の帯又は斑點を以つて種々に彩られ、その上に光輝ある角質の表皮を有する。而して大部分は温暖地方の淡水に産すれども、また海中に産するものもある。本屬のものは百十餘種を産し、西印度諸威、英國、黑海、印度、フィリッピン諸島、太平洋、西部亞米利加等に産する。本邦に産するものには、次の如き種類がある。

- ヒロクチカノコガヒ *Neritina crepidularia*, Lam.
- カバクチカノコガヒ *N. puligera*, Linn.
- クサイロカノコガヒ *N. rangiana puella*, Gould.
- キイロカノコガヒ *N. retroficta*, Murts.
- ヒメカノコガヒ *N. ulanensis*, Less.

(六) ヤマキサゴ科 (Helicinidae)

本科のものは、地上に棲息し、鰓を有せざる代りに、有肺類に似たる肺を有して、空気を呼吸するのである。本邦産には次の如き種類がある。

- ヤマキサゴ *Helicina japonica*, A. Ad.
- 羽前ヤマキサゴ *H. japonica uzensis*, Pils.

- カド小笠原ヤマキサゴ *H. ogasawarana optima*, Pils.
- ハタ井小笠原ヤマキサゴ *H. ogasawarana subdiscrepans*, Pils.
- モミヂヤマキサゴ *H. reinii*, Kob.
- ヌリツヤマキサゴ *H. reinii exposita*, Pils.
- オキナハマキサゴ *H. verecunda*, Gould.
- ヨシハラヤマキサゴ *H. yoshiwarana*, Pils.

(七) ウノアシ科 (Amaeidae)

本科のものは、介殻はヨメガカサ状をなし、殻口は橢圓形を呈し、外面には淡緑、褐色、白等の諸色の斑紋を有し、内面は白く、殻頂の裏面には大なる褐色の部分があり、鰓は一個にして左側のものゝみを有し、楕圓状をなして、頸部の外套腔内に存すれども、動物が匍匐するときは、頸の右側より外部へ突出するのである。舌帯の齒は中央線の兩側に三齒を有する。本科のものは、干満兩潮線の間にある岩石上に多く棲息すれども、又三十尋位の處に棲むものがある。而して六十餘種を産し、那威、英國、濠太利亞、太平洋及び西部亞米利加に産し、本邦に産するものには、次の如き種類がある。

- カフダカアヲガヒ *Amaea concinna*, Lischk.



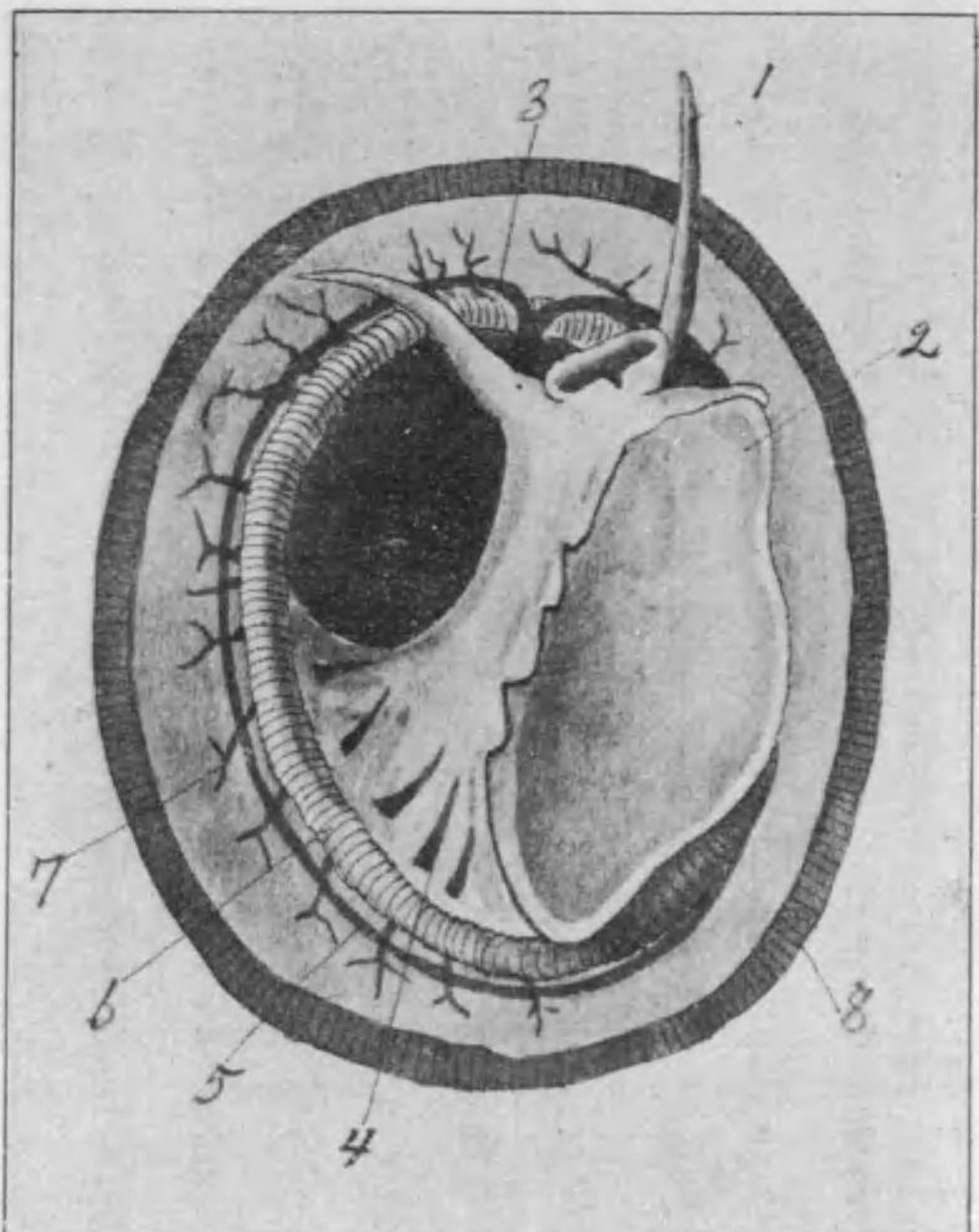
圖七百四第
種一屬ヒガチア
(*Acmaea testudinalis* Mull)
(After Woodward)
(大倍二)

ユキノカサ
シロガビ
ウノアシ
アラガビ

〔八〕 ヨメガカサ科 (Patellidae)

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------------|
| ツボミ | <i>A. conulus</i> , Dkr. |
| ケリガビ | <i>A. grata</i> , Gould. |
| コガモガビ | <i>A. heroldi</i> , Dkr. |
| ヒメコザラ | <i>A. heroldi pygmaea</i> , Dkr. |
| シボリガビ | <i>A. heroldi pygmaea</i> , Pils. |
| <i>A. pallida</i> , Gould. | |
| <i>A. pelta</i> , Esch. | |
| <i>A. saccharina</i> , Tinn. | |
| <i>A. schenckii</i> , Lischk. | |

本科のものは、嫁ガ笠又はヨメガカサ又は千鳥介等の名がある。英にリンベット (Limpets) といふ。介殻は笠状をなし、卵形若くは橢圓形にして、螺状を呈することはなく、殻頂は前方に向き、殻頂より縁邊に向つて射出する肋状隆起を有するものあり、或は平滑なるあり、又縁邊は平坦なるあり、或は鋸齒状を呈するものがある。彩色も種々であるが、介殻の内面は平滑にして光澤がある。動物体は馬蹄状をなせる筋肉によりて



圖八百四第
種一屬サカガメヨ
面下の (*Patella vulgata*)
(Lankester)

1 角觸 2 足 3 脚を出入る血管 4 介殻筋肉の間隙 5 脚に流入る血管 6 糸 7 流るる血管の一 8 介殻の隙

介殻に着いて居る。動物は著明なる頭部を具へ、これには二本の觸角を有し、その膨れたる基部の外方には、無柄の眼を有する。足は介殻の縁邊と同長にして、有力且つ扁平にして、幅が広いのである。口には角

質の上顎を具へ、長き紐状の齒舌には、無数の齒を有すれども、中央の帯を缺き、側齒及び縁齒は鉤状をなして居る。本科のものは、全く鰓を缺き、足の周囲の外套膜の溝中に於て、環状に排列せる無数の副鰓を有し、これにて呼吸するのである。

本科のものは、多くは海岸の干満兩潮線の間の岩石に固着して棲息し、常に植物質

を食するのである。

本科のものゝ或る種は、漁夫に因りて餌として非常に使用せらるゝものがある。彼のベルウイックシャイヤー(Berwickshire)の海岸にては、毎年約一千二百萬個も採取せられて、その数が減少したといふ。また愛蘭の北方に於ては、主に食物の乏しき時に食用に供するといふ。而してラーン(Larne)といふ町附近丈けにても、年々何噸といふ多量が採集せらるゝのである。また南米の西方の海岸に於ては、直径一尺に達する種類があり、土人は之を鹽代りに用ふといふことである。本科の中で、本邦に産するものには、次の如き種類がある。

ベツカフガサ

Heliciscus encosinus, Pils

この属の異名は「パテラ」(Patella)である。これは皿の義である。英に「ロック・リンベット」(Rock Limpet)といふ。

コガモガサ

H. luehmanni, Pils.

カサガヒ

H. nigrisquamatus, Reeve.

ウシノツメ

H. nigrolineatus, Reeve

アミガサガヒ

H. stearnsi, Pils.

オホベツカフガサ

H. festuinaris, Linne.

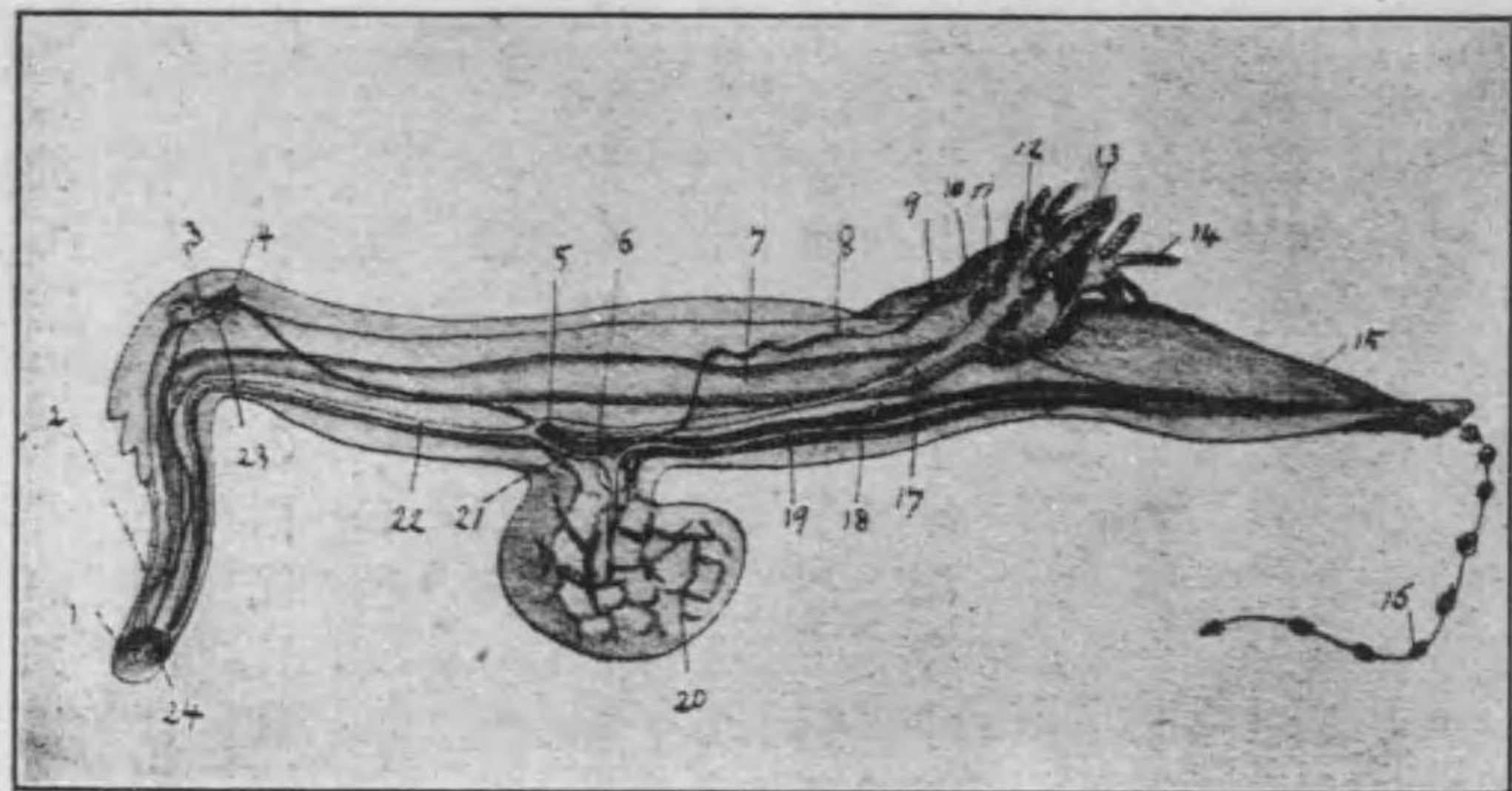
ヨメガカサ

H. toyamae, Reeve.

第三目 異足類又楫足類 (Heteropoda)

體軀は、常に圓筒状をなして伸長し、前方は吻状に突出する頭となり、これには大にして、よく發達せる眼と、觸角とを具へ、口には舌帶を有し、舌を伸出することが出来る。體の主なる特徴は、足の形成にありとす。即ち足の前方及び中央の部分は、葉狀の緒に變化し、屢々吸盤を有するものがある。然るに足の後部は著しく伸長し、且つ遙か後方に擴張し、以て體の尾部を形成して居る。内臟囊は螺旋狀に振れ、且つ一個の外套膜及び螺旋狀の介殻を有することアトランタ(Atlanta)の如きあり。或は内臟囊は足の後方に置かれたる囊狀にして且つ突出せる一塊に變形し、外套膜及び帽子狀の介殻によりて被はるゝことカリナリア(Carina)の如きあり。或は内臟囊は甚だ小なる心となりて退縮して、その前側に於て金屬性の光澤を有する一膜によりて被はれ、且つ全く介殻を缺けるものがある。

神経系統は他の腹足類よりは非常によく發達し、二つの大なる眼は、螺旋状をなせる囊中に於て、觸角の附近に存在する。而してこの囊中に於て、眼は數個の筋肉に因り



第四百一十圖
種一アケラトラケア
(Pterotrachea coronata) (After Leuckart)

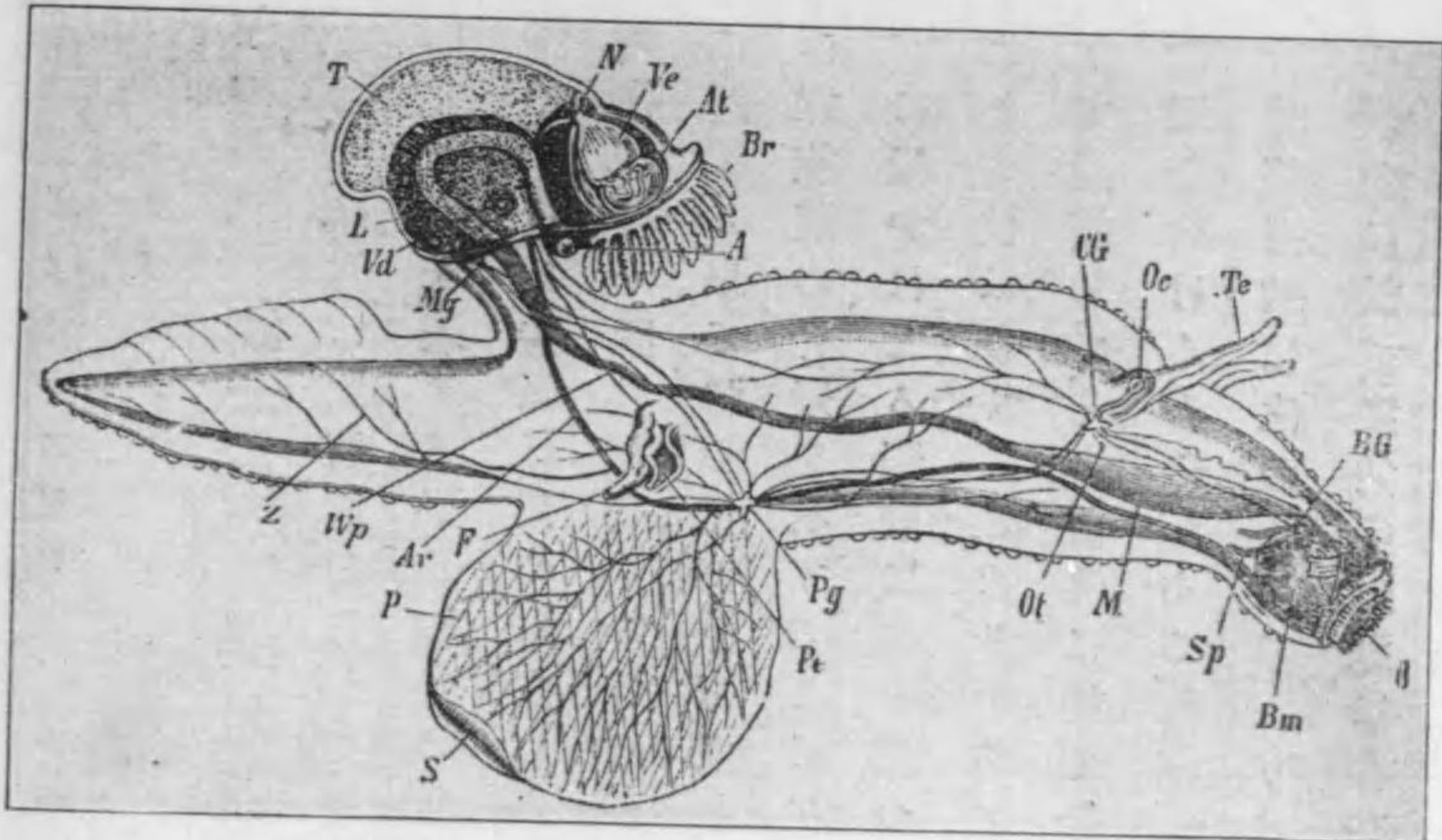
1 咽頭 2 吻 3 眼 4 球神経脳 5 球神経足 6 脈動足 7 鳃
8 球神経脳内 9 球神経脳内 10 球神経脳内 11 器覚感
12 室心 13 門肛 14 腮 15 足 16 物屬附 (るあて部るす有を厭はてに類足腹の他)のもるせ
17 頸 18 脈動大 19 脈動 (枝経神れ走に 15) 20 足 21 通普 22 脈動足
23 球神経部口 24 器聴 25 脈動頸

て、全體の振搖の外に鰭を動かして腹面を上にしてびら／＼動くのである。總て肉食性にして、ミヂンコ、甲殻類の幼蟲等を食する。而して舌を伸出する時は、側齒は左右に離れて開展し、再び引き入るゝときは、兩々相閉合する。斯くの如く舌の屈伸性を利用して、小形の海産動物を捕へ、之を口に引き入れるのである。

(一) プテロトラケア科
(Pterotracheidae)

動物體は伸長して、圓筒状をなし、透明にして一個の腹鰭を具へ、また尾鰭を有して游泳に使用する。鰓は體の後

游する動物にして、温暖なる海には、屢々多數群をなすことがある。其動作は拙劣にして、全體の振搖の外に鰭を動かして腹面を上にしてびら／＼動くのである。總て肉食性にして、ミヂンコ、甲殻類の幼蟲等を食する。而して舌を伸出する時は、側齒は左右に離れて開展し、再び引き入るゝときは、兩々相閉合する。斯くの如く舌の屈伸性を利用して、小形の海産動物を捕へ、之を口に引き入れるのである。



第四百九圖
ア リ ナ リ カ
(After Gegenbaur)雄の (Carinaria mediterranea)

A 門肛 L 臟肝 Sp 胃 M 塊口 mB 口 O 盤吸 S 足 P 球神経足 Pg 球神経口 BG 囊聽 Ot 眼 Oc 角觸 Te 球神経脳 CG 脈動大 Ar 室心 Ve 耳心 At 腮 Br 臟腎 N 球神経套外 Mg 有な腺 F 莖陰 Pe 溝毛纖 Wp 管精輸 Vd 丸辜 T 枝後の脈動大 Z 毛鞭るす

てよく動くのである。

・雄は大なる交接器を有し、これは體の右側に於て自由に突出する。而してプテロトラケア (Pterotrachea) の雄は、足に一吸盤を有する。アトランタ (Atlanta) 及びカリナリア (Carinaria) に於ては、吸盤は雌雄兩方に存するのである。辜丸及び卵巢は、内臟囊の後方を充し、一部分は肝臓に因りて被覆されて居る。輸精管と輸卵管とは、體の右側に開き、前者は交接器よりは少し離れて居る。

異足類は、總て太平洋面に浮

部に於て露出するか、又は小形の透明なる介殻に因りて被はれて居る。口には圓狀の唇を有し、舌帶上の膜には、齒の二三列があり、中央の齒は横に伸長し、齒は反曲せる三尖頭を有し、その兩側には三齒がある。

〔一〕 プテロトラケア *Pterotrachea*

動物體は紡錘狀をなして伸長し、一個の細長なる吻狀の頭ありて、鰭はその基部に於て狭く、且つ小なる吸盤を有する。鰓は裸出し、觸角は四個ありて短く、圓錐狀をなし、眼は黒く、且つ著明にして、退化せる眼瞼によりて保護せられ、舌帶は長橢圓形である。介殻を缺き、雌は長き一個の念珠狀の産卵管を有するのである。本屬のものは、大西洋、地中海及び太平洋に産するのである。

〔二〕 カリナリア *Carinaria*

屬名カリナリア(*Carinaria*)は、カリナ(*Carina*)即ち龍骨又は龍骨を有する船といふ義である。動物體は大形にして半透明にして、粒起を有し、頭は太く圓筒狀をなし、舌帶は三角形である。齒は前方より後方に至つて急に其の大きさを増す。觸角は細長にして、その基部には眼がある。腹鰭は圓味を帯び、邊緣には小形の吸盤を具へて居る。尾は大きく側扁し、介殻は背にありて、透明のヨメガサラ狀をなして、背に存するのである。

本屬のものは、地中海、大西洋の暖地、印度洋に産し、小形なる水母類を食し、又恐らくは翼足類を食するならんといふことである。

〔二〕 アトランタ科 (*Atlantidae*)

動物はよく發達せる介殻を有し、その中に體をば退縮することが出来る。鰓は背方の外套腔中に存在する。介殻は平盤狀をなし、時として層によつて閉ぢられて居る。

〔一〕 アトランタ *Atlanta*

介殻は微小にして玻璃狀をなし、且つ側扁し、突出せる龍骨部を有する。核は右巻きである。殻頂は狭く、龍骨狀部に於て、深き刻目がある。層は卵圓形にして尖り、中心は小さく、頂端にありて右巻である。動物體は三裂片狀を爲し、頭は大きく略圓筒狀をなし、觸角は圓錐形にして、その後方には顯著なる眼がある。腹鰭は扁平且つ扇狀にして、小なる總狀の吸盤がある。尾は尖つて居る。この類は大西洋の暖地、カナリア島等に産するのである。

第四目 後鰓類 (*Opisthobranchiata*)

この類の大多數のものは、介殻を有することはない。よし介殻を有すとも、極めて退化して居る。鰓腔には一個より多き鰓を有することなく、鰓は體の背面に於て露出す

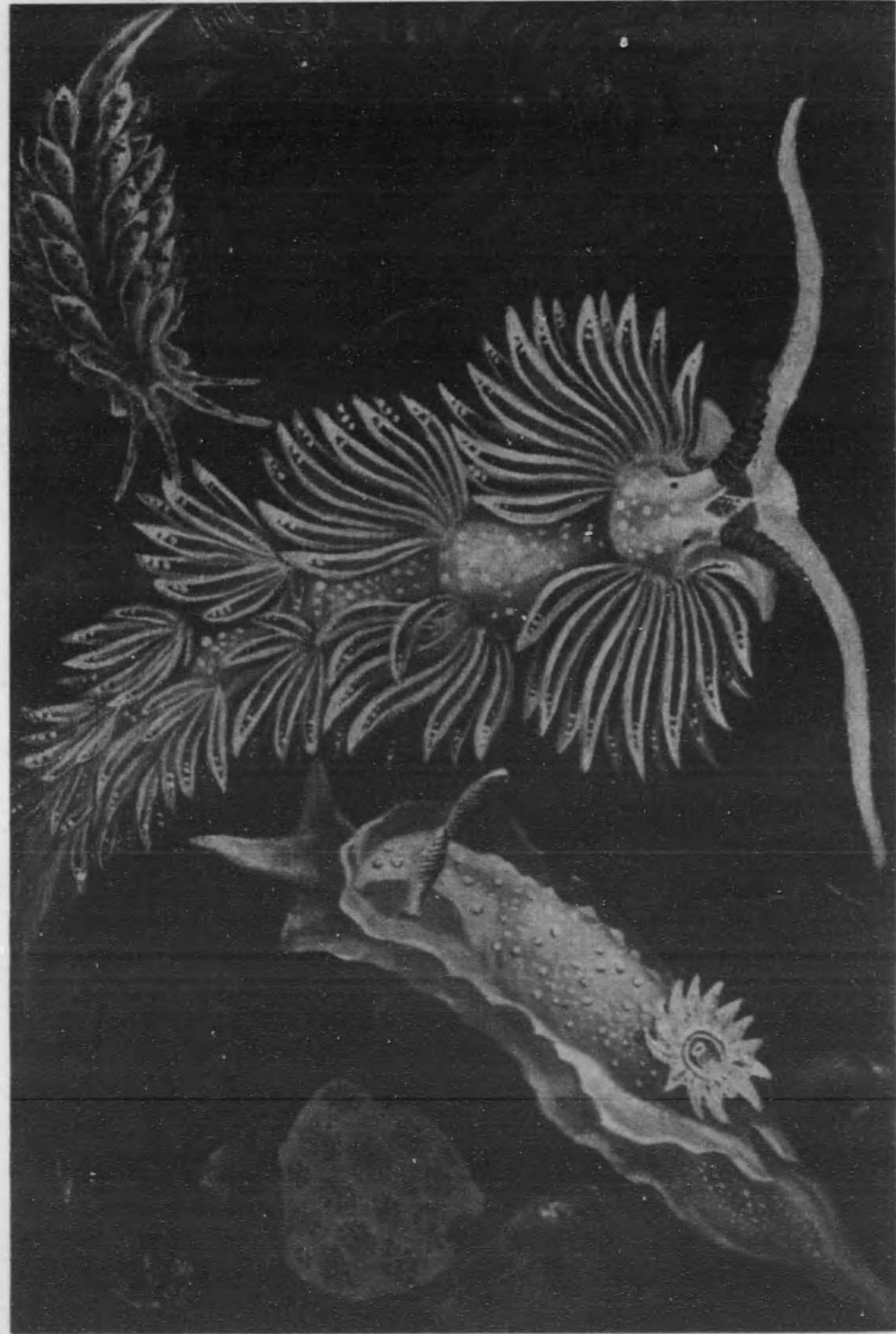
るか又は其大部分は、外套膜によりて被はれて居る。また鰓を有せざるものがある。時としてはミノウシ如く、背面に觸手状の突起を有し、其中に肝臓が進入するものがある。鰓は心臓の後方に、心耳は心室の後方に位する。舌帯の齒數及び其排列は、非常に異同ありて、同一科のものにても尙相違する位である。而して舌帯の膜は、幅短濶にして、各列に多くの等大の齒がある。プラ科のものにありては、齒は非常に變化して居る。ダルマウミウシにありては、中央の齒を缺いて居る。而して側齒は後方に於て急に其の大きさを増し、其内縁は細かき齒牙状の膜質となつて居る。後鰓類を別ちて二亞目とする。

第一亞目 覆鰓類 (Tectibranchiata)

この類は殆んど常に體の右側に鰓を有し、鰓は同側の外套膜によりて、大部分が被はれて居るか、又は背方にある外套腔中に存するのである。常に介殻を有すれども、これは退化して居る。

第二亞目 裸鰓類 (Nudibranchiata)

この類は、介殻及び外套膜を缺く。鰓は外套膜によりて被はるゝことなくして、體の背面に露出する。また時には鰓を有せざるものがある。



ど(方左端下の圖)類ヤホ生群ど類シウミウ
態狀活生のど(方上央中の圖)クヤチンギソイ

第一亞目 覆鰓類 (Tectibranchiata)

(一) アクテオーン科 (Actaeonidae)

頭部の前方は、扁平にして盤状をなし、幅廣き鈍き觸角を有する。足は廣大にして、側裂片及び唇状の裂片を有する。本科のものは、外方に介殻を有するが、介殻は硬く螺旋状なるか、又は回旋状をなし、略圓筒状にして、殻口は狭長で、殻軸には褶があり、時には唇を有するのである。而して本科の動物は、石炭紀の地層より現出し、白堊紀にて最も繁榮したのであるが、現今はその生存せる種屬が少いのである。

(1) アクテオーン Actaeon = Tornatella

介殻は堅く、卵圓形にして、螺層は圓錐形をなし、多くの螺旋部を有するのである。而して殻面には螺旋状の溝あるか、又は斑點状の線がある。殻口は狭長にして、前方は圓味を帯び、外唇は鋭るごく、殻軸は一個の強き振れたる皺を有する。唇は角質である。動物體は色白くして、頭は切截せられ、前面には稍刻目を有し、後方には、横置せる觸角状の裂片がある。而してその内方の基部に近く小眼を有し、足は長橢圓形にして、側方の裂片は、稍介殻上に反曲して居る。本屬には十數種ありて、北米合衆國、英國、セネ



圖一十四第
ンホーテクア種一
(Tornatella to-
rnatilis L.)
(Afer Wood-
ward)

ガル、紅海、フィリッピン諸島、本邦、ペルー等に産するのである。

(二) ブラ科 (Bullidae)

本科のものは、よく發達せる介殻を有する。介殻は球状又は圓筒状をなして回旋し、質は薄く、屢々斑点状の條がある。螺層は小形であるか、或は隱在し、殻口は長くして、前面は圓味を帯び、且つ彎曲する。唇は鋭るごく且つ唇を有することはない。

動物體は多少介殻を取り圍み、頭には扁平なる盤を有し、屢々結合せる觸角状の裂片がある。眼は盤の中央に陥入するか、或は之を有することはない。足は長橢圓形にして、後方の裂片と側裂片とを有する。鰓は背の右側にありて、單一にして、介殻に因りて被はる。舌帯の舌は、甚だ變化し、屢々中央の齒を缺き、側齒は單一なるか、又は無數である。砂囊の内面には、石灰質の板ありて、食物を消化する用に供するのである。

本科のものは、動物質を食ひ、泳ぐときには側裂片を使用すといふことである。種類は約百五十種以上もある。

(一) ブラ Bulla

英名をバツブル、シエル (Bubble-shell) (泡貝) といふ。介殻は卵圓形にして、一方に膨脹し、回旋状をなす。而しその外方か、又は唯一部分は、動物體に因りて取り圍まれて居る。



圖二百四第
種一屬ラプ
(大一分二)
(Bulla ampulla L.)
(After Woodward)



圖三百四第
種一屬ラプ
(大一分二)
(Bulla naucum)
(After Woodward)

殻頂には孔を有し、殻口は介殻よりは長い。而してその各端に於て、圓るくなり、殻唇は鋭るごいのである。
動物は大なる頭部盤を有し、その前方は截形をなし、後方は二裂片をなし、各裂片は、その下方は薄片が重さなつたやうになつて居る。眼は略中央にありて陥入するか、又は全く缺いて居る。側裂片は甚だ大きく、介殻の兩側に於て反曲し、その後方にある裂片は、介殻を被ふて居る。足は四角状にして、砂囊には三個のヒザラガヒ状の板がある。

本属には五十種を含み、總ての温暖地方の海の砂底にありて、干満兩潮線間より、二十五尋又は三十尋の處に棲んで居る。

(二) アケラ Acaera

属名アケラ (Acaera) はアケロス (Akeros) より出で、無角の義である。介殻は薄く屈撓し易く、球状を帯びたる圓筒状にして、螺層は截形にして、螺線には溝がある。殻口は長く、前方に於て擴張し、且つ深く彎曲する。而して殻口の外縁は、縫合線に於て分離して居る。



圖四十百四第
種一屬ラケア
(Acera bullata Mü-
ll)
(After Woodward)

齒がある。

本属には七種を産し、グリーンランド、英國、地中海、ザンジバル、印度、ニュージール
ドに産する。一種 (Acera bullata, Müll) は一尋乃至十五尋の深間に棲んで居る。

〔III〕 スカフアンデル Scaphander

属名スカフアンデル (Scaphander) はスカフエ (Scaphae) (小舟) アネル (Aner) (人の) の二
語より成る。介殻は白色にして長椭圆形、回旋状をなし螺旋状をなせる條線がある。殻
口は其の前方に於て非常に擴張し、螺層は隠くれ、表皮は厚く、舌帯の齒は峰状をなし、
中央の齒は全く之を缺き、側齒は一個宛である。



圖五十百四第
種一屬カス
テンア (Scaphander
lignarius L.)
(After Wood-
ward)

動物は大なる長椭圆形の頭を有し、眼を缺く。足は
短く幅廣く、側裂片は反曲するが、介殻を被ふことは
ない。砂囊には二個の大なる三角形の板を有し、また

一個の小なる狭き横板がある。

本属のものは、北米合衆國、ノルウェー、英國、地中海等に分布し、海岸の砂底又は海藻
間に棲んで居る。時には五十尋位の所に棲むものがある。而してツノガヒ屬を食ふと
いふ。

〔IV〕 ダルマウミウシ Philine

動物體は純白色にして、稍透明である。形狀は蛞蝓狀であつて、外套膜は介殻を被ふ。
頭は長椭圆形にして、眼なく、足は幅廣く、側裂片は大いが、然し介殻を包圍することは
ない。介殻は内方に位し、白く且つ半透明にして、卵圆形をなし、稍回旋し、螺層は退化し
て居る。舌は草刈鎌狀の縁邊齒の二列、若くは四列を有する。砂囊には三個の縦ての介
殻質の板を有する。卵囊は卵圆形にして、長き螺旋狀の絲
状をなし、幼蟲は纖毛ある帆と厩ある螺殼を有する。

本属のものは、西印度、グリーンランド、ノルウェー、英國、地
中海、朝鮮、ボルネオ等に分布する。

〔III〕 アメフラシ科 (Aphysiadae)

介殻を缺くか、又は退化せる介殻は、外套膜によりて被



圖六十百四第
種一屬ウミウシマルダ
(Philine aperta) (Woodward)
套外 m 葉側の足 l 頭 c 口 o
な明透) (囊砂 g 殼介 s) 膜
(るら見に明分不りよ殼介

はれて居る。而して介殻の形状は、長橢圓形なるか、或は三角形をなし、或は稍回旋狀を呈する。動物體は蛞蝓狀をなし、頭には觸角及び眼を有し、足は長く且つ後方に延長して尾狀をなし、その側邊は擴張せる裂片を有し、裂片は背及び介殻を超へて、反曲して居る。又その下に鰓を具へて居る。

本科のものは、砂礫多き海岸、或は岩礁間に棲息し、卵塊は細き紐狀を呈するのである。

〔I〕 アメフラシ *Aplysia*

英名をシー、ハリア (*Sea Hare*) といふ海兔の義である。動物體は卵圓形にして、長き頸と突起せる背とを有し、頭には四本の觸角を具へ、背方にある觸角は耳狀をなし、その前側部の基底には眼を有する。口は吻狀をなし、角質の顎を有し、舌帶の齒は、中央にあるものは一個で、側齒は十三個宛であつて鈎曲し、且つ鋸齒狀を呈し、殆んど三十列を有する。砂囊には角質の棘を有し、體側には足の變形せる外套膜の大なる裂片を有し、之を游泳に使用し得るといふことである。介殻は長橢圓狀をなし、凸出して圓く、質は薄くして撓め易く、半透明にして、後方には稍内曲せる頂端があつて、體側にある外套膜にて被はれて居る。鰓は背の中央にありて、介殻及び外套膜の裂片に因りて被はれ

て居る。動物體は多くは赤褐色である。

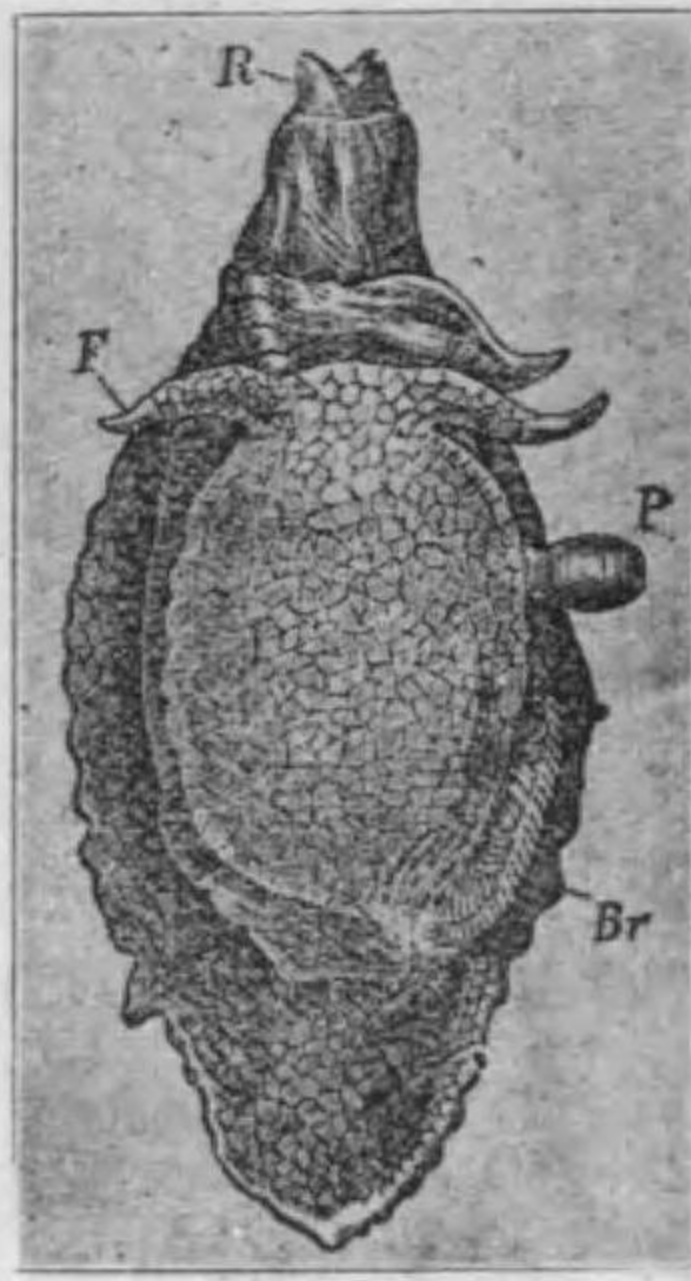
本属には四十餘種を有し、西印度諸島、ノルウエー、英國、地中海、支那等に分布し、主として海藻を食すれども、亦動物質も食ふのである。主に海藻の繁茂せる所に棲み、春季には藻間に産卵する。而してその際には、屢々群居をなすのである。他より妨害を受くるときは、外套膜の内表面の縁邊より、莖菜色の液を放つが、この液は空氣に觸れて後葡萄酒赤色に變ずるといふことである。歐洲に於ては、古はこの動物の奇怪なる形貌と、その液が有毒にして消滅せざる汚水を生ずるものと想像して、非常に恐怖したものである。されば屬名アプリア (*Aplysia*) が附けられたのである。これは「ア」(a) 及び「プリア」(plia) の結合より成り「洗淨し得ぬ」の義である。

〔II〕 ドラメラ *Dolabella*

屬名ドラメラ (*Dolabella*) は「小形の手斧」の義である。動物體はアメフラシに酷似して居る。鰓は體の後端に近く位し、介殻は硬く、石灰質にして、三角形をなして屈曲し、且つ硬結せる頂端部を有するのである。

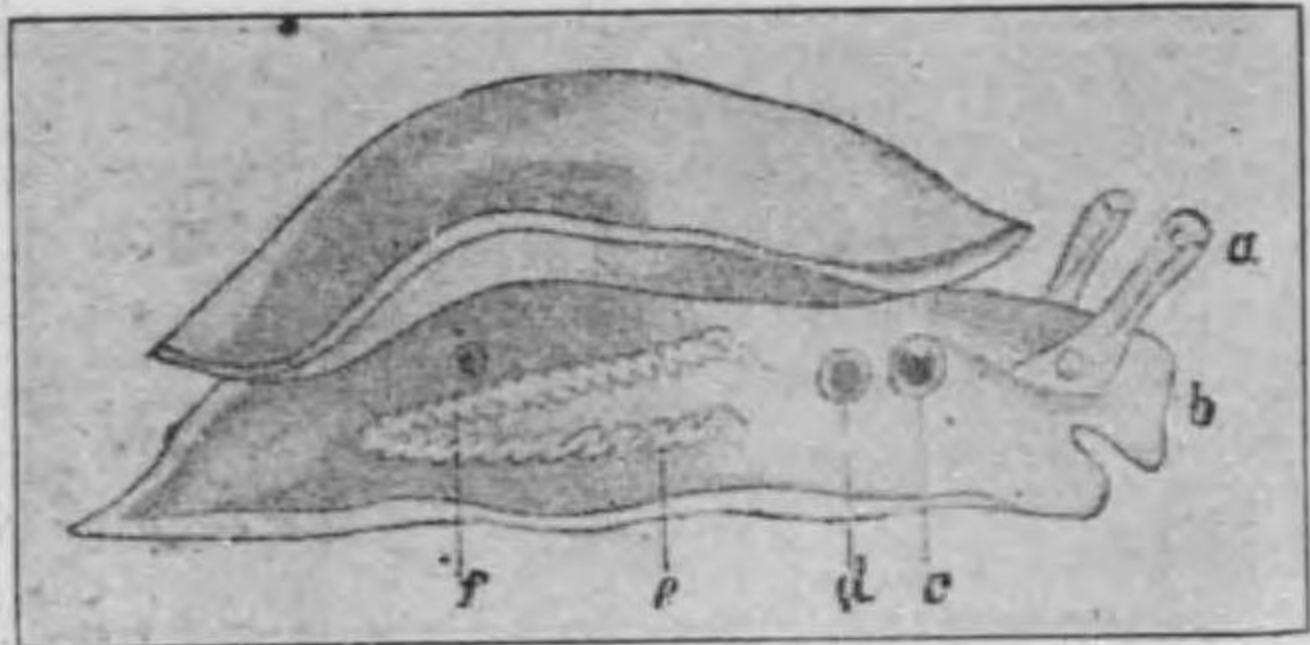
〔III〕 トゲアメフラシ *Aclesia glauca*, *Cheeseman*.

體は卵圓形にして少しく前方に延長し、背面は少しく綠色を帯び、全體面には、黒き



圖九十百四第
種一スクンラプロウレブ
(*Pleurobranchus auranti-*
-acus) (*règne animal*)
角觸 F 糞陰 P 鰓 Br
吻 R

この類は砂礫質をなせる所の沿岸に棲息し、干満兩潮線間より五十尋位の處に居り、僅少の種類は、海面に浮漂せる海藻上に匍ふものがある。又氷海にて發見せられたる



圖八十百四第
種一スクンラプロウレブ
な(りなるす有な殻内)(*Pleurobranchus aurantiacus*)
(After Leuckart) る見りよ側右
肛 f 鰓 e? 孔泄排 d 孔殖生 c 帆の唇 b 角觸 a 門

右側に位する。頭には二本の溝ある觸角を有し、その外方の基部に眼がある。口は角質の顎を有し、觸角質の裂片を有する幅廣き被覆物にて被はれて居る。介殻は内方に位し、大きく長橢圓形にして、屈撓し易く、稍凸圓であつて、薄板状をなして居る。本屬のものは二十餘種を有し、南米、ノルウェー、英國、地中海、紅海、セイルン等に分布するのである。

第二亞目 裸鰓類 (*Nudibranchiata*)

この類は外套膜及び介殻を缺き、鰓は背面に突出するが、時には之を缺くものがある。



塊卵シラフメア 圖七十百四第

斑點を有し、又體面には樹枝狀の突起を散在すれども、介殻を有することはない。この動物の卵塊は海粉と稱し、食用に供せらるゝのである。

(四) プレウロブランクス 科 (*Pleurobranchidae*)

本科のものは、體の右側に大なる鰓を有し、介殻はヨメガサラ状をなし、常に内方に隠れて居るが、稀に介殻を

(一) プレウロブランクス *Pleurobranchus*

屬名プレウロブランクス (*Pleurobranchus*) はプレウラ (*Pleura*) (の側方) 及びブランキア (*Branchia*) (鰓) より成る。動物體は長橢圓形にして、凸圓状をなし、外套膜は背及び兩側を被ひて、種々の模様を有する。足は大きく、鰓は一個ありて、外套膜と足との間に於て、

有せざるものがある。而して外套膜又は介殻は、動物の背を被覆する。食物は植物質より成り、胃は非常に錯雜して居る。

ものあれども、殊に熱帯地方の海に夥しく棲息する。

ウミウシ及びトリトニア (Tritonia) には、肝臓は密接に緊着し、且つ胃は一個の膜質囊であるが、ミノウミウシには、肝臓は分裂して、一部分は背面にある觸手状突起中に擴つて居る。ウミウシ科のものは、短き幅廣き舌帯の膜を有し、其の表面には、無數に一樣なる齒があるが、ミノウミウシには、狭き舌帯を有し、これには大形の齒の單列を有するに過ぎない。

この類は通常顎を有するを常とするが、二顎は相互に關節し、且つ側顎として作用するが常である。

(一) ウミウシ科 (Dorididae)

動物體は長橢圓形をなし、鰓は羽狀にして、背面の肛門の周圍に於て、環狀に排列するのである。觸角は二個ありて、眼點は觸角の後方の皮膚内に陥入するが、成長せるものにありては、見へないのである。舌帯の膜は常に無數の側齒を有し、縁齒は屢々齒牙狀をなすことはないのである。胃は單一にして、肝臓は密接して緊着し、皮膚には判然と排列せる針狀體を有し、爲めに強壯とな



圖 十二百四第 種一シウミウ (Doris johnstoni, A. & H.) (After Woodward)



圖 一十二百四第 種一シウミウ Doris (Acanthodoris) pilosa (Bronn) 角觸 F 門肛 A 鰓 Br (From Claus)

つて居る。

(一) ウミウシ Doris

屬名ドリヌ (Doris) は「海の神の義である。これ體が碧色を呈して條あるあり、紅色なるあり、頗る美麗なるに因るのである。動物

體は卵圓形にして壓搾され、背上にある二觸角は二本で、釘狀或は圓錐形をなし、之を腔内に收縮することが出来る。この類は體長三分位のものより、大なるは二寸五六分に達し、常に干満兩潮線間に多く、ノルウェーより太平洋に至るまで、總ての海に棲み、腔腸動物及び海綿類を食ふといふことである。

(二) 色ウミウシ Chromodoris

動物體は殆んど四角形にして、羽狀の鰓は線狀に排列し、美麗なる色彩を有するのである。

(三) トリオバ Triopa

動物體は長橢圓形にして、觸角は釘狀をなし、鞘内に收縮し得るのである。體の兩側には、四五對の絲狀突起を有し、鰓はその數



圖 二十二百四第 種一バナリト (Triopa claviger Müll) (After Woodward)

七三〇
少く、且つ羽状をなし、背面の中央に位する。この類は干満兩潮線間より、二十尋位の處に棲むのである。

〔四〕 ケラトソマ Ceratosoma

屬名ケラトソマはケラトイヌ (Ceratois) (角を有する義) 及びソマ (Soma) (体) より成る。動物體は長橢圓形にして狭く、鰓の後方なる背の後部に於ては、二個の大形にして、且つ突出せる角状部を有する。鰓は五個が二回羽状をなし、觸角は背上にありて釘状をなし、收縮することは出来ないのである。頭には短き側突起を有し、足は狭いのである。

〔二〕 トリトニア科 (Tritoniadae)

鰓は薄板状又は羽状又は乳頭状をなし、背の兩側に沿ふて排列する。觸角は鞘中に收縮することが出来るし、舌帯の膜は一個の中央齒と無數の側齒とを有するのである。

〔一〕 トリトニア Tritonia

動物體は伸長し、觸角は枝状の纖維を有するのである。鰓は背の兩側にある隆起線上に於て、單列に排列し、口には角質の顎がある。胃は單一にして、肝臓は密接して緊着する。本屬には十餘種



圖三十二百四第
アニトリト
(Tritonia plebeia, Johhst)
(After Woodward)

を有し、干満兩潮線間の石下、又は二十五尋位の處に棲んで居る。

〔一〕 スキイレア Scyllaea



圖四十二百四第
アーレイキス
(Scyllaea pelagica L.)
(After Woodward)

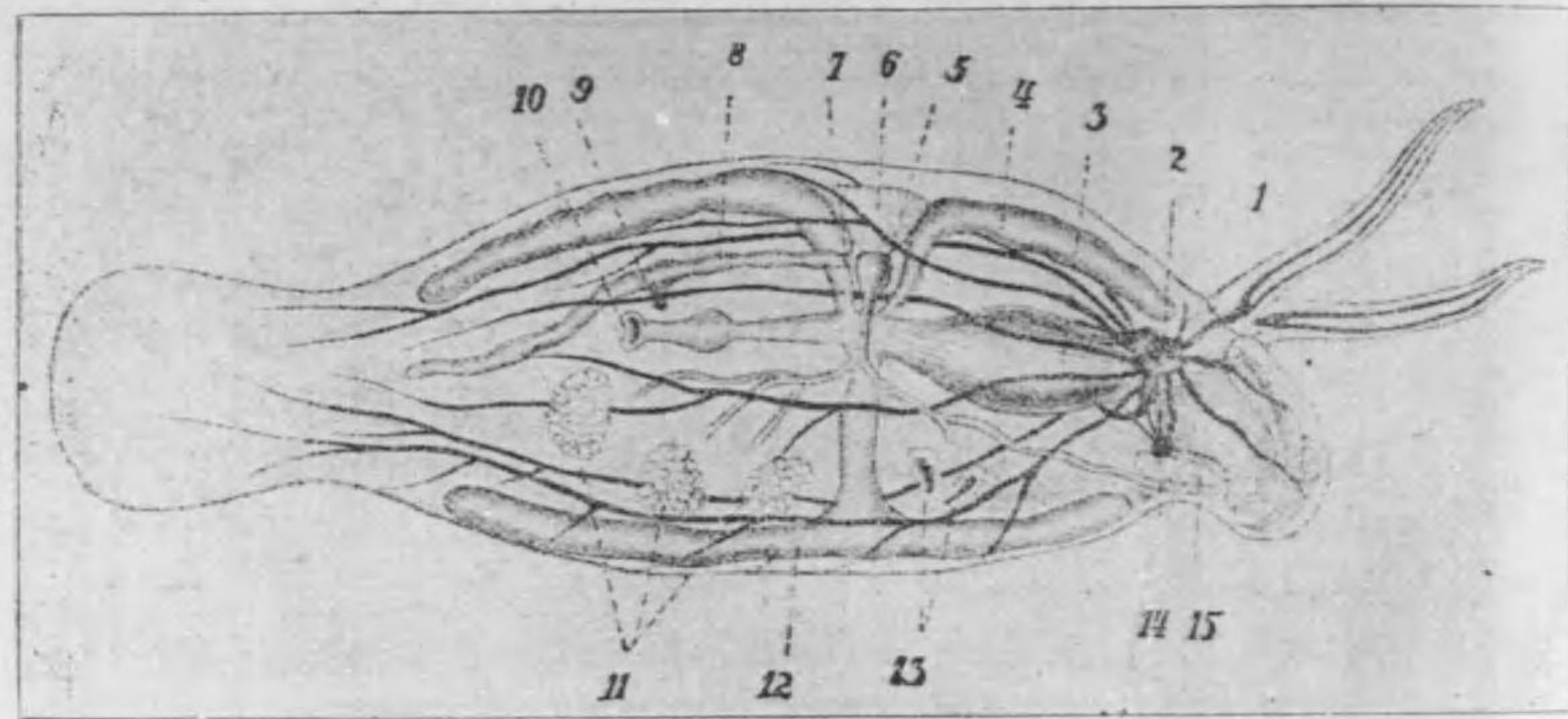
屬名スキイレア (Scyllaea) は「海神」の義である。動物體は伸長し、且つ壓搾する。足は狭くして、且つ溝を有し、以つて海藻を把握するに適する。背には翼状をなせる側裂片の二對ありて、その内面には、小形なる總状の鰓がある。觸角は背上に位し、細くしてその先端は薄板状をなし、長き鞘中に收縮することが出来る。砂囊には角質の小刀状の板を有するのである。

本屬のものには數種ありて、太西洋、南英國、地中海等に産し、海面に浮漂せる海藻に附着して居る。

〔三〕 ミノウミウシ科 (Aeolidae)

特別なる鰓を有することなくして、背面には無數の觸手状突起あり、この中には肝臓が擴がつて居る。觸角には鞘を有せざるを以つて、之を收容することが出来ない。皮膚は平滑にして、刺状突起を有することはない。

〔一〕 ミノウミウシ又エナリス Aeolis



圖六十二百四第

種一エーローイフ

(from Lang) 面側の (Phyllirhoë bucephalum)

室心 5 囊盲の腸るす成形を腺化消 12 及 4 胃 3 球神経腦 2 角觸 1
右 10 部孔外の臟腎るけ於に側右 9 臟腎 8 孔く開に腔心圍の臟腎 7 耳心 6
腺唾 15 球神経部口 14 (す略を管輸) 腺性兩 11 門肛の側

面背上にありて二本である。

〔一〕 フィリローエ

Phyllirhoë

屬名フィリローエ (Phyllirhoë) はフィ
ロン (Phyllon) (義葉の) ローエ (Rhoe) (義波の)
より成る。動物體は半透明にして、紡錘
状をなし、裂片狀の尾を有する。口は圓
るく截狀をなし、顎は角質にして、舌帶
の齒はその中央齒を缺き、側齒は三個
宛である。觸角は細長にして短き鞘が
ある。本屬には六種ありて、地中海、モル
ツカ、及び太平洋に産するのである。

第五目 翼足類

(Pteropoda)



圖五十二百四第

種一シウミウノミ

る見りよ面側右を (Aeolis rufibranchialis)

孔殖生 6 門肛 5 起突狀手觸 4 手觸部口 3 角觸部頭 2 眼 1
(After Alder & Hancock)

屬名エヲリス (Aeolis) は「エオルス (Aeolus) の娘」
の義である。この類は、干満兩潮線間の岩石中に
發見せられ、體は卵圓形にして、背上有る觸角
は平滑卵形にして細く、絶へず之を動かし、活潑
に匍匐するのである。色は美麗にして、黄褐色、橙
黄色、紫色若くは緑と白との縞をなせるものが
あつて、一樣ではない。その食物は小動物である
といふことである。而して他より妨害を受くる
ときは、動物體の背面にある觸手狀の突起より、
乳白色の液を分泌するのである。

〔四〕 フィリローエ科

(Phyllirhoëidae)

本科の動物は、海洋面に游泳するものにして、
體は狭く且つ側壓せられ、足を有せざれども、鰭
狀の尾を用ひて自由に游泳する。觸角は體の前

體は、時としては伸直に延長するものあり、或は體の後部が螺旋狀に巻けるものがある。體の前部には口及び觸角を有するが、頭部は體部と明かに區別せらるゝことはなく、口の下には蝸牛の足の側裂片として考へられたる二個の大なる側鰭があつて、之をピラノク動かして運動するのである。體は全く裸出し、著明に分離する外套膜なきものゝ種々なる形狀をなせる介殻を有するものがあつて、この中に體軀及び鰭を完全に引き入れ得るものがある。而して介殻を有する場各には、外套膜は完全に發達し、而して體の大部分をば、鰭のある部分にまで閉づることが出来る。また鰭の後方には、外套腔に通ずる一裂罅がある。介殻は左右相稱にして、半透明なる背腹二板の結合より成り、角質、膠質、若くは石灰質である。

皮膚は常に石灰質の凝結せるもの、皮膚腺、色素細胞を有し、爲めに暗褐色、帶褐色又は赤味ある色を呈する。口は時としては數個の腕狀の突起を以つて圍まれて居ること、クリオ (Clio) の如きあり。又ブニューモデルモン (Pneumodermion) の口には、微小なる吸盤を具へたる二個の觸角狀の突起がある。これは烏賊の背面に位する足と比較し得べしと説く人あれども、果してそれと同一の性質なるや否やは、決定せられて居ないのである。口腔には顎及び齒を有する舌帯がある。口の底部より長き食道を経て、胃よ

り長く屈曲せる腸に至る。胃は筋肉に富み、その内壁には齒がある。肝臓は腸を取り圍み、側方及び前方に屈曲する。肛門は體の右側に於て、且つ體の前端に近く外套腔内に開いて居る。これ腸は屈曲して、更らに前端に向ひて折れ返り、以つて頸の右側に終れる爲めにして、この點は頭足類と似た所である。

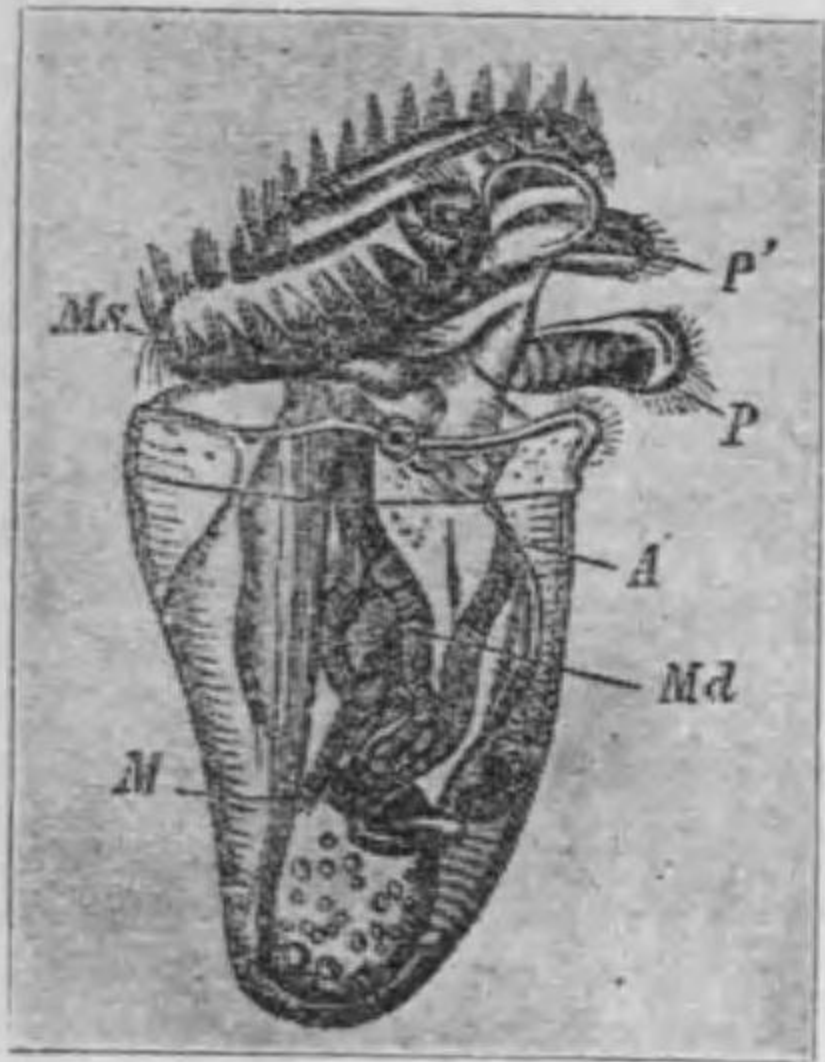
呼吸器は體の全面にて營むことクリオ (Clio) の如きあり。或は體の後端に於て露出せる葉狀の鰓の附屬物にて營むことブネウモデルモン (Pneumodermion) の如きあり。或は介殻を有する種類に於けるが如く、外套腔内にある鰓にて營まるものがある。而して外套腔への入口の縁邊には、特別なる纖毛帯を有する。鰓はその發達不良にして、纖毛ある外套膜壁の皺狀に隆起せるものに過ぎざるか、又は外套膜その者たるに過ぎないのである。

腎臓は一個の伸長せる收縮性の囊にして、一個の纖毛ある漏斗によりて、心囊腔に交通し、また一本の纖毛ある孔によりて、外套腔に開くか、若くは直接に外界に開き、この孔は閉づることが出来る。

聽官は耳囊にして、一對がある。眼は之を有せざるか或はヒアレア (Hyalea) の如く赤色の斑點となりて、食道神經環に近き内臟囊にあるものがある。或は是等の斑點が

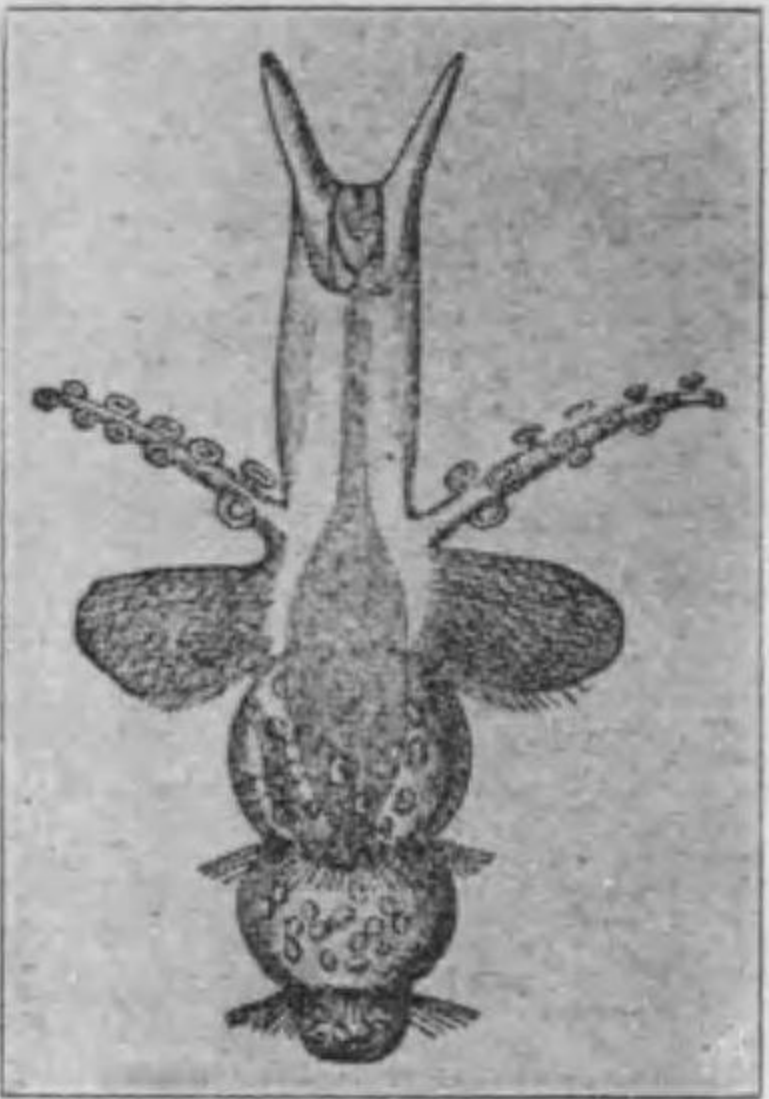
觸角上にあることクリオ (Clio) の如きがある。觸覚は二個の小なる觸角に因りて營むことヒアリア (Hyalea) 及びキイムブリア (Cymbulia) の如きあり。或は稍大形なる觸角状の突起にて營むことクリオ (Clio) 及びブネウモデルモン (Pneumodermion) の如きがあ

る。翼足類は雌雄同體にして、兩性腺は内臟囊中に於て、胃の後方なる心臟附近に位する。而してその輸管は共通にして、肛門の前方に於て、右側に於て體外へ開くを常とする。卵は卵白を以て圍まれ、長き紐状體中に置かれ、自由に海に浮ぶのである。胚は帆状の裂片と介殻とを有し、幼蟲となりて卵を出づ。而して帆 (Velum) が萎縮する時に、二個の鰭は、次第に足の最初に形成せられたる不對の部分上に現はれ、その際鰭を有する



圖七十二百四第 種一類足翼 蟲幼の (Cavolinia tridentata) (After Fol) 側二の足 P' 足 P 帆 Ms 筋縮率 M 門肛 A 片裂 胃 Md 筋 retrashr

介殻は、脱去するを常とす。然しながらヒアリア科にては、幼蟲時代の介殻は殘存して、更らに一層發達する。而してキムブリア科にては、之を脱去して新介殻を生ずるのである。介殻を有せざるブネウモデルモン科及びクリオ科にては、介殻及び帆を脱した



圖八十二百四第 蟲幼の科ンモルテモウネブ (After Gegenburr)

恐らくは小形の動物を食ふならんといふ。而して北海にありては、鯨類及び多くの海鳥類の主要なる食物となつて居る。翼足類を分ちて次の二亞目とする。

第一亞目 鞘體類 (假稱) Thecosomata

原語テコソマタ (Thecosomata) はテケ (Theke) (義鞘) ソマ (Soma) (義體) より成る。假に鞘體類といふ。また有殻類などの名も宜しからんか。體の外部には介殻を有し、また外套膜、外套腔を有し、觸角は一對である。頭は著明でない。足と觸角とは退縮し、而して足は鰭と結合するのである。口は運動器の結合によりて結合せられたる一腔中に位し、肛門はその左に位する。呼吸器は、外套腔内に存在するのである。主として小

形の原始動物及び藻類を食する。

第二亞目 裸體類(假稱) Gymnosomata

原語より譯して、斯く名づく。動物體には介殼又は外套膜及外套腔なく、頭は顯著にして二對の觸角を有し、鰭は足と分離し、且つ頭の兩側に固着し、時に外部に鰓を有するものもある。肛門は口の右に位する。總べて食肉性にして、主に鞘體類を食するのである。而して幼蟲は纖毛環を有するのである。

第一亞目 鞘體類(假稱) Thecosomata

(一) ヒアレリア科 (Hyaleidae)

動物體は、二個の大なる鰭を有し、鰭は殼の頂端より鰭の基部に亘れる殼軸筋によりて附着する。體は外套膜中に閉ぢられ、鰓は外套腔内の腹側に於ける。横に皺をなせる纖毛ある表面によりて代表せらる。介殼は石灰質若くは角質にして、腹面は膨起するか、或は圓錐狀をなし、且つ左右相稱である。

(一) ヒアレリア Hyalea

屬名ヒアレリア (Hyalea) はヒアレリアス (Hyaleos) より出で、硝子質の義である。介殼は



圖九十二百四第
アレアヒ
(Hyalea tridentata)
(After Woodward)

種を有し、太西洋、地中海、及び印度洋に棲むのである。

(二) クレオドラ Cleodora

動物は退縮する眼を有し、觸角は發育不完全である。鰭は廣大にして、腹方に於て一個の圓るき裂片によりて結合する。介殼は圓錐狀をなし、三側邊を有し、横條ありて、その腹側は扁平なれども、背側は龍骨狀に隆起し、殼口は單純にして三角形をなし、殼頂は鋭い。而して鰓の横帶、心臟、及び他の器官は透明なる介殼より透して見ゆるのである。本屬のものは太西洋、地中海、印度洋に産するのである。

(三) クレセイリス Creseis

動物體は細き圓錐狀をなして、尖りて伸直なるか、又は屈曲する。鰭は寧ろ狭く截形をなし、その背方の縁邊より突出



圖十三百四第
ラドチレク
(Cleodora pyramidalis L.)
(After Woodward)



圖一十三百四第
種一スイセルク
(Creseis aciculata
Rang)
(After Woodward)

形は小舟状なるか、又は上靴状である。

する小觸角を有する。外套膜には左側に於て一個の螺旋状の部を有する。本属の分布は前属と同一である。

(二) キンブリア科 (Cymbulidae)

前科に似たれども、介殻は内部にありて、軟骨質をなし、

(一) キンブリア Cymbulia

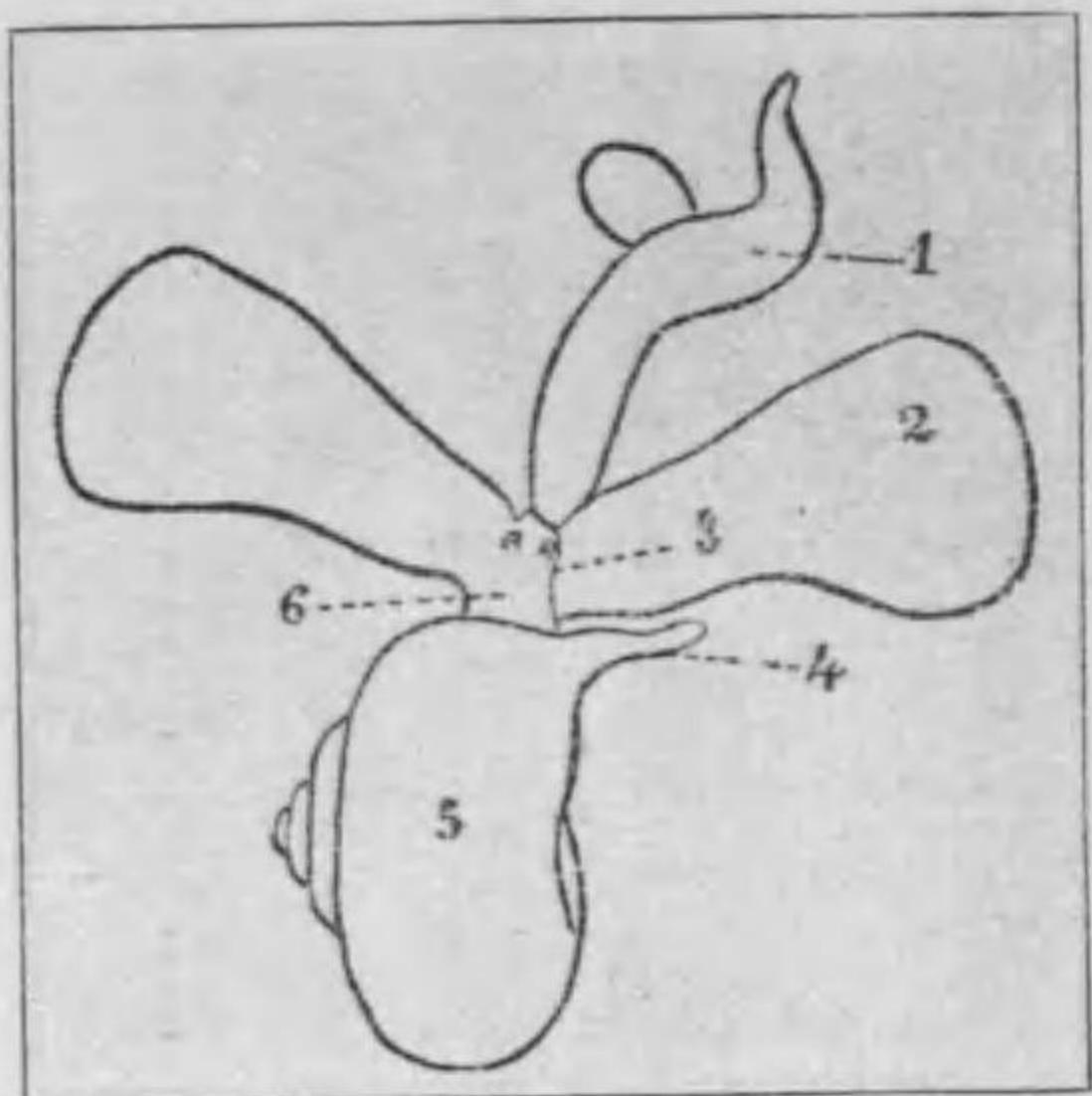
属名キンブリア (Cymbulia) はキンバ (Cymba) より出で「小舟」の義である。介殻は軟骨



圖二十三百四第
種一アリブッキ
(Cymbulia proboscidea Peron)
(After Woodward)

質にして上靴状をなし、前方に於て尖り、後方は截形をなし、殻口は伸長し、且つ腹方に位する。動物は腹方に於て、一個の伸長せる裂片に因りて連続せる、大なる圓るき緒を有し。口には微小なる觸角を有し、舌帯の齒は、中央にあるものは一個で、其の兩側のものも亦一個である。胃は筋肉に富み、二個の鋭るごき板を有するのである。本属のものは、大西洋、地中海及び印度洋に産するのである。

(三) リマキナ科 (Limaciniidae)



圖三十三百四第
種一ナキマリ
面背の (Limacina Lesueurii)
(After Pelsener)
液精 3 (Parapodium) 鱗 2 莖陰 1
起突袋外 4 (Seminal furrow) 溝
精ひ及角觸二 6 囊臓内 5 (balancer)
部頭るす有を (3) 溝液

本科の動物は、口の兩側に固着せる緒を有する。介殻は外方にありて石灰質をなし左巻である。これによりて、アトランタ、カリナリア及び最も多くの他の腹足類の幼蟲と區別することが出来る。而して螺旋状の層を有するものがある。

(一) リマキナ Limacina

属名リマキナ (Limacina) は「蝸牛状」の義である。介殻は略球状にして、左巻きをなし、臍がある。螺層は横條を有し、層を缺いて居る。鱗は擴張し、その腹縁には刻目がある。本属のものは、北氷洋及び南氷洋に産し、常に群居するのである。

第二亞目 裸體類 (假稱) (Gymnosomata)

(一) クリオ科 (Chionidae)

本科の動物體は紡錘状をなし、鰓を缺いて居る。

(一) クリオ Olio



圖四十三百四第
オリク
(Clio borealis Brug)
(After Woodward)

七四二

屬名クリオ (Clio) は「海神」の義である。頭には二本の眼を有する觸角と、二本の單純なる觸角状のものを有し、口には側裂片がある。各者は三個の圓錐形の收縮する突起を支へて居つて、これらの突起には、無數の顯微鏡的の吸盤がある。鱈は卵圓形にして、足には裂片を有する。游泳するに當りては、鱈の端をば殆んど相接觸する位に持ち來し、之を上下に動かすのである。本屬のものは、北氷洋、南氷洋、ノルウェー及び印度洋に産するのである。

(二) プネウモデルモン科 (Pneumodermionidae)

本科の動物の體は紡錘狀をなし、外方には鰓を有し、また二個に突出する觸角状の突起即ち腕には、吸盤を有し、且つこれは鱈の前方に位するのである。



圖五十三百四第
ンモルデモウネブ種
(Pneumodermion violaceum D'Orb.)
(After Woodward)
(大一分三)

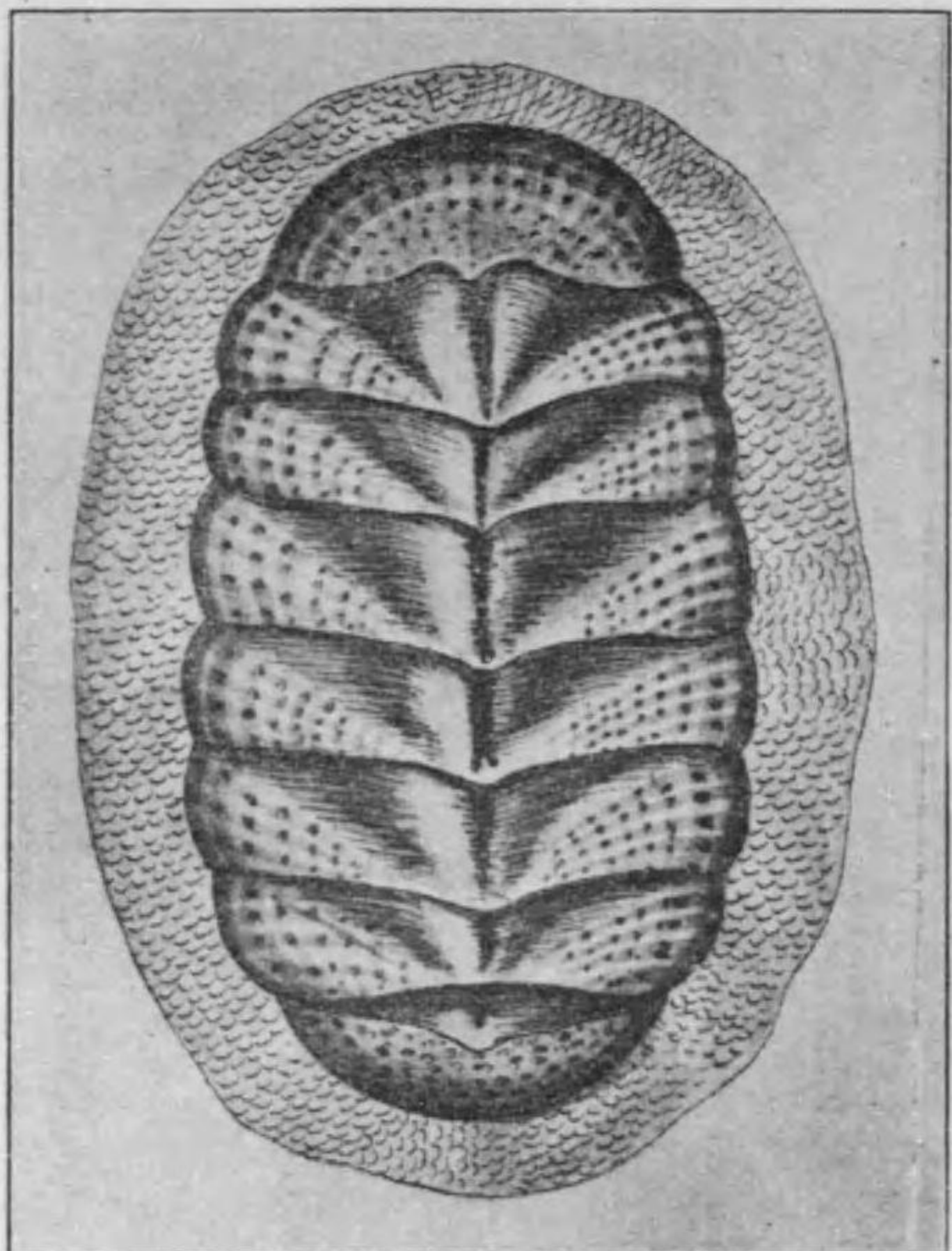
屬名プネウモデルモン (Pneumodermion) はプネウモン (Pneumon) (肺の義) 及びデルマ (Dermis) (皮膚) の二語より成る。體は紡錘狀をなし、鱈は圓く、足は卵圓形にして、尖れる後方の裂片を有する。本屬には四種

(一) プネウモデルモン (Pneumodermion)

ありて、太西洋、印度洋及び太平洋に産するのである。

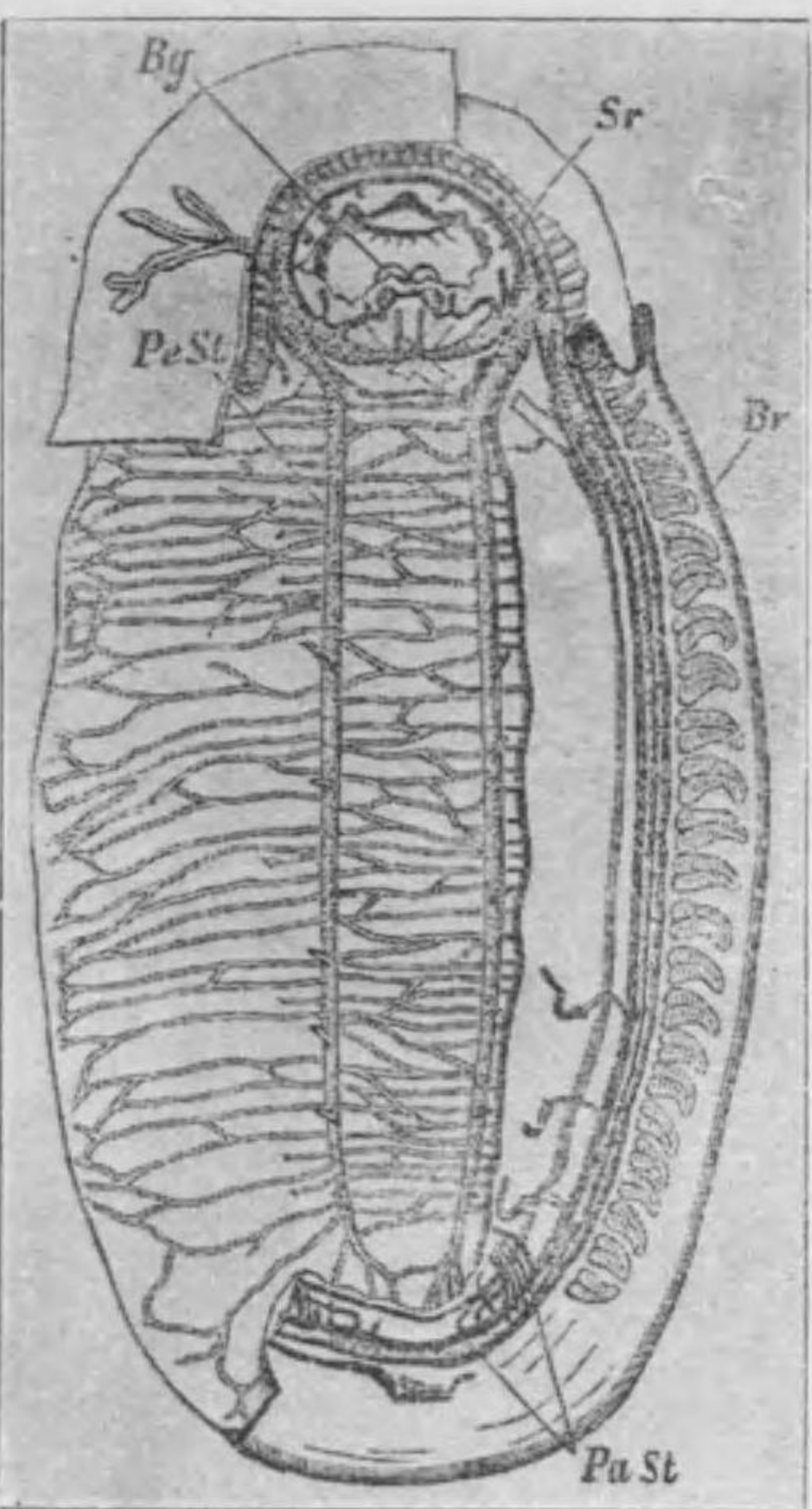
第六目 有板類又板殼類 (Placophora)

この類は、背部に八枚の介殼を有し、腹全體を以つて匍匐し、また舌帯を有するが如きは、明らかに腹足類に似たれども、左右相稱にして蠕蟲狀をなし、頭部と眼と觸角とを缺き、且つ神経系は腹足類と異り簡單にして、二個の側神経幹と、二個の腹神経系と



圖六十三百四第
セガイザ
(After Plètre)

を有し、是等は無數の神経絲によりて相連絡し、その全長を通じて、神経球細胞を具へる點は、之を腹足類の綱より分離して、プロネヲメニア (Pronemania) ネヲメニア (Neomenia) レビドメニア (Lepidomenia) ドンデルシア (Dondersia) ケートデルマ (Chaetoderma) の諸屬を含める無板殼類 (Aplousophora) なる一目と共に、兩側神



圖七十三百四第
(After B. Haller) 系經神のセカイチ
經神套外 Pe. St. 口 Bg 環道食 Sr
器 Br



圖八十三百四第
式齒のスルネトキ

列をなして並んで居る。キトネルス(Chitonellus)を除き、皆足はよく發達し、これにて匍匐し、また岩石面に固着するのである。雌雄異體にして、生殖輸管及び排泄器は對をなし、心臟は二心耳を具へ、舌帶の齒は中央のもの及び其の兩側にあるものは三齒ありて、縁齒は四個である。

經類又雙神經類(Amphine-
ura)の一綱を設くる分類
法もあるのである。
有板類の有する鰓は、
無數にして足及び外套
膜の間なる溝中に於て、
左右兩側に一個宛の縦



圖九十三百四第
種一セカイチ
(Chiton(Acanthochi-
tonis) fascicularis, L.)
(After Woodward)



圖十四百四第
種一セカイチ
(Chiton spinosu
Brug) After Wood-
ward)

(一) デイガセ科 (Chitonidae)

(一) デイガセ又ロザラガヒ Chiton

屬名キトン(Chiton)は「鎧」の義である。海岸の岩礁上に固着する動物にして、體の背面には八枚の殻が前後に排列し、淡褐黒色であつて、その周圍は黒綠色である。腹面は淡紅色及び黃色に、稍紅色を帯べる部分ありて、全長は一寸二分五厘、幅八分に達するものがある。この動物が岩に固着するときは、淡紫褐色をなせる。

岩礁面と一致し、ちよつと發見し難いのである。
(二) キトネルス Chitonellus

背部にある八枚の殻は、大部分筋肉中に埋没し、僅にその頂を露すのみである。體長は二寸を超ゆ。

(三) クリプトキトン Cryptochiton

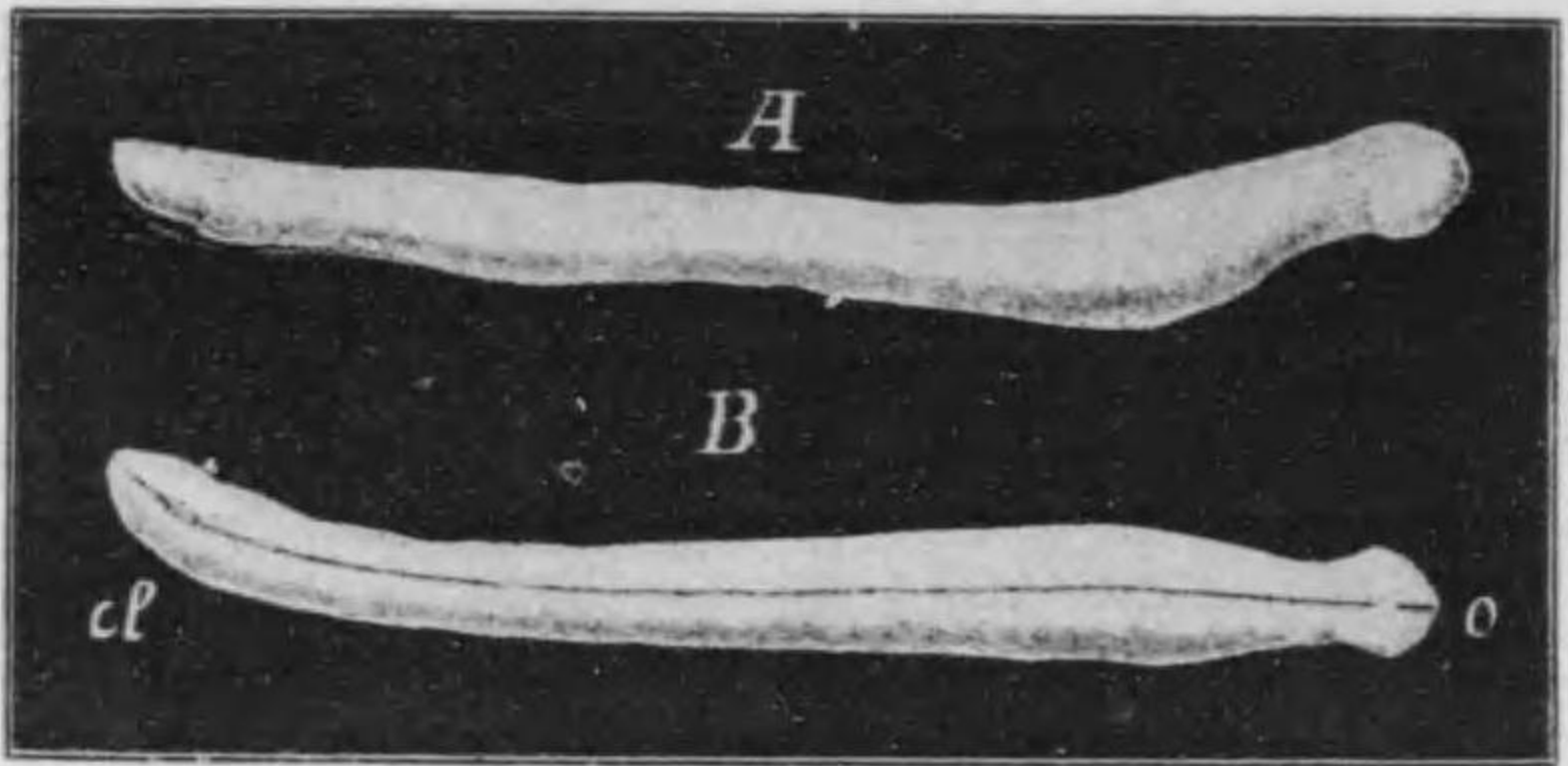
英名をソウダスト、チトン(Saw-dust chiton)といふ「鋸屑デイガセ」の義である。殻は全く外套膜中に埋没して居る。

板殻に對する背部縁邊には、細き刺が總狀に出で、居る。本屬のものにて、本邦にはケハダヒザラガヒ (*Acanthochites delippi*, Tappan) がある。

〔四〕 アカントキテス *Acanthochites*

附 録

無板殻類 (*Aplacophora*)



圖一十四百四第
種一アニメオネロブ
(*Proneomenia sluiteri*) (大二分三の物質)
腔泄排 cl 口 O 圖る見りよ面下 B 圖る見りよ側右 A
(After Arnold Lang)

體は殆んど圓筒狀をなし、概して蠕蟲に似て居る。介殻を有することなく、上皮 (*Outside*) は非常に厚くなり、石灰質の針骨を有する。足は退縮して、單に一隆起となりて残れるに過ぎない。外套腔はこの隆起の兩側に於て、一溝となりて退化する。而して體の後部には一孔を開き、腸の末端及び排泄器は、此部を開けるを以つてこれは排泄腔である。鰓を有するときは排泄腔内に存するのであるが、鰓は退化して居る。排泄器は亦生殖物を排泄する用を兼ねて居る。この類は次の二科に分かる。

第一 子ナメニア科 (*Nemertidae*)

本科のものは、足は腹面の中央にある一縦溝の基部より、高まりたる一縦隆起たる

に過ぎない。雌雄同體である。

七四八

本科にはプロネフメニア (Pronemania) ネヲメニア (Nemania) レピドメニア (Lepidomenia) ドンデルシア (Dondersia) の諸属がある。

第二 ケートデルマ科 (Chaetodermidae)

足及び足溝は全く退化して居る。雌雄は異體である。これにはケートデルマ属 (Chaetoderma) がある。

第三綱 斧足類 (Pelecypoda) 又瓣鰓類

(Lamelli-Branchiata)

斧足類は體は側方より壓搾せられて縦扁となり、頭を有することなく、足は楔狀をなし、背部は總て外套膜を以つて被はれ、二枚の介殻を具へて居る。

介殻は左右の位置に位する。而して左右兩殼の大き及び厚さが、何れも同じきときは、之を同形といひ、若し然らざるときは、之を不同形といふ。また介殻の前後兩半部が、同大なるときは、之を正形といひ、然らざるときは不正形といふ。介殻の形狀は種屬によりて異同ありて、或は三角形をなせるあり、或は心臟形をなせるあり、或は卵圓形をなせるあり、一様でない。また介殻が全く閉ぢ得るものを閉づといひ、全く閉鎖し能はざるものを開くといふ。

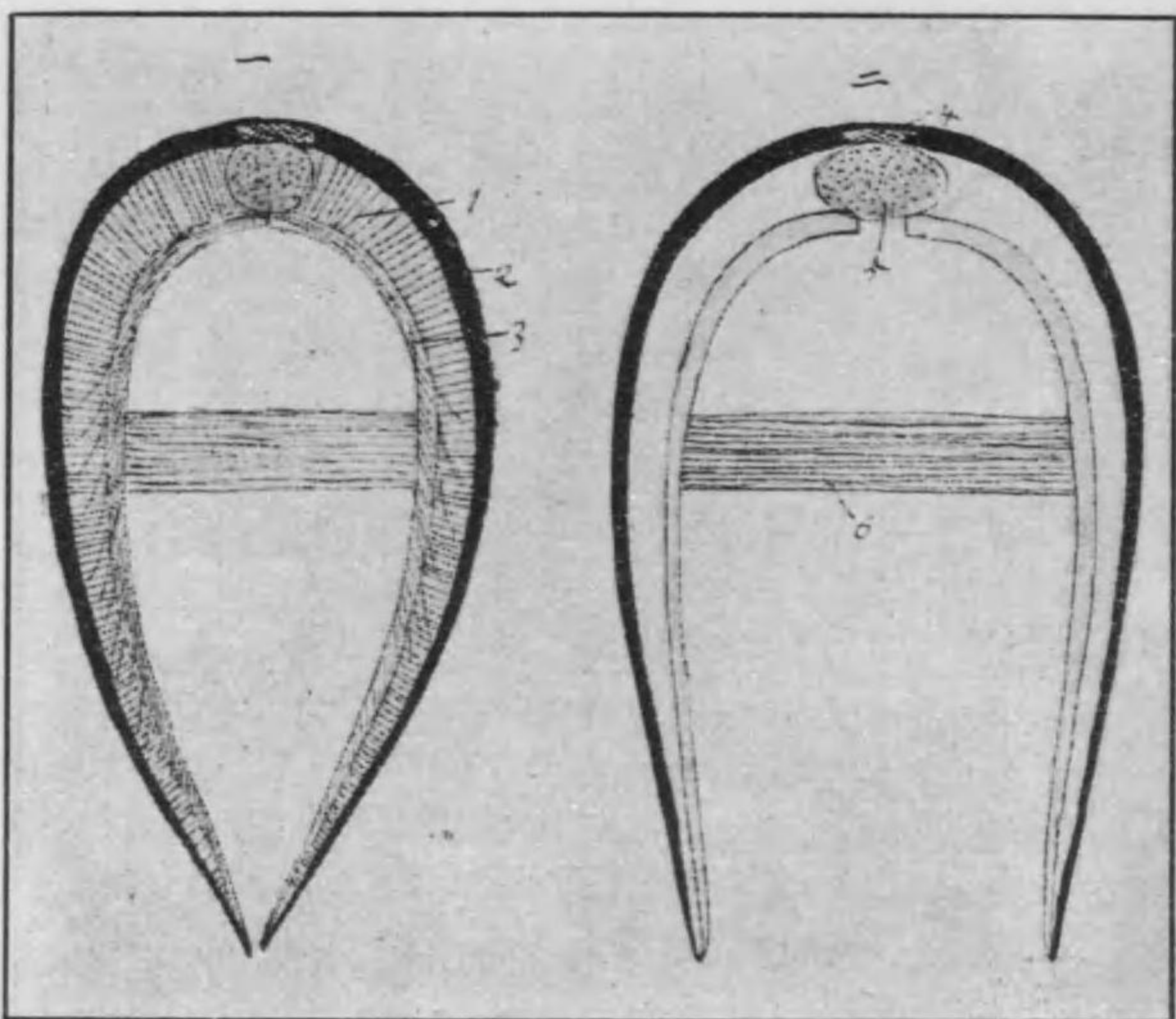
斧足類の介殻の表面には、螺類に見るが如き突起を有することなく、全く平滑である。これ此の類の大多數のものは、常に泥砂中に埋没し、斧狀の足を出し、その中を鋤き割りて匍匐するを以つて、若し介殻の表面にして突起を有する時は、これが爲めに、その運動を妨害せられ、全く進行すること能はざるべし。これ斧足類の介殻の表面が、平

滑なる所以である。

介殻の背側に當りて突出せる部分を、殻頂 (Umbo) といひ、多くは體の前方に傾くを常とする。殻頂に接して存在する平坦なる部分を有する時は、之を丘 (Lunule) といふ。介殻の表面には、輪層を有するあり、或は放射線を有するのがある。若し放射線にして著しく隆起するときは、肋又壘又隆起 (Rib) といふ。殻頂の下部内方には、左右兩殼に凸凹部を有し、一殼の凸部は、他殼の凹部と相嵌入し、以て蝶鉸 (Hinge) をなして居る。この凸部を主齒 (Cardinal teeth 又 Hinge teeth) といふ。主齒に接して兩側に存する齒を、側齒 (Lateral teeth) といふ。介殻の種屬により、主齒のみを有するものあり、或は側齒が非常に發達して、主齒を有せざるものあり、或は幼貝にては齒は鋭るごく著明であるが、老貝にては、漸々厚くなり、遂に不明となれるものがある。或は又無齒のものもある。之を要するに、主齒及び側齒の數と形狀とは、種屬の鑑定に必要な事項の一つである。殻頂附近には、黑色弾力性の靱帶 (Ligament) がある。これは二層より成り、内層は弾性に富めども、外層は然らずして、介殻の表皮と連絡する。若し靱帶が介殻の内部の窪所に存するとき、之を内靱 (Cartilage) といひ、外部に有するとき、外靱 (Ligament) といふ。靱帶はその彈性に因りて、介殻の腹縁を開かしむる作用をなすのである。靱帶の位置及びその形狀

は、介殻の種屬に因つて異なるのである。

介殻の内面には、ハマグリのような如きものにありては、殻の前縁と後縁とに、各一個の橢



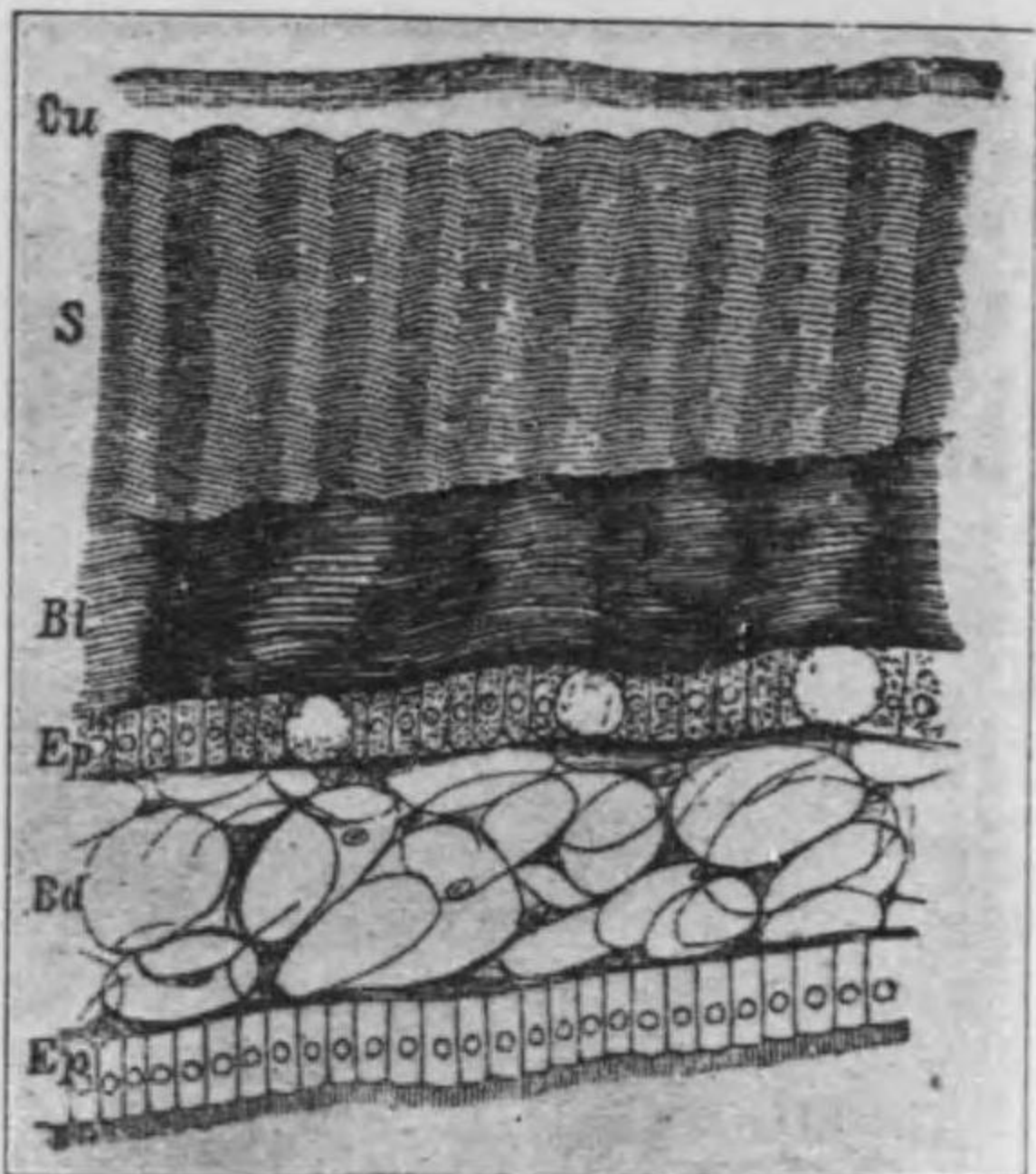
第四百二十四圖 一(閉) 二(開) 介殻の構造 1. 殻を閉する時 2. 殻を開く時 3. 殻の内部の筋 4. 殻の外部の筋 5. 殻の外部の靱帶 6. 殻の内部の靱帶 (Lang)

圓形の窪處がある。之は貝柱又肉柱の附着せる痕跡である。抑も貝柱は、左右兩殼の間に連亘する筋肉にして、これが收縮する時は、靱帶の作用とは反對に、兩殼を閉づるものなるを以つて、收殻筋 (Adductor Muscle) の名がある。而して前方に位するものを前收殻筋といひ、後方にあるものを後收殻筋といふ。ハマグリなどの貝類を煮る時は、この筋肉も死するを以つて、最早收縮して介殻を閉づることは出来ない。従つて靱帶は、その固有の彈性によりて、容易に兩殼を開展せしむるのである。貝柱

は前後その大きさを異にするものあり、或は前貝柱は退縮して、後貝柱のみ非常に強大となれるものあり、されば殻の内面に印せる貝柱痕の數、及び前後貝柱痕の大小は、分類上必要なる特徴の一つとなつて居る。肛門は後貝柱に接近して位するを常とする。

介殼の縁邊に平行して存在する曲線を、外套線 (Pallial line) といふ。これは殻に付ける外套膜の縁邊を固着せしむる筋肉繊維の痕であるが、この線は、介殼の後方に於いて、彎曲部 (Pallial sinus) を有するものと、然らざるものがある。ハマグリの如き介殼にては、この彎曲部を有するものにして、此の部は伸出したる水管をば、體内に收容する作用ある筋肉、即ち收水管筋の附着せる痕跡を示すものである。さればこの筋肉が發達するだけそれだけ、彎曲部は大きくなるべきは當然である。而して收水管筋の強大となれるは、水管が頗るよく發達して、之を體内へ牽縮するに、大なる筋力を要する爲めである。さればハマグリの介殼に見るが如く、外套線の後部に彎曲部を有するものは、總べて水管を有する種屬にして、然かもその水管が長いといふことを、暗示したものであるから、外套線の彎曲部の有無は、介殼種屬の鑑別に必要なる特徴の一つである。

介殼は外中内の三層より成る、外層は角質にして炭酸石灰を含み、また老成するときは、剝離するのである。之を骨膜層といひ、中層は炭酸石灰の柱狀層より成る、之を



第百四十三圖 (Anodonta) のガブド 介殼外膜の斷面 Cu (after Leydig) 皮上 皮表部外の膜套外 Ep' 層珠真 Bl 層柱稜 S 皮表部内の膜套外 Ep 織組締結 Bl

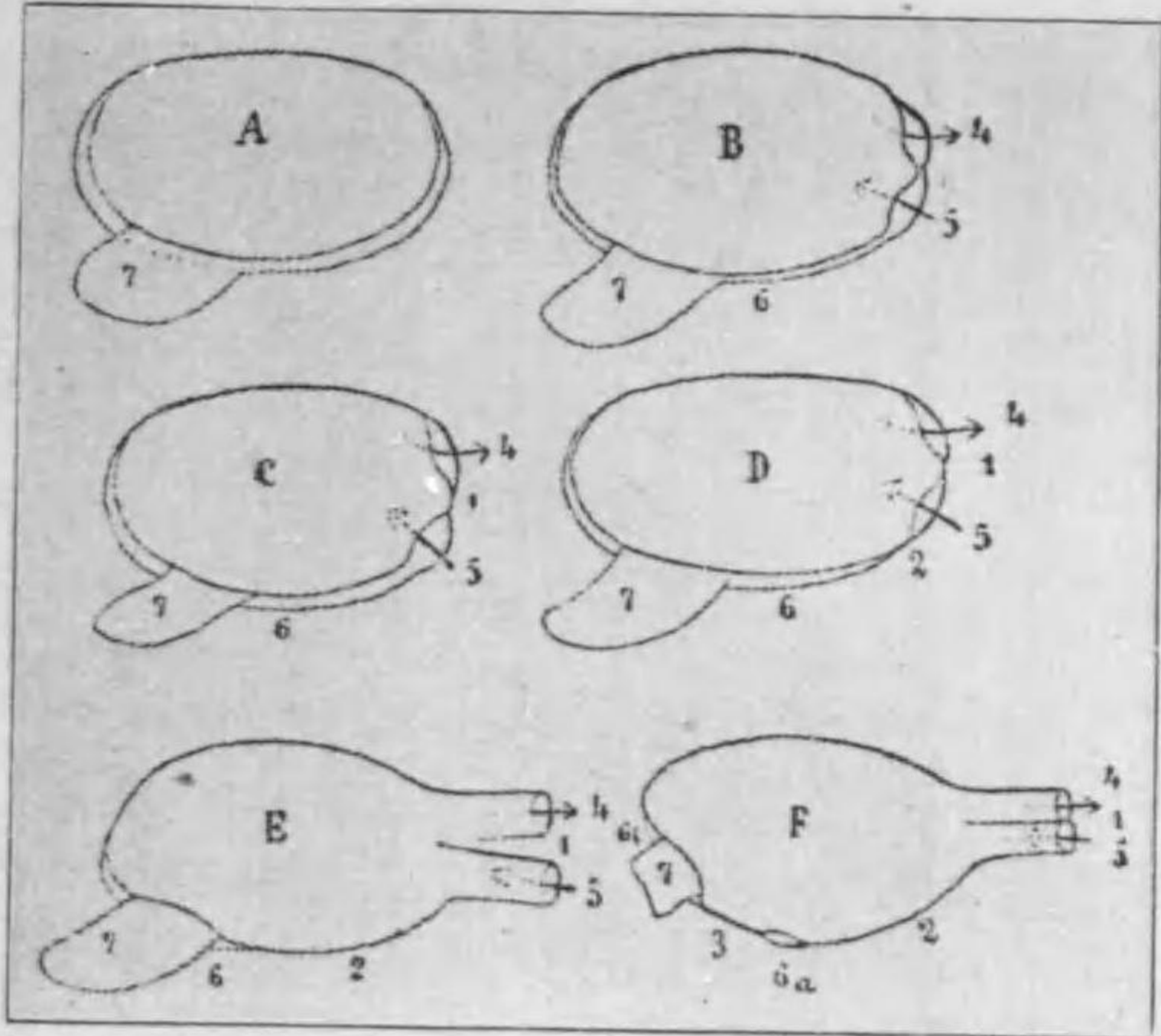
稜柱層といふ。内層は外套膜の表面に附着する部分にして、極めて薄く、真珠光澤を有するを以つて、之を真珠層といふ。これら三層の構造は、斧足類の種類によりて、異同を見れども、外中の二層は外套膜の游離縁に於て形成せられ、内層は外套膜の全外面に亘れる表膜によりて形成せらるゝものであるといふ。

介殼の長さとは、介殼の前端より後端に至る迄をいひ、高さとは、殼頂より腹縁迄をいひ、厚さとは、兩殼の最も膨起したる部分をいふ。

外套膜は、背部の柔軟なる上皮が褶襞をなして垂下し、以つて身體の周圍を被包したる大なる葉片状をなせるものにして、介殼に接して左右一枚宛がある。その腹縁は稍厚くして、筋肉纖維に富み、殼の内面に附着する。而してその縁邊は單純にして、皺襞、乳頭突起、觸手等を有せざるものもあれども、(キクラガ科) 大多數の斧足類にありては、縁邊は複雑となりて、皺襞、突起、觸手、乳頭及び腺等を有するものがある。而して左右

の外套膜は相分離し、或は腹縁の二三點に於て癒着して裂孔を生ずるものがある。今左に四類に區別して説明する。

(第一)完全に分離して開ける外套膜を有するもの。
之に屬するものは、キララガヒ科のヌクラ屬(Nucula)ナミマカシハ科、アカガヒ科、三角



第四百四十四圖 瓣脚類に於ける水管及び水管の形成を以て示す各種の形式の模式圖 (after Lang) 示す各種の形式の模式圖。A. 裂孔の前方に突起を有する。B. 裂孔の前方に突起を有する。C. 裂孔の前方に突起を有する。D. 裂孔の前方に突起を有する。E. 裂孔の前方に突起を有する。F. 裂孔の前方に突起を有する。

貝科、ホタテガヒ科、タイラギ科、シンジュガヒ科(ジュンガヒ科)、カキ科、ミノガヒ科、又キツネガヒ科、メンガヒ科、又ウミキク科、クラツサテラ屬の二三種(テラツサテラ科)である。

(第二)外套膜の兩側片は一點に於て結合するもの

此場合に於て、結合點は殆んど常に後方に於て且

つ上部に位する。而してこゝに小孔がある。この小孔は、肛門と同一水平線上に位し、出水孔である。而してその縁邊は、多少後方に伸長し、以つて水管又肛門水管(Anal Siphon)を形成し、以つて介殼外に突出し得るものがある。この出水管の少し下方の一點に於て、外套膜の縁邊は、常に相互に相接觸すれども、未だ結合するに至らないのである。この一點の上方即ち、この一點と水管との間に於て、外套膜の縁邊は、入水孔又鰓孔(Branchial aperture)を形成するやうに分離する。この孔の縁邊は、亦後方に於て水管となりて突出するものがある。然しながら、入水管はこの場合に於て、その下側の全長に沿ふて擴れる裂縫を有するのである。これは外套膜の大なる裂縫の連続である。この方法即ち外套膜縁邊が、單に接着することに因りて形成せられたる入水管は、キララガヒ科のマレチア屬(Mallelia)に見出さるのである。

一點に於て結合せる爲めに、大なる外套膜の裂縫と分離して生じたる出水孔を有するものには、キララガヒ科のマレチア屬(Mallelia)、イガヒ科の大多數のもの、シンジュガヒ科のシンジュガヒ屬、トマガヒ科、エゾシラガヒ科、クラツサテラ科の大多數のもの、カラスガヒ屬等がある。

キララガヒ科のソレノミイア屬(Solenomya)にては、二つの外套膜の縁邊は、唯一點

に於てのみ共に合着するが、外套膜の腹面の遊離部の後半部を閉づる位まで合着して居る。これが爲めに、外套膜の縫裂は二部に分かる。即ち前孔をなせるものは、足を出せしむる用をなし、後孔をなせるものは、入水孔と出水孔との兩者を兼ねて居る。かゝる排列を有するは唯この属のみである。

(第三)外套膜は二點に於て合着し、以つて三孔を生ずるもの。

此状態は、入水孔が大なる前方にある外套膜の縫裂の殘部より、完全に分離せる結果、生じたるものである。而して入水孔と出水孔とは、唯一縫裂として存するものあり、或は長き入水管と出水管か、若くは短き入水管と出水管となりて、突出するものもある。大なる前方及び腹方の外套膜の裂孔は、足を伸出する用をなすを以つて、之を足孔といふ。

この状態は、キララガヒ科のレダ属(Leda)及びベツカフキララ属、ツキガヒ科、及び蛄科中の大多數のもの、カラスガヒ科中のあるもの、ナミノコガヒ科、マスホガヒ科、サラガヒ科、ハマグリ科、ザルガヒ科又トリガヒ科、ウバガヒ科、プロミイア科、カスビダリア科に見るのである。

或る斧足類にありては、出水孔及び入水孔若くは兩水管間の結合が、短くなつた爲

めに、一孔は直ぐと他孔の下に位するものがある。然しながら斯る場合に於ては、入水孔の前縁邊が、大部分結合する爲めに、足孔は一個の小なる前縁隙と退化するのである。而して斯かる状態に於ては、外套膜は閉ぢて居る。而して斯くの如き外套膜を有するものは、セミアサリ属、カモメガヒ科、フナクヒムシ科等である。

(第四)外套膜は閉ぢ、且つ三點に於て結合せる爲めに、第三にて述べたる三孔の外に、第四孔を有するもの。

此第四孔は常に小さく、足孔と入水孔との間に位し、恐らくは、足絲を出入せしむる退化したる縫裂と符合するものであらう。これはマテガヒ属、カモジガヒ属(Littoraria) (共にマテ) モンズリ属、ツツガキ属、クラバゲラ属等に見るのである。

出水孔は時に總狀をなすものがある、而して入水孔は殆ど常に總狀をなして居る。即ち突起、乳頭、觸手等を以つて總狀になつて居るのであるが、是等の孔が、外套膜の邊緣に位するか、或は水管(其の長短)の端に於て存する場合に於て、總狀となつて居るのである。

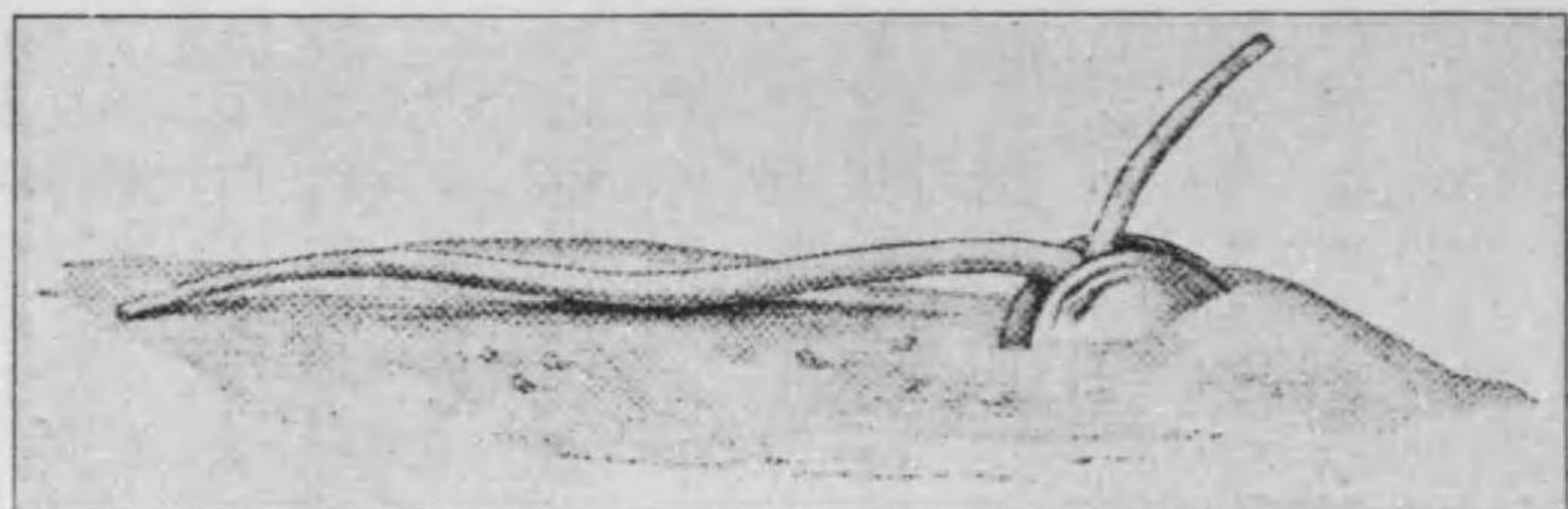
水管(Siphons)は其の全部或は一部分を引き入れることが出来るし、また伸出するこ

とが出来る。これは介殻の内面後方の左右に於て、殻面に固着せる特別な筋肉の作用にて營まるゝことは既に述べた通りである。水管の長さは、貝の種類によりて非常に變化する。而して長き水管を有するものは、ツバガヒ科、ナミノコガヒ科、マスホガヒ科、サラガヒ科、ザルガヒ科、カモメガヒ科、フナクヒムシ科、オキナガヒ科、ツツガキ科の外、ハマグリ科及びザルガヒ科の多くの種屬などがある。

水管はその全長に亘りて分離するものあり。或は屢々相互に分岐して出づるものがある。例へばナミノコガヒ科、マスホガヒ科、サラガヒ科等は、この例である。また水管はその全長に亘りて結合し、一管の如く見ゆる場合もあるが、その内部は上方には水管となり、下方には入水管となりて分れて居る。斯く一本に結合せる水管は時には特別な表皮より成れる鞘にて保護せらるゝものがある。殊に介殻中に水管を牽引すること能はざる種類にありては、然りである。

倍、水管の全長に亘りて結合せるものを有するは、ツバガヒ科にあり。またマテガヒ屬、ツツガキ科、カモメガヒ科等に見るのである。

時には水管は基部に於て結合し、その先端に近く分離し、又は分岐するものがある。これはセミアサリ屬、フナクヒムシ等に見るのである。



第四百四十五圖 アリラクピロクス (Scrobicularia piperata) の中泥より水管を出入す (after Meyer & Möbius) 直に水管を出る取食物を中泥に水管を出入す

内外普通動物誌

屢々二本の水管は、その長さを異にするものがある。イガヒ科のモヰヲラリア屬 (Modiolaria) (クレネラ屬 (Crenella) には、唯出水管のみ發達して居る。またサラガヒ科に類似せるスクロビクラリア科 (Scrobiculariidae) のスクロビクラリア (Scrobicularia) にありては、介殻の五六倍もある長き入水管を有すれども、之に反して出水管は非常に短いのである。

水管内には、時として瓣を有するものがある。これは入水管よりは、出水管の方によく見る場合が多い。

入水管より入りたる水は、鰓に到りて呼吸作用に與り、またその中に浮漂せる細微なる藻類の如き食物は、體の前方に存在する口腔の側方にある觸唇に觸れて、その存在を感知せられ、以つて口腔内に攝取せらるゝのである。出水管は入水管の上方に在りて、體内を循環せる水を吐出し、この際體内に生じたる老廢物及び糞塊なども、體外へ排出するのである。されば斧足類は此處彼處に匍匐し廻らすとも、砂泥中に埋没した

儘水管さへ砂上に突出して水に觸るゝ機會さへあれば新鮮なる水は、絶へず體內に入り來り、従つて呼吸も出來、また食物も攝取することを得るのみならず、體內に生じたる老廢物をも吐出することを得るのである。而して水管の發達せるものは、泥砂中、若くは木材岩石中に埋没する種類に於て見るのである。

斧足類は、堅硬なる介殻といふ城廓に立て籠り、且つ砂泥中に埋没し、その足を用ひて砂泥中を鋤き掘りて進行する方法は、極めて遲緩なるを以つて、敵より攻撃せらるゝ時は、唯その城廓を閉ぢ、以つて自然の運命を待つより外、防禦の方法がない。また静止し居るも、入水孔より水が入り來り、また出水孔より水が排出せらるゝやうに、絶へず水の新陳代謝さへ營み居れば、之に因て食物を得ること、充分なるを以つて、従つて他の動物の如く、食餌を追索する必要がない。斯くの如く、斧足類が外界に對する關係は、極めて單純なるが故に、外界の刺戟變化を感受する所の感覺器の發達せざるのも、亦當然なりと云はざるを得ないのである。

外套膜の縁邊、足端、觸唇などは、觸覺鋭敏にして、入水管及び出水管の基礎に存在せる表皮の皺襞をなせるものは、その作用不明なれども、恐らくは嗅覺を掌るものだけといはれて居る。聽器は囊狀をなし、囊の表壁は絨毛を有する細胞より成り、囊の内部に

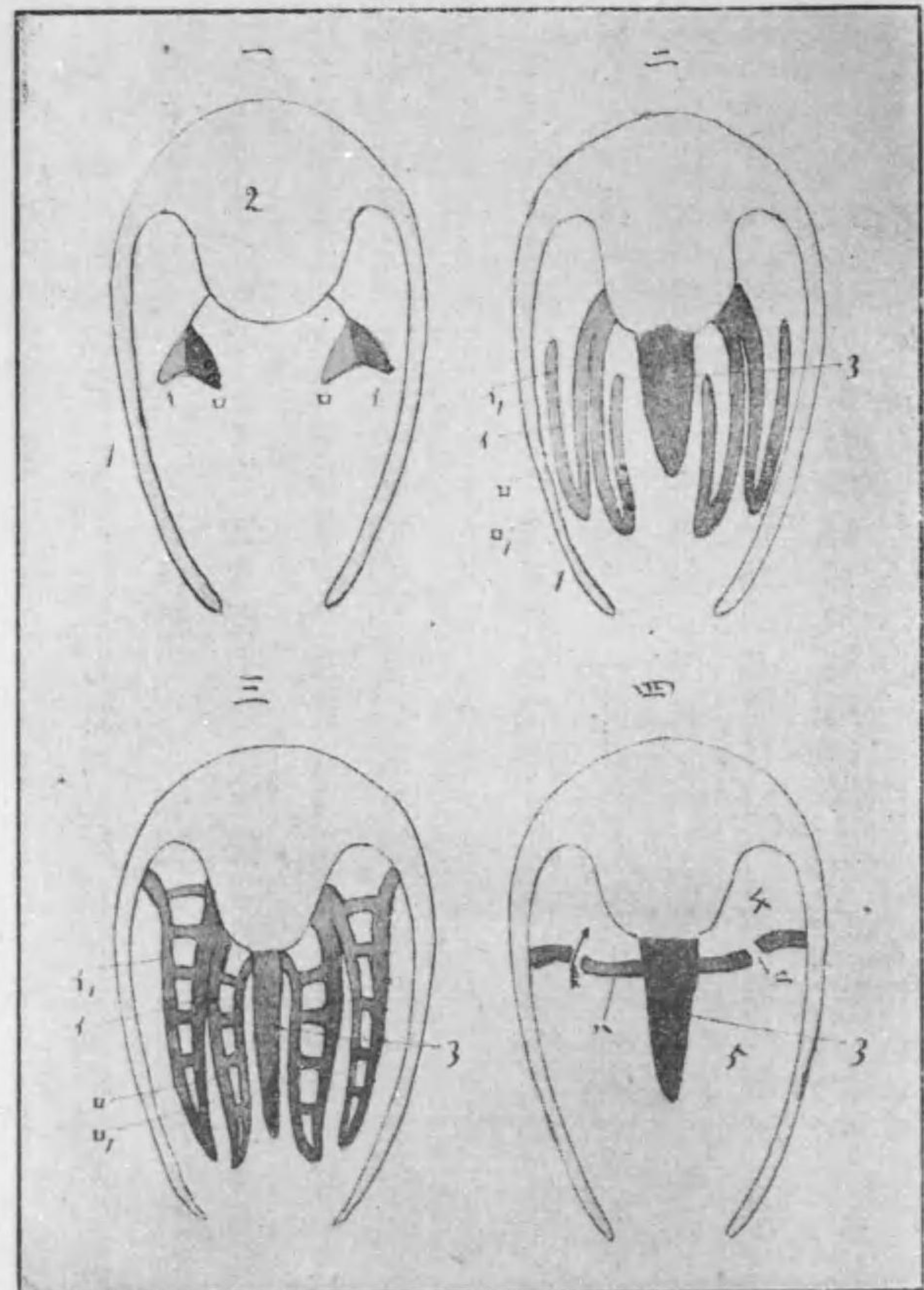
は液體を充し、且つ耳石を藏めて居る。而して耳石の振動によりて、身體の位置等の變化を感知するのである。而して聽器は足神經球附近に存在し、腦神經より出でたる聽神經は、この部に分布し、以つて所謂聽覺を司るのである。眼はホタテガヒ屬のもの、及びトリガヒ等にては、之を有すれども、大多數のものは、之を有せざるを常とするのである。

口腔は介殻の前縁に開き、その左右兩側には二枚宛の三角形をなせる觸唇を有し、體內に入り來れる水中に、浮漂せる微細なる食餌を感知するのである。口腔内には、腹足類に見るが如く、顎、舌、舌帶、唾腺がない。これ食物の性質が、別段に咀嚼を要せざるが爲めである。口腔に續きて短き食道あり。これは前收殻筋の下に存在し、足の前基部に當りて、廣き胃に通するのである。胃の側壁には、多くの開口を有し、數多に分岐せる消化腺より、分泌せらるゝ所の消化液を受取るのである。この消化液の作用は、腺液に似たれども、これを分泌する腺をば肝臓といふのである。胃より腸に到れば、小腸、大腸の區別がない。腸の始部には、透明にして黄色をなせる寒天質様の棒狀體を包含する。この棒狀體の作用については、未だ一定の説がないが、恐らくは消化管中に、食物と共に流入し來れる砂粒を被包し、以つて腸壁の受くる摩擦と焔衝とを防ぎ、同時に斯かる

砂粒の腸内通過を容易ならしむるものならんといふ。腸は足内にて二三回屈曲したる後斜めに背行し、心臓を貫通し(例外は)後收殻筋の上部を通りて、出水管の奥に位置する肛門に終り、以つて糞を排出するのである。

鰓は體の左右兩側にありて、各々葉狀をなせる内外の二裂片より成る。之を内葉及び外葉といふ。この裂片をば顯微鏡下にて檢するとき、各々無數の鰓絲の列より成り、鰓絲と鰓絲とは、無數の脈管によりて相互に連絡し、且つ鰓絲間には腔處を存するのである。而して此部には無數の纖毛ありて絶へず振動し、以つて水をば出水管より排出し、その缺を補ふ爲めに、絶へず入水管より水の流入を受け、體内に於ける水の新鮮代謝を促すのである。

キララガヒ科、アカガヒ科、三角貝科、ホタテガヒ科を除ける總ての斧足類にありては、鰓と外套膜とは結合するのである。即ち外鰓葉の上行の鰓絲、即ち外方の鰓絲の背縁、若くはこの外方の鰓絲を有せざるものによりては、外鰓葉の單一なる鰓絲の背縁は、外套膜と結合する。同様に内鰓葉の上行鰓絲、即ち内方の鰓絲の背縁は、足の上と結合する場合もある。足と結合した所の二鰓があつて、之が外套膜の中央線に於て、足の後方に當りて、鰓同志相互に結合する場合には、一つの隔膜を生ずるやうになる。



第四百四十六圖 鰓の横断面を示す模式圖 (一) 原鰓類 (二) 鰓絲 (三) 正鰓類 (四) 鰓膜隔 (一) 外套膜 (二) 鰓葉外 (三) 鰓葉内 (四) 鰓葉外 (五) 鰓葉内 (六) 鰓葉外 (七) 鰓葉内 (八) 鰓葉外 (九) 鰓葉内 (十) 鰓葉外 (十一) 鰓葉内 (十二) 鰓葉外 (十三) 鰓葉内 (十四) 鰓葉外 (十五) 鰓葉内 (十六) 鰓葉外 (十七) 鰓葉内 (十八) 鰓葉外 (十九) 鰓葉内 (二十) 鰓葉外 (二十一) 鰓葉内 (二十二) 鰓葉外 (二十三) 鰓葉内 (二十四) 鰓葉外 (二十五) 鰓葉内 (二十六) 鰓葉外 (二十七) 鰓葉内 (二十八) 鰓葉外 (二十九) 鰓葉内 (三十) 鰓葉外 (三十一) 鰓葉内 (三十二) 鰓葉外 (三十三) 鰓葉内 (三十四) 鰓葉外 (三十五) 鰓葉内 (三十六) 鰓葉外 (三十七) 鰓葉内 (三十八) 鰓葉外 (三十九) 鰓葉内 (四十) 鰓葉外 (四十一) 鰓葉内 (四十二) 鰓葉外 (四十三) 鰓葉内 (四十四) 鰓葉外 (四十五) 鰓葉内 (四十六) 鰓葉外 (四十七) 鰓葉内 (四十八) 鰓葉外 (四十九) 鰓葉内 (五十) 鰓葉外 (五十一) 鰓葉内 (五十二) 鰓葉外 (五十三) 鰓葉内 (五十四) 鰓葉外 (五十五) 鰓葉内 (五十六) 鰓葉外 (五十七) 鰓葉内 (五十八) 鰓葉外 (五十九) 鰓葉内 (六十) 鰓葉外 (六十一) 鰓葉内 (六十二) 鰓葉外 (六十三) 鰓葉内 (六十四) 鰓葉外 (六十五) 鰓葉内 (六十六) 鰓葉外 (六十七) 鰓葉内 (六十八) 鰓葉外 (六十九) 鰓葉内 (七十) 鰓葉外 (七十一) 鰓葉内 (七十二) 鰓葉外 (七十三) 鰓葉内 (七十四) 鰓葉外 (七十五) 鰓葉内 (七十六) 鰓葉外 (七十七) 鰓葉内 (七十八) 鰓葉外 (七十九) 鰓葉内 (八十) 鰓葉外 (八十一) 鰓葉内 (八十二) 鰓葉外 (八十三) 鰓葉内 (八十四) 鰓葉外 (八十五) 鰓葉内 (八十六) 鰓葉外 (八十七) 鰓葉内 (八十八) 鰓葉外 (八十九) 鰓葉内 (九十) 鰓葉外 (九十一) 鰓葉内 (九十二) 鰓葉外 (九十三) 鰓葉内 (九十四) 鰓葉外 (九十五) 鰓葉内 (九十六) 鰓葉外 (九十七) 鰓葉内 (九十八) 鰓葉外 (九十九) 鰓葉内 (一百) 鰓葉外 (after Lang) 枝

此隔膜は、入水管及び出水管の間に於て、外套膜に因りて形成られたる所の隔膜と聯合して、

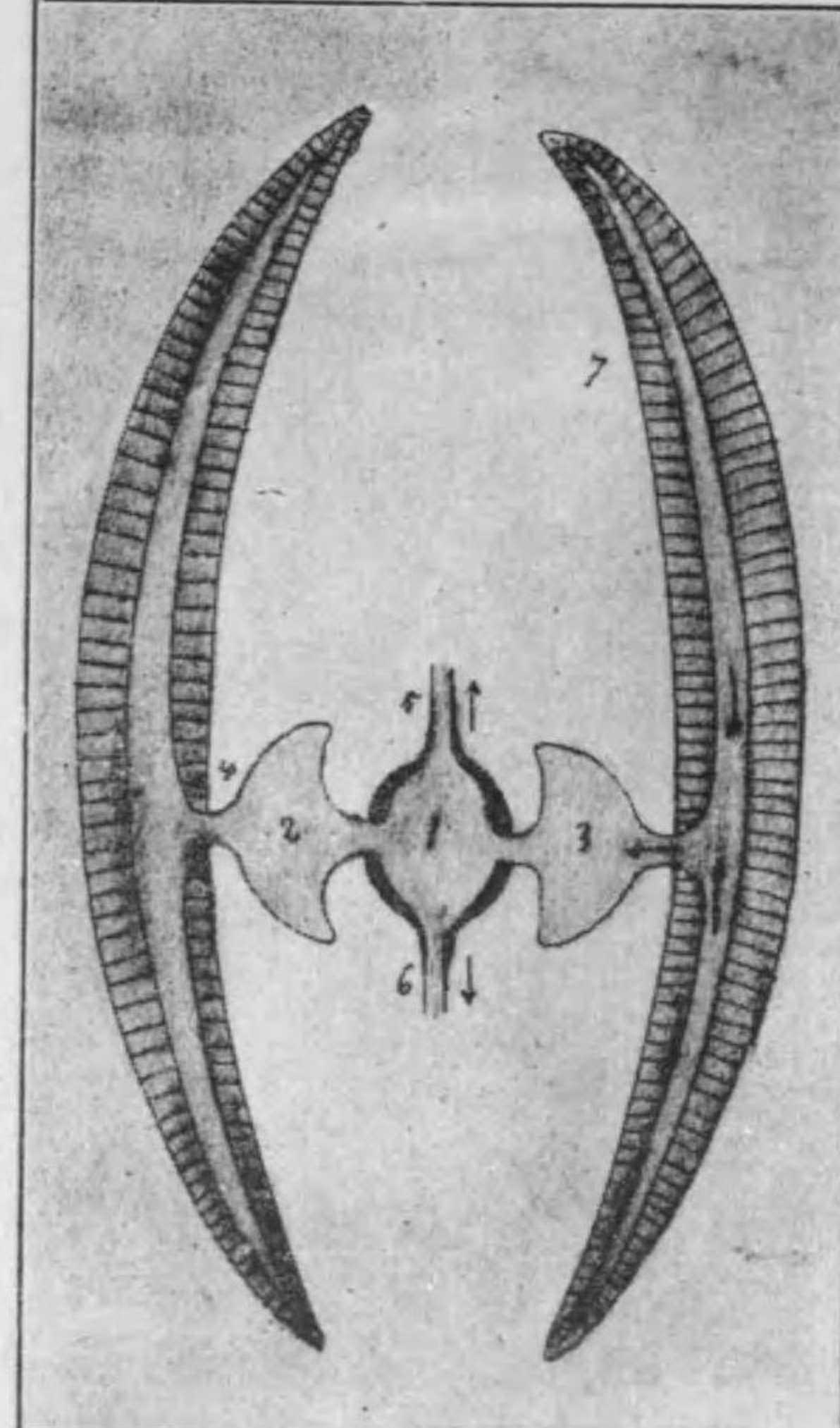
外套腔をば、上下の二室に分割する。入水管を通りて流れる水は、大なる下室に入り、以つて鰓を浸して呼吸作用を行はしめ、更らに前方に流れて、その中に浮漂せる食物を

七六四

ば、口に運ぶのである。然る後に水は外套腔の上室にある所の足の両側に沿ふて流れて、足の後方にある一個の後上室中に戻り、出水管を通りて外界へ逃れ去るのである。而して鰓絲には、脈管が分布せるを以つて、水が斯く新陳代謝せる際に、脈管中の血液は、水に觸れて酸素を得、炭酸瓦斯を放出して、新鮮なる血液となるのである。鰓絲間の腔處にある纖毛は、水の新陳代謝を促す原動力なるを以つて、獨り呼吸作用に大切なものみならず、又以つて食物を得る爲めに肝要なるは勿論である。

心臟は殆んど總べての斧足類に於ては、腸によりて貫通せられ、且つ一心室より成り、その兩側には一個宛の心耳を有し、且つ圍心腔中に存するのである。然しキララガヒ科のヌクラ屬(Nucula)ナミマガシハ科のナミマガシハ屬、アカガヒ科のアカガヒ屬にては、心室は腸の上方に位する。またアコヤガヒ屬、カキ屬及びフナクヒムシ屬にては、心臟は腸の下に位する爲めに、心耳は心室の兩側に位せずして、その下側に位する。心室よりは前後に一本宛の大動脈を出すのが普通である。前大動脈は、腸の上部をば前方に走り、數個の動脈を分岐し、腸、肝臟生殖器、足、外套膜の前部、觸唇に血液を送るのである。而して外套膜の前部及觸唇に分岐するものを、前外套動脈といふ。後大動脈は腸の下側に沿ふて走り、直ちに二個の大なる側動脈に分岐するが、之を後外套動脈

といふのである。前外套動脈及び後外套動脈の主なる枝は、兩側に於て外套膜の游離縁に沿ふて走りたる後相合して外套膜縁邊の動脈を形成するのである。後外套動脈の基部よりは、若干の小動脈が出て、腸の後部、圍心腔、後收殻筋、收水管筋等に血液を送るのである。斯く體中を循環したる血液は、體の組織の間隙を通りて流れ、圍心腔の下にある一個の縦の靜脈竇に集り、これよりして血液の大部分は、組織内の空隙を通りて腎臟中に入りたる後に、兩側共に血液は鰓の基部に沿ふて流れる鰓動脈中に入り、



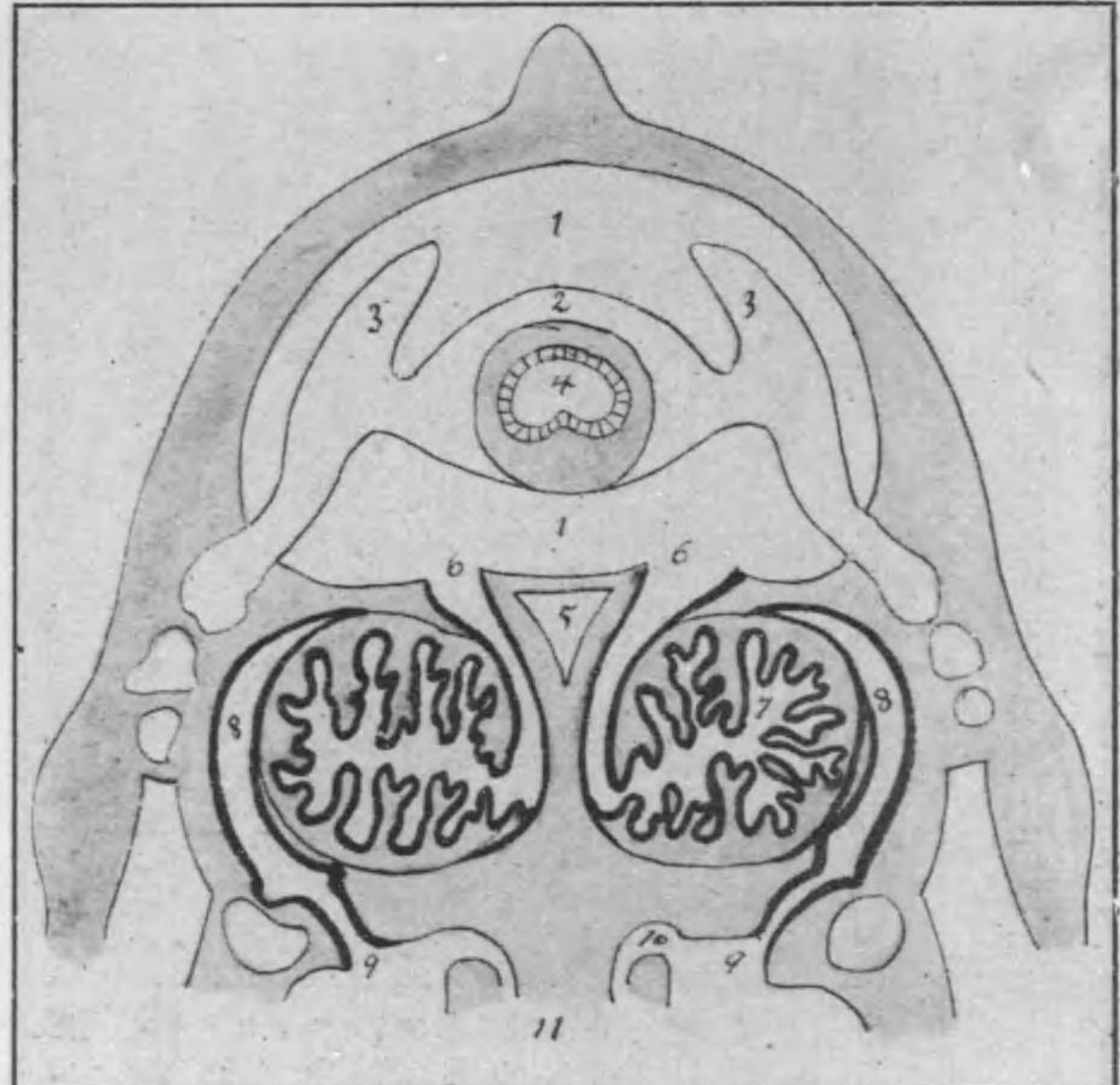
第四百四十七圖 斧足類の鰓、心、及及び大動脈の連絡を模式的に示す(1)心室(2)心室(3)心耳(4)心耳(5)大動脈(6)大動脈(7)大動脈(8)大動脈(9)鰓血管(10)鰓血管 (after Lang)

り、鰓の内外兩葉に入り、こゝに新鮮となりて動脈血となり、以て鰓動脈と平行せる鰓靜脈中に入り、これより心耳中に入るものであるが、而して左鰓より還り來れるものは、左心耳に入り、右鰓より還り來れるものは、

右心耳に入り、共に心室に入る。然しながら、静脈血の一部分は、静脈竇を出でたる後、直接の通路によりて、總動脈中に入るし、また一部分は、尚直接に圍心腔中に流れるのである。斯くして、静脈血の一部分は、總より心臓を通りて流るゝ所の動脈血と混合するやうになるのである。

斧足類の總てが、心室より出づる前後の大動脈を有するものではない。キララガヒ科のヌクラ屬(Nucula)ナミマガシハ屬及イガヒ科のものにありては、心室よりは唯前大動脈のみを出すのみである。然しながら、此大動脈は、内臓動脈を支出して、他の瓣鰓類に於て、後大動脈によりて養はるゝ部分に、血液を供給するのであるが、その一本の大動脈のみが、心室より出づることは、ヂイガセ及び其他の腹足類と似た所である。フナクヒムシにありては、後大動脈は、前大動脈と結合し一管となりて心室を出づるのである。

排泄器はボヤヌス器(Bojanus Organ) (ハイレンツワヒ、ボヤヌス氏の紀念として命ぜし名なれ千八百二十六年に没せり)と稱する一対ありて、圍心腔の直下、後收殻筋の前方に位する囊狀體にして、その一端は漏斗に因りて圍心腔に開らき、他端は鰓の上部の腔所に開く。この器の實質は、黄褐色をなせる海綿質の組織より成り、その上を被ふに繊毛を有す

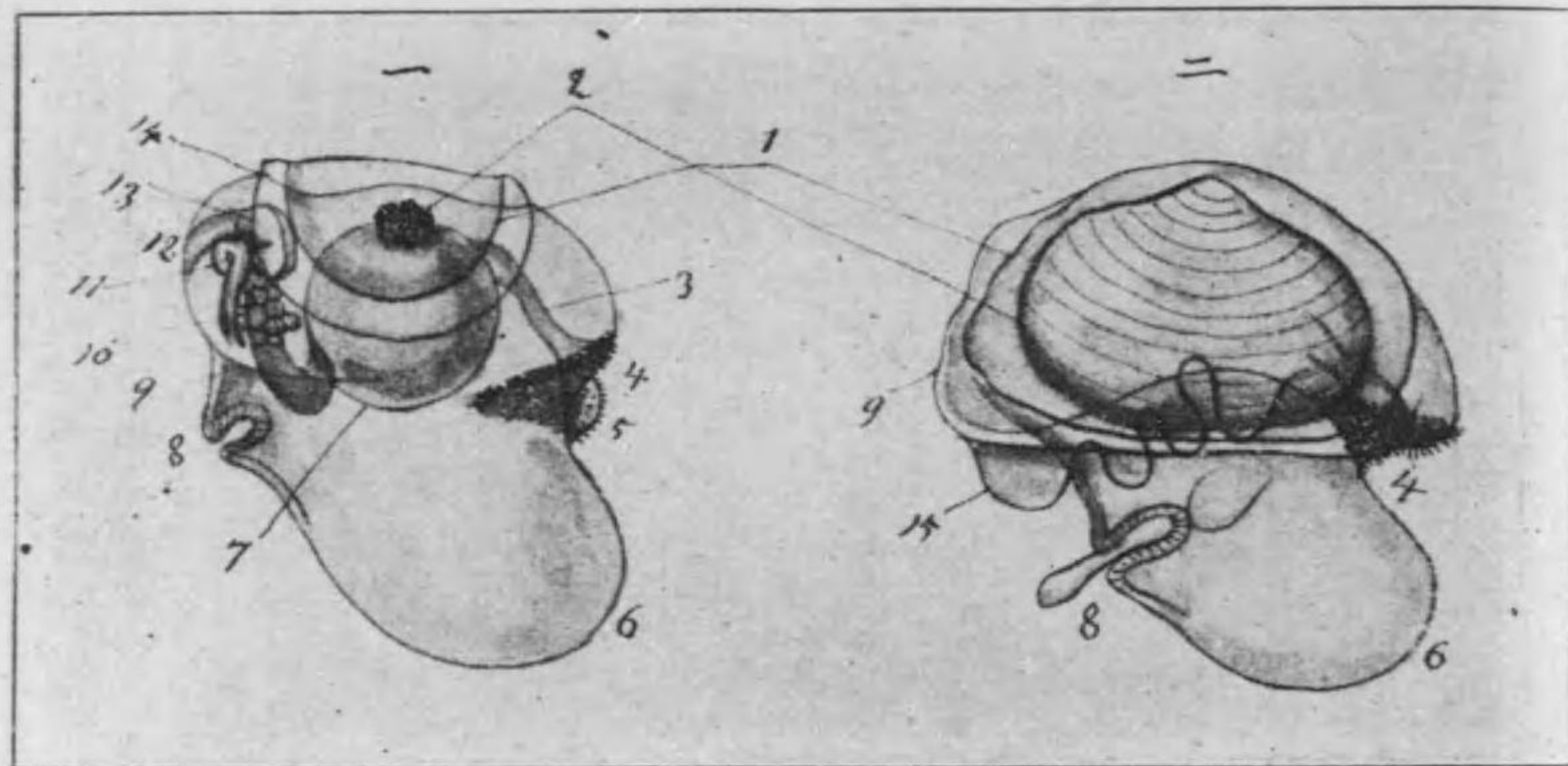


圖八十四百四第 示を臟心、器尿泌、腔心圍てしに面斷横の體ヒガゾド 圖す 1. 腔心圍 2. 室心 3. 耳心 4. 腸直 5. 竇脉靜 6. 腔心圍 7. 路通の 8. 部腺有の器ヌヤボ 9. 部腺無上同 10. 孔殖生 11. 部基の足 (after Lang)

異體なれども、折々同體のものがある。然しながら、斧足類中の雌雄同體のものは、同體とは云ふものゝ、精蟲と卵とは同時に成熟しないのである。而してオキナガヒ科、ボロ

る細胞層を以つてする。而してこの細胞層より血液中の老廢物を排出するのである。

斧足類は多くは雌雄異體なるが、また雌雄同體のものなきにあらず。即ちオキナガヒ科、ボロミアア科、カスピダリア科、ドブシハミ屬等がある。またカキ屬、ホタテガヒ屬、トリガヒ屬(Cardium)の三屬の中には、各々雌雄同體の僅少種はある。ドブガヒ屬(Anodonta)屬のものは、通例雌雄

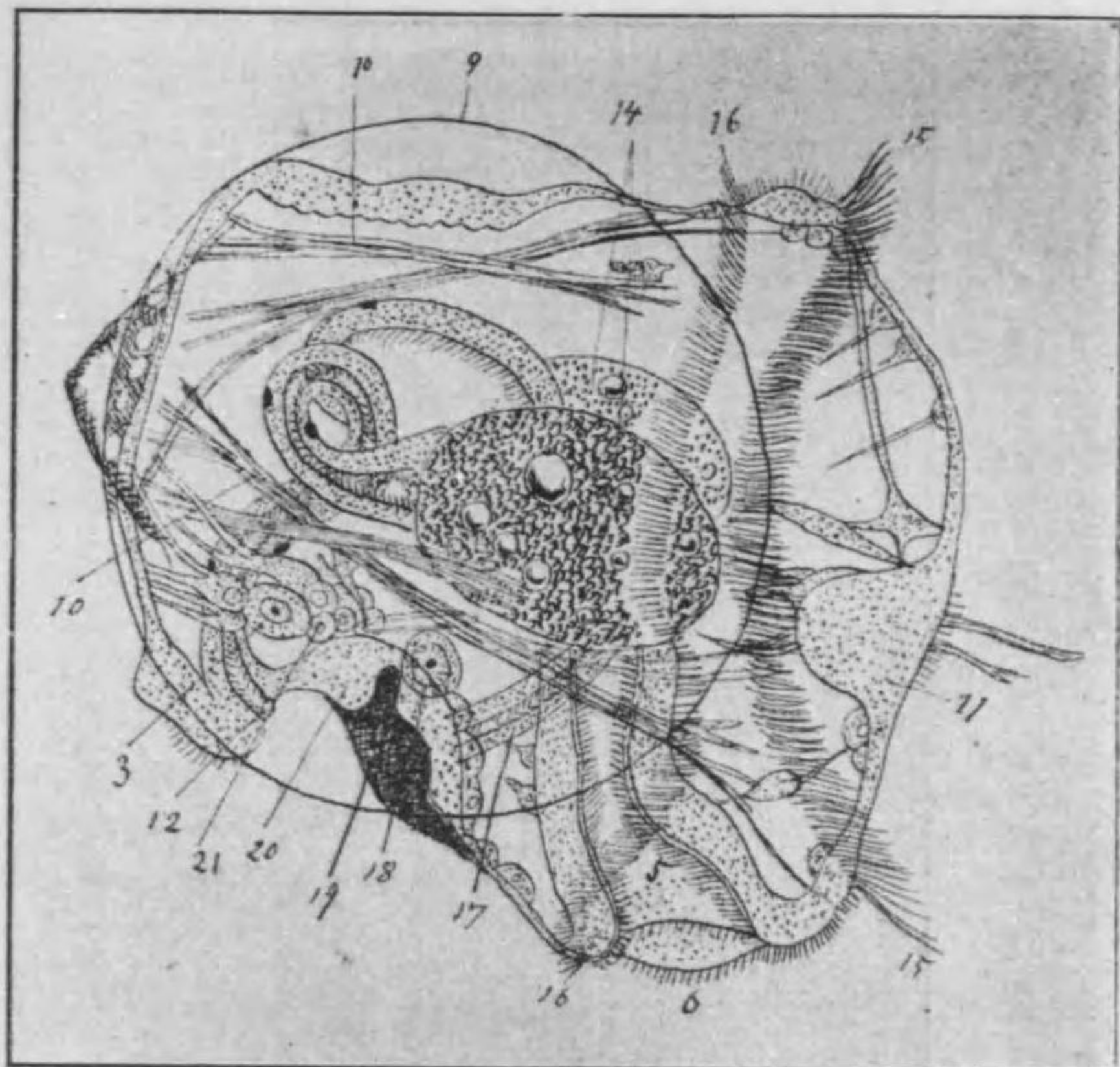


食(3)芽肱の殻介を對(2)殻介の對不(1)胚の二のミハシブド 圖一十五百四第
(11)腺殖生(10)邊縁の膜套外(9)腺絲足(8)腺肝と胃(7)足(6)帆の毛織(5)口(4)道
(from Korschelt & Heider) 鰓(15)腺殼(14)囊心(13)門肛(12)腺腎

の前方に位する體部は、兩側に於て一個の幅廣き皺襞を形成し、これは外方に於て、介殼に適合するやうになる。而して口の前には襟狀をなせる織毛帶(Velum)を有し、その後方にも一織毛帶を生じ、是等二織毛帶の間には、亦織毛を有して居る。幼蟲は織毛帶を以つて水中を游泳するのみならず、自由に織毛帶をば、殻内より伸縮し得るのである。この幼蟲をばトロコフアラ幼蟲(Trochophora Larva)といふ。總べての他の海産二枚貝類の幼蟲も、フナクヒムシの幼蟲と同一にして、織毛帶はよく發達する。而して概して表皮の擴張して襟狀をなせるもの、即ち帆(Velum)の上にある。帆は其の上に生ずる織毛帶によりて、游泳に適する。而して介殼内に自由に引き入れ、

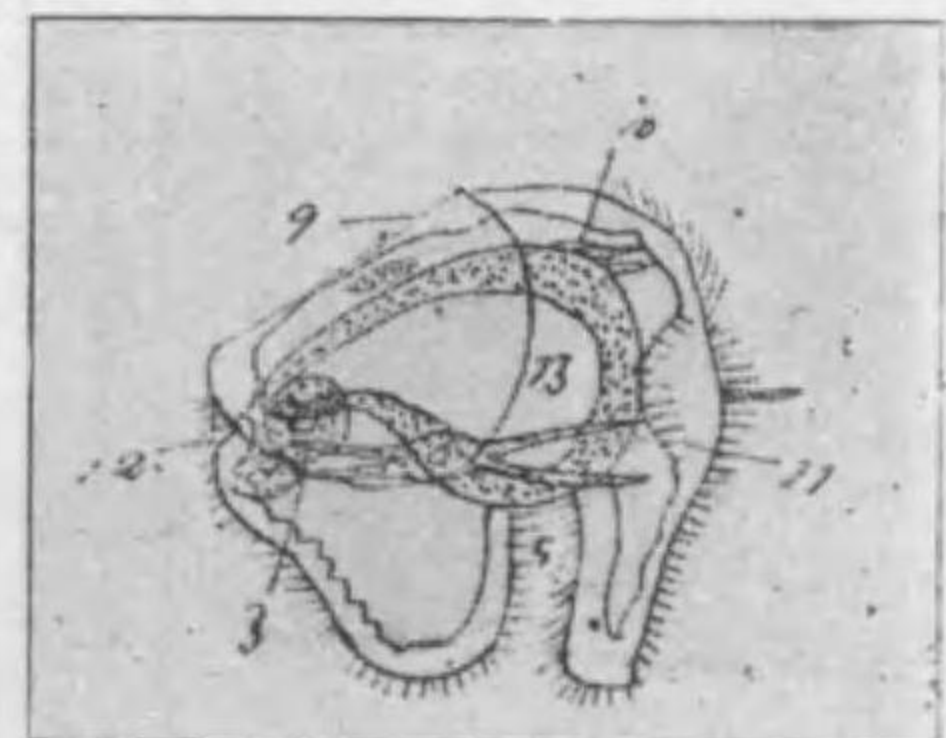
有するのである。

斧足類の卵より孵化せる幼蟲は、變態するのであるが、茲にフナクヒムシの幼蟲について説明すれば、體の大部分には介殼を有し、また外套膜となるべき皺を有し、頭部



期蟲幼るたひ老のシムヒクナフ 圖九十四百四第
殻介(9)口(6)道食(5)胞細葉胚中の始原(3) (after Hatschek.)
(14)門肛(12)板頭する有を部狀總(11)胞細肉筋の代時蟲幼(10)
腺腎(17)帶毛織後口(16)帆ち即帶毛織前口(15)りま始の腺肝
中(21)り始の鰓(20)り始の球經神足(19)囊濾(18)りま始の
(Mesodermal-streak)條の葉胚

ミア科及びカスビダリア科にありては、體の各側に於て、雌雄別々に分離せる生殖腺があるが、他の雌雄同體の斧足類にありては、兩側に於て兩性腺を



幼シムヒクナフ 圖十五百四第
る見りよ側右を蟲
10. 殻介 9. (after Hatschek)
有を總 11. 胞細肉筋の代時蟲幼
5. 管鰓 13. 門肛 12. 板頭する
道食

またこれより自由に突出することが出来るのである。

淡水産の斧足類の中には、唯ドレイセンシア、ポリモルファ (Dreissensia polymorpha)

(ドレイセンシア科) (Dreissensidae) にありては、幼蟲は繊毛帯ある帆を具へ泳ぐのであるが、これ

は以前鹹水に棲息せしものが、地質上の變動にて、淡水に移りしものならんといふ。淡

水産なるドブシマミの類にありては、親貝の鰓にある特別なる囊中にて、卵は發育し

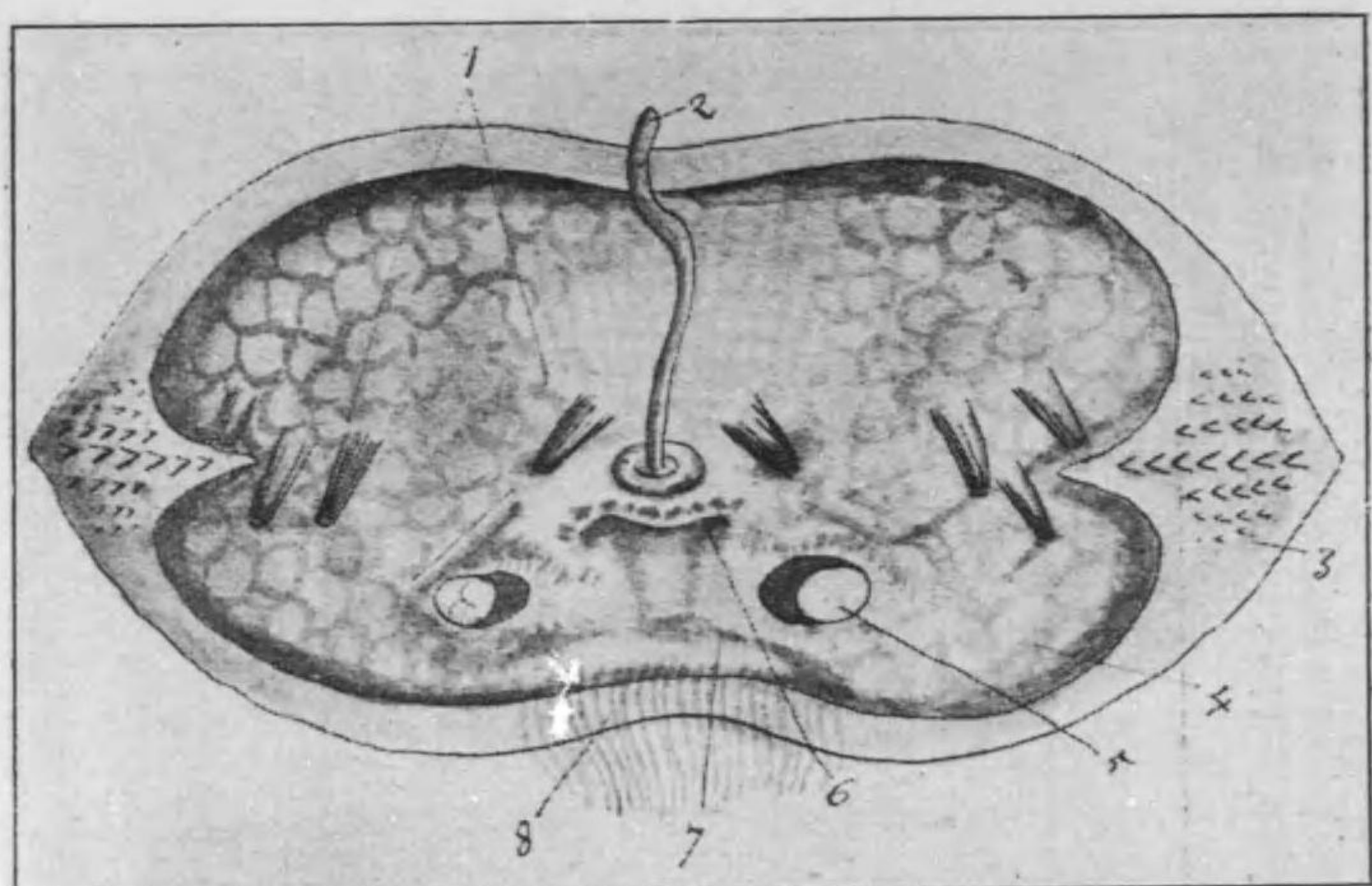
て幼貝となり、其の後母體外に出るのである。然りといへども、尙トロコフヲラ時代

を通過する。然し帆は運動に使用することなきを以つて、退縮して居る。ドブシマミに

ありては、一時に十乃至二十の幼貝ありて、殆んど母體の長さの四分一に達する位に

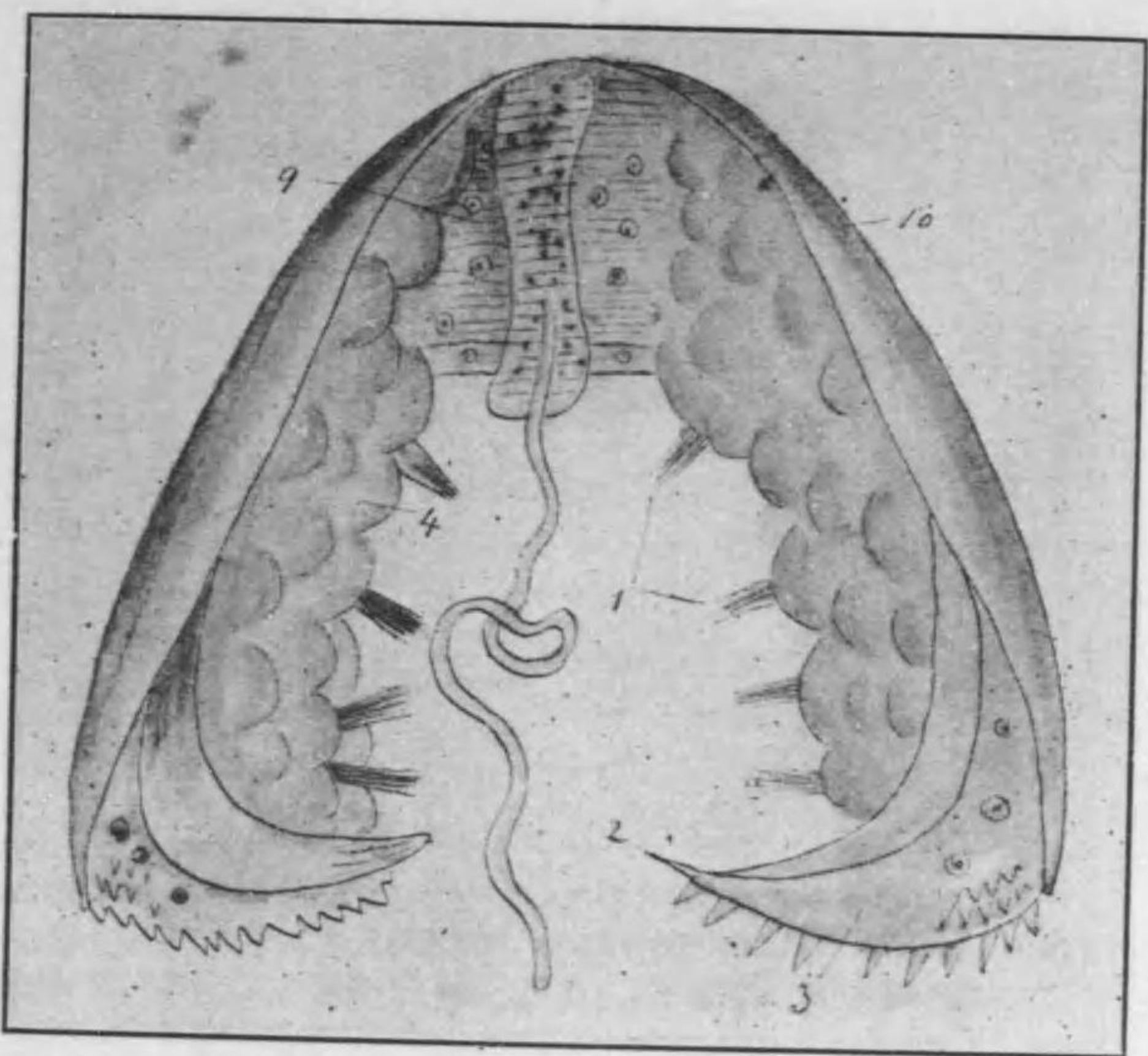
成長するまで、此の囊中に居るといふことである。

ドブガヒ及びカラスガヒの如き淡水二枚貝にては、成熟したる卵は、母體の鰓の外葉に附着し、其處にて發生を遂ぐ。その發達の前後の時期の幼蟲は、二個の三角形をなせる介殻を有し、この兩殻は一側に於て相密接し、この中間には大なる收殻筋を有し、この筋肉の伸縮に因りて、自在に介殻を開閉することが出来る。又介殻の腹側に於て、表膜層は外套膜状をなして存在する。今幼蟲が介殻を開きたる時に當り、この外套膜状のものを下方より見る時は、兩側には、四個の感覺細胞ありて各細胞は長き感覺毛



第四百五十二圖 アノドン (Anodonta) の幼蟲の母體の鰓の外葉に取り着く (After Schierhölzl.) 圖るた見りよ面下てき開を殻介てしにのもの 粘着 2. 毛覺感 1. 3. 突起殻介 4. 膜套外偽 5. 孔側 6. 口 7. 足など膨る部 8. 部毛纖

を有するを見るのである。而して三個の感覺細胞は、介殻の突起に近く存在し、他の一感覺細胞は、介殻の中央線に接近して存在する。又介殻の中央より、一本の長き粘着絲を出すのである。此時期に於て、幼蟲は卵殻を破りて外界に出で、遂に母體の鰓を去り、以つて水中に出で、粘着絲の助けを藉りて、水中に浮ぶか、或は水底に静止し、殻口を開き、之を上に向けて、或る物の來るを待つのである。斯く待ちつゝある間に、偶然タナゴの如き魚類が其の傍を通過し、之に觸るゝことあれば、幼蟲は早速にその介殻を閉鎖するを以つて、三角形の突起に生せる棘は、此際深く魚の鱗若くは鰓に嵌入すべきである。斯くするとき、魚の鱗若くは鰓の



りよ葉外の鰓の貝雌) 蟲幼の (Anodonta) ヒガフド 圖三十五百四第
起突殻介 (3) 絲著粘 (2) 毛覺感 (1) (After Flemming.) (る取
殻介、10) 筋殼收的胚 (9) 膜套外偽 (4)

消失し、また感覺器もなくなり、反つて立派なる介殼、外套膜及び足を生じて、全く母貝と同一の形態となり、以つて魚體より離れ獨立に生活するを得るのである。

表皮は、この刺戟によりて速に細胞を増殖し、數時間の後には、全く斯かる附着幼蟲を被包するに至るのである。此際幼蟲體にある外套膜状のものは、左右の兩殼より菌狀體となりて外部に成長を始め、以つて魚の組織に侵入するやうになる。この作用は、恐らく魚體より養分を吸収する爲めならんといふ。斯くの如き状態に於て、ドブガヒ類の幼蟲は、寄生々活を営みつゝ、幾週間の久しきも生存する間に、遂には外套膜状のものも

斧足類の總論を終る前に、本類と人生との關係を少しく説明しやうと思ふ。鈿を製する爲めに、介殼を使用するものには、アツガヒ一名テフガヒ (Pteria (Avicula) margaritifera) アコヤガヒ一名シンジュガヒ (Melegrina martensii) エカキガヒ一名イケテウガヒ一名ドブガヒ (製鈿家) 一名オンガヒ (近江瀬田) がある。

器具用としては、シヤコ、ホタテガヒ等が主として用ひられる。其他ハマグリの介殼は膏藥其の他バタ小賣用などの容器となり、又基石を造るに用ひられて居る。螺鈿の原料には、アコヤガヒ、テフガヒが上等であるが、またタイラギ、ツチムラサキ (Saxidomus purpuratus, Desh) (ハマヅ) シジミ等を使用して居る。

介殼を焼いて石灰を製するにはカキ、ホタテガヒ、ハイガヒ等の介殼を用ひる。牡蠣灰は昔時より顔料として廣く用ひられて居る。

アコヤガヒより出づる眞珠は、最も珍重せられ、一個の價格數萬圓に達するものがある。あつて、種々裝飾品となるは人のよく知る所である。

食用としては、シヤミ、ハマグリ、カキ、アサリ、アカガヒ、サルボウ、シホフキ、トリガヒ、バカガヒ、ミルクヒは廣く用ひられる。又地方に因りては、オキシヤミ、イソシヤミ (伊勢にて食用に) オホノガヒ (東北地方にて食用に供する) カヤマミガヒ (伊勢津にては肉) タイラギ (伊勢等にては食用に供する)

ホタテガヒ、ウバガヒ、マテ、イガヒ、アゲマキ(九州地方)、ハイガヒ、イタヤガヒ(九州地方)、アカザラ、アコヤガヒ(九州志摩)、カラスガヒ、タガヒ、エゾギンチヤク(ホタテガヒ科なり。地方にて食用に供する。東北)等も食用に供する。また海邊の漁民の中には、シミズガヒ一名スギノハシ、カモメガヒ等も食用に供するものがある。

今、相模嘉作氏著、食物彙纂により、主要なるもの、成分を示せば、左の如くである。

	水分	蛋白質	脂肪	灰分
本邦産牡蠣	八九・八九	八・四五	〇・八九	〇・七七
臺灣産牡蠣	八八・八八八	七・三一二	一・四九二	〇・七四五
外國産牡蠣の肉	八〇・五二	九・〇四	二・〇四	一・九六
外國産牡蠣の汁	九五・七六	一・四二	〇・〇三	二・〇九
外國産牡蠣の肉と汁との混合	八七・三〇	五・九五	一・一五	二・〇三
ハマヅリ	八四・一二	一三・一九	〇・八一	一・八八
アサリ	八四・〇七	一三・二〇	〇・七七	一・九六
シマミ	七九・五七	一八・四〇	〇・八四	一・一九
アカガヒ	八二・〇四	一五・七九	〇・四五	一・七二
バカガヒ	八六・一六	一一・〇八	〇・五六	二・二〇
貝の柱	八〇・三七	一八・〇九	〇・二二	一・三二

斧足類の分類法は、水管の有無により、有管類及び無管類の二目に分つことは、従來

廣く行はれ來りたる所であつて、本書に於ても、この分類法を採つて、夫々記述するのであるが、また鰓の構造に基ける分類法もあり、本邦の動物學教科書の中には、この分類法に基いて記述せられたものも、あるを以つて、今左に参考として鰓の構造に基ける分類法を述べん。この分類法によれば、次の五目に分つのである。

第一目 原鰓類 (Protobranchiata)

鰓は外套腔の後方に於て、葉狀體の二列より成り、葉狀體は短く扁平にして、其構造はアハビ科、フイツスレラ科の鰓とよく似て居る。而して鰓絲は腔中に於て、後方に游離して突出する。足は匍匐するを得べき蹠部を有するのである。

キララガヒ科 (無管類の同柱類)

第二目 絲鰓類 (Filibranchiata)

鰓の葉狀體は二列をなして排列し、甚だ長く、且つ纖維狀をなし、外套腔中に於て、遙かに下方に垂下する。鰓絲は上方に反曲し、鰓絲の前側及び後側に於て、相互に接近して、集合せる長き纖毛を以て被はれたる場所がある。また是等纖毛總によりて、鰓絲は相互に結合して居る。

ナミマガシハ科 (無管類單柱類)

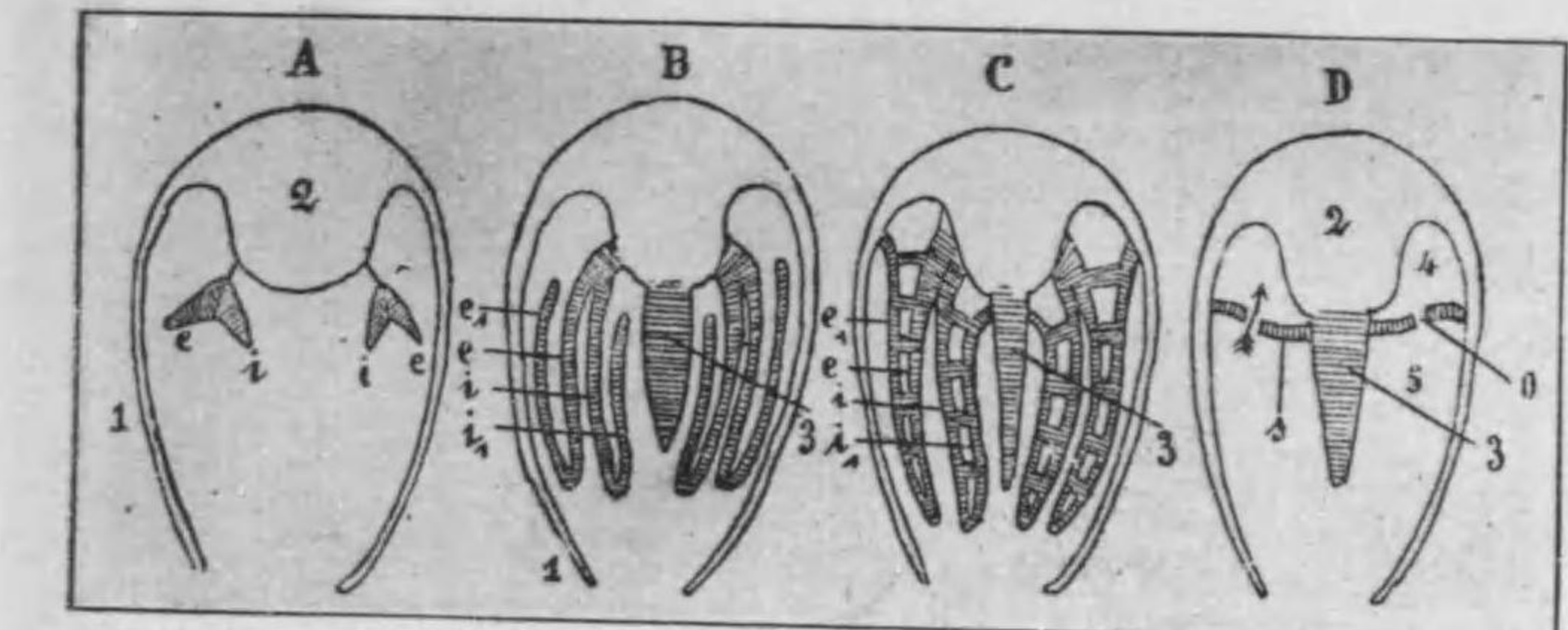
アカハヒ科 (無管類同柱類)

三角貝科 (無管類同柱類)

イガヒ科 (無管類異柱類)

第三目 擬瓣鰓類

(Pseudolamellibranchia)



第四百五十四圖 瓣鰓類の鰓の面斷横を示す模型圖 (A) 類鰓原 (B) 葉鰓内 i 葉鰓外 e 體 2. 外 e 枝行下外葉鰓外 e 足 3. 膜套外 1. 類鰓絲 (C) 枝行上内の葉鰓内 i 枝行下内の葉鰓内 i 枝行上外葉鰓 (D) (ともに前明腔下鰓 5. 腔上鰓 4. 類鰓膜隔)

鰓の各葉は、表面を増す爲めの褶襞がある。褶襞は鰓絲に對して、縦に走り居るを以て、その位置は殆んど背腹に亘つて居る。其故に、鰓葉上には、隆起部と溝とが交互に排列し、一面にある隆起は、他面にある隆起と符合し、また一面にある溝は、他面にある溝と符合する。各隆起又は溝は、一鰓絲より成り、溝を形成せる鰓絲は、幅が廣い所で、幾分隆起を形成せる鰓絲と區別せらるゝのである。鰓の各葉を形成せる二つの鰓絲は、纖毛盤に因りて此所彼所に於て結合し、血管を有するものと、有せざるものがある。外鰓葉の上方に向へる鰓絲の上縁

は、外套膜と結合し、同じく外鰓葉の相隣れる總狀をなせる纖毛に因りて、連絡するのみである。

ホタテガヒ科 (無管類單柱類)

タイラギ科 (無管類異柱類)

シンジユガヒ科 (無管類異柱類)

カキ科 (無管類單柱類)

ミノガヒ科又キツ子ガヒ科 (無管類單柱類)

メンガヒ科又ウミキク科 (無管類單柱類)

第四目 眞正瓣鰓類 (Eulamellibranchia)

鰓葉は平滑なるか、又は皺襞を有するが鰓絲の上方及び下方に向へる部分の間のみならず、相連続せる鰓絲の間も、無數の脈管にて連結し、以つて格子細工狀をなして居る。これ所謂瓣鰓類の名が起つた所以にして、瓣鰓類の多數は之に屬して居る。

トマヤガヒ科 (有管類完縁類)

エゾシラチガヒ科 (有管類完縁類)

- ツキガヒ科 (有管類完縁類)
- エリキナ科 (Erycinidae) (有管類完縁類)
- クラッサテラ科 (Crassatellidae) (有管類完縁類)
- シバミ科 (有管類完縁類)
- カラスガヒ科 (無管類同柱類)
- サラガヒ科又サクラガヒ科 (有管類凹縁類)
- ナミノコガヒ科 (有管類凹縁類)
- ウバガヒ科又バカガヒ科 (有管類凹縁類)
- ハマグリ科 (有管類凹縁類)
- ザルガヒ科又トリガヒ科 (有管類完縁類)
- シヤコ科 (有管類完縁類)
- インコガヒ科 (有管類完縁類)
- マスホガヒ科 (有管類凹縁類)

- オウノガヒ科 (有管類凹縁類)
- モンズリ科 (有管類凹縁類)
- マテガヒ科 (有管類凹縁類)
- カモメガヒ科 (有管類凹縁類)
- ツ、ガキ科 (有管類凹縁類)
- フナクヒムシ科 (有管類凹縁類)
- オキナガヒ科 (有管類凹縁類)

第五目 隔膜鰓類 (Septibranchiata)

この類の鰓は、筋肉質の隔膜に變化して、水平の方向に於て、外套腔を横りて存し、又後方に於て、水管の隔膜を連絡し、前方は足の周圍を通過するのである。またこの隔膜状の鰓には、數多の裂孔ありて、外套腔の上下兩室との間を連絡するのである。この類は雌雄同體である。

- ポロミイア科 (Poromyidae) (有管類凹縁類)
- カスピダリア科 (Cuspidaridae) (有管類凹縁類)

七八〇
本書は前にも述べたるが如く、水管の有無に因り、斧足類を分ちて、有管類及び無管類の二目とする。

第一目 有管類 (Siphoniata)

外套膜の一部分は癒着し、筒状の長さ水管を有し、水管は癒着するものと分離するものごあり。收殻筋はよく發達するものである。

第二目 無管類 (Asiphoniata)

外套膜縁は多くは多少分離し、水管を有することなく、外套痕は彎曲することはない。

第一目 有管類 (Siphoniata)

有管類を分ちて次の二亞目とする。

第一亞目 凹縁類又彎縁類 (Sinupalliata)

水管は長くして、その全部若くは一部分をば、殻内に收縮することが出来る。而して外套縁は、介殻の後方に當りて、彎入部を有するのである。

第二亞目 全縁類又完縁類 (Integrupalliata)

水管は短くして退縮することはない。外套縁は單純にして彎曲することはないのである。

第一亞目 凹縁類又彎縁類 (Sinupalliata)

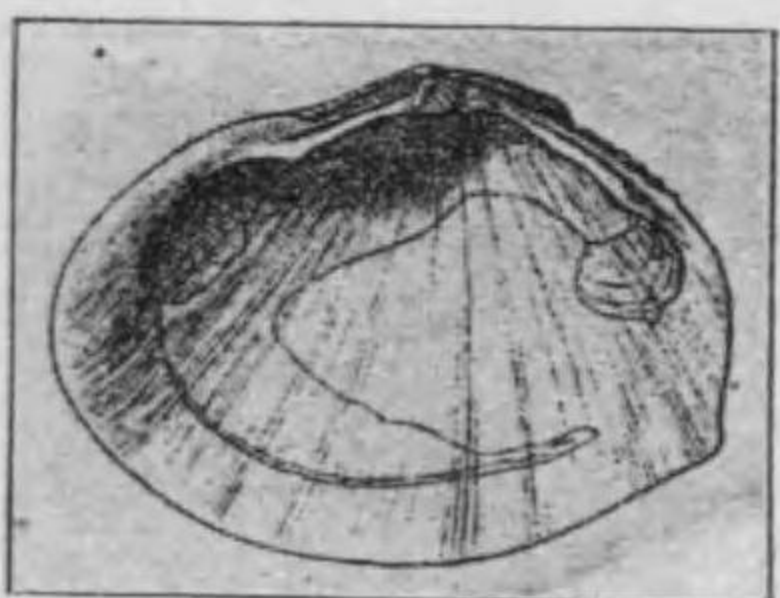
(一) サラガヒ科又櫻貝科 (Tellinidae)

介殻は概して小形にして、色彩の美麗なるものがある。殻は側扁し、常に閉ぢ兩殻は少しく不等のものあれども、大概等形である。蝶番には主齒二個と、前後に側齒一個宛を有するものあれども、又側齒の判然せざるものがある。肉柱痕は二個あり、圓形にして光澤あり。外套縁の彎曲部は甚だ大きく、外靱を有し、常に介殻の最も短き側に存在するが、時としては内方に位する。外套膜は前方に於て廣く開き、その縁邊は總狀である。足は舌形にして壓迫し、且つ大きく、水管は分離して甚だ細長である。觸唇は大きく三角形をなし、鰓は滑らかにして、後方に於て結合し、且つ不等である。

本科のものは、地球上到る處の海に産し、砂質若くは砂泥底に埋没する。

(一) サラガヒ屬 (Tellina)

屬名テリナ (Tellina) は希臘語で、貽貝の一種を指す名である。英名をテレン (Tellen) といふ。

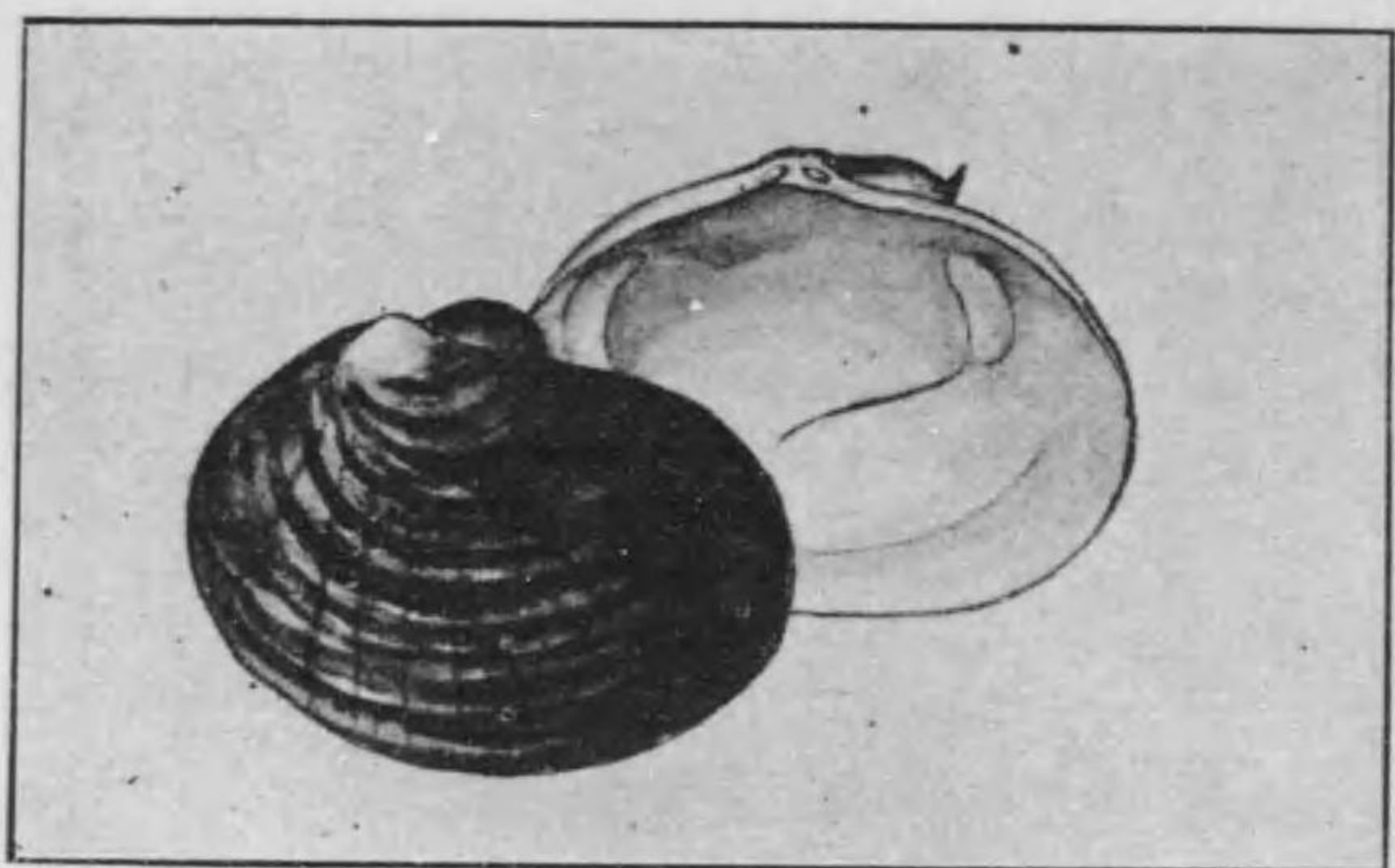


種一ヒガラサ 圖五十五百四第
(*Tellina linguatilis* L.)
(after Woodward) (大一分二)

ふ。本属のもの、介殼は、少しく不同にして側扁し、前方は圓く、後方は角度をなして稍階壁をなす。殼頂は稍中央に位し、側齒は判然して、前後に一個宛ありて、殊に右殼のものは著明である。介殼は開き、外靱は突出する。水管は細長にして、介殼の長さの二倍あり、足は幅廣く尖りて側扁する。

本属のものは、地球上到る處の海に産し、殊に印度洋に多い。其他熱帯地方の海には夥しく産するのみならず、美麗なる介殼を有するものがある。而して本属にして、本邦に産するものには、次の如き種類がある。

- イテフシラトリ *Tellina diaphana*, Desh.
- リウキウシラトリ *T. rugosa*, Born.
- ユウシホガヒ *T. rufila*, Dkr.
- サメザラ *T. scobinata*, Linn.
- トゲウネガヒ *T. spinosa*, Hant.
- ダイメウガヒ *T. stanrella*, Lam.



圖六十五百四第
ミ ヲ シ ツ イ

〔II〕 磯硯イソノシ又シ、ビガヒ (伊勢津) *Soletellina olivacea*, Jay.

介殼は薄く橢圓形にして側壓せられ、前端は圓くして後端は稍々突出し、大き一寸位である。蝶番には小形の二齒を有する。靱帯は外部にありて著しく突出し、水管は甚だ長く、入水管口は總狀をなし、外套膜は開き、これ亦總狀である。外套線の彎曲部は甚だ深いのである。足は大きく幅廣くして舌狀をなし、縦扁である。介殼は薄く膨脹し、表面は紫褐色を呈し、輪層を有し、内面は紫色である。本種は淺海の砂泥中に埋存して棲息する。肉は煮て食用に供し、また釣魚の餌として用ひらる。

本属のものは、二十餘種を含み、西印度諸島、紅海、印度、マダガスカル、本邦、濠太利亞、タスマニア、及びベルギーに産する。而して本邦には尙次の如き種類がある。

- サラガヒ *T. venulosa*, Schrenck.
- メニガヒ *T. vulsella consanguinea*, Sowb.

ムラサキガヒ *Solellina chinensis*, Chemn.

〔三〕 モ、ノハナ属 (*Macoma*)

本属のものは、介殻は卵圓形にして、主齒は狭く側齒を缺いて居る。而して本邦には次の如き種類がある。

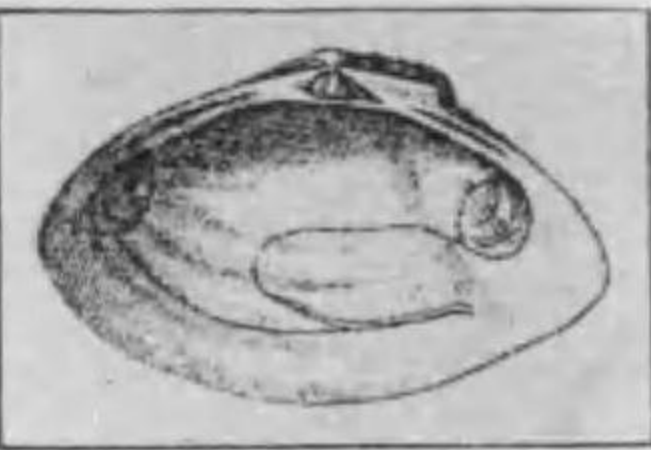
- ヒメシラトリガヒ *Macoma incongrua*, Mart.
- シラトリガヒ *M. nasuta*, Conr.
- オホモ、ノハナ *M. praetexta*, Mart.
- モ、ノハナ *M. rhomboides*, Quoy & Gaim.

〔二〕 波子貝科 (*Donacidae*)

サラガヒ科と甚だ近縁ありて、人によりては同科に編入する位である。完全に分離する水管を有すること、貝柱が二個あること、足の大きなること、鰓の平滑なること、は、前科と同じである。

〔一〕 波子貝属 (*Donax*)

属名ドナックス (*Donax*) は「海魚」の義であるが、英にウエッチ・シェル (*Wedge-shell*) とい



子波 圖七十五百四第 種一貝 (Donax Brasiiliensis, Lam.) (大一分二) (after Woodward)

るごとく、且つ全く前方に突出する

ふ「楔貝」の義である。介殻は三角形をなして楔状に似て居る。前端は突出して圓く、後側は短く伸直であつて、殻縁は鋸齒状をなし、主齒は兩殼共に二個で、側齒は兩殼共に前後に一個宛ある。鞞帯は外方にありて突出し、外套線の彎曲部は深く、且つ水平に位し、介殻は閉合するのである。足は甚だ大きく尖り、その縁邊は鋭



子波 圖八十五百四第 種一貝 (Donax denticulata L.) (after Woodward)

本属のものには約七十種を含み、ノルウエー、バルト海、黒海、其他熱帯地方の海に多い。干満兩潮線に近き砂中に埋没するか、又は八尋位の所にも棲む。而して本邦には次の如き種類がある。

- フチノハナ *Donax proximus*, Bertin.
- ナミノコ *D. australis*, Lam.
- リウキウナミノコ *D. radians*, Lam.

〔三〕 雨波貝科又馬鹿貝科 (*Maetridae*)

介殻は左右同形にして、三角形若くは卵圓形をなし、多くは閉づ。内靨は殻頂にある

深き三角形の凹處に存する。表皮は厚く主齒は二個で、側齒は前後に各二個を有する。外套膜は唯水管のある所に於てのみ癒着し、外套線のある彎曲部は短く、圓るみを帯び足はよく發達して居る。

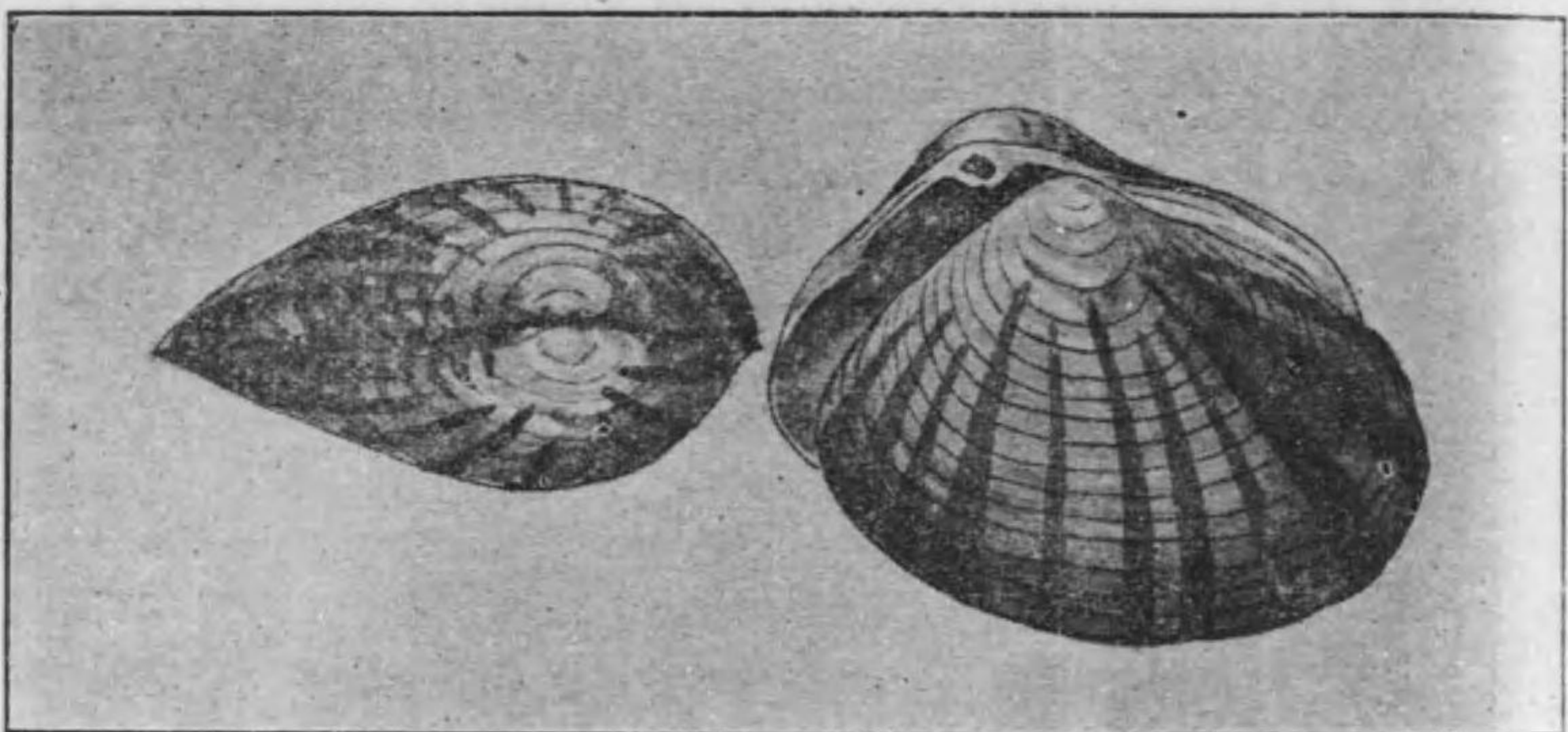
〔一〕潮吹貝シホフキガヒ又ウバガヒ(南方) *Maetra veneriformis*, Desh.

屬名マクトラはニーチング、トラフ (Kneading-trough) 即ち捏槽ねたなの義である。介殼は卵圓形にして膨れ、外面には少しく輪層がある。主齒は唯一個ありて、分岐して山形をなし、その後方には内靱帯を具へ、側齒は最後にありて割合に長く、右殼のものは二個に分岐する。殼の外面は淡褐色にして、腹縁に近づくに従ひ、淡紫色を帯び、内面は白色である。

この貝は専ら東海に産し、淺海の砂泥中に埋没する。その肉はアサリ貝の肉に混せられて販賣せられ、煮て食用となる。また多く養魚の餌料となる。地方によりては、この貝をトンビといふ所がある。

〔二〕馬鹿貝ウカガヒ又馬珂貝 *Maetra sulcatoria*, Desh.

介殼は鈍三角形をなし、殼頂は少しく前方にある。殼は薄くして破れ易い。齒は左殼のものは山形をなし、右殼のものは著しくない。側齒は稍や長く、内靱は大なれども、外



内外普通動物誌

靱は短いのである。殼の外面は淡褐色にして、殼頂より濃褐色の放射線を出し、殼の内面は全く白色である。介殼の長さは二寸五六分ありて、足は長く赤色である。而して屈伸自在にして、指の如く自由に運動し、これにて跳躍することが出来る。

この貝は東海に多く産し、西南海及び日本海等には少いのである。常に淡水の流入せざる淺き砂泥中に棲息する。貝柱は酢の物、天麩羅の材料となり、また動物體全體を乾したるものを、附焼にしたるものは、極めて美味である。

前種と共に、本屬のものは百五十種ありて、觸唇は三角形にして長く尖り、外方に位する鰓は最も短く、外套膜は水管に至るまで開き、その縁邊は總狀であつて、肛門は管狀の瓣を有する。常に沿海の砂質の海底に埋没し、足を用ひて躍跳することが出来る。地球上到る處の

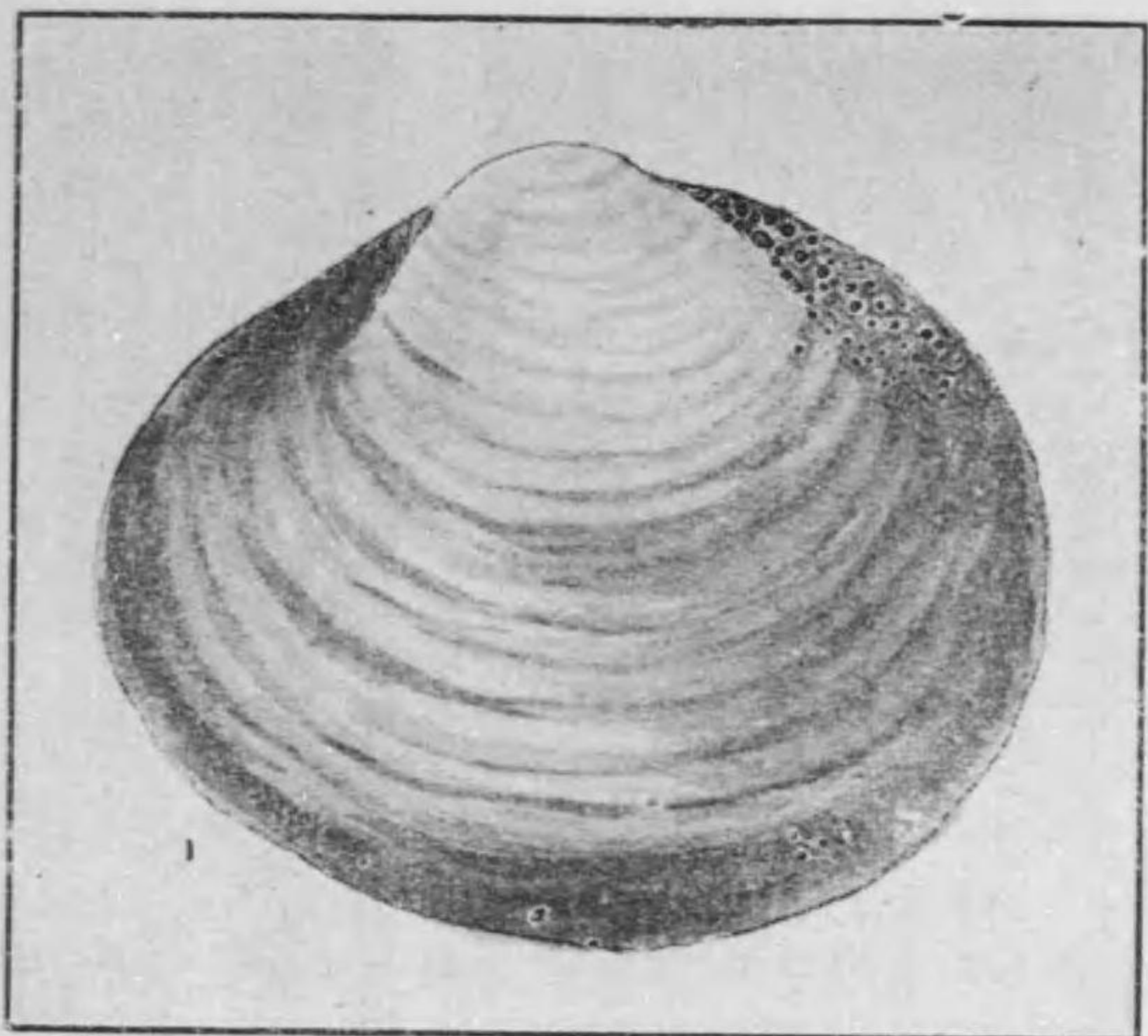
海に産すれども、その多く産するは熱帯の海にして、深きは三十五尋位の海底に棲んで居る。其の敵には海星及びニシの類などがある。

〔三〕 雨波貝又北寄貝 (方々言) *Trigonella sacchalimensis*, Schrenk.

介殻は橢圓形にして膨れて厚いのである。蝶番にある主齒は一個にして、山形に突

起し、側齒は前後共に強大にして、右殻にあるものは分岐する。内靨は頗る大きく、表皮は暗褐色にして薄く、殻の内面は全く白色である。殻の長さは三寸餘である。東北地方及び北海道に多く産し、西南の海に産せず。茨城縣の沿海は産地としては最南の極なるべしといふ。常に淡水の注入する砂泥底に棲息する。その肉は主として乾燥して食用に供せられ、頗る美味である。

〔四〕 水松貝又西施舌 *Tresus nuttalli*, Conrad = *Lutraria nuttalli*, Conrad.



英名をオッターズ・シェル (Otter's shell) といふ。魚鑑に曰はく、俗に水松貝を用ゆ、水松好てこの貝に生ず、状食ふに似たり。故にミルクヒといふ。漢名西施舌、王世懋の閩部疏に出づ。蛤に似て長く、殻の裡色ドブガヒの如し。肉味淡脆美なり (主治) 吐血下血を止め、陽を壯にし、氣血を補ふ云々。介殻は稍や橢圓形をなし、後方は開く。表皮は薄く、介殻の外表面は暗褐色にして、少しく輪層を有し、内面は白色である。殻頂は少しく前方に傾き、主齒は前方に二個、後方に一個ある。介殻の長さは三寸許である。

この貝は東海に多く産する。熊木治平氏の漁場調査報告第三報 (水産調査報告 (第九卷第二册) に曰はく、ミルクヒは水深一乃至十四尋底質泥砂又は泥砂に介殻を混するジャリ地、及びヤギ地に棲息する。その水底に棲息するや、全體を地中に埋没し、その體の後方より出す水管は、伸びて底面に現はれ、その一端は恰も草花を開けるが如き状をなす。故に名づけて花といふ。十一月より四月迄取る。寒中は最も美味なり云々。

以上の外本科のものにして、本邦産のものには、次の如き種類がある。

アリンガヒ *Maetra spectabilis*, Lischk.

リウキウバカガヒ *M. maculata*, Desh.

内外普通動物誌

(四) 蛤蜊科 (Veneridae)

介殻は規則正しき圓形なるか、若くは長橢圓形にして閉づ。靱帯は外方にありて、蝶番には各殻共に三個の分岐する所の主齒を有する。收殻筋の痕は、卵形にして光澤を有する。外套線は内方に曲る。外套膜には一個の稍大なる孔をば、前方に有する。水管はその長さ不等にして、基部に於て多少癒着する。足は舌状をなして側扁し、時としては溝を有する。觸唇は中庸大にして三角形をなし、その先端は尖つて居る。鰓は大きく、略方形にして後方は結合する。

本科のものゝ介殻は、その形状及び色彩と斑紋とは、實に美麗にして、その構造も甚だ硬固であつて、屢々山形の條紋を有するものがある。本科のものは地球上到る處の海に産すれども、熱帶の海に於て、殊に夥しく棲んで居る。

〔一〕 蛤蜊 又 文蛤 *Meretrix meretrix*, Linn.

介殻は稍や心臟形をなし、外觀栗に似て居るから、濱栗の名がある。その外面は平滑にして、主齒は三個で、側齒は丘の下に於て、前方にのみ一個ある。殻の後縁は黒くして、殻頂より暗褐色の太き二三條が、殻の縁邊に向つて放射狀に出で居るが、中には全面黒褐色にして紋を有せざるものありて、殻の色澤、斑紋等は一樣でない。また殻の色白

く、唇厚くして、徑三四寸に達するものをテウセンハマグリといひ、四國阿波邊ではクチプトの方言あるが、皆同一種である。水管は殆んど半部まで癒着して居る。

本種は淡水の混する淺海の砂泥地に棲み、體の半部を泥中に埋没し、溫暖なる日には足を伸縮して、割合に活潑に匍匐すれども、寒冷なる時は、全く砂泥中に潜み隠くれ、唯水管のみを出して呼吸を司るのである。その産卵期は五月乃至九月である。この貝は多く東海及び西南の暖海に産し、東京近傍にては、徑二寸以上に達するものは少けれども、伊勢灣以西、四國、瀬戸内海などには、頗る大なるものがあるといふ。而して東北地方、北海道及び日本海沿岸には、極めて稀れである。

文蛤の肉は水分は百分中八四・一二、蛋白質一三・一九、脂肪〇・八一、灰分一・八八を含有する。その肉は吸物となし、乾したるものを付け焼にし、また佃煮などとなす。介殻は膏藥などの容器とすることは、人のよく知る所である。テウセンハマグリは厚き介殻は、磨きて白色の基石を製するを以て、一に基石ハマグリと稱せらる。

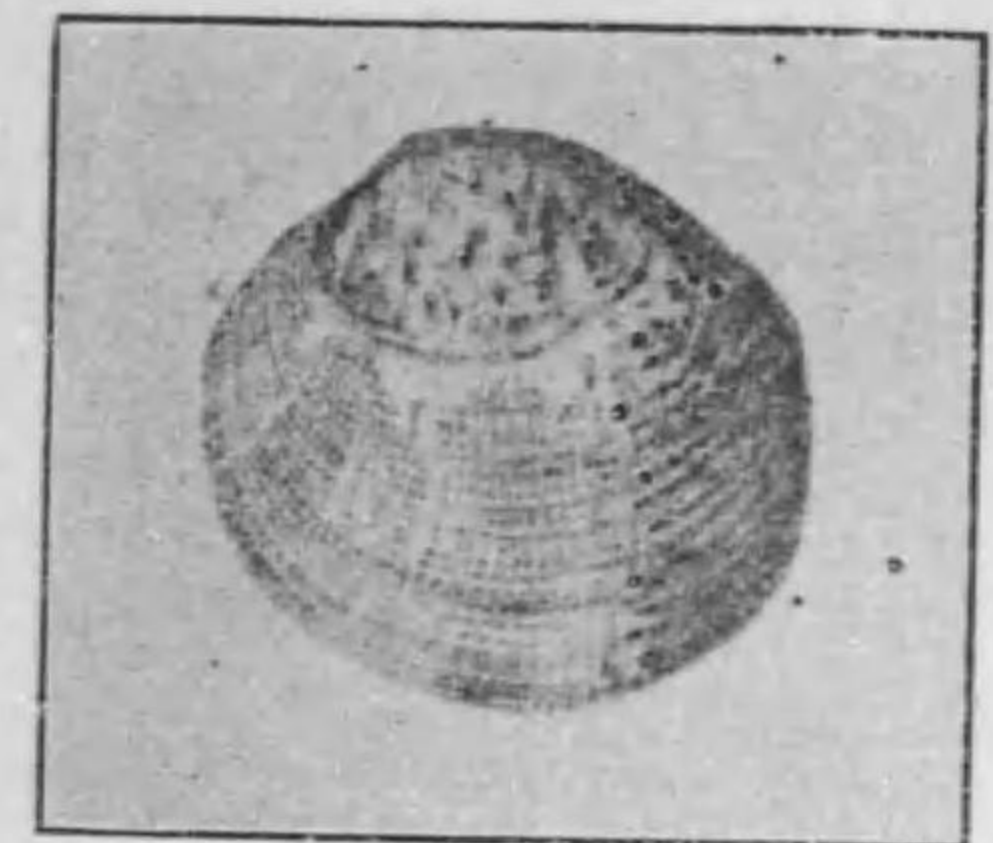
〔二〕 オニアサリ 屬 *Chione*

介殻は卵圓形、三角形若くは稍心臟形にして、殻の縁邊には微細なる鋸齒を有する。蝶番は狭く硬くして、右殻には三齒、左殻には二齒を有し、外靱は狭く突出し、水管は其

の先端に到るまで分離して、その長さは不等である。本属のものは、地球上各地の海に産し、本邦に産するものには、次の如き種類がある。

- スノメアサリ *Chione adamsii*, Rye.
- オニアサリ *C. jedomis*, Lischke.
- マルオニアサリ *C. jedomis hirasei*, Pils.
- カノコガヒ *C. marica*, Linn.
- シコロガヒ *C. torenna*, Gould.

〔三〕 ヌノメガヒ (*Cytherea*)



ヒガメノメ 圖一十六百四第

属名キテリア (*Cytherea*) はエーゲ海中の一島なるキイテラ (*Cythera*) より名づけたものである。介殻は前属のものに似て居るが、表面は滑らかにして、殻縁には鋸齒状がない。蝶番には三個の主齒を有し、その前方にある一齒は、丘下に位置する。外套線の彎曲部は中庸にして、角張つて居る。外套膜の縁邊は平滑にして、水管はその二分一位迄結合して居る。地球上の諸處に産すれども、本邦には次の如き種類がある。

- ヌノメガヒ *Cythera puerpera*, Linné.
- アラスノメ *C. reticulata*, Linné.

〔四〕 シラチガヒ属 (*Circe*)

本属のものは、介殻は圓くして、殻頂は扁平である。而して殻の表面には輪層を有し、殻縁は多くは平滑であつて、中央の主齒は他のものより強壯である。本属のものにて、本邦に産するものには次の如き種類がある。

- ヒメイナミガヒ *Circe disper*, Dillw.
- ケマンガヒ *C. divaricata*, Gmel.
- イナミガヒ *C. gibbia*, Lam.
- ホンスヂイナミガヒ *C. pectinata*, Linn.
- ミララガヒ *C. scripta personata*, Linné.

〔五〕 オキアサリ属 (*Gomphina*)

介殻は心臟形をなして膨れ、その表面は平滑である。蝶番にある齒は、オニアサリ属と同一である。而して本邦に産するものには、次の如き種類がある。

オキアサリ *Gomphina donacina*, Chem.
コタマガヒ *G. melanaegis*, Römer.
フキアゲアサリ *G. undulosa*, Lam.

[六] ウチムラサキ *Saxidomus purpuratus*, Sowb.

本属のものゝ介殻は、横に卵圓形をなし、硬くして介殻の前後の兩半部は整齊でない。即ち不正形にして、殻頂は突出する。主齒は三若くは四個にして、大きは不同で、其の中央にあるものは二岐する。外靱は甚だ厚く且つ延長し、外套線の痕は大きいのである。本属には數種を産し、本邦の外、印度、濠太利亞、及西部亞米利加に産するのである。

[七] セミアサリ *Petricola monstrosa*, Gmel.

属名ベトリコラ (*Petricola*) は二語ペトラ (*Petra*) (石の) コロ (*Colo*) (棲む) より成る。蓋し



圖二十六百四第
種一屬リサアミセ (*Petricola pholadiiformis* Lam.) 種一屬リサアミセ (*Petricola lithophaga* Retz.)
(大二の分三)
(after Woodward)

本属のものは、石灰岩及び泥中に穴居する習性に基くものならん。介殻は卵圓形であつて、薄くして膨脹し、前方は短い。蝶番には三個の齒を有し、外方にあるものは屢々判然しないことがある。また外套線の彎入部は深い。本属のものはセミアサリ科 (*Petricolidae*)

とする學者もあるが、今は本科中に編入して記述する。

外套膜は前方に於て閉ぢ、非常に厚くして、介殻の縁邊を超へて反曲する。足を出す孔は小さくして、足は亦小さく尖り、披針狀をなして居る。水管は一部分は分離し、出水管は一瓣と單純なる觸毛とを有し、入水管にも觸毛ありて、これは羽狀である。觸唇は小さく三角形である。本属のものは、北米合衆國、佛蘭西、紅海、印度、ニウジーランド、太平洋、シツカ (*Sika*) より、ペルーに至るまでの亞米利加の西岸に分布するのである。

[八] ワスレガヒ *Sinetta excavata*, Hanley.

介殻は卵形にして著るしく側扁し、前側は寧ろ長いのである。蝶番には三個の主齒と、その前方には一個の長き狭き側齒とを有する。殻頂は突起し、それより前縁に沿ふて著るしく凹陥し、丘は披針狀をなし、靱帶は深き凹所に存在する。殻頂の後部は深く窪み、恰も截り取られたるが如き觀を呈して居る。殻の外面には太き輪層ありて、その中間には、太き淡紫色の帶を有するのである。

[九] 鏡貝 *Dosinia troscheli*, Lischke.

介殻は略圓形にして稍厚く、縦扁にして、殻の外面には同心狀の美しき輪層をあらはし、殼の内外共に白色にして、腹部の縁邊は殆んど正圓である。外靱は隱伏し、丘は深

く、蝶番部はヌノメガヒ屬と同じである。介殻は長さ三四寸ありて水管は介殻よりも長く、三本共に分離する。而して足は尖りて長い。本種は南方海及び内海に多く産する。その肉は伊勢津あたりでは佃煮などにして食用に供するのである。本邦産本屬のものには、次の種類がある。

ヒナガヒ *Dosinia bimulata*, Gray.

オイノカマ *D. variegata*, Gray.

〔10〕 沖蜆 *Cyelina chinensis*, Chemn.

介殻は球状にして一方に著るしく膨れ、而して丘なく、殻頂は著しく前方に傾きて突出し、介殻の外表面には、細き輪層ありて、帯黄褐色をなし、殻の縁邊に沿うて、暗紫色である。主齒は三個を有するが、側齒を有することはない。殻の内面にして縁邊に近き處は、淡碧色をなし、縁邊は紫色に彩られて居り、之に一系列に細鋸齒狀の刻目を有する。外套線の彎曲部は深く且つ角張りて居る。介殻の長さは一寸七八分にして、近海の砂泥中に棲息する。本屬には十種許りありて、セネガル、印度、支那、西亞米



第 四 百 六 十 三 圖 第 三 十 六 圖

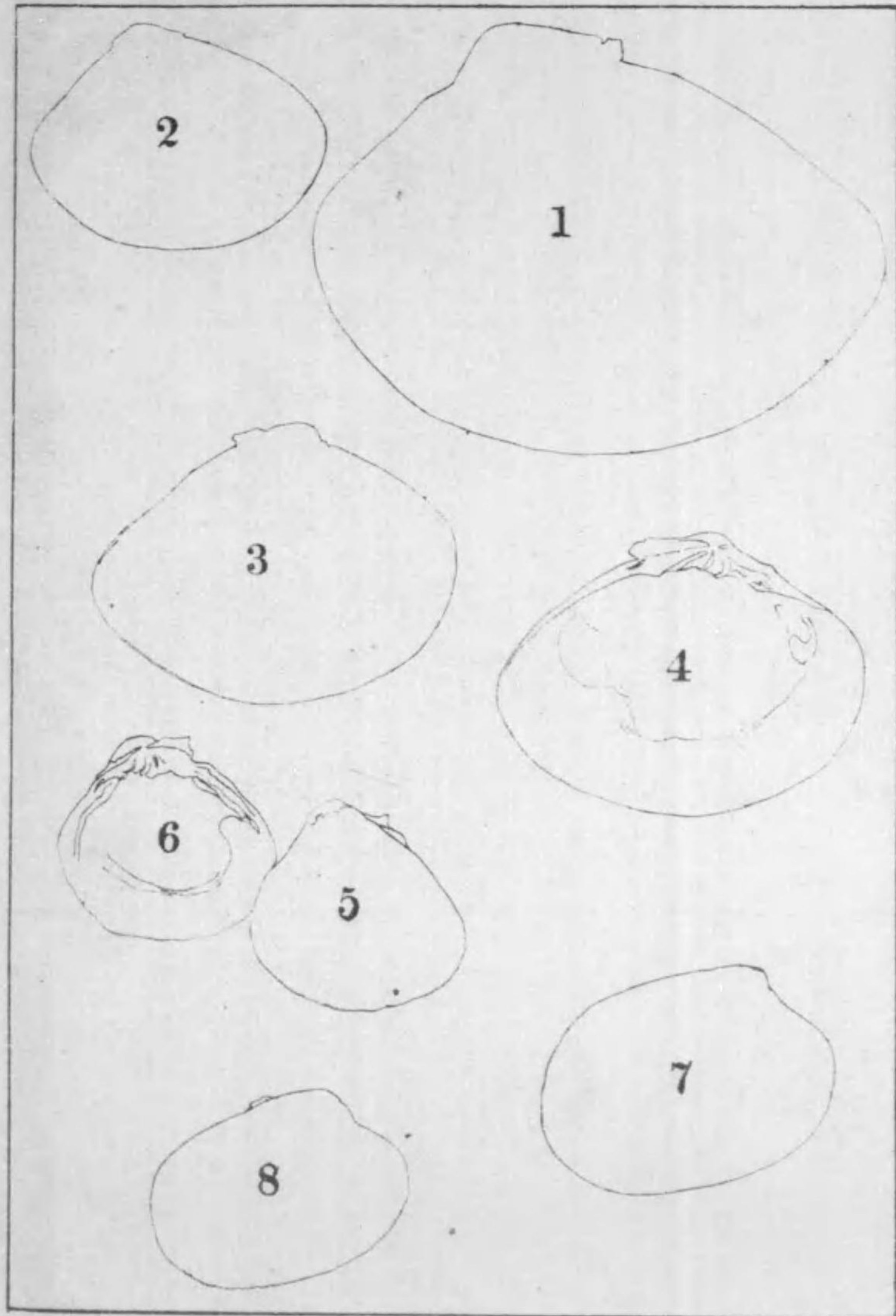
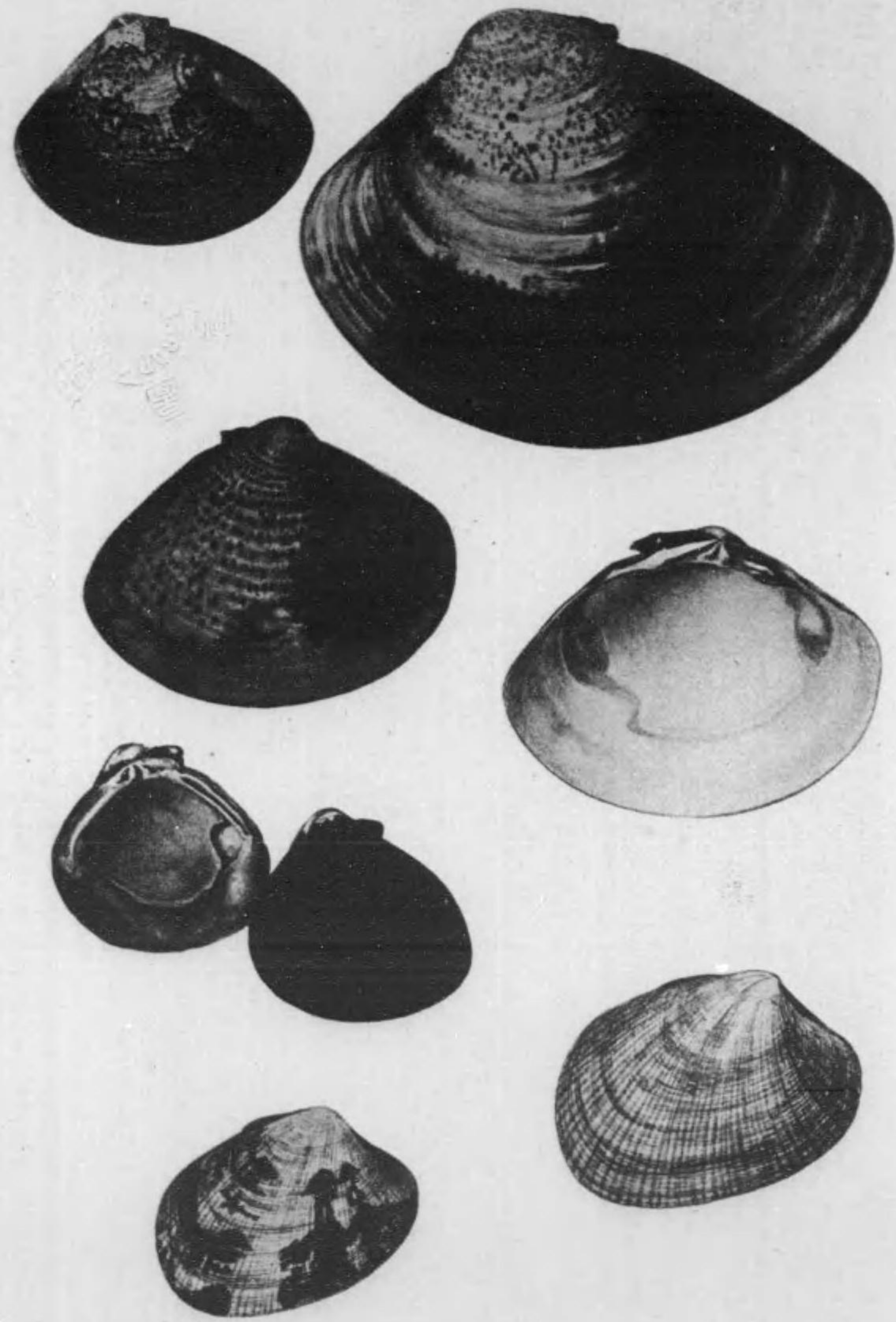


圖) 面内の殻同 6 親田園 5 (贈寄氏藏行山秋産路淡) 面内の殻同 4 ヲケマハ 3, 2, 1
 (入購書市京東) ヲマア 8, 7 (贈寄氏子鎮山秋産湖菰)

利加に産するのである。

〔一一〕 淺理貝^{アミ}又蛤仔^{ガビ}又蠟蛤^{カビ}又蠟蚶^{カビ}

Tapes philippinarum, Ad. & Rv.

介殼は稍や三角形をなし、殼は厚く、表面には同心性の細かき輪層を有し、之れと交又して、殼頂より細き線が放射狀に發して居つて、恰も布目狀をなし、至つて粗糙である。蓋し屬名テープス (*Tapes*) はテープストリー (*Tapestry*) 即ち「綴織」の義であるのも、介殼のこの模様から名づけたものであらう。殼の外面の彩色、斑紋等は、個體に因りて種々様々の變化を見れども、概して薄茶色にして、白色の斑紋を有するものが普通であるが、或は全く斑紋を有せざるものもありて、彩色も稀に紅色、黃色、若くは紫色等がある。また斑紋にも雲紋狀のものや、條紋狀のものや、波紋狀のものや、無紋狀のものがある。殼頂は前方にありて、主齒は三個で、その中央のものは少しく分岐する。殼縁は滑らかである。外套線の彎曲部は深く圓くありて、水管は中庸大である。足は太く、足部は茸毛を生ずるのである。觸唇は長く三角形である。介殼の長は一寸三四分、高さ八九分に達し、東海、西南海等に産し、砂多き淺海に棲息する。その肉は食用となり美味である。元來本屬のものは、八十種許もありて、那威、英國、黑海、セネガル、ブラジル、印度、支那、ニウー、